

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第15集

# 浦 尻 貝 塚 4

2010年3月

福島県南相馬市教育委員会

# 浦 尻 貝 塚 4



# 序 文

文化財は、我が国長い歴史の中で生まれ、今まで守り伝えられてきた国民共有の財産であり、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化的向上・発展の基礎をなすものであります。とりわけ、地中に埋もれている埋蔵文化財は、文字資料だけでは知ることができなかった先人の生活の様子や文字がまだなかった時代の人々の生活や文化について、私たちに多くの情報を与えてくれます。

浦尻貝塚は、平成12年に旧小高町の町道工事計画に伴い試掘調査を行ったところ、良好な貝塚を確認し、遺跡としての重要性が裏付けられ、遺跡の将来にわたる保存を図る必要があることから、文化庁・福島県の協力を得て、浦尻貝塚調査指導委員会を設置し、平成13年度から平成16年度まで国指定史跡指定にむけての範囲内容確認調査を開始したものです。

この調査成果により、浦尻貝塚は福島県を代表する縄文時代の大規模貝塚であることが明らかとなり、全国的に見ても大変重要な遺跡であると評価されたことから、平成18年1月26日、国指定史跡に指定されたところであります。

南相馬市では、この貴重な史跡を適切に保存し、広く活用を図るために、平成18年度から指定地内の全民有地の公有化をすすめ、平成19年度に完了したところであります。

平成20年度からは、文化庁・福島県の協力を得て、浦尻貝塚整備検討委員会を設置し、「浦尻貝塚史跡公園整備基本構想」・「浦尻貝塚史跡公園整備基本計画」を策定したところであります。

本書は、この国指定史跡に向けた範囲内容確認調査の成果の一部を報告するものであります。本書に掲げた調査成果が、地域における歴史の解明と地域文化の一助になれば幸いであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の作成にあたり、多大なるご指導、ご協力をいたしました浦尻貝塚調査指導委員会ならびに浦尻貝塚整備検討委員会の先生方、文化庁記念物課、福島県教育庁文化財課等の関係機関の皆様、さらには調査にあたりご理解、ご協力をいただきました浦尻貝塚地権者会ならびに浦尻行政区の皆様には厚く御礼を申し上げます。

平成21年3月

南相馬市教育委員会

教育長 青木紀男



# 例　　言

1. 本書は福島県南相馬市小高区大字浦尻字南台他に所在する浦尻貝塚の発掘調査報告書である。
2. 報告する調査は、平成12年度の旧小高町町道建設計画に伴う試掘調査及び平成13～16年度にかけて実施した保存目的範囲内容確認調査である。いずれの調査も国庫補助対象事業として旧小高町教育委員会が主体となって実施した。
3. 上記の調査のうち、これまでに調査内容の一部を掲載した調査報告書を刊行している。刊行した調査報告書は次のとおりである。

小高町文化財調査報告第2集「小高町内埋蔵文化財調査報告Ⅰ」2001 小高町教育委員会

小高町文化財調査報告第6集「浦尻貝塚1」2005 小高町教育委員会

南相馬市文化財調査報告書第1集「浦尻貝塚2」2006 南相馬市教育委員会

南相馬市文化財調査報告書第11集「浦尻貝塚3」2008 南相馬市教育委員会

本書は上記の調査のうち、南台地南部ならびに小追北・南地区の出土遺物（骨角製品を除く）について掲載したものである。

弥生時代以降の遺構・出土遺物、骨角製品については、今後整理調査を実施し、報告する予定である。なお、本報告に係る調査のうち遺構等の調査状況については、「浦尻貝塚1」に掲載している。

4. 整理調査は、浦尻貝塚調査指導委員会（平成13～19年度）、浦尻貝塚整備検討委員会（平成20年度～）、文化庁ならびに福島県教育庁文化財課の指導のもと、発掘調査時から平成21年度まで継続的に南相馬市教育委員会（旧小高町教育委員会）が実施している。平成21年度の調査体制は次のとおりである。

調査主体 南相馬市教育委員会

事務局 南相馬市教育委員会文化財課

教育長 青木紀男

事務局長 大谷和夫

事務局次長 門馬清一

文化財課長 烏中清

課長補佐 堀耕平

主査 二本松文雄

主任文化財主事 川田強

主任文化財主事 荒淑人

調査補助員 狹川麻子

文化財主事 藤木海

整理補助員 牛渡由紀子

文化財主事 佐川久

松本経子

事務補助 佐藤夏姫

渡部定子

5. 遺物の実測、図面作成は各調査参加者が行った。

6. 出土遺物のうち剥片石器について、株式会社ラングに実測、トレイス、石材同定を委託し、実施した。磨石・敲石等その他の石器の石材については、高木和夫氏に指導をいただいた。また、出土遺物の写真撮影は株式会社まつざき印刷に委託し、実施した。

7. 附編として掲載した自然科学分析（ボーリング調査・年代測定・テフラ分析・珪藻分析）については、株式会社パレオ・ラボに委託し、実施した。
8. 本書の編集は佐川久が行った。執筆は、第4章を高橋満（福島県教育庁文化財課）、それ以外を佐川久が担当した。

9. 平成13年度からの保存目的範囲内容確認調査を実施するにあたり、学識経験者からなる浦尻貝塚調査指導委員会（平成13～19年度）・浦尻貝塚整備検討委員会（平成20年度～）を組織し、指導をお願いした。両委員会には下記の方々に引き受けさせていただき、ご尽力を賜った。（敬称略）

【浦尻貝塚調査指導委員会】

（平成13～19年度）

藤沼邦彦（前弘前大学教授）

玉川一郎（前福島県教育庁文化財課長）

山田昌久（首都大学東京）

樋泉岳二（早稲田大学）

【浦尻貝塚整備検討委員会】（平成20年度～）

田中哲雄（前東北芸術工科大学）

岡村道雄（奈良文化財研究所名誉研究員）

小林敬一（東北芸術工科大学）

澤田正昭（国士館大学）

山田昌久（首都大学東京）

【指導機関】

文化庁記念物課・福島県教育庁文化財課

10. 報告書作成にあたり、下記の方々から多大なご協力をいただいた。記して感謝の意を示したい。（敬称略、五十音順）

青山博樹、阿部健太郎、新井達哉、荒木隆、植月学、宇佐美雅夫、江川逸夫、大平好一、大平理恵、岡田康博、小川長導、大塚初重、奥山誠義、梶原圭介、梶原文子、木幡成雄、小林謙一、小林雄一、佐藤耕三、坂井秀弥、三瓶秀文、嶋村一志、宍戸広治、末永成清、菅原弘樹、鈴鹿良一、田中敏、長島雄一、中村真由美、禰宜田佳男、長谷川真、藤原姫敏、堀江格、本間宏、松本茂、村田六郎太、村本周三、森幸彦、山内幹夫、山崎京美、山崎充浩、吉田陽一

11. 報告書作成にあたり、次の方々から指導・助言を得た。記して感謝申し上げる。

福島県立博物館・財団法人福島県文化振興事業団・福島県文化財センター白河館・財団法人いわき市教育文化振興事業団・南相馬市立博物館・南相馬市文化財保護審議会・浦尻行政区・浦尻貝塚地権者会

12. 調査で得られた資料は、南相馬市教育委員会が保管している。

## 凡例

1. 掲載した出土遺物の縮尺は各挿図に記している。規準は下記のとおりである。

出土土器 復元実測1／4 断面図1／3 製塙土器1／3

その他の遺物 剥片石器2／3 磨石等1／4 石棒等1／2 土製品等1／2

2. 遺物実測図の表現は次のとおりである。

織維土器：断面内▲

3. 遺物写真の縮尺は不同である。

4. 各写真図版の写真番号は掲載した挿図番号に対応している。

# 目 次

序 例 凡 目 次 挿 図 目 次 表 目 次 図 版 目 次	文 言 例 次 目 次 目 次 目 次	i iii iv v vi vi vi
--	---------------------------------------	---------------------------------------

## 第1章 土器分類ならびに遺構種別、出土層位

第1節 土器分類 .....	1
第2節 遺構種別・出土層位 .....	1

## 第2章 出土土器

第1節 小迫地区遺構出土土器 .....	3
第2節 小迫地区台地貝層・遺物包含層出土土器 .....	19
第3節 小迫地区南谷・斜面部・低地部出土土器 .....	75

## 第3章 石器・土製品

第1節 石 器 .....	83
第2節 土製品 .....	84

## 第4章 製塩土器類

第1節 はじめ .....	93
第2節 製塩土器類の観察と分類 .....	93
第3節 製塩土器類の様相 .....	94
第4節 まとめ .....	100

引用・参考文献 .....	102
遺物観察表 .....	103
写真図版 .....	139
附 編 .....	197

## 1～4章挿図目次

図1	堅穴住居出土土器	4
図2	掘立柱建物出土土器①	6
図3	掘立柱建物出土土器②	7
図4	土坑I類出土土器①	10
図5	土坑I類出土土器②	12
図6	土坑I類出土土器③	13
図7	土坑II類出土土器	15
図8	埋設土器	16
図9	土坑IV類出土土器	18
図10	IV区出土土器①	20
図11	IV区出土土器②	22
図12	IV区出土土器③	23
図13	IV区出土土器④	24
図14	IV区出土土器⑤	26
図15	IV区出土土器⑥	27
図16	IV区出土土器⑦	28
図17	IV区出土土器⑧	30
図18	IV区出土土器⑨	31
図19	IV区出土土器⑩	32
図20	IV区出土土器⑪	33
図21	IV区出土土器⑫	34
図22	IV区出土土器⑬	36
図23	IV区出土土器⑭	38
図24	IV区出土土器⑮	40
図25	IV区出土土器⑯	41
図26	IV区出土土器⑰	42
図27	IV区出土土器⑱	43
図28	IV区出土土器⑲	45
図29	IV区出土土器⑳	46
図30	IV区出土土器㉑	47
図31	IV区出土土器㉒	48
図32	IV区出土土器㉓	49
図33	IV区出土土器㉔	50
図34	IV区出土土器㉕	51
図35	IV区出土土器㉖	52
図36	IV区出土土器㉗	53
図37	72T出土土器①	55
図38	72T出土土器②	57
図39	72T出土土器③	58
図40	72T出土土器④	59
図41	72T出土土器⑤	60
図42	72T出土土器⑥	61
図43	1G出土土器①	63
図44	1G出土土器②	64
図45	3G出土土器	65
図46	4G出土土器①	67
図47	4G出土土器②	68
図48	5G出土土器	69
図49	6G出土土器	70
図50	76T出土土器①	71
図51	76T出土土器②	72
図52	76T出土土器③	73
図53	78T出土土器	76
図54	81T出土土器①	77
図55	81T出土土器②	78

図56	81T出土土器③	79
図57	73T出土土器①	80
図58	73T出土土器②	81
図59	石器①	84
図60	石器②	85
図61	石器③	86
図62	石器④	87
図63	石器⑤	88
図64	石器⑥	89
図65	土製品①	90
図66	土製品②	91
図67	製塙土器類①	96
図68	製塙土器類②	97
図69	製塙土器類③	98
図70	製塙土器類④	99
図71	製塙土器類⑤	101

## 1～4章表目次

表1	土器観察表	105
表2	石器観察表	130
表3	土製品観察表	131
表4	製塙土器類口縁部観察表	132
表5	製塙土器類底部観察表	138

## 1～4章写真図版目次

写真図版1	堅穴住居出土土器・ 掘立柱建物出土土器①	141
写真図版2	掘立柱建物出土土器②・ 土坑I類出土土器①	142
写真図版3	土坑I類出土土器②	143
写真図版4	土坑I類出土土器③・ 土坑II類出土土器・埋設土器	144
写真図版5	土坑IV類出土土器・ IV区出土土器①	145
写真図版6	IV区出土土器②	146
写真図版7	IV区出土土器③	147
写真図版8	IV区出土土器④	148
写真図版9	IV区出土土器⑤	149
写真図版10	IV区出土土器⑥	150
写真図版11	IV区出土土器⑦	151
写真図版12	IV区出土土器⑧	152
写真図版13	IV区出土土器⑨	153
写真図版14	IV区出土土器⑩	154
写真図版15	IV区出土土器⑪	155
写真図版16	IV区出土土器⑫	156
写真図版17	IV区出土土器⑬	157
写真図版18	IV区出土土器⑭	158
写真図版19	IV区出土土器⑮	159
写真図版20	IV区出土土器⑯	160
写真図版21	IV区出土土器⑰	161
写真図版22	IV区出土土器⑱	162

写真図版23	IV区出土土器⑯	163
写真図版24	IV区出土土器⑰	164
写真図版25	IV区出土土器⑱	165
写真図版26	IV区出土土器⑲	166
写真図版27	IV区出土土器⑳	167
写真図版28	IV区出土土器㉑	168
写真図版29	IV区出土土器㉒	169
写真図版30	72T出土土器①	170
写真図版31	72T出土土器②	171
写真図版32	72T出土土器③	172
写真図版33	72T出土土器④	173
写真図版34	72T出土土器⑤	174
写真図版35	72T出土土器⑥・1G出土土器①	175
写真図版36	1G出土土器②	176
写真図版37	1G出土土器③・3G出土土器	177
写真図版38	4G出土土器①	178
写真図版39	4G出土土器②・5G出土土器	179
写真図版40	6G出土土器・76T出土土器①	180
写真図版41	76T出土土器②	181
写真図版42	76T出土土器③・78T出土土器①	182
写真図版43	78T出土土器②・81T出土土器①	183
写真図版44	81T出土土器②	184
写真図版45	73T出土土器	185
写真図版46	石器①	186
写真図版47	石器②	187
写真図版48	石器③	188
写真図版49	土製品①	189
写真図版50	土製品②	190
写真図版51	製塙土器類①	191
写真図版52	製塙土器類②	192
写真図版53	製塙土器類③	193
写真図版54	製塙土器類④	194
写真図版55	製塙土器類⑤	195

## 附編2表目次

表1	測定資料及び処理	203
表2	放射性炭素年代測定及び曆年較正の結果	205

## 附編3挿図目次

図1	火山ガラスの屈折率測定結果	207
----	---------------	-----

## 附編3表目次

表1	Na10ボーリング試料中の 火山ガラスの形態分類	207
----	-----------------------------	-----

## 附編4挿図目次

図1	Na10地点ボーリング堆積物中の 珪藻化石分布図	212
図2	Na14地点ボーリング堆積物中の 珪藻化石分布図	212

## 附編4表目次

表1	堆積物中の珪藻化石産出表その1	213
表2	堆積物中の珪藻化石産出表その2	214

## 附編1挿図目次

図1	ボーリング調査を実施した地点	200
図2	ボーリング資料の総合柱状図	202

## 附編写真図版目次

写真図版1	Na10地点ボーリング試料中の ガラス質テフラ	216
写真図版2	ボーリング試料中の珪藻化石	217

## 附編1表目次

表1	ボーリング調査の目的と詳細	199
----	---------------	-----

## 附編2挿図目次

図1	ボーリング柱状図と分析位置	204
図2	曆年較正の結果	205



# 第1章 土器分類ならびに遺構種別、出土層位

## 第1節 土器分類

本報告に掲載する縄文土器については、下記のように分類した。一部並行すると考えられる土器群も含めている。

### I群土器 縄文時代前期の土器

I-1類 前期初頭～中葉の土器群

I-2類 大木6式

### II群土器 縄文時代中期の土器群

II-1類 大木7a・7b式

II-2類 大木9式

II-3類 大木10式

### III群土器 縄文時代後期の土器

III-1類 綱取I式

III-2類 綱取II式

III-3類 加曾利B式

III-4類 新地式

### IV群土器 縄文時代晩期の土器群

IV-1類 大洞B式

IV-2類 大洞BC式ならびに結節縄文が施されるもの。

結節縄文が施されるものについては、東北南部において本時期に特徴的なものであるため本群に含めたが、他のIV群土器に伴う可能性もある。

IV-3類 大洞C1式

IV-4類 大洞C2式

IV-5類 大洞A式

IV-6類 大洞C1・C2式に伴う半精製土器

### V群土器 縄文時代の粗製土器群

V-1類 櫛描文が施されるもの。

V-2類 撻糸文が施されるもの。

V-3類 縄文が施されるもの。

V-4類 無文のもの。

## 第2節 遺構種別・出土層位

本報告では、出土土器を原則、遺構種別、各遺物包含層別に掲載している。遺構種別、出土層位については、「浦尻貝塚1」で報告した分類基準を用いている。基準は以下のとおりである。

### 1. 遺構種別

#### 豎穴住居（遺構略称SI）

掘り込みがあり、床面、壁周溝、炉の構築が構築されているもの。平面プランの観察から推定して

いるものが一部ある。

**掘立柱建物（遺構略称SB）**

大型の柱穴を中心に、柱穴の掘り方、柱痕跡の径、柱配列、柱間距離（柱痕跡の中心間の距離）を基に復元したもの。

**土坑Ⅰ類（遺構略称SK、P）**

柱痕跡が確認できる土坑で、「柱穴」と推定されるもの。概ね径が約50cm以上のものを「SK」、約50cm以下のものを「P」と略称している。

**土坑Ⅱ類（遺構略称SK）**

平面プラン、直径、断面形、堆積土の観察から、いわゆる「貯藏穴」と判断されるもの。

**土坑Ⅳ類（遺構略称SK）**

その他の土坑で、概ね径が約50cm以上あるもの。

**小土坑（遺構略称P）**

概ね径が約50cm以下のもの。本報告では、一部の出土土器のみ掲載している。

**埋設土器（遺構略称SK）**

土坑中にいわゆる埋設土器を伴うもの。

## 2. 出土層位

本報告では、縄文時代の堆積層から出土した遺物を掲載している。縄文時代の堆積層をⅢ層として、小迫地区ではこれを以下のように分類した。

Ⅲ-1層 黒褐色・暗褐色を呈する混貝土層で、小迫地区の東の谷に堆積する。

Ⅲ-2層 小迫地区の西の谷に堆積する焼獸魚骨を含む包含層。堆積土の観察から以下のように大別している。

Ⅲ-2a層 黒褐色を呈するもの。

Ⅲ-2b層 暗褐色を呈するもの。

Ⅲ-3層 小迫地区の東の谷に堆積する包含層。堆積土の観察から以下のように大別している。

Ⅲ-3a層 暗褐色・黒褐色を呈し、焼獸魚骨を含むもの。

Ⅲ-3b層 暗褐色・黒褐色を呈し、焼獸魚骨を含まないもの。

Ⅲ-4層 Ⅲ-1～3層下に堆積する縄文時代の遺物をほとんど含まないもの。

Ⅲ-5層 Ⅲ-1～4層以外の堆積層で、縄文時代の遺物を一定量含んでいるもの。小迫地区的南谷、斜面部、低地部に堆積している。

## 第2章 出土土器

### 第1節 小泊地区遺構出土土器

#### 1. 壇穴住居（遺構略称SI）

##### SI01（図1-1～5）

76Tの南側で検出された壇穴住居である。遺構上部は削平されていたが、硬化したブロック状の埋土が確認できることから、住居構築時の粗掘りと推定したものである。

1～5は遺構確認時に出土したものである。1は隆帯で口縁部無文帯を区画しているIII-1類、2はX字状の隆帯が貼付されているIII-4類に相当する。3は結節縄文が施されるIV-2類である。4は横位に沈線が走り、5は斜綱文が施される。これらはV-3群に分類される。

##### SI03（図1-6・7）

84Tで検出された複式炉を持つ壇穴住居である。遺構上面は削平されているが、遺構の南半分では浅い掘り込みが確認され、北半分では周溝の一部が残存しており、平面プランは橢円形と推定される。6・7は床面直上からの出土遺物である。6は口縁が外反する器形で、断面三角形の隆線区画の無文部により文様を表現している。7は沈線区画の無文部が認められる。これらはII-3類に相当する。

##### SK134（図1-8）

覆土の観察からSI03に伴うと判断した土坑である。8は覆土からの出土遺物で、横走する沈線が施されている。II群と考えられる。

##### P389（図1-9）

覆土の観察からSI03に伴うと判断した小土坑である。9は覆土からの出土遺物で、横位の沈線で口縁部無文帯を区画しているII-3類である。

##### P395（図1-10・11）

SI03と重複しており、SI03を切っている。10・11は覆土からの出土遺物である。10は隆帯で口縁部無文帯を区画しているIII-1類で、11は縄文が施されており、V-3類に分類される。

#### 2. 挖立柱建物（遺構略称SB）

76Tで検出された大型の柱穴を中心に、柱穴の掘り方、柱痕跡の径、柱配列、柱間距離（柱痕跡の中心間の距離）を基に、4棟の挖立柱建物を復元した。

##### SB01

4本主柱（SK53・62・66・83）で、2本の棟持柱（SK52・85）を持つ建物で、平面プランは六角形を呈する。主軸方向は北東-南西であり、平面プランのうえでSB03・04と重複している。

##### SK52（図2-1～3）

1～3は覆土からの出土遺物である。1は磨消縄文が施された口縁部で、口唇部に沈線が巡り、IV-4類に相当する。2は羽状縄文が施されているV-3類、3は網目状撚糸文が施されているV-2類である。

##### SK53（図2-4～6）

4～6は覆土からの出土遺物である。4は口縁部にB突起が付され、口唇に沈線が巡る。5は口縁

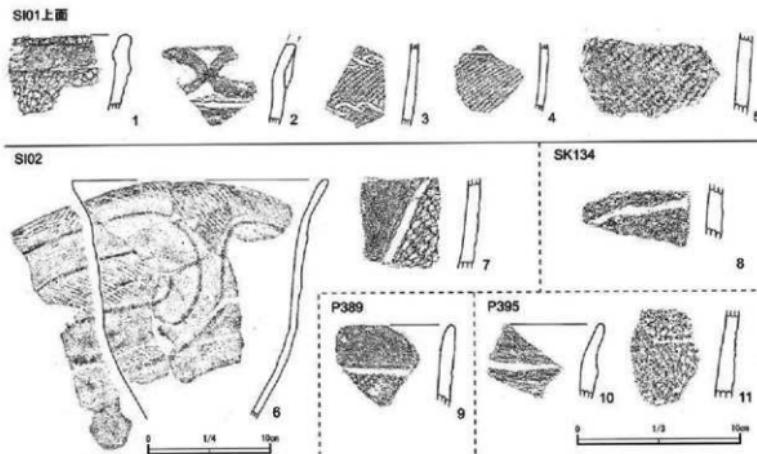


図1 穴住居出土土器

に刻みが施され、口唇部に沈線が巡る。これらはIV-6類に分類される。6は胴部には網目状撚糸文が施文され、底部は円形状のケズリが施されて上底になっているV-2類である。

## SK62(図2-7~14)

7~14は覆土からの出土遺物である。7は2条の沈線で文様帶を区画し、区内間に弧状の沈線を配しており、IV-4類と考えられる。8は縦位に櫛描文が施文されるV-1類である。9~11は網目状撚糸文が加えられているが、9・10は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文を施している。これらはV-2類である。12・14は斜繩文が施文されるV-3類、13は無文でV-4類に分類される。

## SK66(図2-15~22)

15~22は覆土からの出土遺物である。15は肥厚した口縁部に刻みが施されているIII-3類である。16・17は沈線区画内に刻目、18は繩文が充填されている。16は突起貼付され、18は突起が剥落している。これらはIII-4類に相当する。19は結節繩文が施されているIV-2類、20は底部資料で、横位に2条の沈線が巡るIV群に分類される。21は網目状撚糸文が施文されているV-2類、22は2条の沈線が巡るV-3類である。

## SK83(図2-23)

23は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が施文されているV-2類である。

## SB02

4本主柱(SK68・82・86・88)の建物で、平面プランは長方形を呈する。主軸方向北西-南東で、SK86がSB01のSK85に切られている。

## SK68(図2-24・25)

24・25は覆土からの出土遺物で、蛇行櫛描文が施されており、V-1類に分類される。

**SK82 (図2-26・27)**

26・27は覆土からの出土遺物である。26は沈線区画内に縄文を充填しており、III-4類に相当する。27は蛇行櫛描文が施されているV-1類である。

**SK88 (図2-28~33)**

28~33は覆土からの出土遺物である。28は胎土に纖維を含み、羽状縄文が施されているI-1類である。29~32は平行沈線・弧状沈線区画内に縄文を充填している。29には横位に刻みが入った縦長突起が貼付され、30には三叉状の沈線が認められる。29~32は同一個体で、III-4類に相当する。33は無文でV-4類である。

**SB03**

4本主柱 (SK69・72・81・84) で、2本の棟持柱 (SK64・P215) を持つ建物で、平面プランは六角形を呈する。主軸方向は北西-南東で、平面プランのうえでSB01・04と重複する。

**SK64 (図3-1・2)**

1・2は覆土からの出土遺物である。1は雲形文が施されているIV-4類で、2は網目状撚糸文が施文されており、V-2類に分類される。

**SK72 (図3-3)**

3は覆土からの出土遺物で、横位沈線の下位に縦位撚糸文が加えられているV-2類である。

**SK81 (図3-4・5)**

4は覆土からの出土遺物で、5は遺構確認時の出土遺物である。4は弧状沈線区画内に縄文を充填し、突起を貼付しており、III-4類に相当する。5はメガネ状付帯文状の隆帯が施され、口縁内側には沈線が巡り、IV-5類に分類される。

**SK84 (図3-6)**

6は覆土からの出土遺物で、口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施されるV-2類である。

**SB04**

4本主柱 (SK90・91・98・101) の建物で、平面プランは方形を呈する。平面プランのうえでSB01・03と重複している。

**SK90 (図3-7~9)**

7~9は覆土からの出土遺物である。7は横位櫛描文の施文後に刺突が施され、III-3類と考えられる。8は蛇行櫛描文が認められ、V-1類に分類される。9は網目状撚糸文が加えられているV-2類である。

**SK91 (図3-14~19)**

14~19は覆土からの出土遺物である。14は沈線区画により無文帯を描出しており、II-2~3類と考えられる。15は結節縄文が施され、IV-2類に相当する。16は縦位櫛描文が施文されるV-1類で、17・18は網目状撚糸文が施されるV-2類である。19は胎土に纖維を含み、I-1類に分類される。

**SK98 (図3-10~13)**

10~13は覆土からの出土遺物である。10は口縁に刻みを施し、平行沈線区画内に縄文を充填させており、III-3類に相当する。11~13は斜縄文が施されるV-3類で、11・13は横位沈線が走っている。

**SK101 (図3-20~35)**

20~35は覆土からの出土遺物である。20は波状口縁でRL縄文が施文されている。21は沈線区画内に縄文を充填している。23は刻み入りの隆帯が巡り、その下位には斜縄文が加えられている。20・21・

第1节 小泊地区遺構出土土器

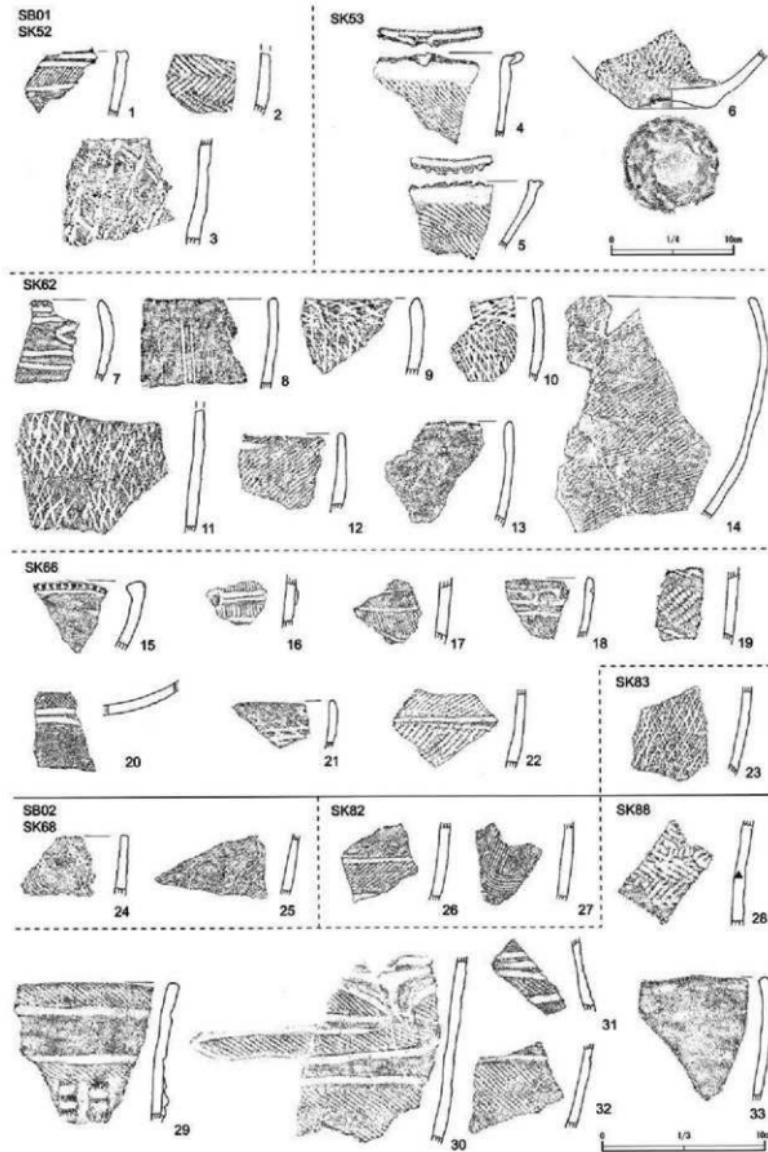


图2 握立柱建物出土土器①

23はIII-3類に分類される。24は沈線区画内に刻みを施している。22は弧状沈線区画内に、25は平行沈線区画内に縄文を充填し、突起を付している。26は弧状の平行沈線が施されている。22・24～26はIII-4類と考えられる。27は羊齒状文が施されており、IV-4類に相当する。28は連結したC字状沈線で区画され、縄文部が磨り消されており、IV-4類と考えられる。29～31は横位・縦位櫛描文が認められ、V-1類に分類される。32は縦位撚糸文、33は網目状撚糸文が施されるV-2類で、34・35は斜縄文が施されるV-3類である。

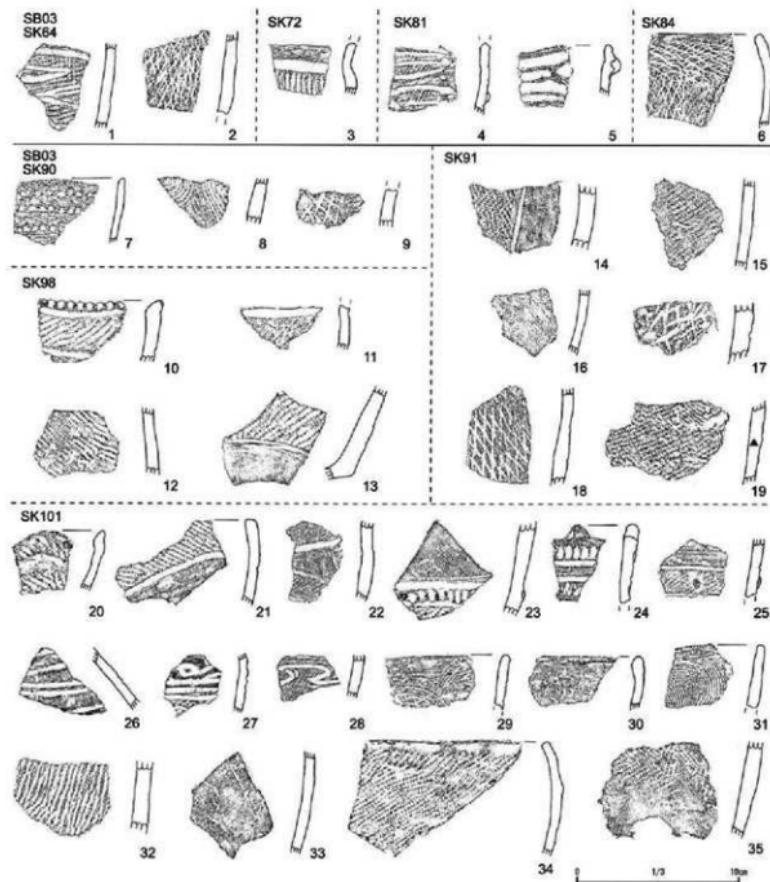


図3 挖立柱建物出土土器②

### 3. 土坑I類（遺構略称SK、P）

土坑I類は、平面確認で柱痕跡が確認できたもので、「柱穴」として分類した土坑である。概ね径が約50cm以上のものを「SK」、約50cm以下のものを「P」と略称している。

#### SK05（図4-1・2）

IV区で検出したものである。1・2は覆土からの出土遺物である。1は平行沈線区画内に縄文を充填しており、III-4に分類される。2は縦位撚糸文が施されるV-2類である。

#### SK21（図4-3～6）

77Tで検出したものである。3～6は覆土からの出土遺物である。3～5は縦位櫛描文が施されるV-1類で、6は無文のV-4類である。

#### SK22（図4-7・8）

77Tで検出したものである。7・8は覆土からの出土遺物である。7は三角状区画に磨消縄文が施されており、IV-4類に相当する。8は口縁部に指頭圧痕が残っているV-4類である。

#### SK26（図4-9）

77Tで検出したものである。9は覆土からの出土遺物で、縦位撚糸文が施されており、V-1類に分類される。

#### P51（図4-10・11）

77Tで検出したものである。10・11は覆土からの出土遺物である。10は三叉文が施文されるIV-1類で、11は平行沈線で曲線的なモチーフを描出しているII-2～3類と考えられる。

#### SK27（図4-12～14）

77Tで検出したものである。12は弧状沈線区画内に縄文を充填し、刻みを巡らせており、III-3類に分類される。13は横位・斜位櫛描文が施文されているV-1類で、14は羽状縄文が施されているV-3類である。

#### SK29（図4-15・16）

77Tで検出したものである。15・16は覆土からの出土遺物である。15は口縁部に縦割突起が貼付され、横位沈線が施されており、III-4類に相当する。16は平行沈線が横走する。V-3類である。

#### SK30（図4-17）

77Tで検出したものである。17は覆土からの出土遺物で、沈線区画内に縄文を充填しており、III-3類に分類される。

#### P79（図4-18～20）

77Tで検出したものである。18～20は覆土からの出土遺物である。18は口縁部、その下位の沈線内に刺突が巡っており、IV-4群に相当する。19・20は網目状撚糸文が施されるV-1類である。

#### SK35（図4-21・22）

77Tで検出したものである。21・22は覆土からの出土遺物である。21は縦位櫛描文が施文されるV-1類で、22は網目状撚糸文が施されるV-2類である。

#### SK39（図4-23）

80Tで検出したものである。23は覆土からの出土遺物で、横位・弧状沈線により文様が描出されており、IV群と考えられる。

#### SK41（図4-24・25）

79Tで検出したものである。24・25は覆土からの出土遺物である。24は内外面に沈線が横走するV

— 4 類、25は網目状撚糸文が施文されている V—2 類である。

#### SK50 (図 4-26)

76Tで検出されたものである。26は覆土からの出土遺物で、平行沈線間に刻みを入れ、列点状の文様を描出しており、IV—6 類に相当する。

#### SK58 (図 4-27・28)

76Tで検出されたものである。27・28は覆土からの出土遺物である。27は内外面に横位沈線が走っている V—4 類で、28は網目状撚糸文が施文されている V—2 類である。

#### P155 (図 4-29)

76Tで検出されたものである。29は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が加えられており、V—2 類に分類される。

#### P160 (図 4-30)

76Tで検出されたものである。30は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が施されている V—2 類である。

#### SK65 (図 4-31)

76Tで検出されたものである。31は覆土からの出土遺物で、RL繩文が施され、V—3 類に相当する。

#### P187 (図 4-32・33)

76Tで検出されたものである。32・33は覆土からの出土遺物である。32は3条の沈線が巡っており、IV群と考えられる。33は上底の底部で、斜繩文が加えられている V—3 類である。

#### SK70 (図 4-34)

76Tで検出されたものである。34は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が施文されている V—2 類である。

#### P248 (図 4-35・36)

76Tで検出されたものである。35・36は覆土からの出土遺物である。35は平行沈線が施されるIII—4群、36は外面に若干のミガキが認められる無文土器で、V—4 群に分類される。

#### P210 (図 4-37・38)

76Tで検出されたものである。37・38は覆土からの出土遺物で、口唇部には1条の浅い沈線、頸部には平行沈線が巡る。37は口縁部に刻みが施され、38は山形状突起が貼付される。これらはIV—4 類に相当する。

#### SK73 (図 4-39・40)

76Tで検出されたものである。39・40は覆土からの出土遺物である。39は結節繩文が施されるIV—2 類、40は横位・縦位櫛描文が施される V—1 類である。

#### SK74 (図 4-41)

76Tで検出されたものである。41は覆土からの出土遺物で、口縁部に縦割突起が貼付され、その下位には平行沈線・突起が施されており、III—4 類に分類される。

#### SK75 (図 5-1・2)

76Tで検出されたものである。1・2は覆土からの出土遺物である。1は口縁部に縦割突起が付され、その突起に向かい三叉状に沈線が延びており、III—4 類に相当する。2は縦位櫛描文が施文されている V—1 類である。

第1節 小泊地区遺構出土土器

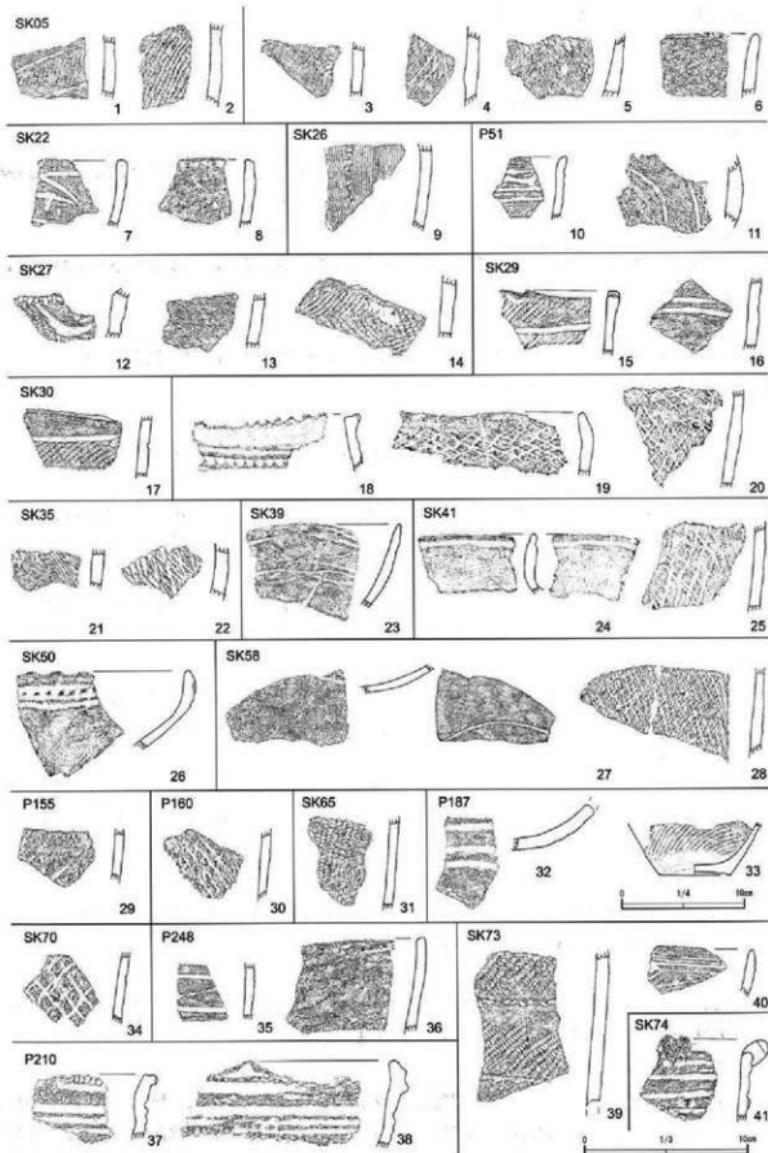


図4 土坑I類出土土器①

**SK76 (図5-3)**

76Tで検出されたものである。3は覆土からの出土遺物で、三叉状沈線・入組状沈線が描出されており、入組部には円形の刺突が施されている。III-4類と考えられる。

**SK77 (図5-10~14)**

76Tで検出されたものである。10~14は覆土からの出土遺物である。10は2条の沈線間に刻みが施されており、III-4類に相当する。11・12は横位・蛇行櫛描文が、14は交差櫛描文が描かれている。これらはV-1類に分類される。13はV-4類で、頭部はLR繩文が磨り消されている。

**SK79 (図5-4)**

76Tで検出されたものである。4は覆土からの出土遺物で、2段にわたり平行沈線区画内に刻みを充填しており、III-4類に相当する。

**SK80 (図5-5・6)**

76Tで検出されたものである。5・6は覆土からの出土遺物である。5は入組状沈線が認められ、III-4類に分類される。6は結節繩文が施文されているIV-2類である。

**P236 (図5-7)**

76Tで検出されたものである。7は覆土からの出土遺物で、口縁部に刻みが施されるIII-3類と考えられる。

**SK89 (図5-8・9)**

76Tで検出されたものである。8は口縁部に縦割突起が貼付され、平行沈線が横走する。9は横位に沈線が施文されている。これらはIII-4類に相当する。

**P249 (図5-15)**

76Tで検出されたものである。15は覆土からの出土遺物で、平行沈線区画内に刻みを施しており、III-4類に分類される。

**SK96 (図5-16)**

76Tで検出されたものである。16は覆土からの出土遺物で、縦位櫛描文が施されているV-1類である。

**P278 (図5-17・18)**

76Tで検出されたものである。17・18は覆土からの出土遺物である。17は横位・縦位櫛描文、18は縦位櫛描文が施文されているV-1類である。

**SK105 (図5-19~21)**

76Tで検出されたものである。19~21は覆土からの出土遺物である。19は平行沈線区画内に繩文を充填し、突起が貼付されており、III-4類と考えられる。20は口縁部に山形状突起が貼付され、頭部は沈線で長方形状のモチーフが描出されている。IV-5類に相当する。21は小波状の口縁を持つ。胴部にはメガネ状付帯文が貼付され、その下位には磨消繩文が施されている。口縁内側には横位沈線が巡っており、IV-4類に分類される。

**SK107 (図5-22~25)**

76Tで検出されたものである。22~25は覆土からの出土遺物である。22・23は列点文を描出し、結節繩文を施している。24は結節繩文を施している。22~24はIV-2類に相当する。25は蛇行櫛描文が施されたV-1類である。

第1節 小泊地区遺構出土土器

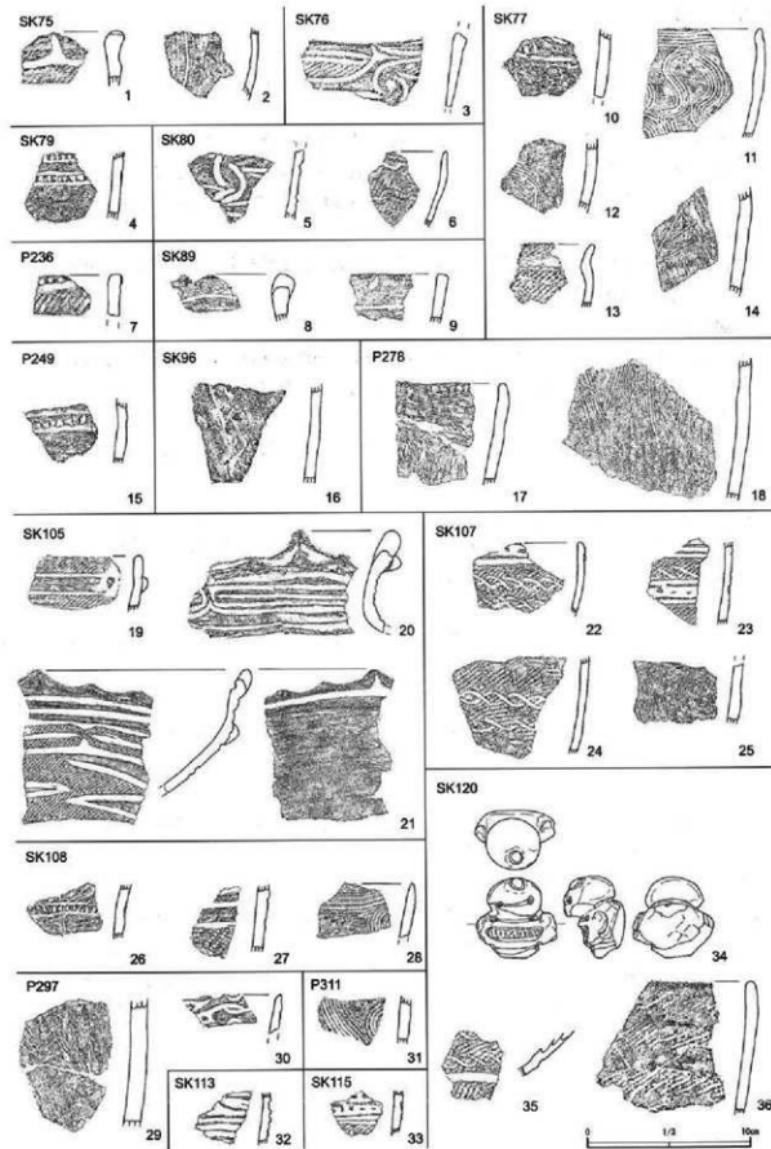


図5 土坑I類出土土器②

## SK108 (図5-26~28)

76Tで検出されたものである。26~28は覆土からの出土遺物である。26は平行沈線区画に刻みを充填している。27は平行沈線が横位に走っている。これらはIII-4類にと考えられる。28は横位・縦位櫛描文が施されているV-1類である。

## P297 (図5-29・30)

76Tで検出されたものである。29・30は覆土からの出土遺物である。29は蛇行櫛描文が施されているV-1類、30は三叉文が施文されており、IV-1類に分類される。

## P311 (図5-31)

76Tで検出されたものである。31は覆土からの出土遺物で、蛇行櫛描文が施されているV-1類である。

## SK113 (図5-32)

76Tで検出されたものである。32は覆土からの出土遺物で、外面に平行沈線が横走し、内面はミガキが施されており、IV-5類に相当する。

## SK115 (図5-33)

76Tで検出されたものである。33は覆土からの出土遺物で、羊歯状文が描出されており、IV-2類

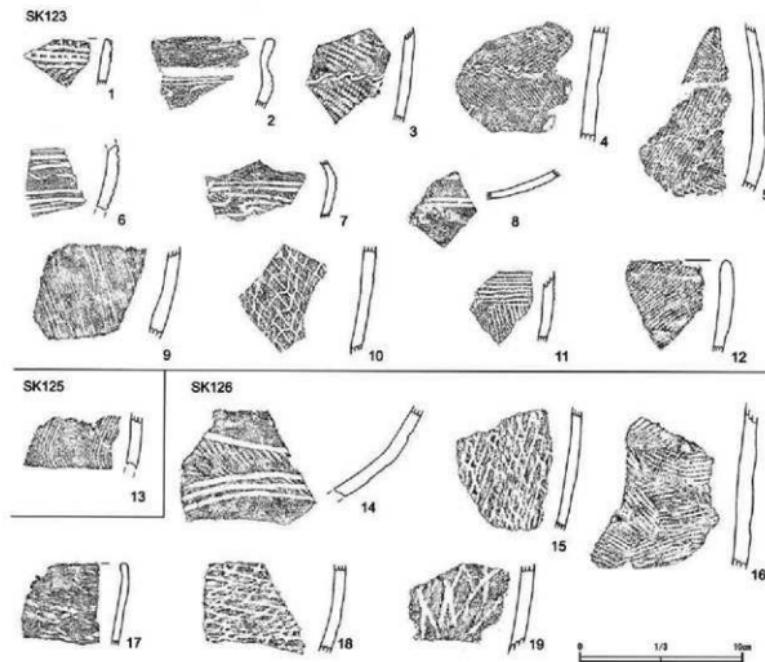


図6 土坑I類出土土器③

に分類される。

SK120 (図5-34~36)

76Tで検出されたものである。34~36は覆土からの出土遺物である。34は刺突・沈線が施されている突起で、III-3類と考えられる。35は結節縄文が施文されており、IV-2類に相当する。36は斜縄文が加えられているV-3類である。

SK123 (図6-1~12)

76Tで検出されたものである。1~12は覆土からの出土遺物である。1は口縁部に刻みが巡り、その下位には列点状の文様を描出しており、IV-6類に分類される。2・6は平行沈線・C字状沈線が認められる。7は磨消縄文で雲形文を描出している。これらはIV-4類と考えられる。3・5は結節縄文が施されており、IV-2類に相当する。8は平行沈線が巡っており、IV群に分類される。9は縦位櫛描文が施されているV-1類である。10は網目状櫛糸文、11は横位・縦位櫛糸文が加えられており、V-2類土器に相当する。4は結節羽状縄文、12は斜縄文が施文されているV-3類である。

SK125 (図6-13)

76Tで検出されたものである。13は覆土からの出土遺物で、縦位櫛描文が施されているV-1類である。

SK126 (図6-14~19)

76Tで検出されたものである。14~19は覆土からの出土遺物である。14は平行沈線・弧状沈線区画内の縄文を磨り消しており、IV群と考えられる。15・17~19は網目状櫛糸文が施されているV-2類、16は不規則に縄文を施文しているV-3類である。

#### 4. 土坑II類（遺構略称SK）

平面プラン、直径、断面形、堆積土の観察から、いわゆる「貯蔵穴」と判断されるもの。

SK18 (図7-1~4)

77Tで検出されたものである。1~4は覆土からの出土遺物である。1は斜位に短沈線が加えられている。2は羽状縄文、4は斜縄文が施されている。1~4は胎土に纖維を含む。これらはI-1類に分類される。

SK23 (図7-5・6)

77Tで検出されたものである。5・6は覆土からの出土遺物である。5は平行沈線による山形文が施文されており、I-2類に相当する。6は斜縄文が施されているI群である。

SK46 (図7-7)

76Tで検出されたものである。7は覆土からの出土遺物で、弧状沈線により無文帯を区画している。II-2~3類と考えられる。

SK152 (図7-8~11)

50Tで検出されたものである。8~11は覆土からの出土遺物である。8は胎土に纖維を含み、結束羽状縄文が加えられており、I-1類に分類される。9は縦位・弧状沈線が施されている。10は縦位の結節縄文は施文されている。これらはII-1類である。11は弧状沈線により無文帯を区画しており、II-2~3類と考えられる。

SK153 (図7-12~15)

25Tで検出されたものである。12~15は覆土からの出土遺物である。12は縦位沈線で、13は隆帯で

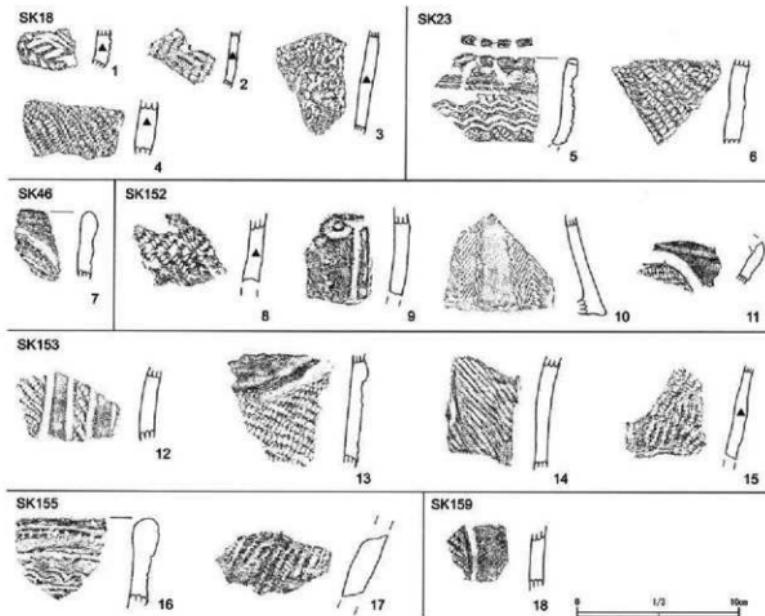


図7 土坑II類出土土器

無文帯を区画している。これらはII-3類に相当する。14は縦位に沈線が走るII群である。15は胎土に纖維を含み、斜綱文が施されている。I-1類と判断される。

#### SK155 (図7-16・17)

24Tで検出されたものである。16・17は覆土からの出土遺物である。16は口縁部に刺突が巡り、平行沈線によるコンパス文が施文されており、II-1類に分類される。17は斜綱文が加えられているII群である。

#### SK159 (図7-18)

23Tで検出されたものである。18は覆土からの出土遺物で、縦位沈線により無文帯を区画しており、II-2~3類と考えられる。

### 5. 埋設土器 (遺構略称SK)

77Tから1基 (SK17) 検出された。

#### SK17 (図8-1~4)

1~4は覆土からの出土遺物である。1は口縁部に弧状櫛描文、その下位には蛇行櫛描文が施されているV-1類である。2・3は横位・弧状沈線により文様が描出されている。これらはIV-4類に分類される。4は外面に輪積痕を残し、内面にはケズリの痕跡が顕著に確認できる無文土器で、V-4類である。

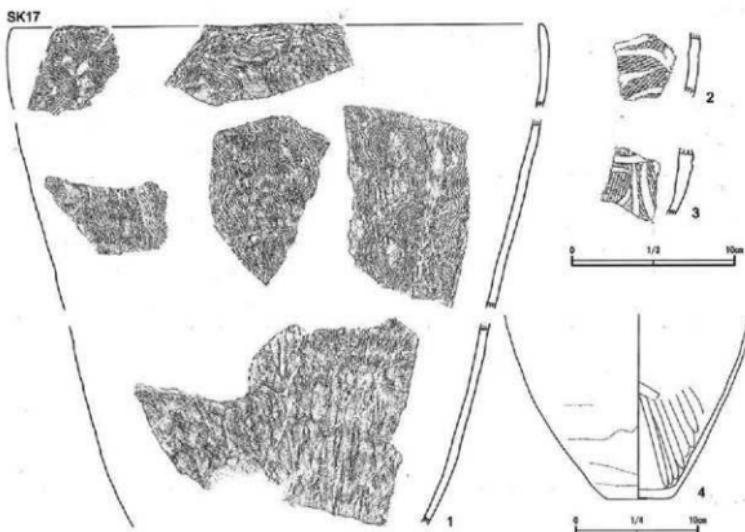


図8 埋設土器

## 6. 土坑IV類（遺構略称SK）

土坑I類・土坑II類・埋設土器以外の十坑で、堆積土の観察などから縄文時代のものと推定できるものを本群とした。

## SK04（図9-1～4）

IV区で検出されたものである。1～4は覆土からの出土遺物である。1は平行沈線区画内に刻みを施し、胴部には入組部に刺突を持つ入組文が施されており、III-4類と考えられる。2は蛇行櫛描文が施されているV-1類である。3は網目状撚糸文が認められ、V-2類に分類される。6は斜位縄文が施されるV-3類である。

## SK05（図9-5）

IV区で検出されたものである。5は覆土からの出土遺物で、非結束羽状縄文が加えられ、胎土に纖維を含み、I-1類と判断される。

## SK95（図9-6）

76Tで検出されたものである。6は覆土からの出土遺物で、縦位櫛描文が施されるV-1類である。

## SK102（図9-7・8）

76Tで検出されたものである。7・8は覆土からの出土遺物である。7は沈線により雲形文を描出しており、IV-3類に相当する。8は無節縄文を不規則に施した後に櫛描文を施しているV-3類である。

## SK103（図9-9～11）

76Tで検出されたものである。9～11は覆土からの出土遺物である。9は縦位・蛇行櫛描文が施さ

れているV-1類である。10は口縁に縦割突起が貼付され、沈線区画内に縄文を充填しており、III-4類と判断される。11は斜縄文が施されているV-3類である。

#### SK104 (図9-12)

76Tで検出されたものである。12は覆土からの出土遺物で、弧状の平行沈線が施文されている。IV-4類に分類される。

#### SK112 (図9-17~19)

76Tで検出されたものである。17~19は覆土からの出土遺物である。17は三叉文が認められ、IV-1類に相当する。18は横位・縦位櫛描文が施文されているV-1類、19は網目状撚糸文が施文されているV-2類である。

#### SK114 (図9-13)

76Tで検出されたものである。13は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が加えられているV-2類である。

#### SK116 (図9-14)

76Tで検出されたものである。14は覆土からの出土遺物で、横位・縦位櫛描文が施文されており、V-1類に分類される。

#### SK118 (図9-15・16)

76Tで検出されたものである。15・16は覆土からの出土遺物である。15は横位櫛描文、16は横位・縦位櫛描文が施文されているV-1類である。

#### SK117 (図9-20・21)

76Tで検出されたものである。20・21は覆土からの出土遺物である。20は平行沈線区画内に縄文を充填している。III-4類と判断される。21は網目状撚糸文が加えられているV-1類である。

#### SK128 (図9-22・23)

3Gで検出されたものである。22・23は覆土からの出土遺物である。22は網目状撚糸文が施文されており、V-1類に分類される。23は口唇部に浅い沈線、口縁部に刻み・平行沈線が巡っており、IV-6類に相当する。

#### SK172 (図9-24)

11Tで検出されたものである。24は覆土からの出土遺物で、横位櫛描文・補修孔が認められるV-1類である。

#### SK175 (図9-25)

11Tで検出されたものである。25は覆土からの出土遺物で、無文の底部資料である。V-4類に分類される。

#### SK176 (図9-28~31)

11Tで検出されたものである。28~31は覆土からの出土遺物である。28は平行沈線区画内に刻みを充填させ、突起を貼付している。29は弧状沈線区画内に縄文を充填し、刺突を加えている。これらはIII-4類と判断される。30は斜縄文が施文されているV-3類、31は縦位櫛描文が施文されているV-1類である。

#### SK177 (図9-26・27)

11Tで検出されたものである。26・27は覆土からの出土遺物である。26は無文の口縁部資料で、V-4類である。27は沈線が横走するV-3類である。

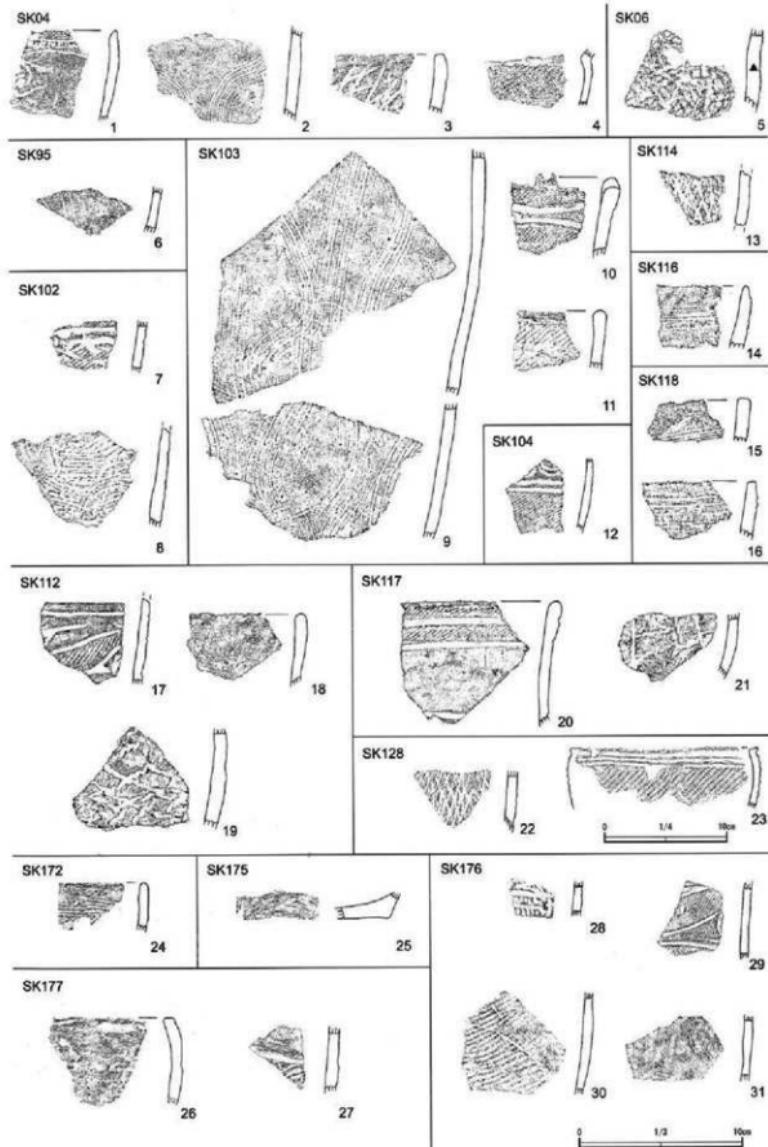


図9 土坑IV類出土土器

## 第2節 小迫地区台地貝層・遺物包含層

小迫地区台地に所在する2箇所の埋没谷（西の谷・東の谷）の堆積土のうち、縄文時代の堆積層から出土した土器をまとめた。

### 1. 西の谷

26・27・80TならびにIV区で確認された埋没谷で、大別III-2a層（以下、III-2a層）・大別III-2b層（以下、III-2b層）が堆積している。IV区にサブトレレンチを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査をおこなった。遺物については、III-2a層をIII A～C層に、III-2b層をIII D～Fに分層して取り上げているが、土器が多量に出土したことから、一部の層では明確に区別することができなかったため、一括して遺物を取り上げたものがある。また、焼獸魚骨が出土するため北壁に接するかたちでコラムサンプルを設定し、III A～F層の層位毎に調査を実施している。

#### IV区サブトレレンチ

##### III A層（図10、図11-1～19、図30-1～7）

表土下、II層（縄文時代以後の堆積土である黒色土）下に堆積している層で、III-2a層の上層にあたる。サブトレレンチ内南東側では堆積が確認されない。

##### IV-1類（図10-1）

図10-1は注口土器の注口部で、玉抱三叉文が描出されている。

##### IV-2類（図10-2～5、図30-2・6）

図10-2～4は羊歯状文が描出されている。5は列点文が施されている。図30-2は口縁が若干内湾する器形で、頸部に羊歯状文が巡り、B突起が貼付されている。図30-6は段を有し、胴部下半で大きく外反する浅鉢形土器で、底部は丸底である。底部は中央を円形に彫去され、胴部下半の屈曲部には横位沈線が走る。口縁部にはB突起が付されている。

##### IV-3類（図10-8～13、図30-1）

図10-8～10・12・13は彫去もしくは磨消縄文で雲形文を描出している。8・9は口唇部に彫去や沈線を用いて浮彫状の装飾を施している。図30-1は長頸壺である。彫去により雲形文が描かれ、口縁部にはB突起が貼付されている。

##### IV-6類（図10-6・14～19）

図10-6は口縁内側に刻みが加えられ、外面には平行沈線間に刺突が施されている。14～18は口縁部が小波状を呈し、19は平口縁である。それぞれ数条の沈線が横走している。

##### V-1類（図10-21・24～27、図11-1～3、図30-3）

図10-21・26・27は弧状・縦位・蛇行櫛描文を施文されており、26には補修孔が認められる。24は横位櫛描文・蛇行櫛描文を施している。図11-1・3は蛇行櫛描文が施文されている。図30-3は平底の底部で、縦位櫛描文が加えられている。

##### V-2類（図11-4～7）

図11-4～7は網目状燃系文が施されている。

##### V-3類（図10-7・22・23、図11-8～17、図30-4・5）

図10-7は平行沈線、22・23は1条の沈線が横走している。また、22は口縁部に刻みが施されている。図11-9は折返口縁である。13は外面に輪積痕を残し、14は外面に輪積痕・指頭圧痕が認められる。

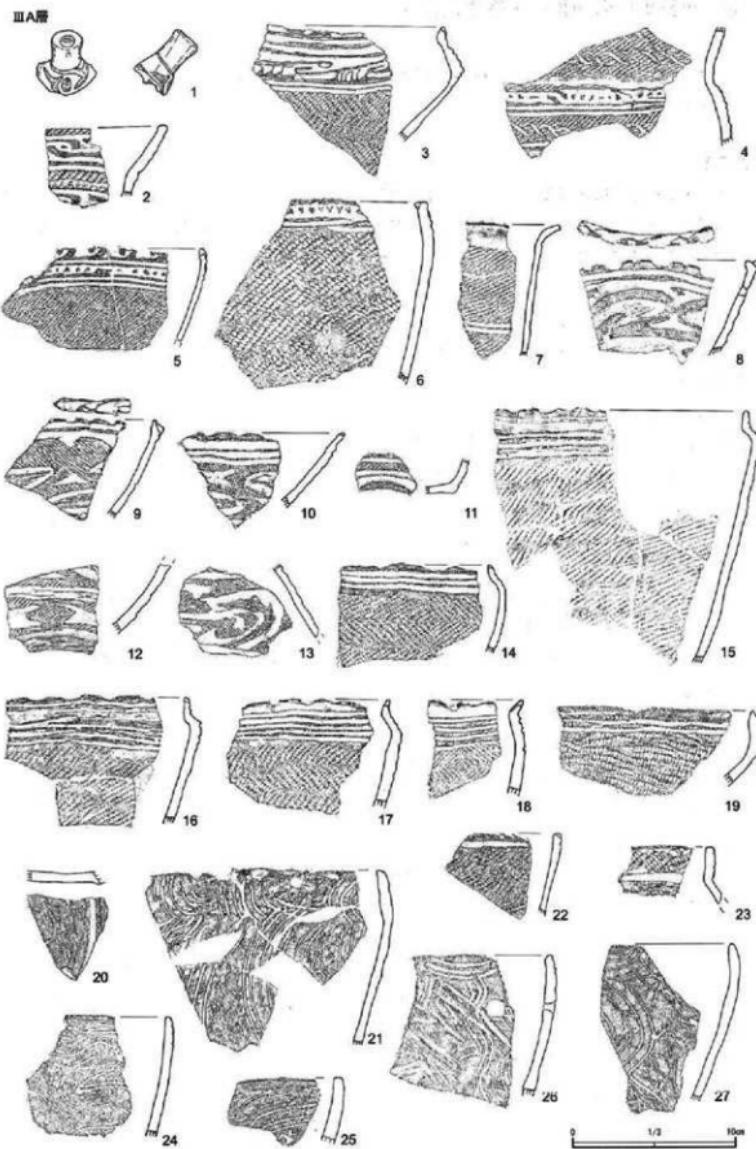


図10 IV区出土土器①

る。図30-4は球形を押し潰したような器形で、底部は丸底である。胴部の上下に平行沈線が巡っている。5は短頸壺の口縁部である。

#### V-4類 (図10-20、図11-18・19、図30-7)

図10-20、図30-7は底部資料で、1条の沈線が巡っている。図11-18は内外面にミガキ認められ、特に内面は丁寧にミガキが施されている。

#### III A下層 (図11-20~22、図12-1~7、図30-8~11)

III A層のなかでも下位にあたる。

#### IV-6類 (図11-20~22、図12-1)

図11-20・22は口縁が小波状を呈し、22はB突起が貼付されている。21は口縁部に細かい刺突が巡る。20・22は、沈線間に刺突が施され、20・21は列点状の文様が描出されている。図12-1は口縁が小波状を呈し、平行沈線が横走する。

#### V-1類 (図12-2)

図12-2は横位・縦位櫛描文が施されている。

#### V-2類 (図12-3~5)

図12-3~5は網目状櫛糸文が加えられており、4には補修孔が認められる。

#### V-3類 (図12-7、図30-8)

図12-7は結節羽状縄文、図30-8は斜縄文が施されている。

#### V-4類 (図12-6、図30-9~11)

図30-9は外面にケズリ・ミガキ、10は外面にミガキ、11は外面にミガキ、内面にケズリが加えられている。

#### コラムサンプルIII A層 (図12-8~12)

図12-8は彫去を用いて口唇部に浮彫状の装飾、胴部には雲形文が施され、IV-3類に相当する。11は沈線内に刺突を巡らせており、IV-6類に分類される。9は縦位櫛描文が施文されているV-1類、10は網目状櫛糸文が加えられているV-2類、12は斜縄文が施されているV-3類である。

#### III B層 (図13~図16-20、図30-12~24)

II層ならびにIII A層下に堆積している層で、III-2 a層の中層にあたる。サブトレンチ内南東側では堆積が確認されない。

#### IV-1類 (図13-1)

図13-1は沈線により三叉文が描出されている。

#### IV-2類 (図13-2~5・8~15・18、図30-12・13)

図13-3・5は羊歯状文が施され、5は口縁部に連結したC字状沈線が加えられている。2・4・8・11・18は列点文が巡り、18は口縁部に連結したC字状沈線が施文されている。図30-13は頸部で括り、口縁部が外反する器形で、口縁部および胴部上半に列点文が施されている。図13-9・10・12~15、図30-12は結節縄文が施文されている。9は口唇部ならびに口縁部、10は口唇部に刺突が加えられている。

#### IV-3類 (図13-7、図14-4~9・14、図30-15)

図13-7は羊歯状文が施され、その下位には彫去による雲形文が認められる。図14-4~9・14は胴部に彫去もしくは磨消縄文により雲形文を描出し、図14-5・6・8は口唇部に彫去や沈線を用いて浮彫状の装飾を施している。図30-15は口縁部が内湾気味に立ち上がる器形で、口唇部に浮彫状の

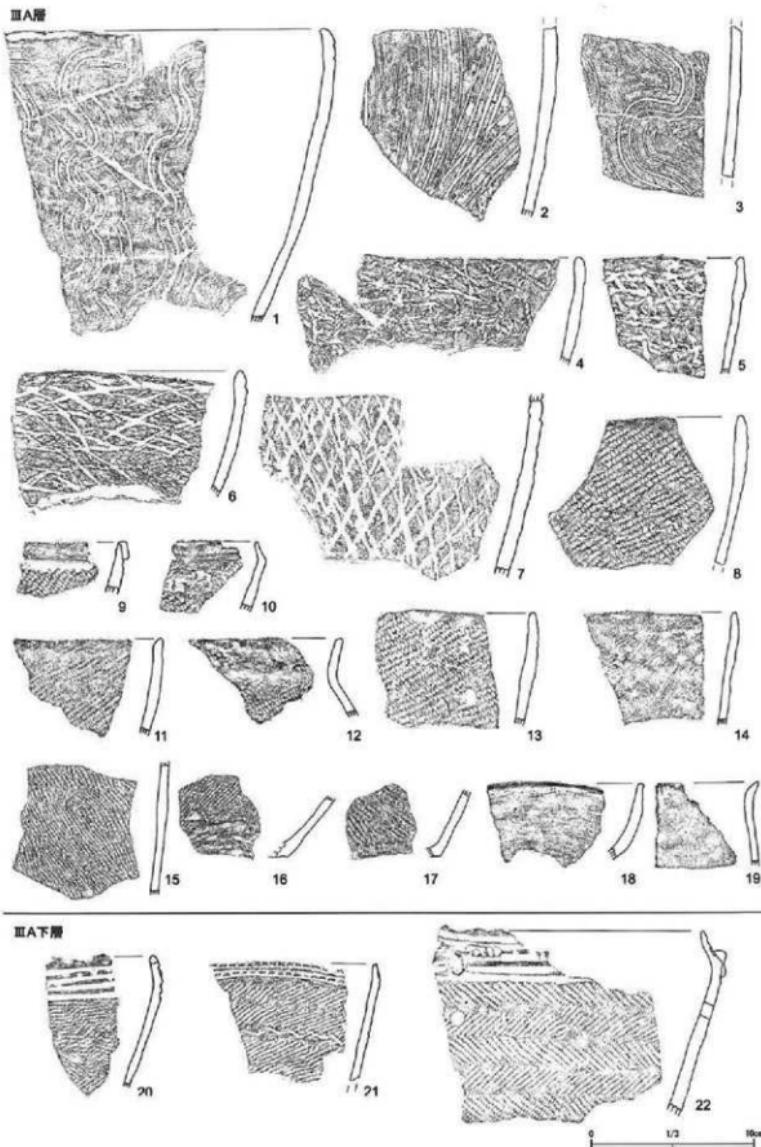


圖11 IV區出土土器②

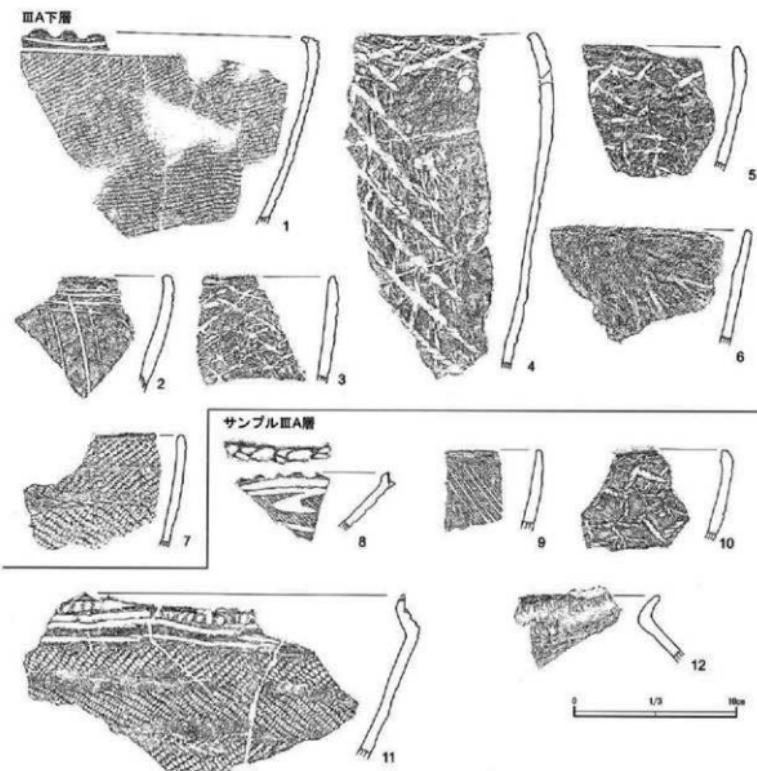


図12 IV区出土土器③

装飾を加え、胴部には彫去により雲形文を描いている。

#### IV-4類 (図13-6、図14-10~13、図30-14)

図13-6は列点状の文様が施され、胴部には曲線状のモチーフが描出されている。図14-12は雲形文、11は梢円形状のモチーフを、それぞれ磨消繩文および沈線を用いて描出している。10は三角形状・C字状沈線、13は弧状沈線が施されている。図30-14は底部から緩やかに膨らみ、胴部中央から内湾して口縁に至る器形で、胴部中央に最大径を持つ器形である。口縁には刻み・平行沈線が加えられており、胴部には沈線で曲線状のモチーフが描かれている。

#### IV-6類 (図13-16・17・19、図14-1~3、15~17)

図13-16は口縁が小波状を呈し、2段にわたり平行沈線間に細かい刺突を施している。17・19は沈線内に刺突が認められる。図14-1~3は平行沈線間に刺突が加えられ、口唇部には刺突が巡ってい

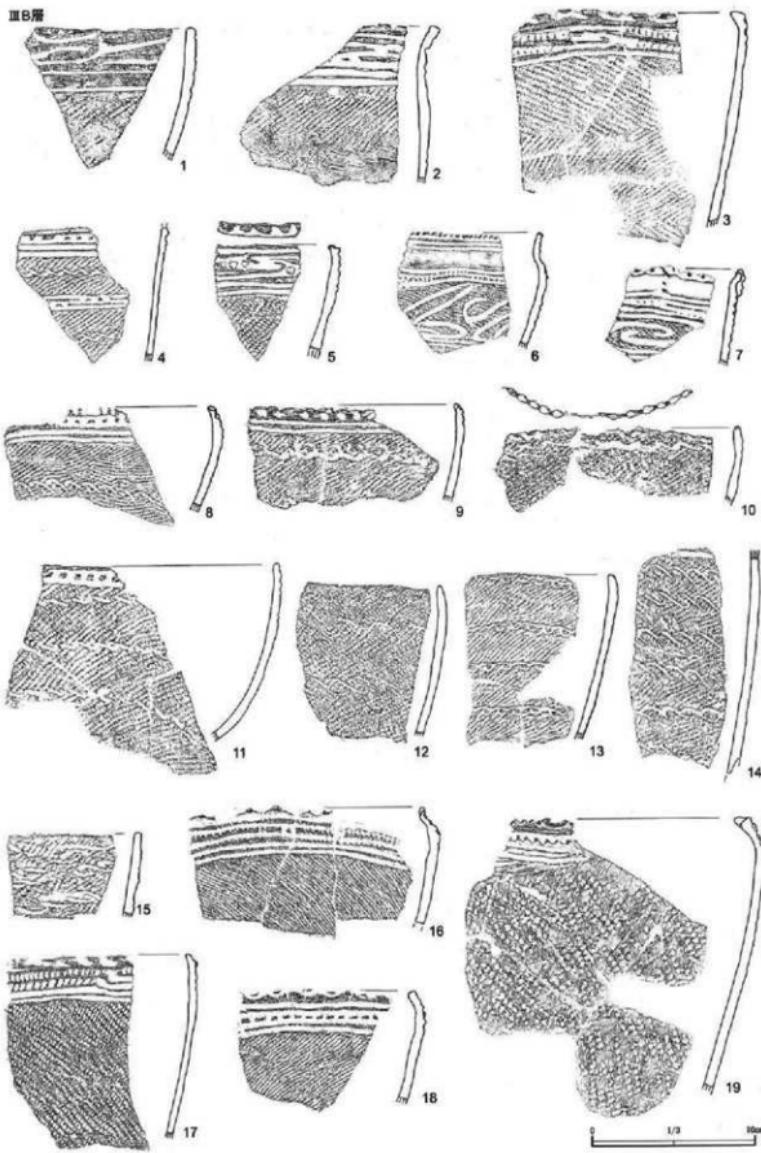


図13 IV区出土土器④

る。15～17は数条の平行沈線が横走している。15は口縁が小波状を呈し、16・17は口唇部に刺突が施されている。

#### V-1類 (図14-21～24、図15-1～6)

図14-21は横位櫛描文、22は横位・弧状・蛇行櫛描文、図14-24、図15-1・2・5は横位・蛇行櫛描文が施されている。図14-24には補修孔が認められる。

#### V-2類 (図15-7～14、図16-1～4)

全て網目状撚糸文が施されている。図15-10には網目状撚糸文とともにLR繩文が加えられている。図15-13は頸部で括れ、口縁部が外半する器形である。

#### V-3類 (図16-5～11、図30-16・17)

図16-8は外面に輪積痕を残している。11は胸部下端にケズリが施されている。図16-10は口縁部に、図30-17は胸部下半および底部に沈線が巡っている。

#### V-4類 (図14-18～20、図16-12～18、図30-18～24)

図14-18～20は口縁部に平行沈線が横走している。図16-12は口唇部が面取りされ、外面はミガキが施されている。15は頸部にケズリが加えられている。図30-20は短頸壺形土器の口縁部で、外面に輪積痕を残し、口縁部内側では面取りされている。18は手捏ね土器で、外面に指頭圧痕が認められる。21は台付土器の台部である。24は丸底の底部から直線的に開く器形で、外面および底部にケズリが加えられている。

#### III B下層 (図30-25)

III B層の中でも下位にあたる。図30-25は短頸壺の口縁部で、橋状把手が貼付されている。V-3類に分類される。

#### コラムサンプルIII B層 (図16-19～25、図30-26)

図16-19は彫去により口唇部には浮彫状の装飾を施し、胸部には雲形文を描出し、上下2箇所に補修孔が認められる。19はIV-3類に相当する。20は浮彫状の装飾が見られ、胸部には1条の横位沈線が巡っており、注口土器の可能性がある。20はIV群に相当する。図16-21は平行沈線間に刺突を施している。図30-26は口縁部が内湾する器形で、口縁部は小波状を呈し、沈線内に刺突が巡っている。これらはIV-6類と判断される。図16-22・23は櫛描文が施文され、22は刻みが加えられている。これらはV-1類に分類される。24・25は斜位繩文が施文されているV-3類である。

#### III C層 (図17～図21-9、図31、図32-1～4)

II層ならびにIII B層下に堆積している層で、III-2a層の下層にあたる。

#### III-3類 (図17-1)

1は口縁部に2段の刻みが施されている。

#### III-4類 (図17-2)

2は平行・弧状沈線によりモチーフを描出している。

#### IV-2類 (図17-3・4・7～11、図31-1)

図17-3・4は口唇部に刺突、口縁部および頸部に列点文が施文されている。11は列点文が認められる。7～10は結節繩文が加えられている。図31-1は頸部で括れ、口縁が外反する器形で、口縁部には刻みと列点文、頸部に羊歯状文が巡っている。

#### IV-3類 (図17-12～17、図31-2～7)

図17-12～17は彫去もしくは磨消繩文の手法で雲形文を描出している。12は沈線間に刺突が施され、

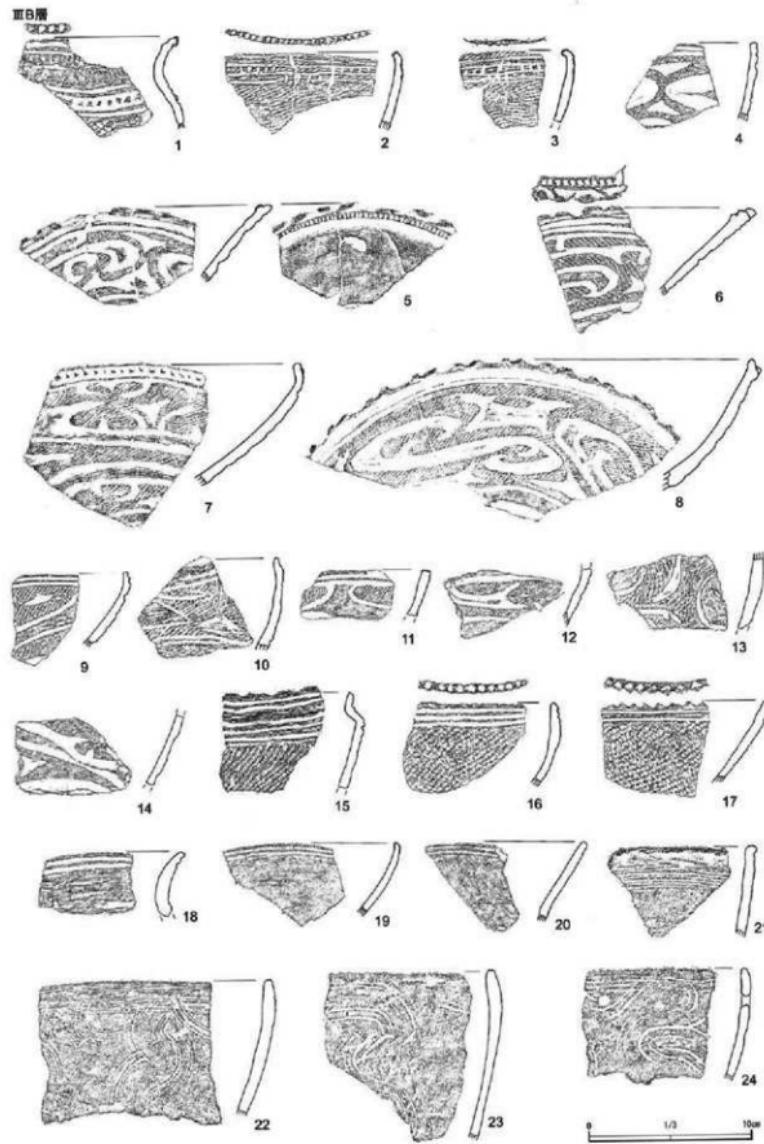


图14 IV区出土土器⑤

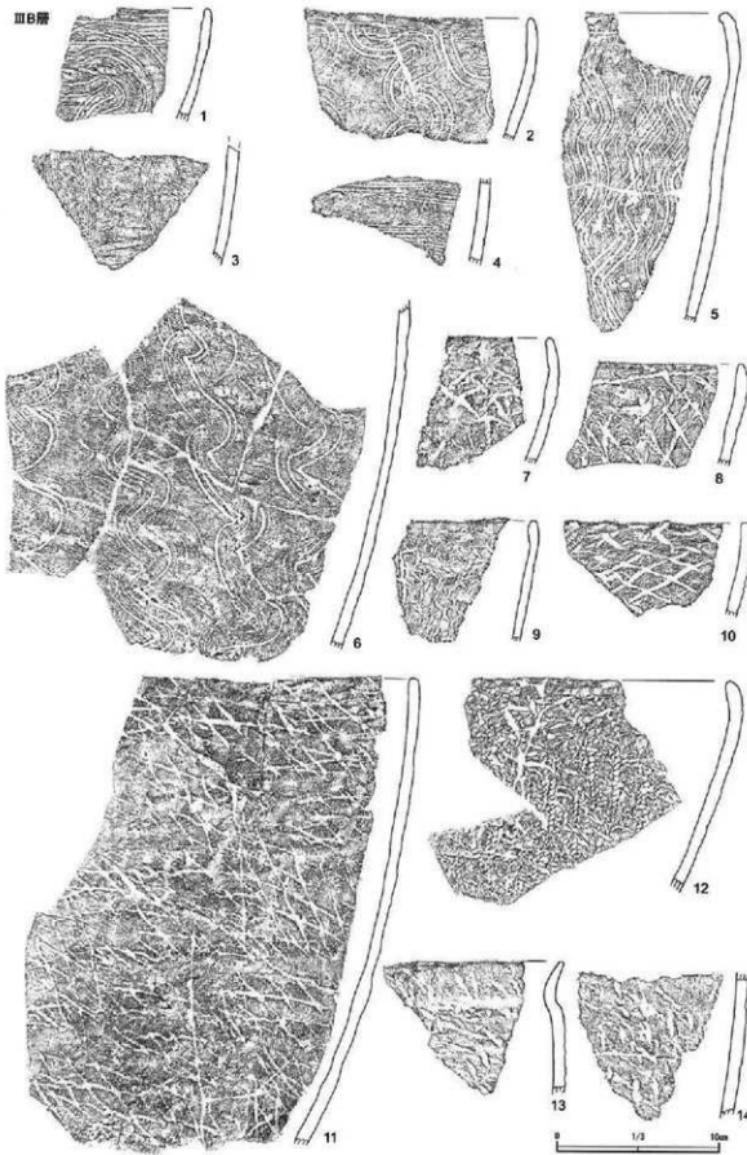


图15 IV区出土土器⑥

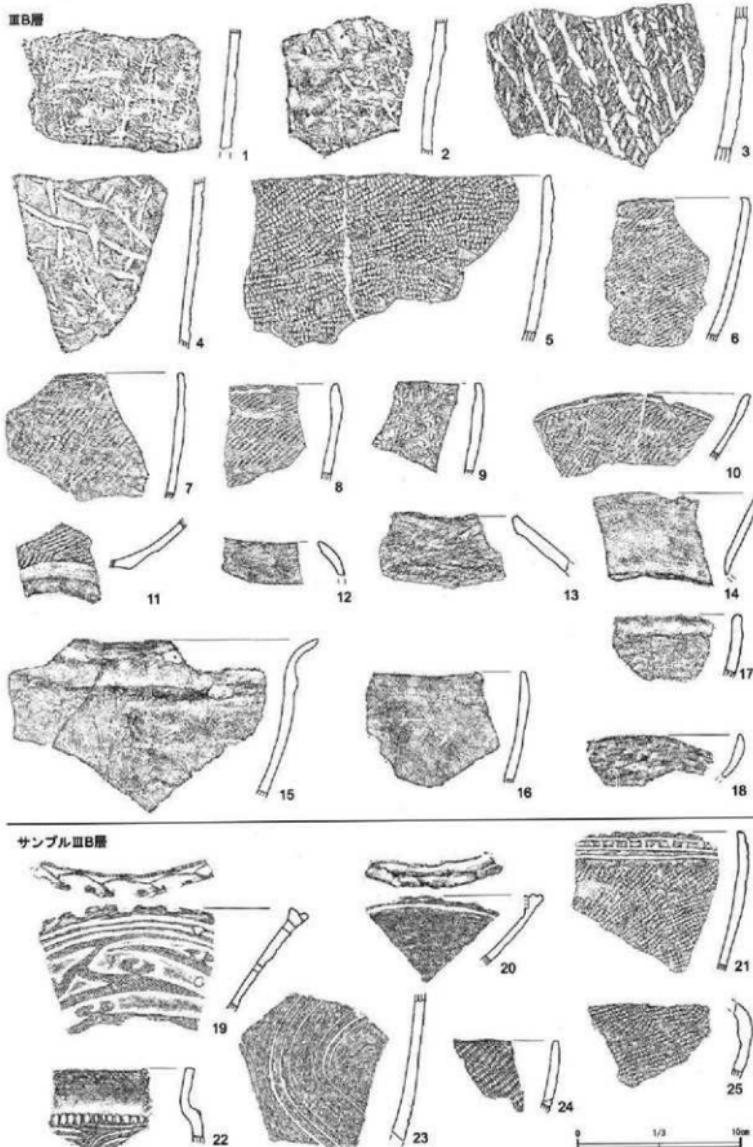


図16 IV区出土土器⑦

15は口唇部に彫去で浮彫状の装飾を加えている。16は口縁部に沈線を施したB突起を貼付している。図31-2は平底の底部から直線的に聞く浅鉢で、彫去により口唇部に浮彫状の装飾が施され、胴部に雲形文が描かれている。3は口縁部が若干内湾する浅鉢で、彫去により雲形文が描出されている。4は有段丸底の浅鉢で、胴部から底部にかけて磨消繩文で雲形文を施している。5は平底の浅鉢で、磨消繩文で雲形文を描出している。6は口縁部が内傾する器形で、幅の狭い口縁部文様帯に羊齒状文を施し、胴部には磨消繩文で雲形文を描出している。7は口縁部がやや内湾する深鉢で、羊齒状文が退化したことにより形成された、内部に刺突を持つ連結したS字状沈線が巡る。胴部には彫去により雲形文が描かれている。

#### IV-4類 (図17-22)

図17-22はメガネ状付帯文が施文されている。

#### IV-6類 (図17-5・6、18~21)

図17-5は沈線間に刺突を施して列点状の文様を描出しており、口縁部には刺突が加えられている。6・19は2段にわたり平行沈線間に刺突を施しており、19は口縁部に細かな刺突が巡っている。18・20は沈線間に刺突を加え、18は口縁部に刺突が施され、20は口縁部に沈線が入ったB突起を付している。21は口縁部に細かな刺突が加えられ、頸部には横位平行沈線が走っている。

#### V-1類 (図18、図19-1~5、図31-12、図32-1)

図18-1~6は横位・蛇行櫛描文が施され、1は口縁部に横位沈線ならびに刻みを加えている。図18-7・8、図23-2~5は蛇行櫛描文を施文している。図19-1は口縁部には弧状の櫛描文を施し、その下位には不規則に櫛描文を加えている。図31-12は平底で口縁が若干内湾する深鉢で、蛇行櫛描文が施文されている。図32-1は図31-12と同様の器形で、弧状・蛇行櫛描文が施文されている。

#### V-2類 (図19-6~9、図20-1~9、図31-11、図32-2~4)

III C層から出土した本類は、すべて網目状撚糸文が施されている。図32-2・3は口縁が若干内湾する深鉢である。3は球状に近い器形を呈する胴部資料である。

#### V-3類 (図20-10~14、図21-1~3、図31-10・13)

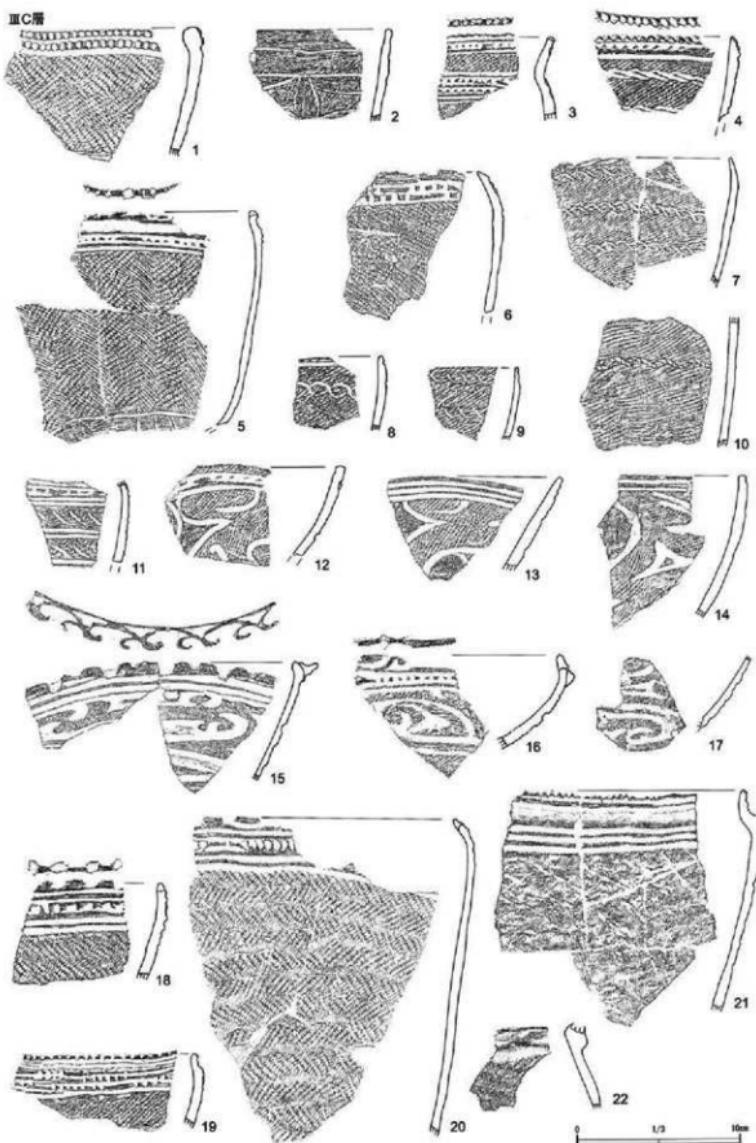
図20-10は羽状繩文、図20-11~14、図21-1・2は斜繩文が施されている。図21-3は底部資料である。図31-10は口縁部が若干内湾する浅鉢で、底部にケズリが加えられ、上底となっている。13は球形を押し潰したような器形で、底部は丸底を呈する。胴部上半には1条の横位沈線が走る。

#### V-4類 (図21-4~9、図31-8・9)

図21-4は口縁部に刺突が認められる。8は浅鉢形土器で、内外面に若干のミガキが加えられている。7は内外面に丁寧なミガキ、9は外面にケズリ・ミガキが施されている。図31-8は胴部に3条の平行沈線が巡っており、9は底部に沈線が施文されている。

#### コラムサンプルIII C層 (図21-10~13、図32-5)

図32-5は底部から若干内湾気味に立ち上がる器形で、底部には2条の沈線が巡り、胴部には磨消繩文により雲形文が描出されている。IV-3類に相当する。図21-10・12は横位・蛇行櫛描文が施されており、10の口縁内側には指頭圧痕が残されている。これらはV-1に分類される。13は網目状撚糸文が施文されているV-2類、11は斜繩文が加えられているV-3類である。



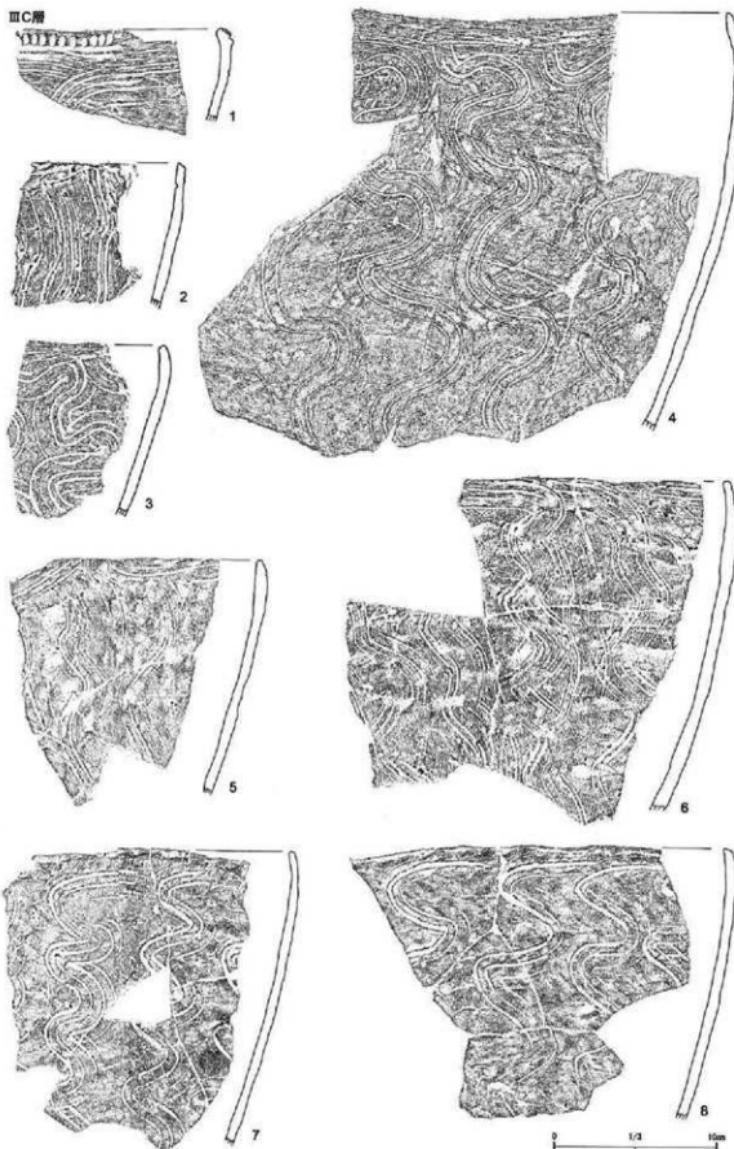


図18 IV区出土土器⑨

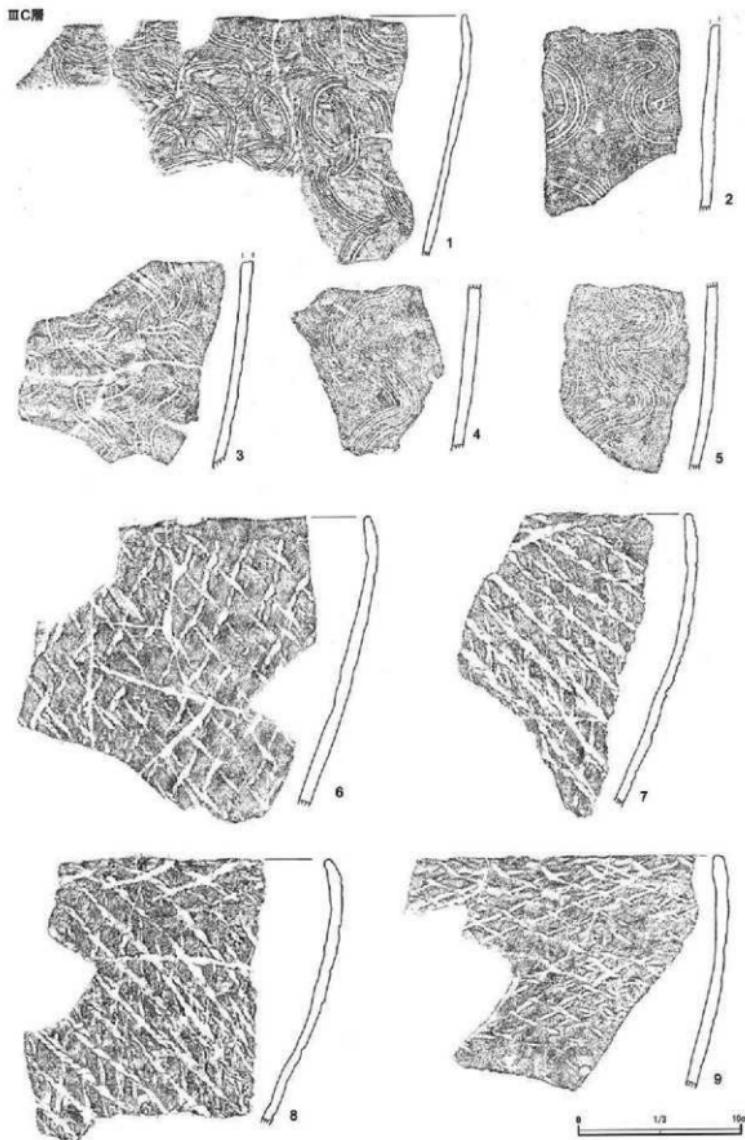


图19 IV区出土土器⑩

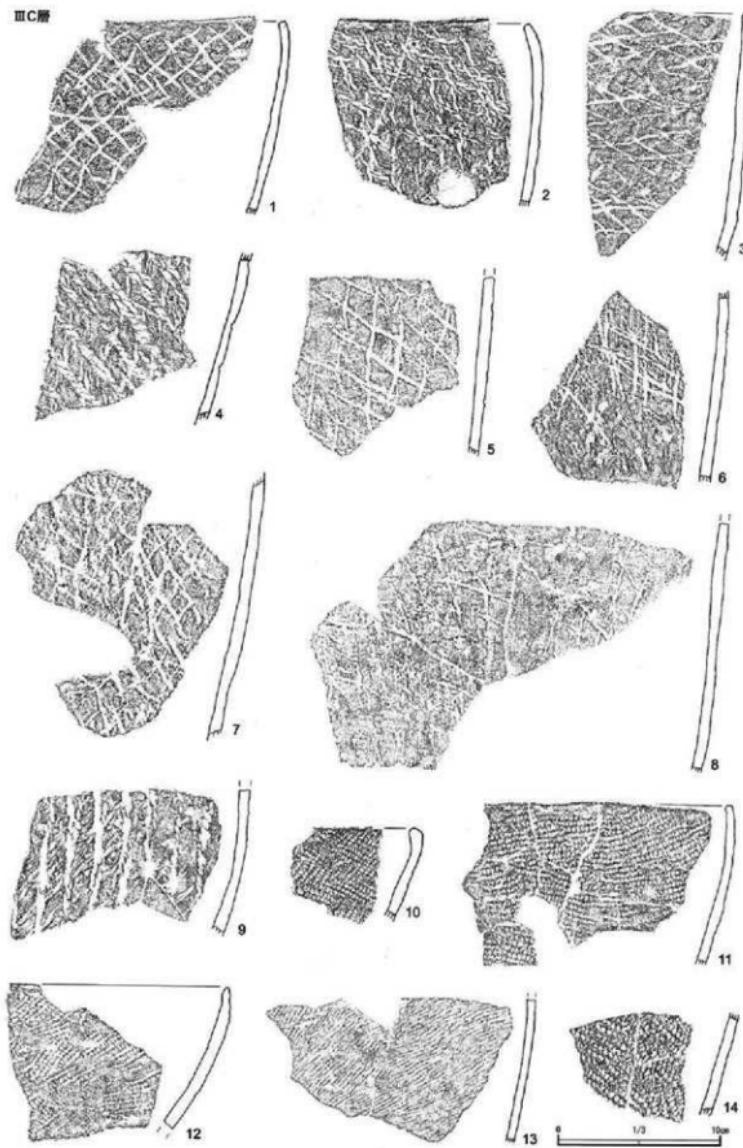


图20 IV区出土土器①

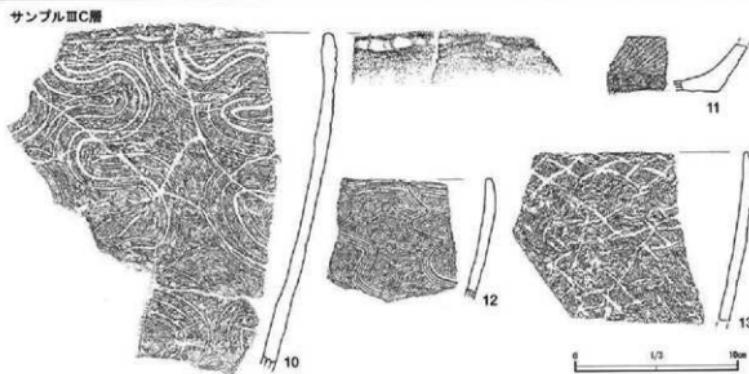
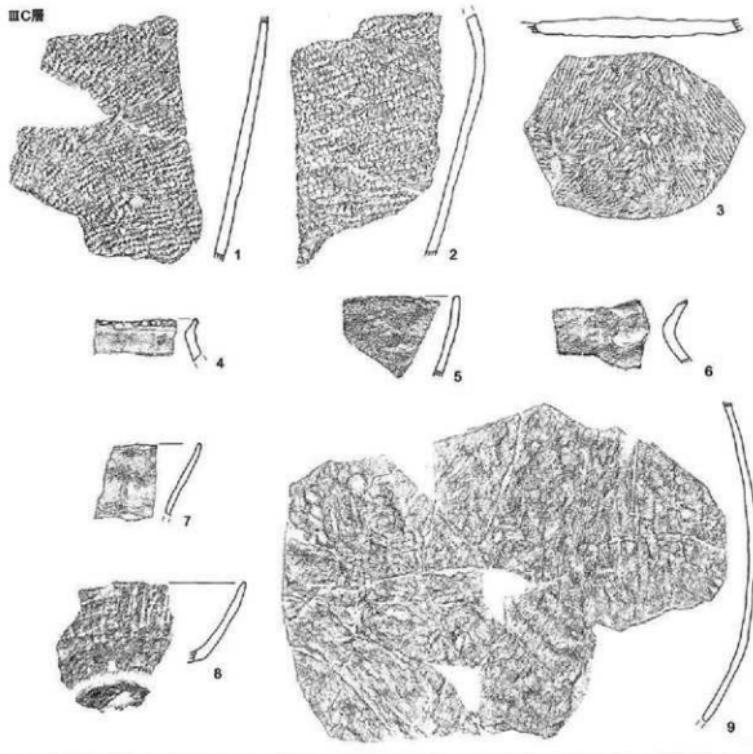


図21 IV区出土土器⑫

**III C・D層（図22、図25-1～10、図33）**

III C層の最下層およびIII D層の最上層にあたる。遺物が多量に出土したため層位毎に取り上げることができなかったので一括して取り上げた。

**III-4類（図22-1）**

1は弧状沈線区画で文様を描出しており、区画内には縄文を充填している。文様の起点部には突起を付している。

**IV-2類（図22-2～8・12、図33-1・2）**

図22-2・4は羊歯状文が施されている。12は口縁部に羊歯状文が施文され、胴部上半には磨消縄文により雲形文が描出されている。3・5～8は列点文が施文されている。図33-1は頸部で括れ、口縁部が外反する器形で、頸部に羊歯状文が施されている。2は結節縄文が施文され、底部には2条の沈線が巡っている。

**IV-3類（図22-10・11・13・14・17、図33-5・6）**

図22-10・11・13・14は影去もしくは磨消縄文により雲形文を描出している。10は口縁部に列点状の文様が施され、13は口唇部に浮彫状の装飾が見られる。10はIV-2類に位置付けられる可能性もある。図33-5は有段の浅鉢形土器で、磨消縄文により雲形文が描かれている。6は沈線間に刺突が施され、その下位には連結したC字状のモチーフが描かれている。

**IV-4類（図22-15）**

15は口縁部ならびに頸部に細かい刺突を加えており、胴部にはC字状の沈線区画を配置して雲形文を描出している。

**IV-6類（図22-9・16、図33-3・4）**

図22-9は沈線間に刺突を加え、列点状の文様を描出している。16は口縁部ならびに口縁直下の平行沈線間に刺突が施されている。図33-3は口縁部が直線的に開く器形で、口縁部内側に列点状の文様が施文されている。4は口縁部が内傾する器形で、口縁部に沈線が施されたB突起・刺突が加えられ、その下位では沈線間に刺突を巡らせている。

**V-1類（図22-18・19、図23-1～3、図33-7）**

図22-19、図23-1は横位・蛇行櫛描文、図22-18、図23-2・3は蛇行櫛描文が施文されている。図33-7は口縁が若干内湾する器形で、横位・蛇行櫛描文が加えられている。

**V-2類（図23-4、図33-8・9）**

図33-8は口縁部が直線的に開く器形で、網目状撚糸文が施文されている。9は頸部で括れ、口縁が外反する器形で、口縁部に縦位、胴部に横位の網目状撚糸文が施されている。図23-4は図33-9と器形・施文手法が類似しており、同一個体と考えられる。

**V-3類（図23-5～7、図33-10・11）**

図33-10は丸底気味の底部から直線的に開く器形で、全面に縄文が施文されている。11は、胴部に2条の沈線、底部に1条の沈線が巡っている。

**V-4類（図23-8～10、図33-12～14）**

図23-9・10は外面に輪積痕を残している。図33-12は底部から直線的に開く器形である。13は頸部で括れ、外反して口縁に至る器形で、底部は丸底となる。内外面ともケズリが加えられている。14は球状を呈する手捏ね土器である。

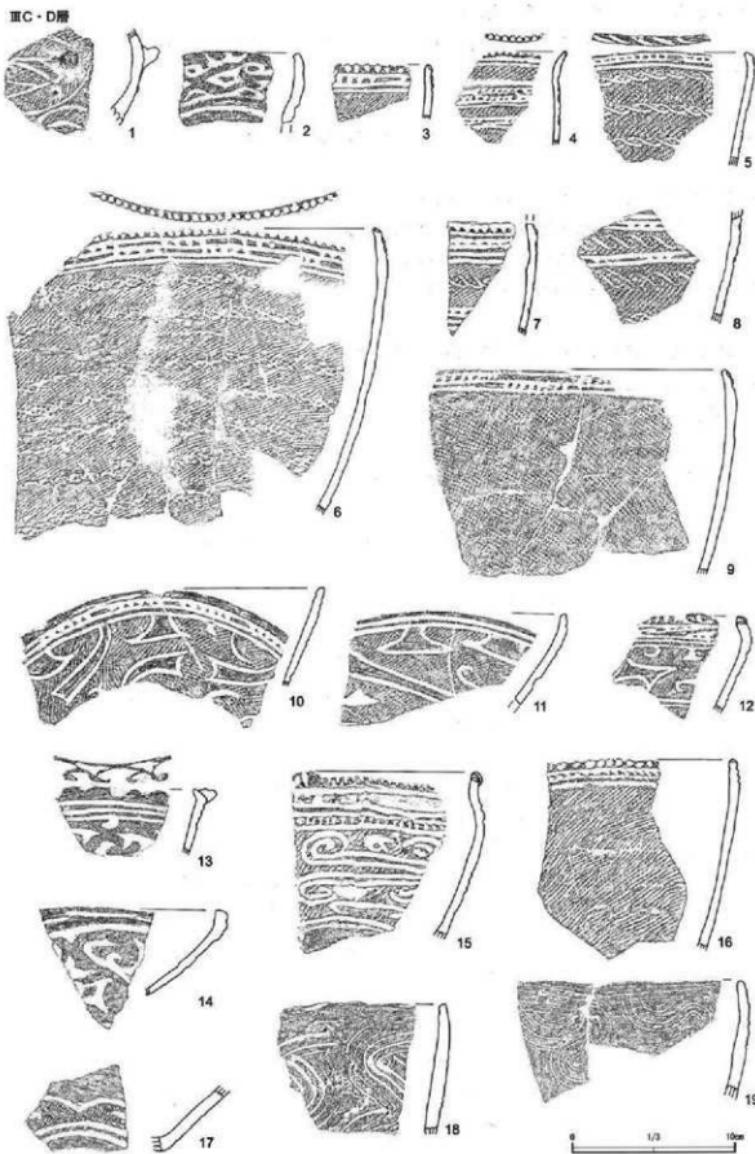


図22 IV区出土土器①

**III D層（図23-11～19、図24、図25-1～4、図34-1～11）**

III C層下に堆積している層で、III-2 b層の上層にあたる。

**III-4類（図23-11・12）**

11は口縁部に縱割突起が付され、平行沈線区画内に縄文が充填されている。12は口縁部ならびに胸部に横位沈線が巡っている。

**IV-2類（図23-13～18、図24-1、図34-1～5）**

図23-13・14、図24-1は羊齒状文が施文されている。図23-15～18は結節縄文が施されている。図34-1は口縁が直線的に開く台付浅鉢で、羊齒状文が加えられている。2は有段の浅鉢で、口縁部には突起が貼付されている。胴部から底部にかけて結節縄文が施文され、底部中央は円形のケズリが施されている。3は頸部で括れ、口縁が外反する器形で、頸部に羊齒状文が施されている。4は口縁部が若干内湾する深鉢で、結節縄文が加えられている。5は底部資料で、結節縄文が巡っている。

**IV-3類（図23-19、図34-7・8）**

図23-19は注口土器と推測される破片で、肩部には三叉状・半円状の沈線が施され、胴部下半には磨消縄文のより雲形文が描かれている。図34-7は口縁部が若干内湾する器形で、磨消縄文により雲形文が描出されている。8は口頸部が外反する、いわゆる算盤玉形を呈する注口土器であるが、注口部を欠損している。口唇部には突起が付され、浮彫状の装飾が施されている。肩部には彫り込みによる突起列が巡り、胴部上半および下半は磨消縄文により文様が描かれている。

**IV群（図34-6）**

図34-6は有段の浅鉢で、2条の沈線が横走する。

**V-1類（図24-2～7）**

2～6は横位・蛇行櫛描文、7は蛇行櫛描文が施文されている。

**V-2類（図24-8～14）**

8～14は網目状撚糸文が施されている。

**V-3類（図24-15～18、図25-1・3、図34-9・10）**

図38-9は2条の沈線が巡っている。10は球状を呈する胴部資料である。

**V-4類（図25-2・4）**

2は外面に輪積痕を残し、4は外面にケズリを加えている。

**コラムサンプルIII D層（図25-5～7、図34-11）**

図25-5は口縁部に羊齒状文が施され、胴部上半には磨消縄文により雲形文が描出されている。図22-12と同一個体である。図34-11は頸部で括れ、口縁部が若干外反する器形で、口縁部・頸部・胴部に列点文が施文されている。これらはIV-2類に相当する。図25-6は横位・蛇行櫛描文が加えられているV-1類、7は網目状撚糸文が施文されているV-2類である。

**III D・E層（図25-8～13）**

III D層の最下層およびIII E層の最上層にあたる。平面観察では、一部分で明確に分層ができなかつたため一括して取り上げた。

図25-8は口縁部に刻みが施されている。9は沈線区画内に縄文を充填している。11は波状口縁で内外面に丁寧なミガキを加えている。これらはIII-3類に分類される。12は弧状沈線で文様が描かれており、III-4類と判断される。13は底部に櫛描文が施文されているV-1類、10は羽状縄文が施されているV-3類である。

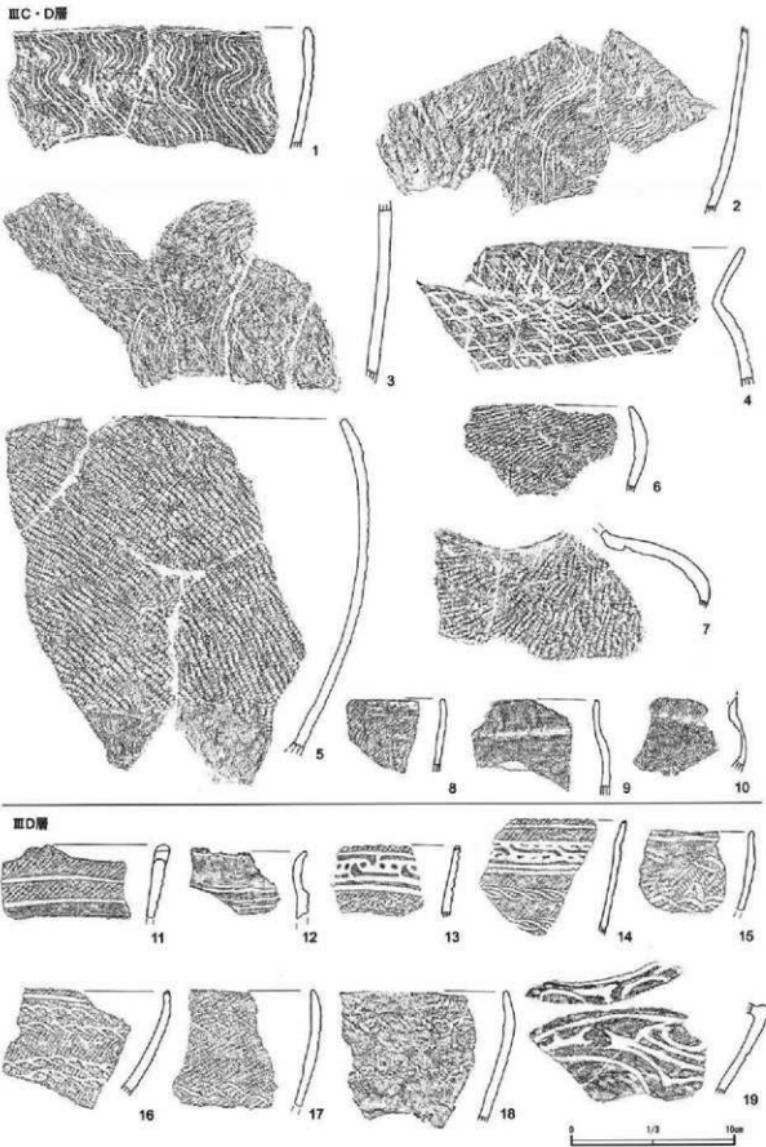


図23 IV区出土土器⑩

**III-E層（図25-14～26、図26、図27-1～10、図35、図36-7）**

III-D層下に堆積する層で、III-2b層の中層にあたる。

**III-3類（図35-11）**

図35-11は台付土器の台部で沈線区画内に縄文を充填している。

**III-4類（図25-14～23、図35-1・2）**

図25-14は口縁部に縄文を施し、突起の形状に合わせて山形状の沈線を加えている。15～17・19・20・23は沈線区画内に縄文を充填している。15・19は口縁部に縦割突起が、20は文様の起点部に小突起が貼付されている。21・22は沈線区画内に刻みを施しており、21は小突起、22は橋状把手が付されている。図35-1は頸部で括れる器形で、弧状沈線内に縄文を充填し、弧状沈線の起点には小突起が加えられている。2は胴部が球状を呈する異形台付土器で、台部を欠損している。数条の弧状沈線が走り、弧状沈線の起点部には小突起が貼付されている。

**IV-2類（図25-24～26、図35-3～6・8）**

図25-24・26は羊歯状文が施されている。25は列点文が施文されている。図35-3・4は口縁部が内湾する器形で、3は列点文ならびに結節縄文、4は結節縄文が施されている。5は頸部で括れ、口縁が外反する器形で、口縁部・頸部に列点文が施文されている。8は台部を欠損している台付浅鉢で、有段で口縁が大きく外反する器形である。口縁部と頸部には列点文が施され、胴部には弧状沈線が加えられている。

**IV-3類（図26-4、図35-9）**

図26-4は口縁部に列点状の文様が施文され、胴部に磨消縄文により雲形文が描出されている。図22-10と同一個体で、IV-2類に位置付けられる可能性もある。図35-9は台部を欠損している台付浅鉢で、口縁部が直線的に開く器形である。口唇部に膨去により浮彫状の装飾が施され、胴部には磨消縄文で雲形文が描かれている。

**IV-6類（図26-1～3）**

図26-1は口縁部にC字状の沈線が施文され、その下位には沈線内に刺突を施している。2・3は口縁部に刺突が加えられ、その下位の沈線間にも刺突が施されている。

**V-1類（図26-5～16、図36-1～3）**

III-E層から出土した本類には、横位・蛇行櫛描文が施文されているものが多く見られる。図26-9は口唇部に刺突が加えられている。7・11は施文手法が類似しており、同一個体の可能性が高い。図36-1は口縁部が直線的に開く深鉢で、横位・蛇行櫛描文が施文されている。2は口縁部が若干外反する小型土器で、不規則に斜位櫛描文が施され、外面に指頭圧痕が残されている。

**V-2類（図26-17・18）**

図26-17・18は網目状燃糸文が施文されている。

**V-3類（図27-1～9、図35-7、図36-4～6）**

図27-1は3条の沈線が横走している。図35-7は、底部に沈線が2条巡っている。図36-4は頸部で括れ、口縁部が外反する器形である。口縁部に突起が付され、器面全体にLR縄文が施文されている。5は底部にケズリが加えられ、上底となっている。

**V-4類（図27-10、図35-10、図36-7）**

図35-10は台付土器の台部で、沈線が施されている隆帶・突起が付されている。図36-7は頸部で括れ、口縁が外反する短頸壺で、胴部中程に最大径を持つ。

III层

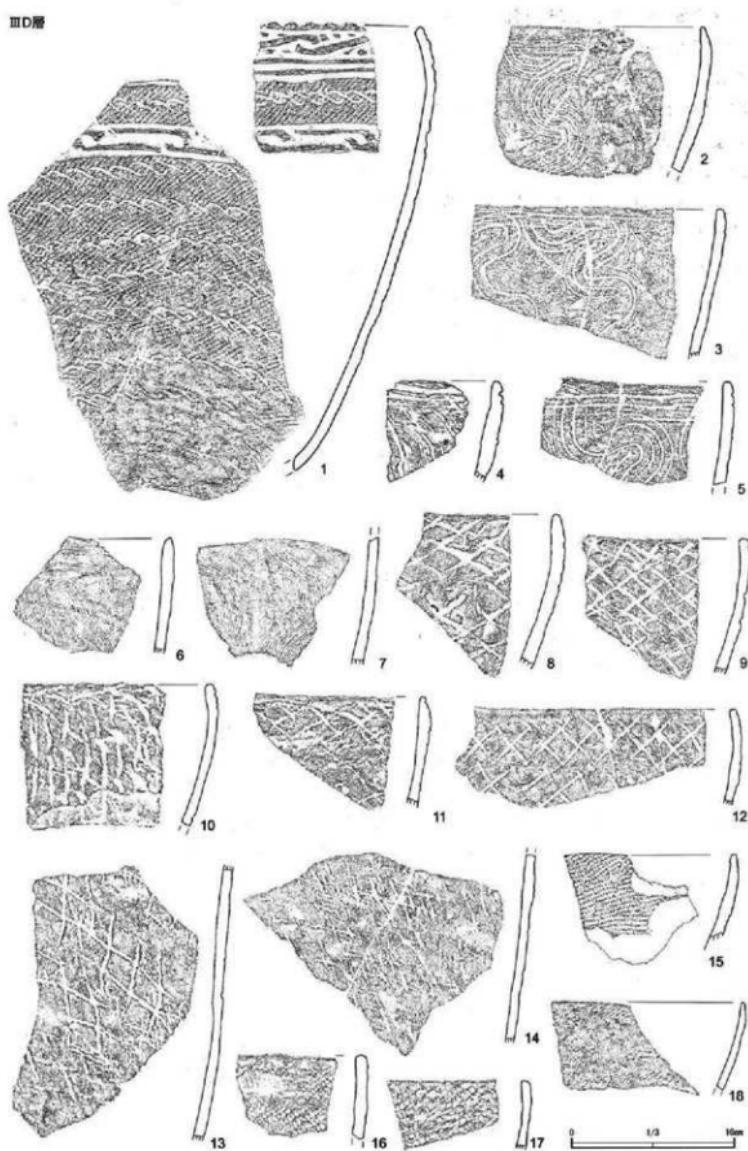


图24 IV区出土土器⑤

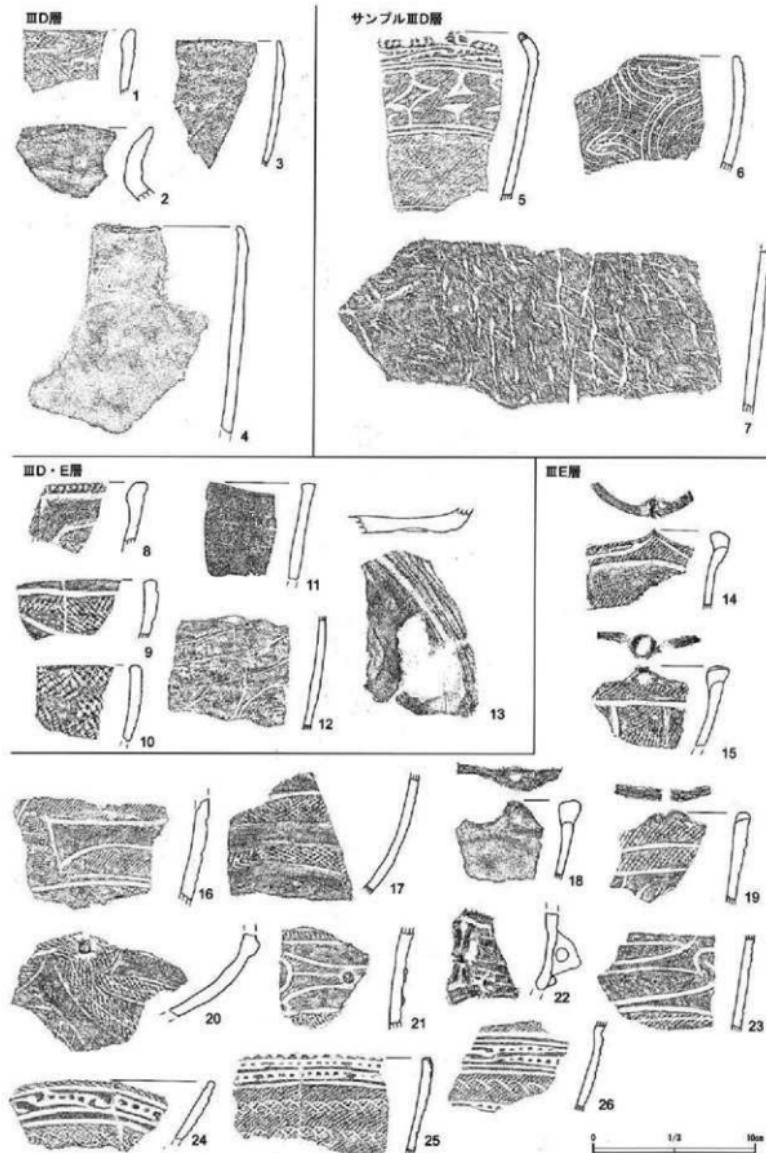


図25 IV区出土土器⑤

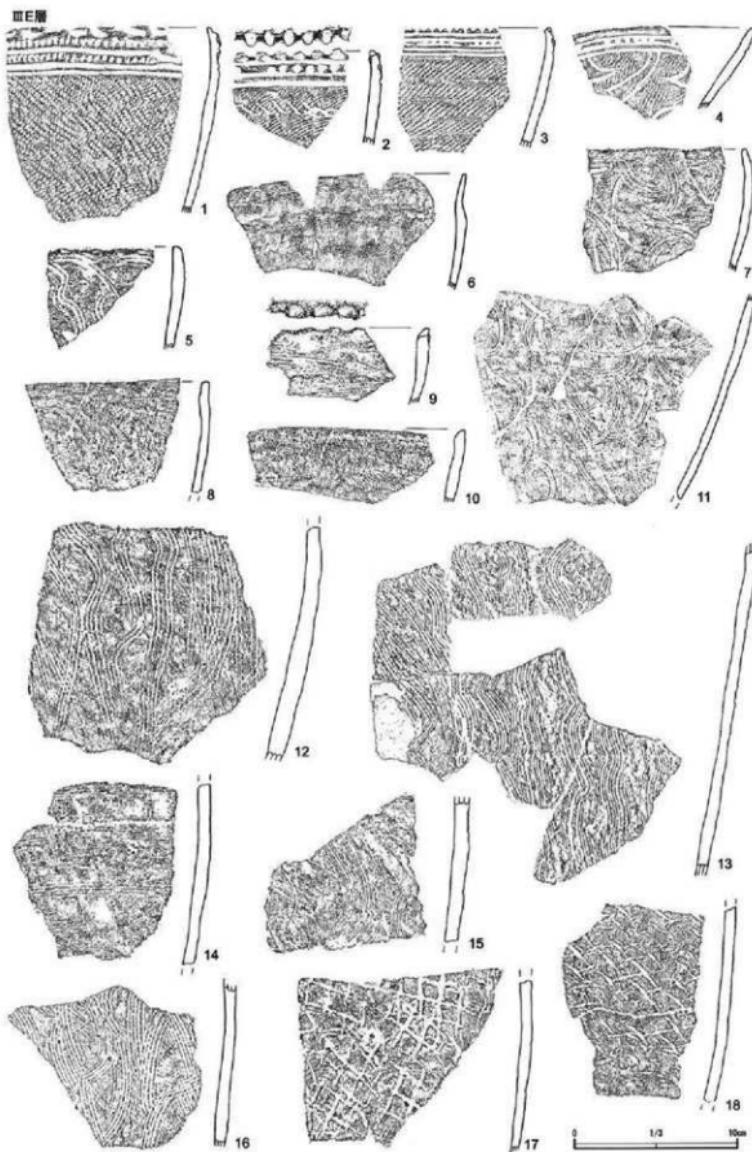


图26 IV区出土土器①

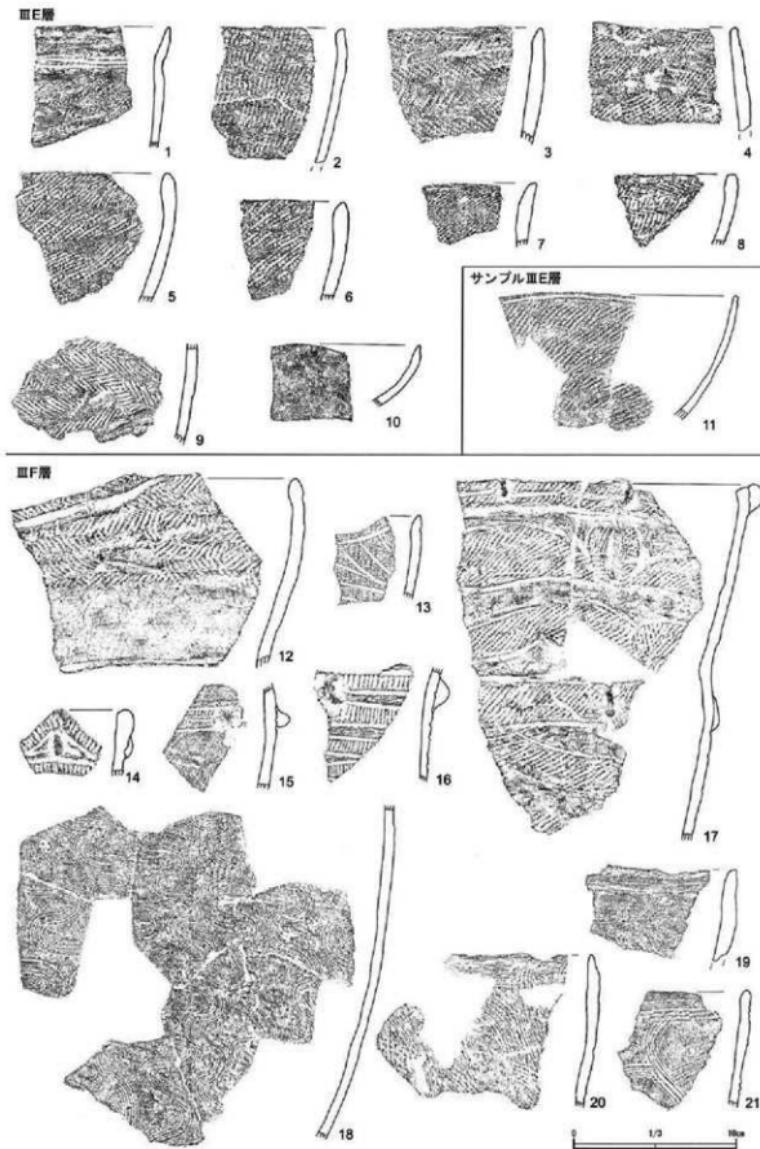


図27 IV区出土土器⑩

コラムサンプルⅢ E層（図27-11）

図27-11は口縁部に横位沈線が1条施され、その下位には斜繩文が施文されている。V-3類に分類される。

Ⅲ F層（図27-12～22、図28-1～7、図36-8～10）

Ⅲ E層下に堆積する層で、Ⅲ-2 b層の下層にあたる。

Ⅲ-3類（図27-12・13）

図27-12・13は口縁が波状を呈し、口縁の形状に沿って沈線が施されている。13は口縁部から胴部に向かい数条の沈線が施文されている。

Ⅲ-4類（図27-14～17）

図27-14～16は口縁部ならびに沈線区画内に刻みを加え、突起を貼付している。17は沈線区画内に繩文を充填し、突起を付している。

V-1類（図27-18～21、図28-1、図36-10）

図27-18は蛇行櫛描文、19～21は横位・蛇行櫛描文、図28-1は横位櫛描文が施されている。図36-10は平底の底部で、縦位櫛描文が認められる。

V-3類（図28-2～5）

2は突起が貼付されている。3・4は斜繩文、5は羽状繩文が施文されている。

V-4類（図28-6・7、図36-8・9）

図28-6・7は内外面にミガキが加えられている。図36-9は胴部ならびに底部にケズリが施されている。

コラムサンプルⅢ F層（図28-8～11）

図28-8は内外面に丁寧なミガキが加えられている。9は数条の弧状平行沈線が認められる。8・9はⅢ-3類に相当する。10は横位・縦位の櫛描文で方形を描出している。11は横位櫛描文が施文されている。これらはV-1類に分類される。

Ⅲ-2 a・2 b層（図28-12～21、図29、図36-11～15）

IV-2類（図28-12・13・16）

12は口縁部ならびに頸部に列点文が施され、13・16は結節繩文が加えられている。

IV-3類（図28-14・17・18、図36-11）

14・17・18は磨消繩文により雲形文が描出されている。図36-11はC字状沈線が配置された長円形区画・三角形状の区画により雲形文が描かれている。

IV群（図28-19）

図28-19は磨消繩文が施されている。

IV-6類（図28-20・21、図29-1・2）

図28-20は平行沈線間に刺突が加えられており、口縁部は小波状を呈する。21は2段にわたり平行沈線間に刺突が施され、口縁部内側には刻みが認められる。図29-1・2は小波状の口縁部で、数条の沈線が横走している。2は胴部に縦位の櫛描文が施文されている。

IV群（図28-15）

15は注口土器で、肩部には彫り込みにより突起列が巡っている。

V-1類（図29-3～6）

3～6は横位・蛇行櫛描文が施されている。3は外面に指頭圧痕が認められる。

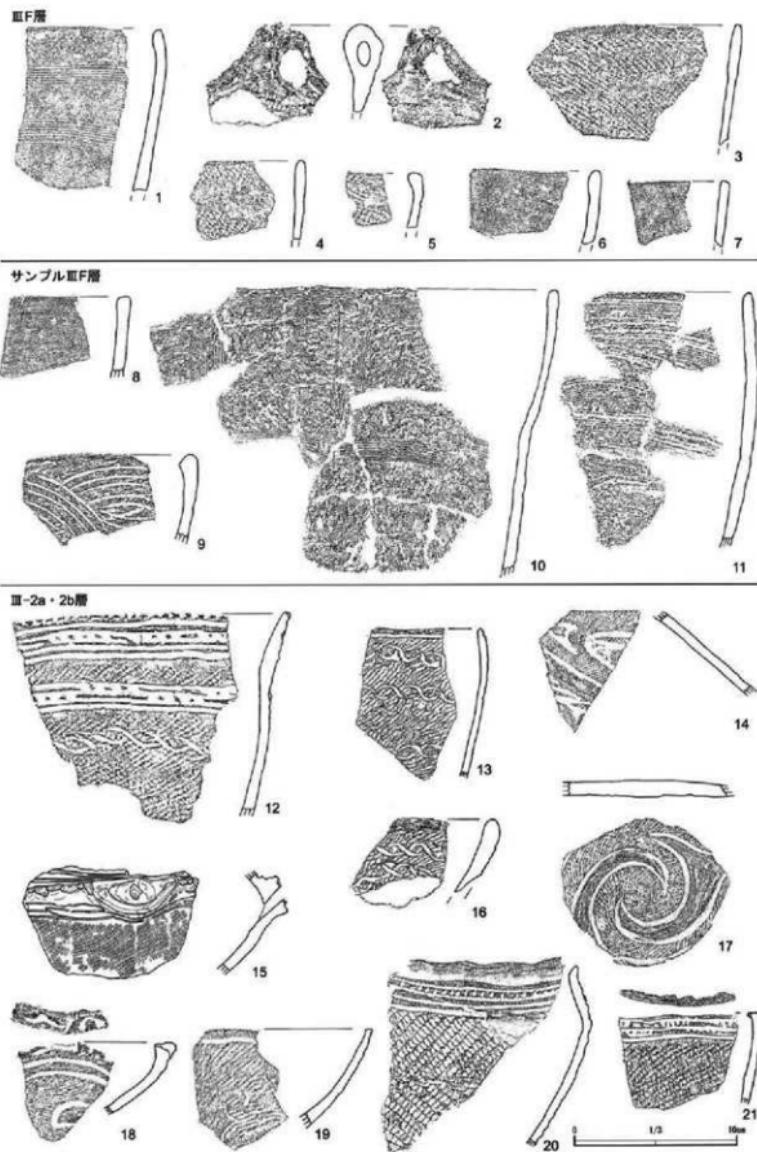


図28 IV区出土土器⑩

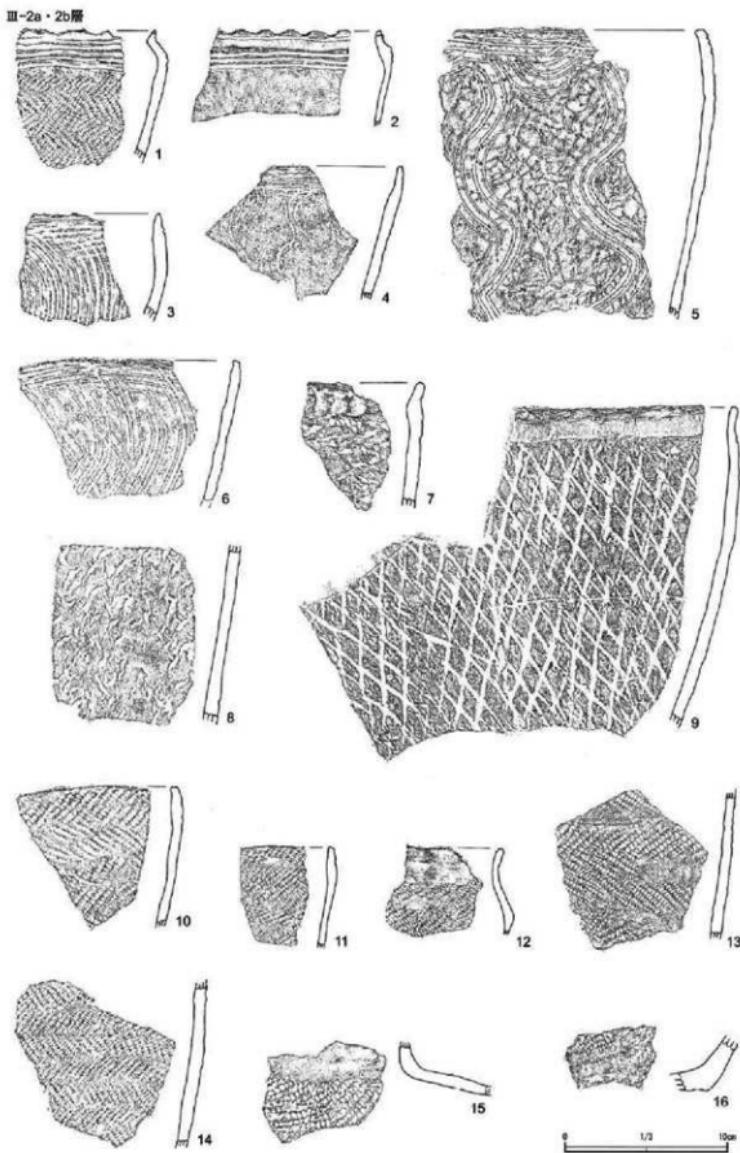


圖29 IV區出土土器②

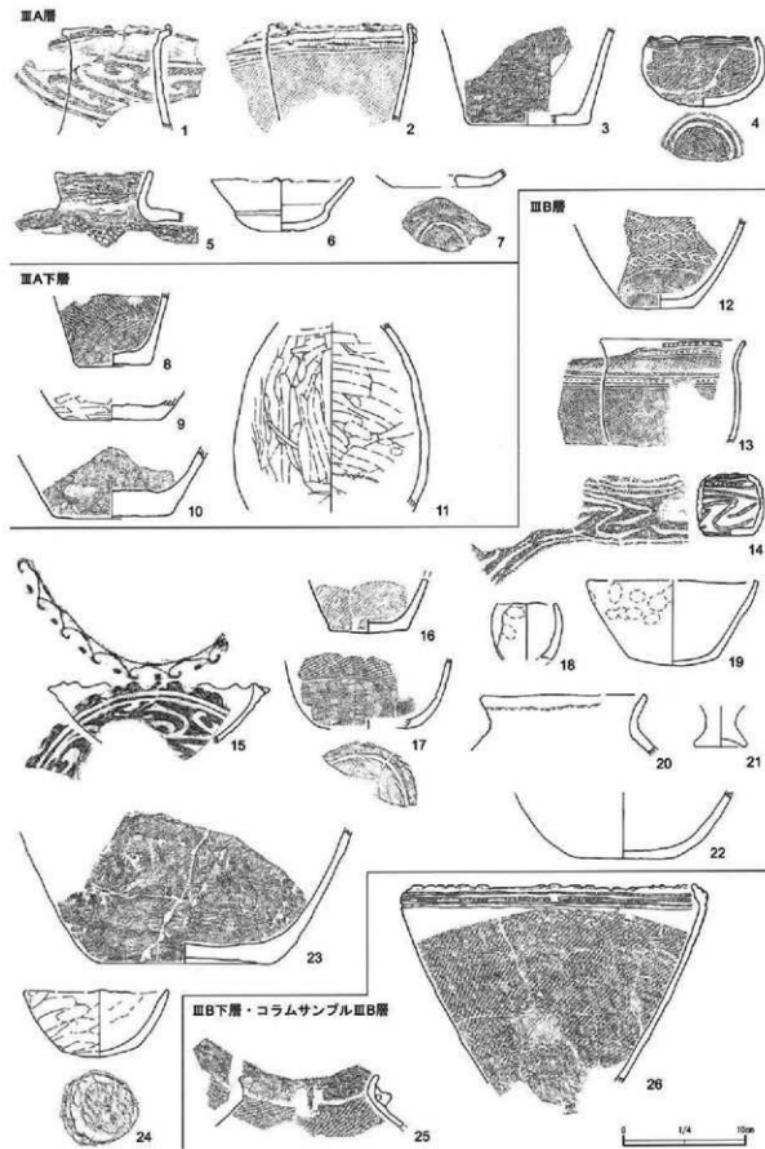


図30 IV区出土土器②

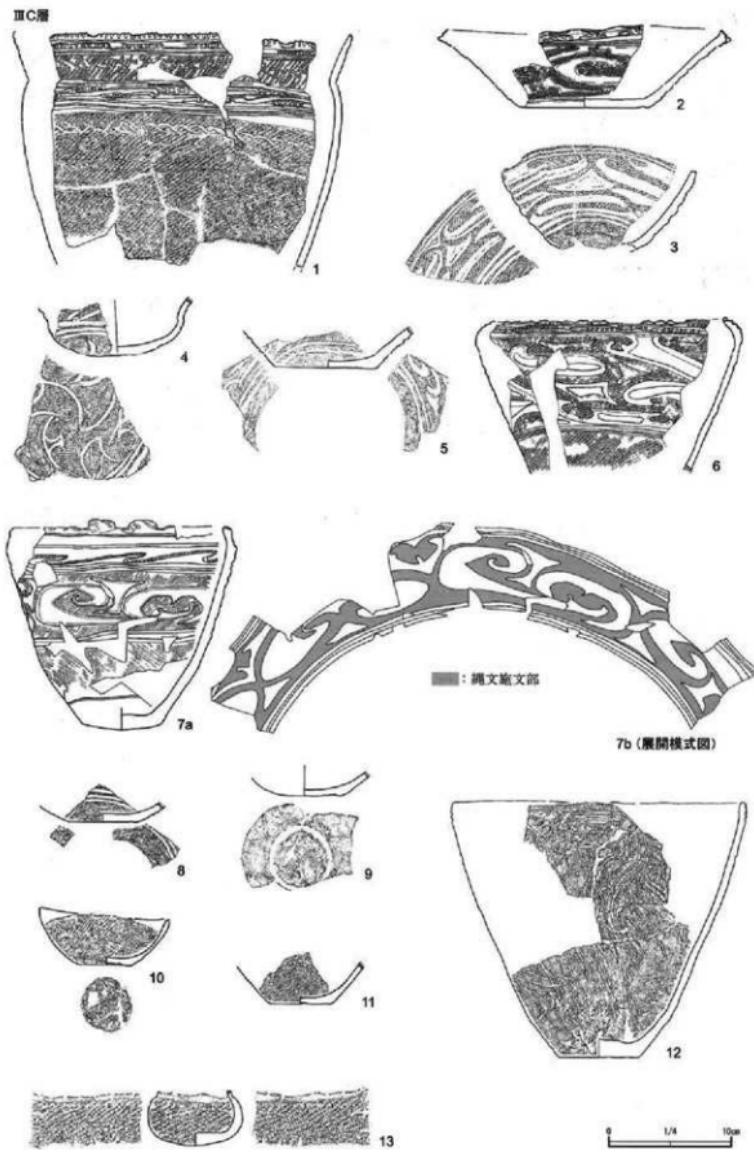


图31 IV区出土土器②

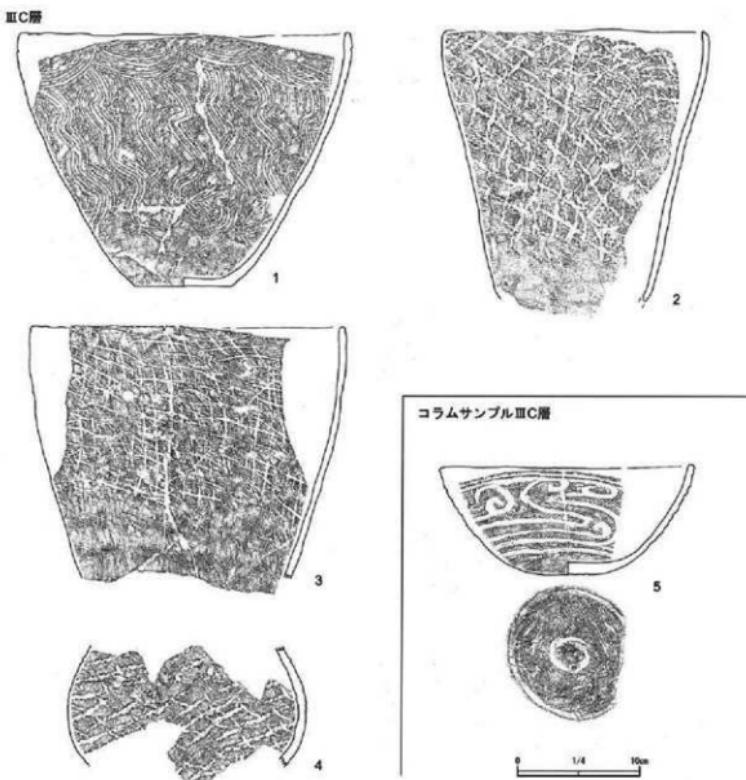


図32 IV区出土土器②

## V-2類 (図29-7~9)

7~9は網目状撚糸文が加えられている。7は口縁部に指頭圧痕を残している。9は口縁部にケズリを加えて段を作り出している。

## V-3類 (図29-10~16、図36-12~15)

図29-12は頸部の縄文を磨り消している。図36-13は口縁部が短く外反する短頸壺である。図29-15も口縁部が短く外反する短頸壺と考えられる。図36-14は底部にケズリを施している。

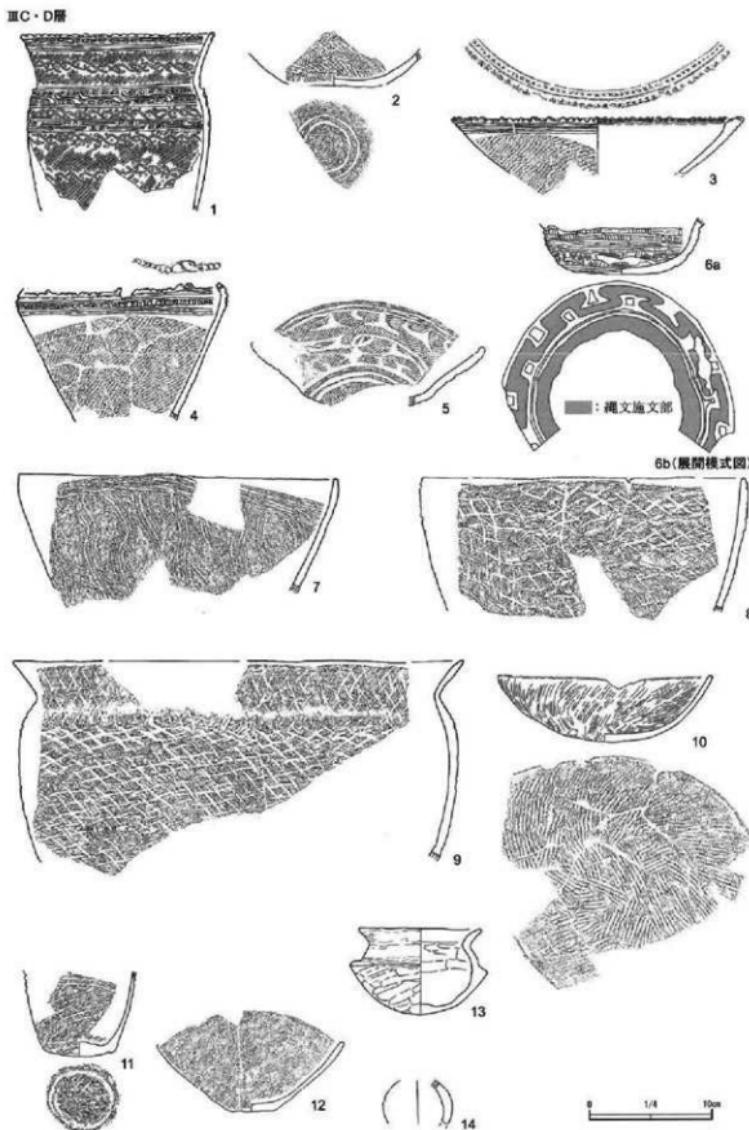


図33 IV区出土土器②

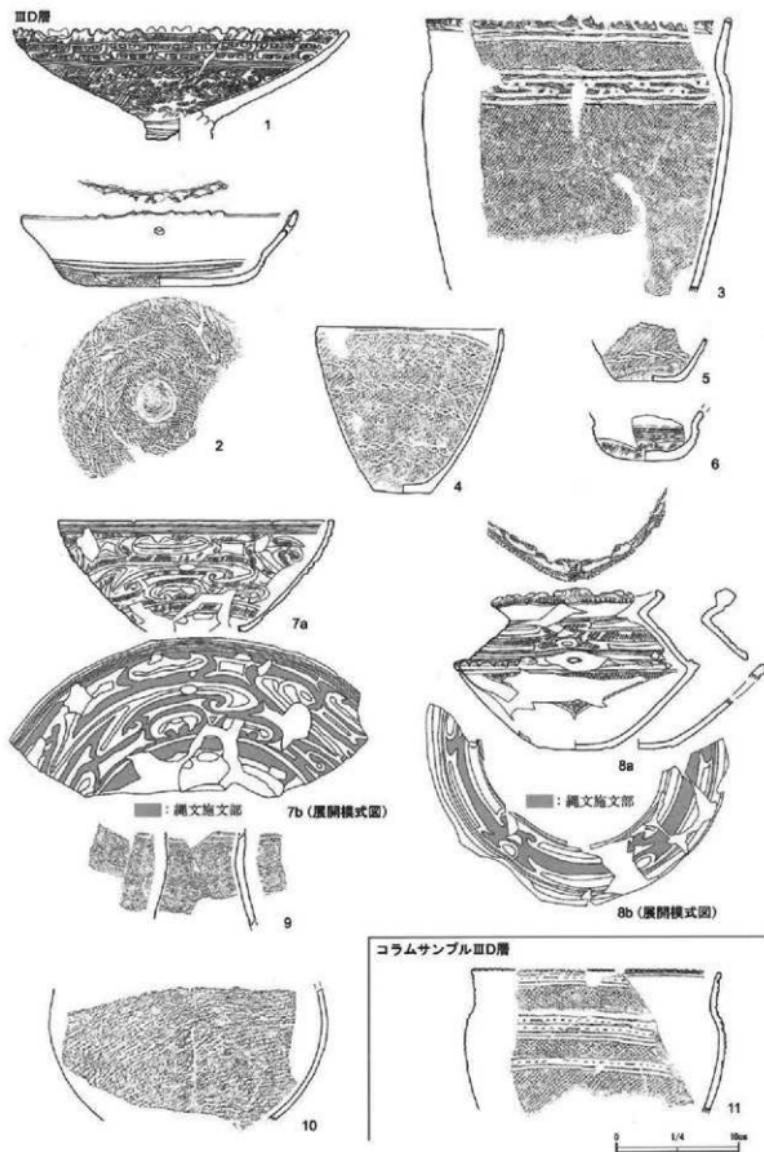


図34 IV区出土土器⑤

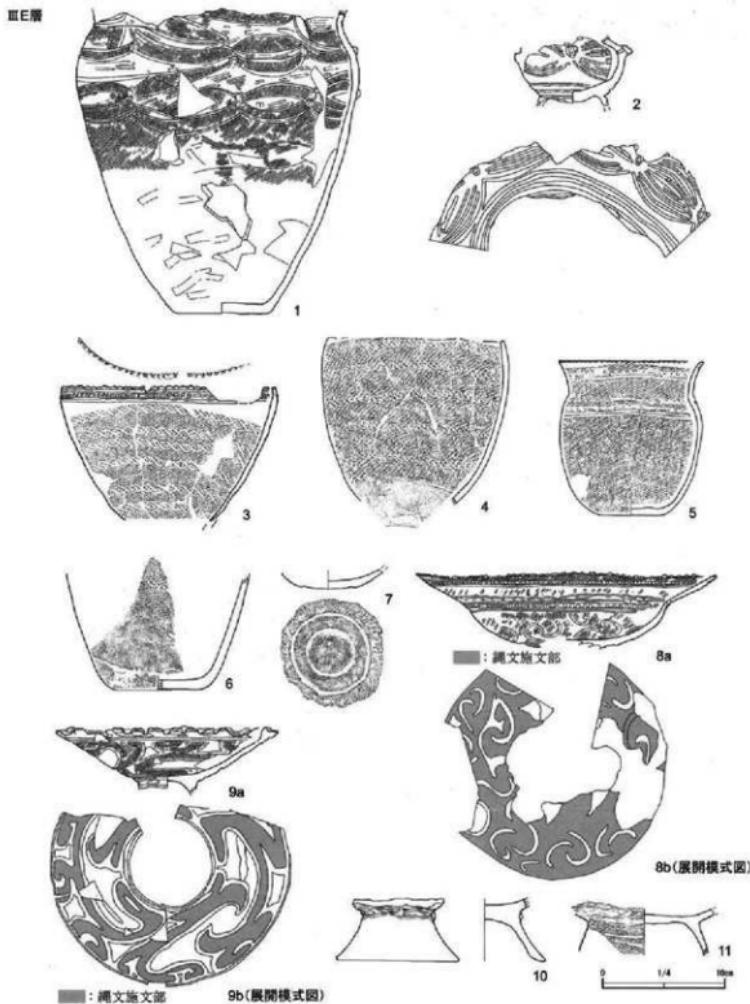


図35 IV区出土土器②

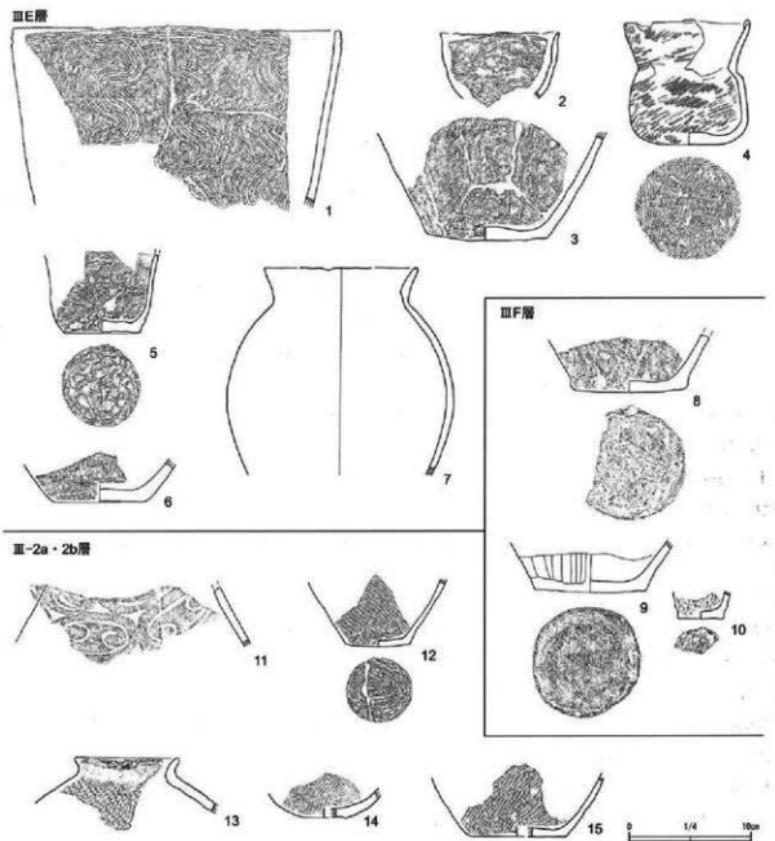


图36 IV区出土土器⑦

## 2. 東の谷

72・76T、1・3・4～6Gで確認された埋没谷で、大別III-1層（以下III-1層）、大別III-3a層（以下III-3a層）、大別III-3b層（以下III-3b層）が堆積している。

### 小泊貝層（72T・1・3・4～6G）

獸魚骨を含むIII-3a層が、混貝土層であるIII-1層の上位に堆積していることが考えられ、一連の堆積土の可能性があるため、III-1・3a層を合わせて小泊貝層と呼称している。III-1層は72T・1G・3Gで確認されており、約12m×10mの範囲で堆積している。III-3a層は、72T・1・3・4～6Gで確認されている。

#### 72T

III-1層・III-3a層・III-3b層がブロック状に堆積していることが確認されたため、各細別層をブロックと呼称し、番号を付したが、堆積の順序を示すものではない。また、2箇所に50cm×50cmのコラムサンプル（S1・S2）を設定し、S1は基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施し、S2はIII-1層のみのサンプリングに留めた。コラムサンプルではIII-1層に対応するサンプルをA、III-3b層に対応するサンプルをBとし、サンプル番号にそれぞれ付記した。

#### コラムサンプルS1（図37-1・2）

1は斜縄文が施されるV-3類で、2は沈線区画内に縄文を充填しているIII-3類である。

#### コラムサンプルS2（図37-3～6）

5は磨消縄文により雲形文が描出されており、IV-3類に相当する。3は口縁部が若干内湾する深鉢で、口縁部に刻み・横位沈線が巡り、その下位には櫛描文が施文されているV-1類である。4・6はV-4類である。4は頸部で括れ、口縁部が短く外反する小型の壺形土器で、胴部上半に最大径を持つ。外面にケズリが加えられている。6は内外面にミガキが施されている。

#### 土層・貝層ブロック（図37-7～24、図38-1～6、図40-1～8）

①(図37-7)：櫛描文が施文されているV-1類である。

②(図37-8・9)：8は沈線区画内に縄文ならびに刺突を施しており、III-4類と判断される。9は磨消縄文により雲形文が描出されている。IV-4類に分類される。

③(図37-10)：横位沈線・結節縄文が加えられているIV-2類である。

④(図37-11)：沈線区画内に刺突が施されており、III-4類と考えられる。

⑦(図37-12)：磨消縄文により雲形文が描出されているIV-3類である。

⑨(図37-13～24、図38-1、図40-1～6)：図37-13は結節縄文が施されており、IV-2類と判断される。図37-14・15は雲形文が描かれている。図40-1は口縁部が内湾する浅鉢で、口縁にはA突起が付され、刺突が巡る。胴部には磨消縄文で雲形文が描かれている。2は頸部から口縁部が強く屈曲する壺形土器で、肩部に磨消縄文で雲形文が描出されている。これらはIV-4類に相当する。図37-17は口唇部に沈線が巡り、口縁部には刺突・沈線が加えられており、IV-6類と考えられる。図37-24は蛇行櫛描文が施されているV-1類、図38-1は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施文されているV-2類である。図37-16・18～21・23、図40-3～6はV-3類に分類される。図40-3は口縁部が直立する短頸壺である。6は口縁部が若干内湾する器形で、LR縄文施文後に撚糸文が加えられている。図37-22は外面に輪積痕を残すV-4類である。

⑩(図38-2)：沈線区画内に縄文を充填している。III-3類と考えられる。

⑪(図38-3・4)：3は羊齒状文が施文されているIV-2類、4は沈線内に刺突を施しているIV

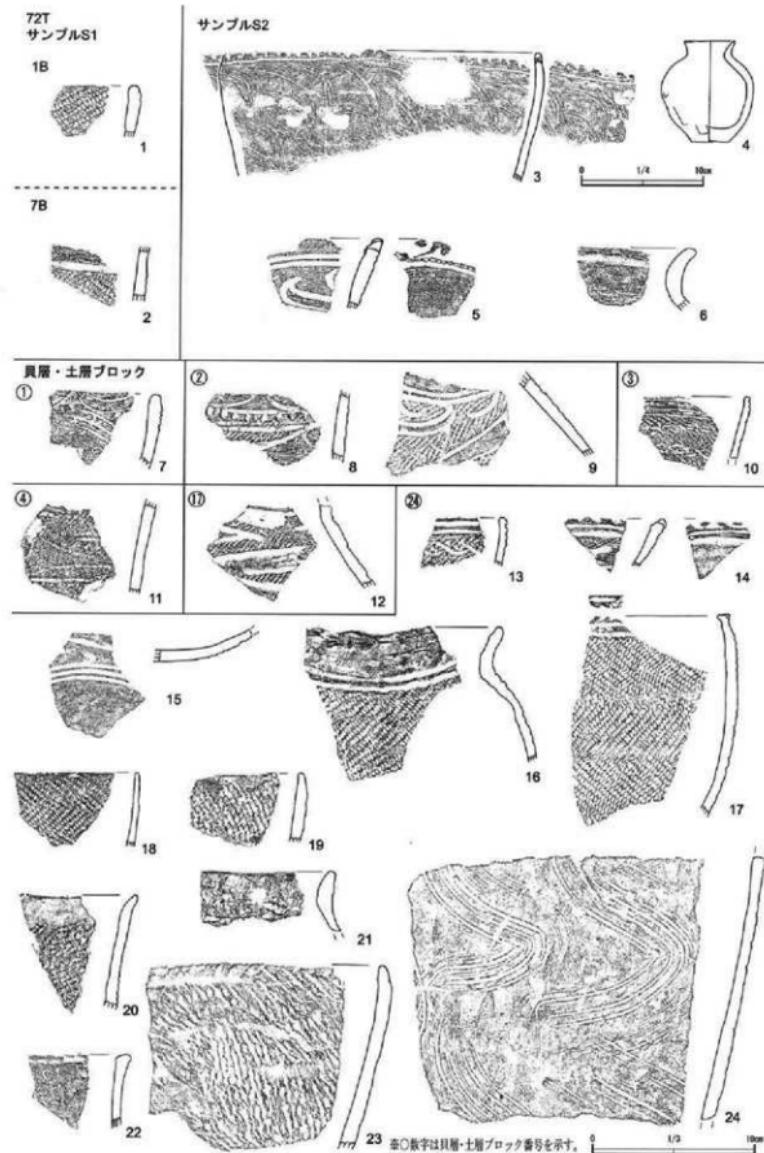


図37 7T出土土器①

— 6 類である。

㊯(図38-5・6、図40-7・8) : 図40-7は頸部で括れ、口縁部が短く外反する器形で、口縁部に刻みが施されている。3条の沈線が巡り、口縁部内側には1条の横位沈線が走る。IV-6類に分類される。図38-6は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施文されているV-2類、図38-5は結節羽状繩文、図40-8は羽状繩文が施されているV-3類である。

Ⅲ-1・3a・3b層 (図38-7~24、図39-1~9、図40-9~12)

Ⅲ群 (図38-7)

7は肥厚する口縁部に4条の弧状沈線が走っている。

IV-2類 (図38-9~11)

9・10は結節繩文が加えられている。11は列点文が施され、胴部に磨消繩文で文様が描出されている。

IV-4類 (図38-16)

16は胴部に直線的な磨消繩文、口唇部に弧状の装飾が描出されている。

IV-6類 (図38-12~15、図39-1)

図38-12は口縁部が強く内外に屈曲する器形で、口縁部では刻みならびに沈線間に刺突を加えている。13は口縁部に刺突が施され、その下位では沈線間に刺突を施している。14・15は口唇部に沈線が巡り、口縁部ならびに口縁直下の沈線内に刺突が加えられている。14は口縁部に突起が貼付されている。図39-1は口縁部が小波状を呈し、4条の沈線が横走する。

V-1類 (図38-18~21)

18~21は横位・弧状・蛇行櫛描文が施される。

V-2類 (図38-22~24)

22~24は網目状撚糸文が加えられている。

V-3類 (図38-8、図39-1~6、図40-9)

斜繩文・羽状繩文が施されているものが多く見られる。図38-8は結節羽状繩文が施文されている。図40-9は平底の底部で、斜繩文が加えられている。

V-4類 (図39-7~9、図40-10~12)

図39-9は頸部に横位のケズリが施されている。図40-10は丸底を呈する底部から直線的に立ち上がる器形で、口縁部外面・底部に沈線が巡る。11は台付土器の台部で、1条の沈線が横走する。12は口縁が内湾気味に立ち上がる小型の土器で、内面にミガキが施されている。

Ⅲ-1・3a・3b層上面 (図39-10~27、図41、図42)

Ⅲ-3類 (図39-10)

10は口縁部に2段の刻みが施され、胴部には弧状沈線区画内に繩文が充填されている。

IV-2類 (図39-11~16、図42-11)

図39-11・14は羊歯状文、13は列点文が施文されている。12・15・16は結節繩文が加えられている。図42-11は口縁部が内側に短く屈曲する器形で、口縁部は小波状を呈する。頸部には羊歯状文ならびにB突起が施されている。

IV-3類 (図39-17~19、図42-12)

図39-17~19は磨消繩文・彫去により雲形文が描出されている。18は口唇部に浮彫状の装飾が施されている。図42-12は内湾気味に立ち上がる浅鉢形土器で、口縁部の沈線内に連続刺突が巡り、

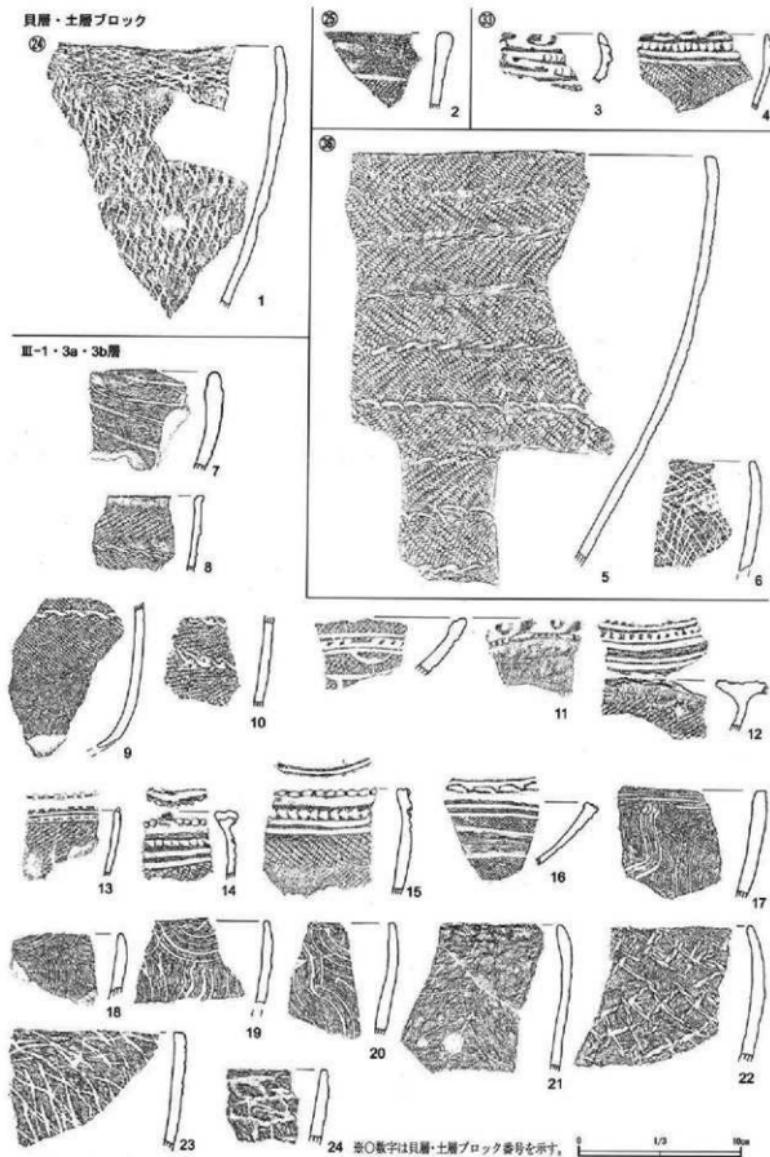


図38 72T出土土器②

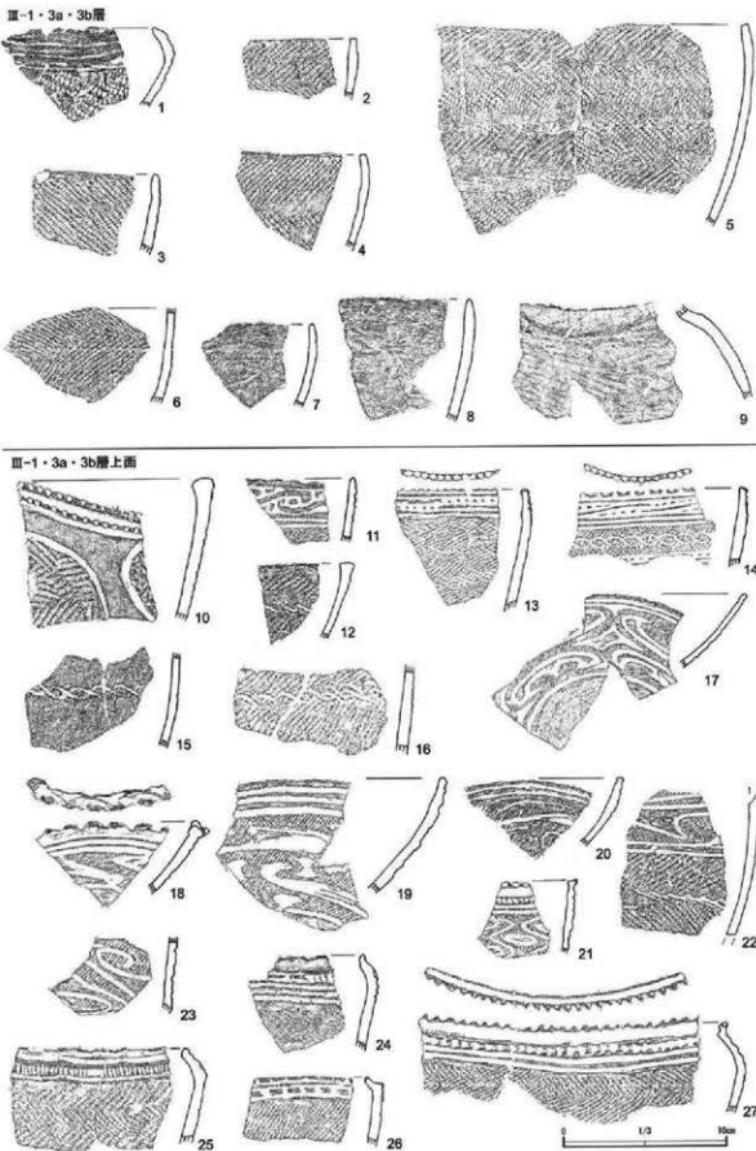


圖39 72T出土土器③

## 貝層・土層ブロック

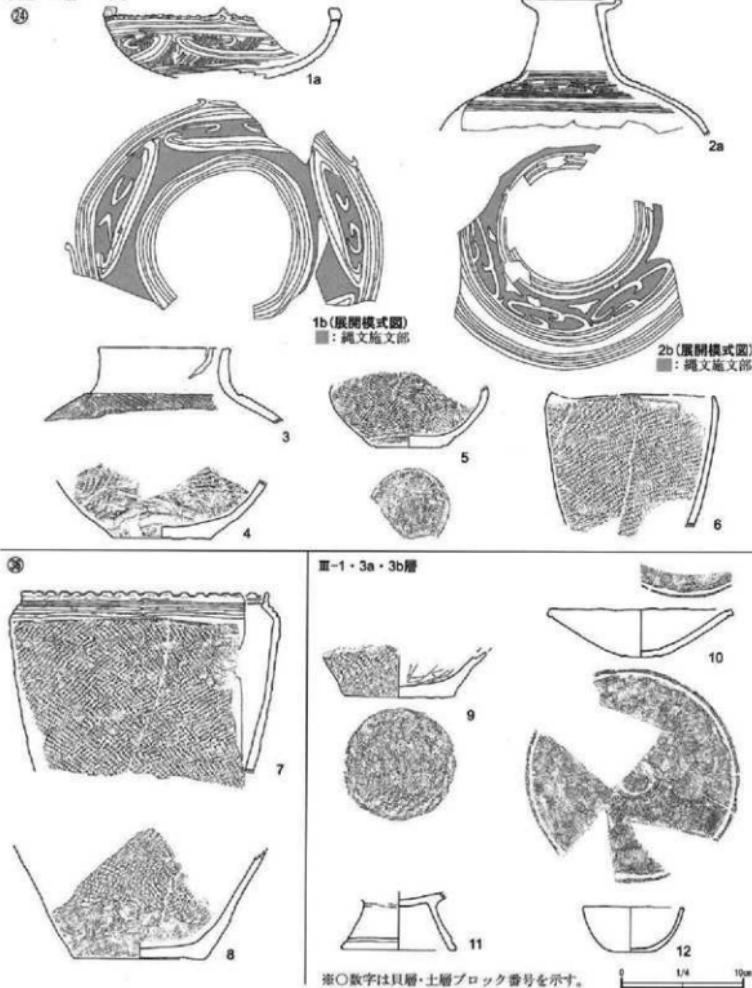


図40 72T出土土器④

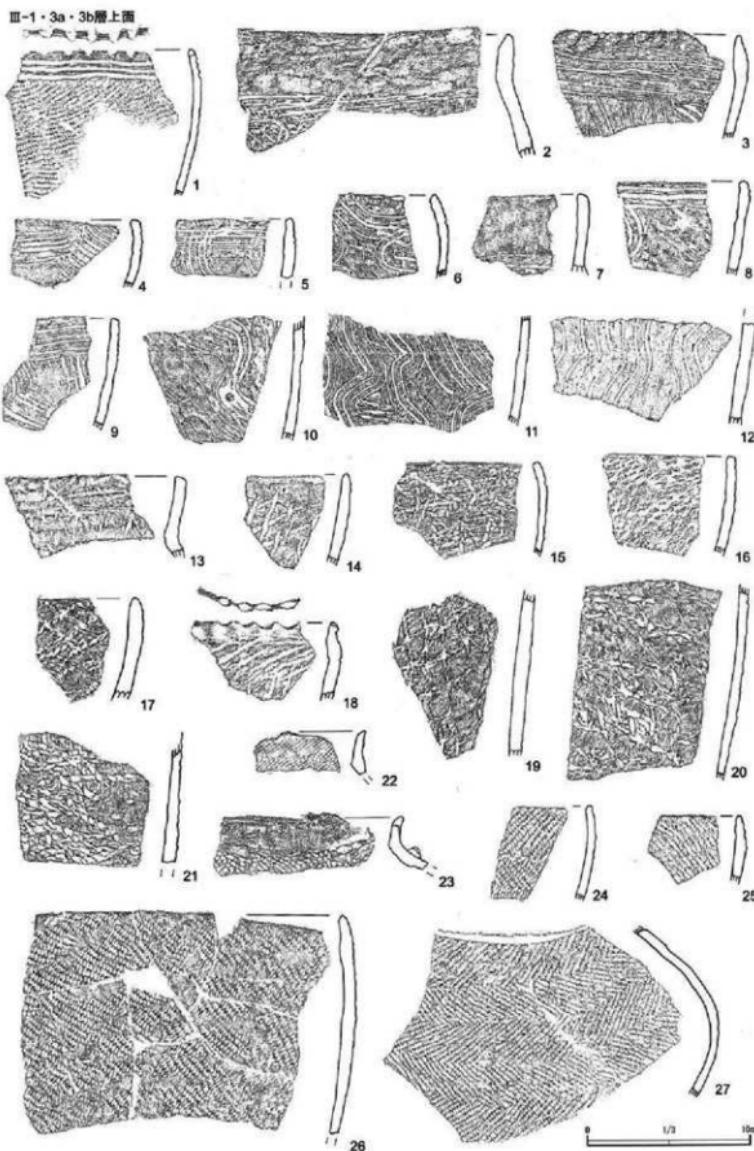


圖41 72T出土土器⑤

III-1・3a・3b層上面

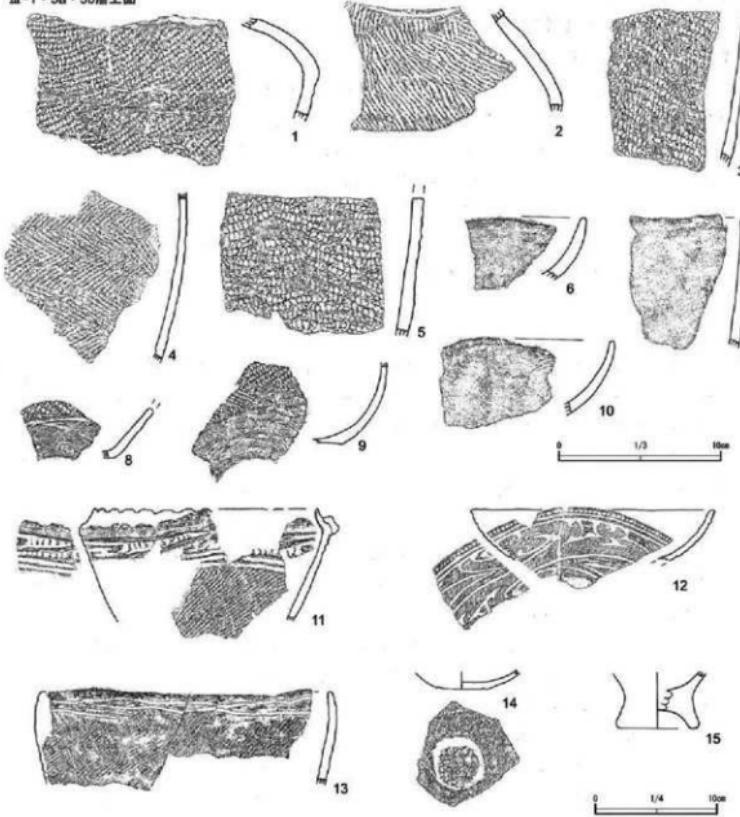


図42 72T出土土器⑥

胴部には磨消繩文により雲形文が描かれている。

#### IV-4類 (図39-20~23)

図39-20は沈線により文様が描かれている。21は口唇部に沈線が巡り、口縁部ならびに頸部の沈線内に刺突が加えられ、胴部には継位の山形状沈線間に楕円状沈線区画を配置している。22・23は磨消繩文により雲形文が描かれている。

#### IV-6類 (図39-24~27、図41-1、図42-13)

図39-24・25・27は沈線内に刺突を施しており、27は口縁部内側には沈線が巡っている。26は沈線間に刺突を加えている。図41-1は口縁部に刻みが施され、3条の横位沈線が施文されている。図42-13は口縁部が若干内湾する器形で、2条の口縁部に沈線が横走している。

V-1類 (図41-2~12)

2~12は横位・弧状・蛇行櫛描文が施されている。

V-2類 (図41-13~21)

13~21は網目状撚糸文が施文されている。18は口縁部に刺突が加えられている。

V-3類 (図41-22~27、図42-1~5・8・9)

斜繩文・羽状繩文が施されているものが多く見られる。図41-22は口縁部に突起が付されている。23は短頸壺の口縁部と考えられ、口縁部ならびに肩部に突起が貼付されている。

V-4類 (図42-6・7・10・14・15)

6は内外面に、7は内面にミガキが施されている。14は底部に沈線が巡り、内外面にミガキが加えられている。15は台付土器の台部である。

## 1G

III-1層・III-3a層の堆積が確認された。III-1層に1箇所、III-3a層に1箇所、50cm×50cmのコラムサンプル(S1・S2)を設定し、基盤層(第四紀堆積層)まで調査を実施した。コラムサンプルではIII-1層に対応するサンプルをA、III-3a・3b層に対応するサンプルをBとし、サンブル番号にそれぞれ付記した。

コラムサンプルS1 (図43-1~16)

1・9・11・14はIII-3類である。1は口縁部に刻み、沈線区画内に充填繩文を施している。9は沈線区画内に繩文を充填している。11は口縁部に刻みを加えている。14は口縁部が波状を呈し、横位沈線が1条巡っている。2・3・10はIII-4類に分類される。2・3は沈線区画内に刻みが施され、2は突起が貼付されている。10は横位櫛描文が加えられ、口縁部・胴部に突起が付されている。4・6・7・12・15は横位・縦位の櫛描文が施文されるV-1類、8は斜繩文が施されているV-3類である。5・13・16はV-4類で、16は内外面にミガキが加えられている。

コラムサンプルS2 (図43-17~23)

20は平行沈線区画内に繩文が充填されているIII-4類である。17は頸部で括れ、口縁部が外反する器形である。口唇部に連続刺突、口縁部ならびに頸部に横位沈線が巡り、頸部から胴部には結節繩文が施文されている。17はIV-2類に相当する。18は横位櫛描文、19は蛇行櫛描文が施されており、V-1類に分類される。23はV-2類で、網目状撚糸文が施文されている。21・22は羽状繩文が加えられているV-3類である。

III-1・3a層 (図44-1~11)

1はIII-4類で、刻みを充填した入組文が施文されている。6は磨消繩文により雲形文が描出されているIV-3類である。7には弧状沈線が加えられており、IV-4類に相当する。2~5は列点状の文様が認められ、2・3・5は口縁部に刻み・刺突が施されている。これらはIV-6類に分類される。8は櫛描文が施文されているV-1類、9は網目状撚糸文が施文されているV-2類、10は斜繩文が加えられているV-3類、11は底部に沈線が巡るV-4類である。

III-1・3a層上面 (図44-12~30)

12はクランク状の沈線が施文され、橋状把手が貼付されている。13は羊歯状文、14・16は結節繩文が施文されている。これらはIV-2類に相当する。20は磨消繩文で雲形文が描かれているIV-3類で、17は平行沈線間に刺突が施され、その下位に磨消繩文が施文されているIV-4類である。15・18・19

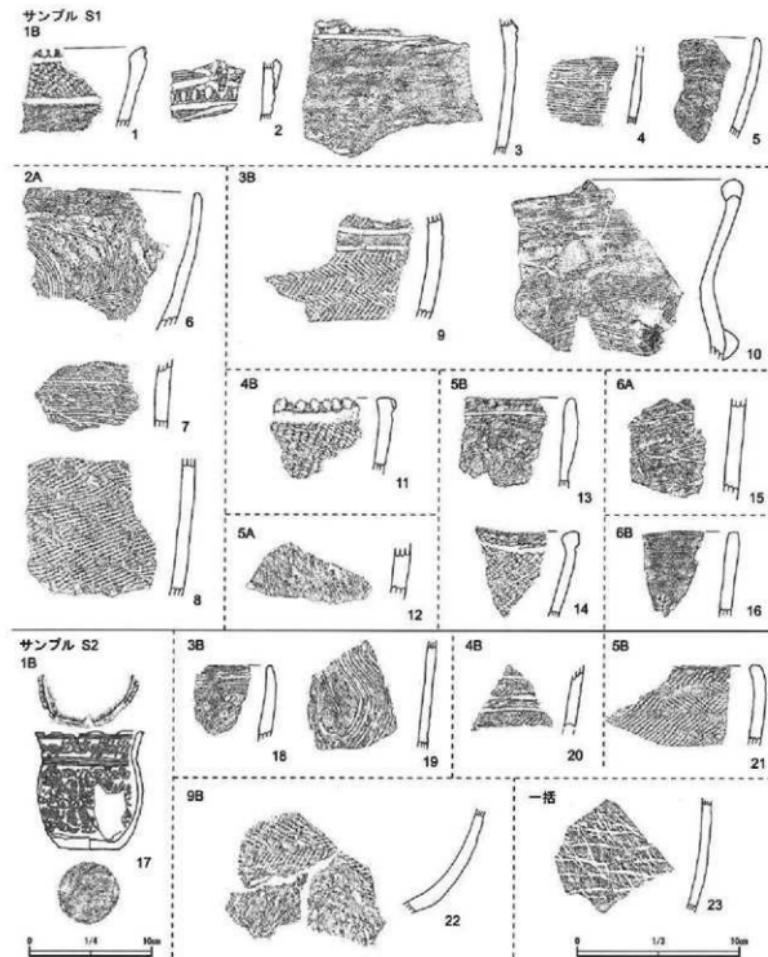


図43 1G出土土器①

は口縁部に刺突が巡り、その下位には列点状の文様が加えられており、IV-6類と判断される。21～23は横位・弧状・蛇行櫛描文が施文されているV-1類である。24～26は網目状撚糸文が加えられており、V-2類に分類される。27～30は斜綱文が施文されるV-3類である。29は台付土器の台部で、1条の沈線が横走している。30は胴部が直線的に立ち上がり、胴部中程で外反して口縁に至る器形で、底部は丸底気味である。口縁部内側および頸部に横位沈線が巡る。

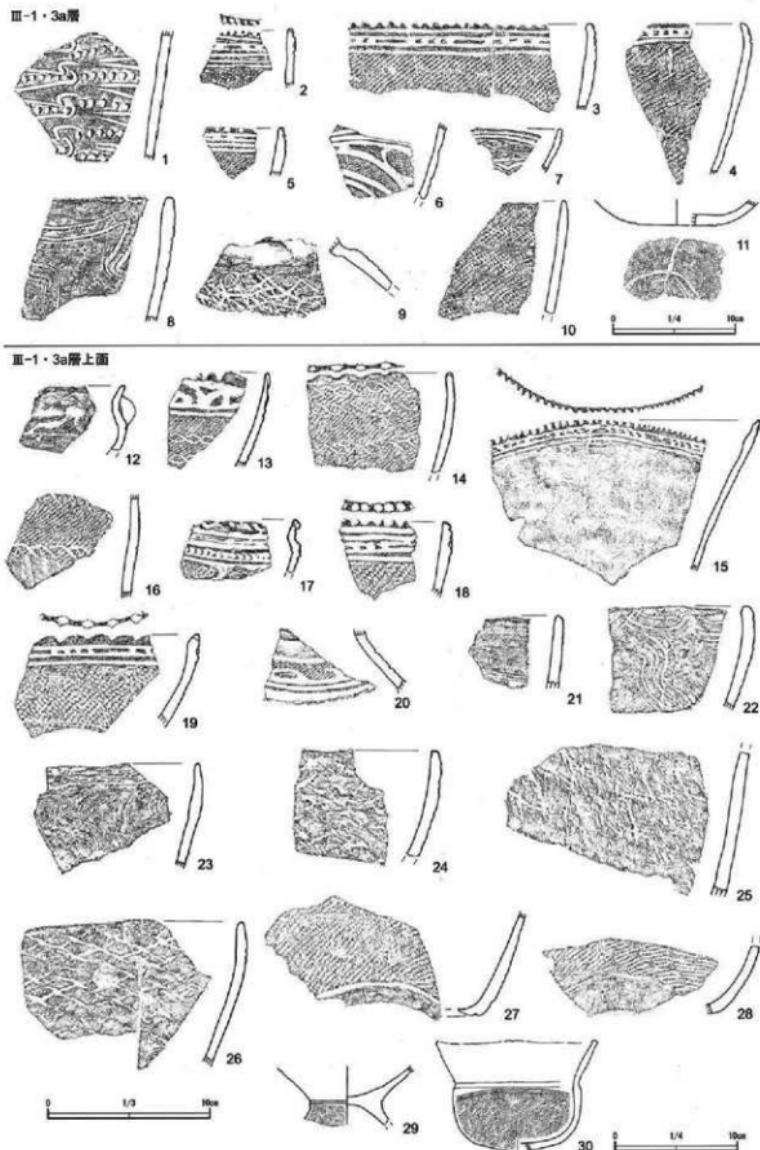


図44 1G出土土器②

## 3G

III-1層・III-3a層の堆積が確認された。III-1層に1箇所、50cm×50cmのコラムサンプル(S1)を設定し、基盤層(第四紀堆積層)まで調査を実施した。コラムサンプルではIII-1層に対応するサンプルをA、III-3b層に対応するサンプルをBとし、サンプル番号にそれぞれ付記した。

## コラムサンプルS1(図45)

15は2段の刻みが施されているIII-3類である。1は底部から直線的に立ち上がる浅鉢形土器で、口縁部にB突起が巡り、その下位には列点文が施文されている。胸部には磨消繩文で文様が描出されている。2は口縁部が内湾する鉢形土器で、口縁部に平行沈線、胸部に結節繩文が施されている。5は結節繩文が加えられる。7は口縁部に細かい刻みが巡り、口縁部・頸部・胸部に列点文が施文され

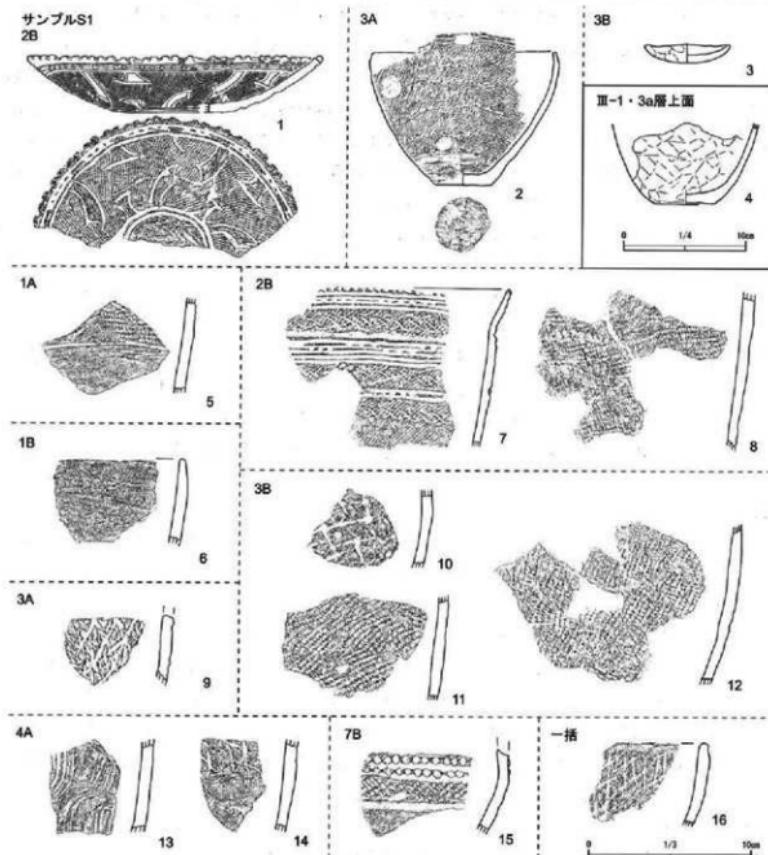


図45 3G出土土器

ている。これらはIV-2類に相当する。1はIV-3類に位置付けられる可能性もある。13は蛇行櫛描文が施されているV-1類、9・10・14・16は網目状撚糸文が加えられているV-2類である。8・11・12は斜縄文が施されているV-3類である。3・4・6はV-4類で、3は外面に指頭圧痕を残す手握ね土器である。4は外面にケズリ、6は内外面にミガキが施されている。

#### 4 G

III-3a層の堆積が確認された。コラムサンプルの設定などは行っておらず、調査区内を5cm前後掘り下る程度の調査しか実施していない。

##### III-3a層（図46、図47-1～10）

図46-5～8は沈線・磨消縄文でモチーフを描出しており、7には口縁部に橋状把手が付されている。10は口縁部が波状を呈しており、口縁部内側には口縁部の形状に沿って沈線が施文されている。これらはIV-4類と判断される。11は5条の幅広い平行沈線・突起が加えられている。口縁部内側には1条の沈線が横走しており、IV-5類に分類される。9は口唇部には1条の沈線が巡り、口縁部に刻みおよび沈線が施されており、IV-6類と考えられる。12～14は縦位櫛描文が施されているV-1類である。15～22はV-2類で、15は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が加えられている。20・21は口縁部に横位、胴部に縦位撚糸文が施されている。図46-1・3・4、図47-1～10はV-3類に分類される。図46-3・4は結節羽状縄文が認められる。図47-1・5は折返口縁で、5は口縁部に指頭圧痕を残す。4は口縁部に刺突、10は縦位の結節縄文が施文されている。図46-2はV-4類で、外面にミガキが加えられている。

##### III-3a層上面（図47-11～17）

11は弧状沈線、12は三角形状区画の磨消縄文により文様が描出されている。これらはIV-4類に相当する。14は横位・蛇行櫛描文が施されているV-1類である。16・17は網目状撚糸文が施文されているV-2類で、16は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施されている。13は斜縄文が加えられているV-3類で、折返口縁である。15は折返口縁で、その下位に沈線が巡るV-4類である。

#### 5 G

III-3a層の堆積が確認された。コラムサンプルの設定などは行っておらず、調査区内を5cm前後掘り下る程度の調査しか実施していない。

##### III-3a層（図48-1～25）

1は羊歯状文ならびに結節縄文、2は結節縄文が施文されているIV-2類である。3・4は膨去・磨消縄文で雲形文が描出され、3は口唇部には浮彫状の装飾が施されている。3・4はIV-3類と考えられる。5はメガネ状付帯が貼付され、その下位には弧状沈線が加えられている。25は内側に屈曲した後に口縁部が短く外反する浅鉢で、口縁部にはメガネ状付帯が付され、胴部には磨消縄文で雲形文が描出されている。これらはIV-4類に相当する。6は突起貼付後に平行沈線を施しているIV-5類である。8・10は口縁部に刺突が巡り、8は平行沈線間に刺突が加えられ、10は平行沈線が施されている。9は平行沈線が横位に走る。8～10はV-6類である。7は磨消縄文・平行沈線が施されているIV群である。13は櫛描文が施文されているV-1類である。14～19・23・24はV-2類に分類される。14～18は網目状撚糸文が施文されている。14・15は折返口縁で、15は口縁部に斜縄文が施された後にケズリが加えられている。16は口縁部に横位のケズリを施した後に指で押さえている。

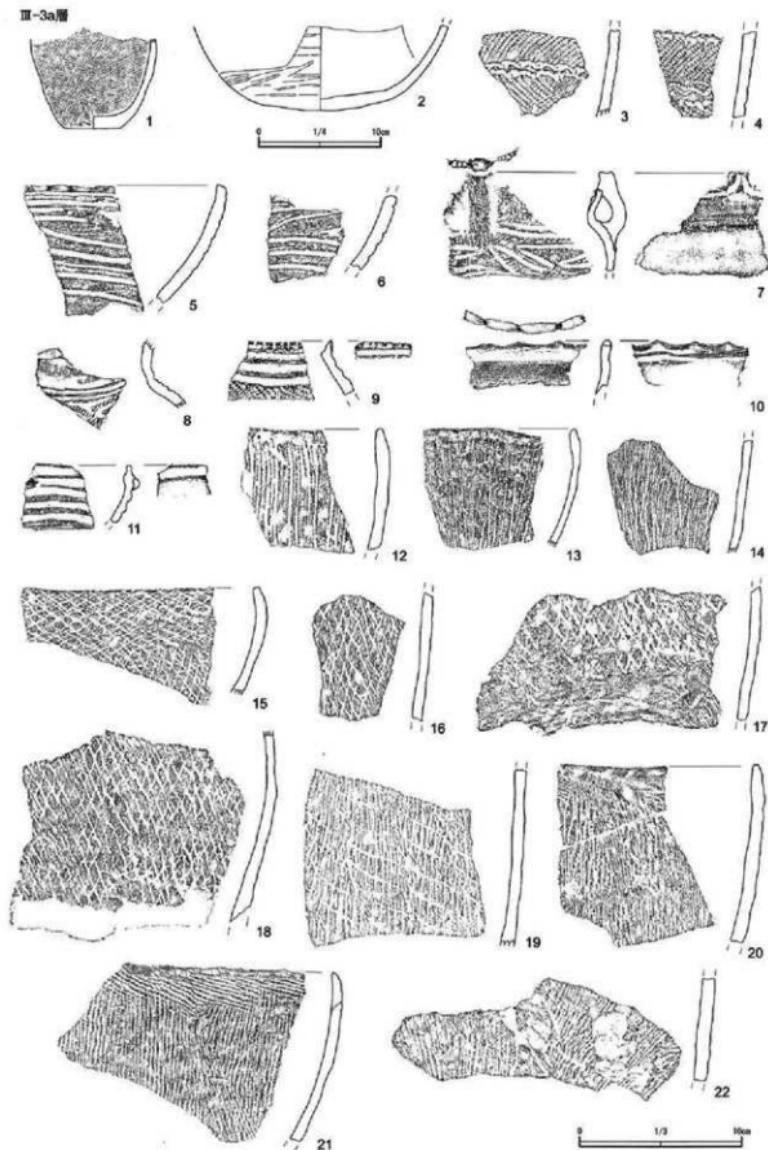


図46 4G出土土器①

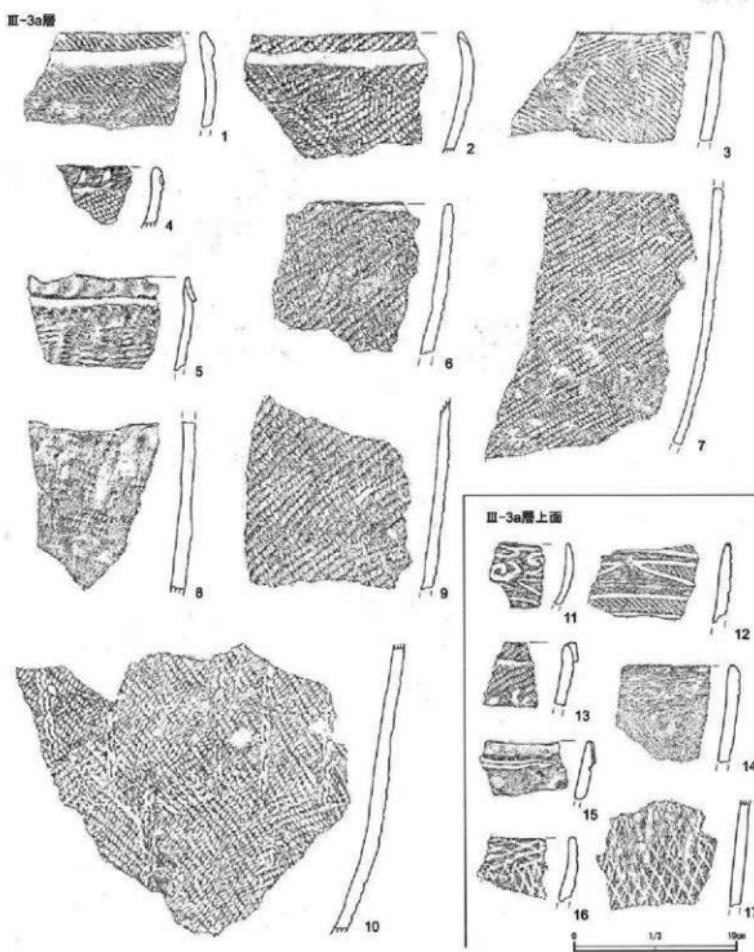


図47 4G出土土器②

17は口縁部に横位、胴部に縱位の網目状撚糸文が施されている。19は口縁部に突起が貼付され、横位撚糸文が加えられている。23・24は縦位撚糸文が施文されている。11・12・20・21は網文が施されているV-3類、22は無文でV-4類に分類される。

### III-3 a層上面 (図48-26~28)

26は横位沈線・山形状沈線が加えられており、IV-4類に相当する。27は縦位撚糸文が施され、28は口縁部に横位、胴部には縦位の網目状撚糸文が施されている。これらはV-2類である。

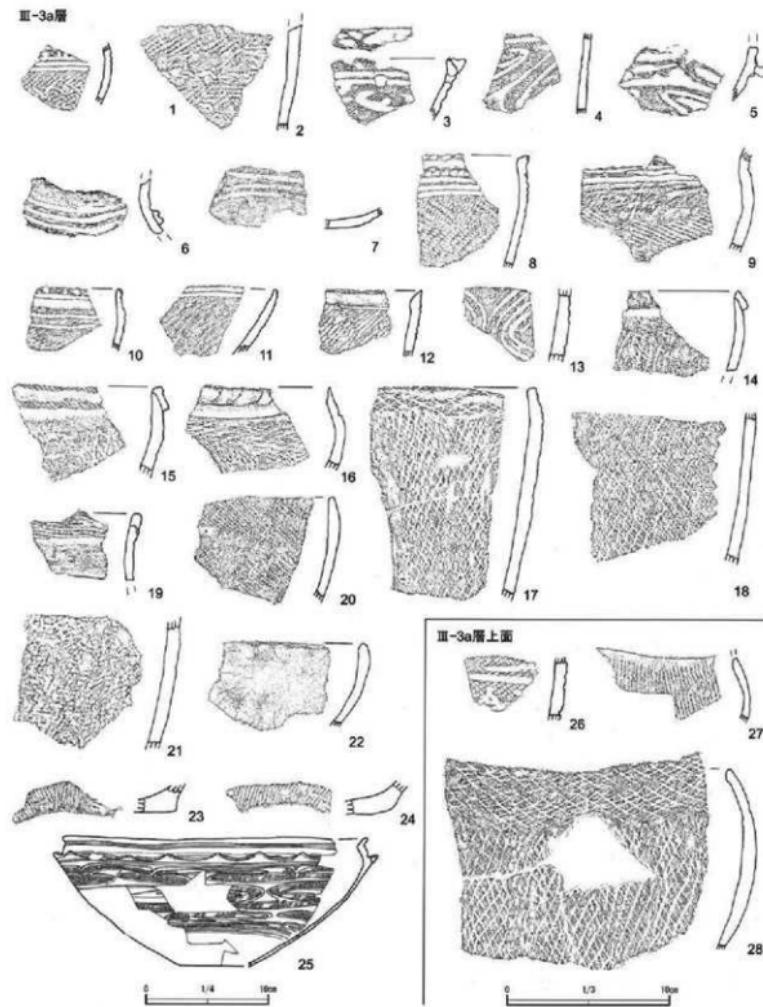


図48 5G出土土器

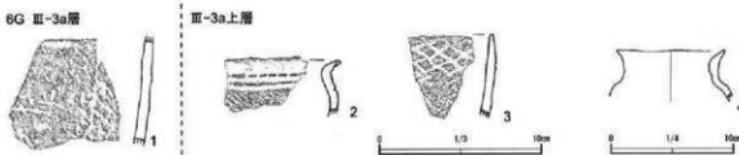


図49 6G出土土器

## 6 G

III-3 a 層の堆積が確認された。コラムサンプルの設定などは行っておらず、III-3 a 層の検出面で調査を留めた。

## III-3 a 層（図49-1）

1は網目状撚糸文が施されるV-2類である。

## III-3 a 層上面（図49-2～4）

2は小波状を呈する口縁部で、沈線間に刺突を施しているIV-6類である。3は網目状撚糸文が加えられており、V-2類に分類される。4は口縁が外反する無文の短頭壺で、V-4類である。

## 76 T

トレンチの北側で、III-1・III-3 a 層下に堆積するIII-3 b 層が確認された。平面観察から、III-3 b 層は谷部中央に向かって壅む自然堆積ではなく、層位がブロック状に分かれていることが認められた。III-3 b 層中に2m×3mのテストピットを設定し、層位的に調査を実施した。断面観察からもレンズ状堆積を示す自然堆積ではないことが認められ、整地あるいは遺構の構築による堆積と判断した。このため、遺構を破壊する恐れがあることから、約20cmまでの調査に留めた。

## テストピットIII-3 b 上層（図50、図51-1～5・26・27）

図50-1・2は羽状縄文が施され、胎土に纖維を含んでいる。I-1類に分類される。図50-3～9・12～17はIII-3類に相当する。3～7は口縁部に刻み、12は胴部に2段の刻みが施されている。8は無文の波状口縁で、内面にミガキが加えられている。9、16～17は沈線区画内に充填縄文を施している。13～15は横位平行沈線・縦位蛇行沈線が施文されている。図50-10・11・18～21、図51-26・27はIII-4類である。図50-10・12・18～21は沈線区画内に充填縄文が施されている。19は口縁部に縦割突起が付され、20は口縁部に刻みが加えられている。図51-26は肩が張る壺形土器で、2条一対の弧状沈線が施されている。図51-27は口縁部が内傾する壺形土器で、弧状沈線区画内に縄文が充填されている。図50-22～28は横位・縦位櫛描文が施文されているV-1類、図50-29～31、図51-1～5は縄文が加えられているV-3類である。

## テストピットIII-3 b 下層（図51-6～9・28）

図51-6・8はIII-3類に相当する。6は扇状の突起である。8は刻み・沈線区画内に充填縄文が施されている。7・9・28は縄文が施されているV-3類である。

## テストピットIII-3 b 層（図51-10～25）

図51-11～13・17～19はIII-3類に分類される。11・18は刻みならびに沈線区画内に充填縄文を施している。12・17は2段の刻みが加えられている。13・15は肥厚する無文の口縁部で、内外面にミガキを施している。19は横位平行沈線・縦位弧状沈線が施文されている。14は弧状沈線区画内に充填縄文

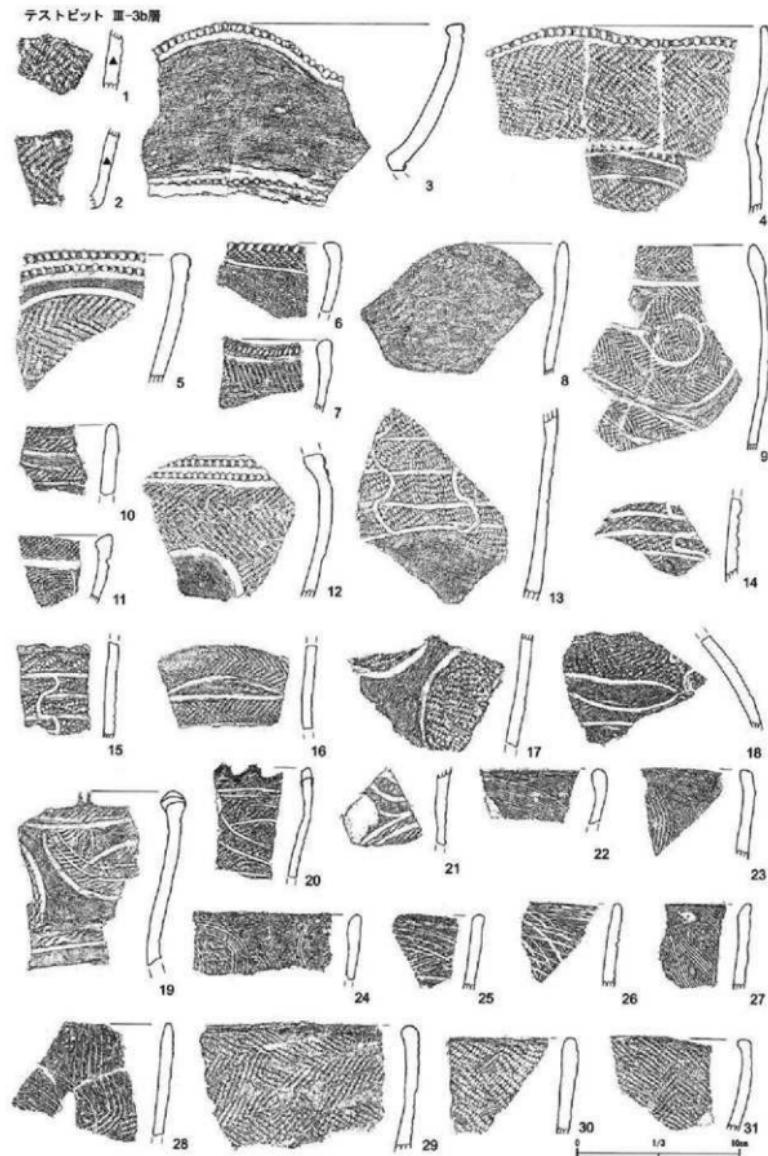
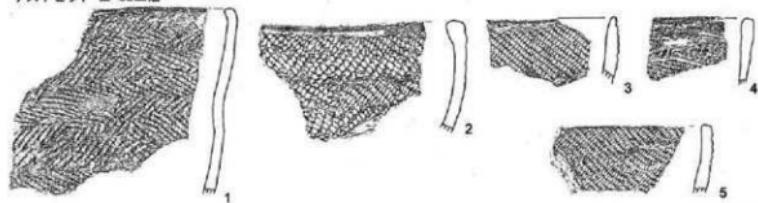
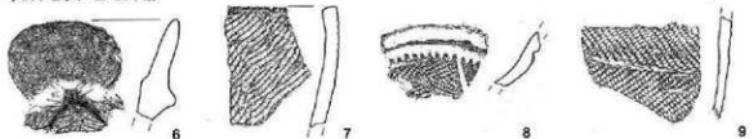


図50 76T出土土器①

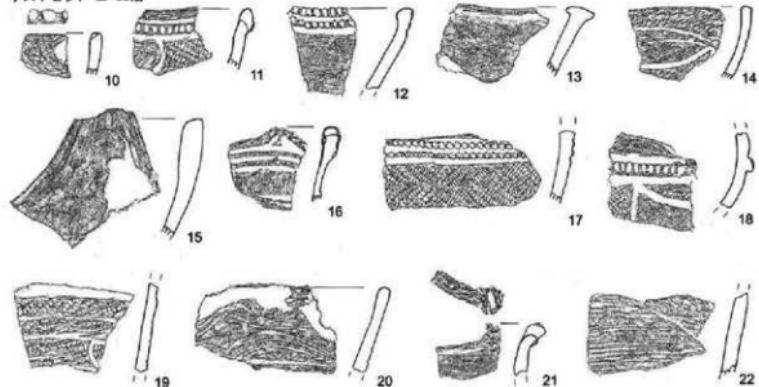
テストピット III-3b上層



テストピット III-3b下層



テストピット III-3b層



テストピット III-3b上層

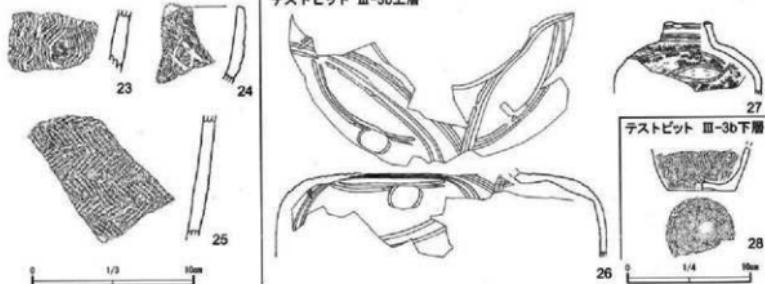


図51 76T出土土器②

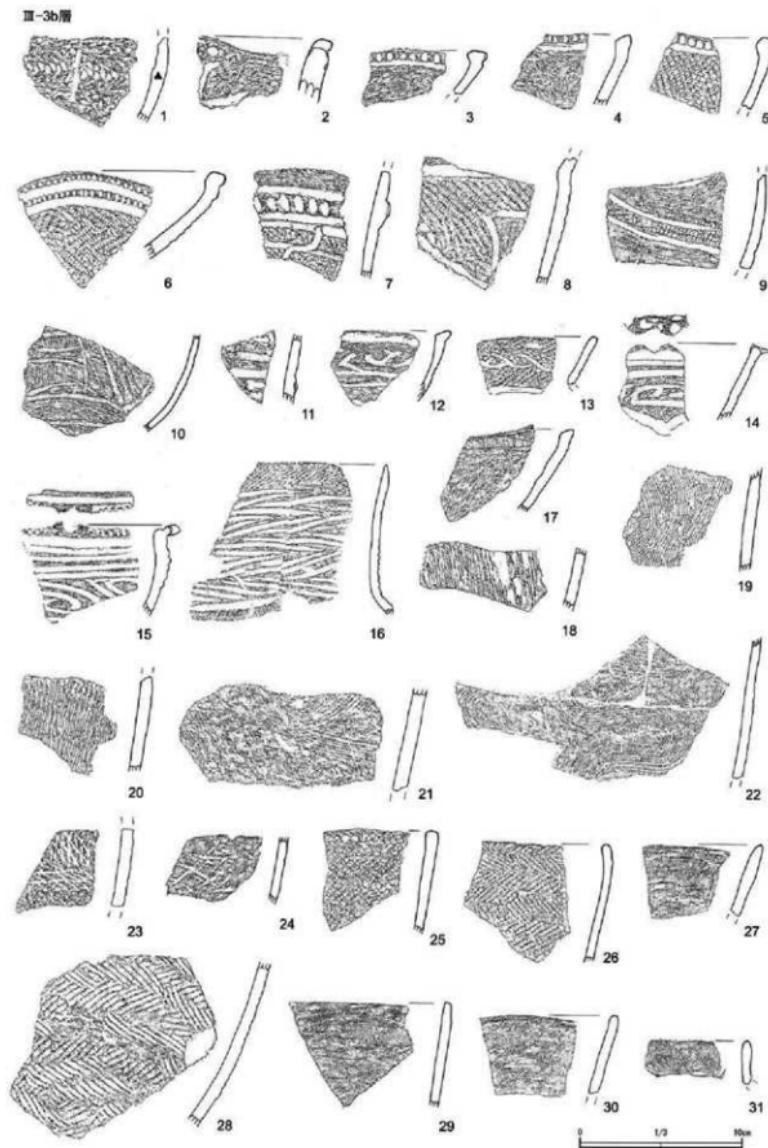


図52 76T出土土器③

を施している。16は口縁部に突起が付され、突起の形状に合わせて三叉状の沈線が加えられている。21は口縁部に縦割突起が貼付されている。14・16・21はIII-4類と考えられる。20・22・23は横位・弧状・蛇行櫛描文が施文されているV-1類である。24は網目状撚糸文が施文されているV-2類である。10は羽状繩文が施文され、口縁部内側に刻みが加えられている。25は羽状繩文が施文されている。これらはV-3類である。

### III-3 b層（図52）

1は結束第1種の羽状繩文が加えられ、胎土に纖維を含むI-1類である。2は盲孔および縦位沈線が施文されているIII-1～2類である。3～8・17はIII-3類に分類される。3～5は口縁部に1段の刻み、6は2段の刻みが加えられている。7は刻みを施した隆帯の下位に横位沈線・縦位蛇行沈線が施文されている。8は沈線区画内に繩文が充填されている。17は波状を呈する口縁で、形状に合わせて1条の浅い沈線が巡り、胴部には縦位櫛描文が施文されている。9～11はIII-4類に相当する。9は沈線区画内に充填繩文が施され、10は沈線区画内に櫛描文が充填されている。11は横位沈線ならびに小突起が付されている。12は三叉文が認められ、IV-1類と判断される。13は結節繩文が施文されているIV-2類である。14は沈線により雲形文が描出されており、15は口唇部に沈線が巡り、口縁部に刺突・B突起が施され、胴部には雲形文が加えられている。14・15はIV-4類に分類される。16は綾杉状沈線が施されており、IV-5類と考えられる。18・19・21・22は横位・縦位・蛇行櫛描文が施文されているV-1類、20は縦位撚糸文、23・24は網目状撚糸文が加えられているV-2類である。25・26・28は繩文が施文されているV-3類、27・29～31は内外面にミガキが施文されているV-4類である。

### 第3節 小迫地区南谷・斜面部・低地部遺物包含層

小迫地区南谷・斜面部・低地部の堆積土のうち、縄文時代の堆積層である大別III-5層（以下、III-5層）から出土した土器をまとめた。

#### 1. 南谷（78T）

III-5層の堆積が確認されたため、サブトレンチを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施した。III-5層は大きく、灰黒色～黒灰色シルト（III a～g層）と暗褐色土（III h・i層）の2種類に分けることができる。遺物については、III-5層をIII a～i層に分層して取り上げているが、小破片のうえ摩滅しているものが多く、図化できたものは少ない。

##### III a層（図53-1～8）

4は弧状の平行沈線が施文されているIII-2類である。1～3・5はIII群に分類される。1は横位に平行沈線が走っている。2は沈線区画内に縄文が加えられている。3は長方形状の沈線区画に縄文が施されている。5は1条の沈線が横走している。6～8は縄文が施文されているV-3類である。

##### III h層（図53-9～10）

9・10は胎土に纖維を含む無文土器で、I-1類に分類される。

##### III h層上面（図53-11～13）

13は胎土に纖維を含み、平行沈線が施文されている。I-1類である。11は貫通孔が施され、その上部には半円状の沈線が加えられている。12は多条沈線が縦位に走っている。これらはIII-2類に相当する。

##### III層上面（図53-14～19）

16は橢円形沈線により無文部を描出している。II-2類と考えられる。15・17は沈線区画の無文帯が認められるII-2～3類である。14は刺突が施された隆帯が横位に巡っており、III-1類に分類される。18・19は縄文が施文されているV-3類である。

#### 2. 斜面部（81T）

III-5層の堆積が確認されたため、サブトレンチを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施した。遺物については、III-5層をIII上層、III中層、III下層に分層して取り上げている。

##### III上層（図54-1～14、図56-1・2）

図54-1～14、図56-1は胎土に線維を含むI-1類である。図54-1・2は、円形竹管文を基点として、2本1単位でハの字状の縄压痕文に文様を描くものである。いずれも内削ぎ状の口縁に刻みを施す。縄压痕文の文様の空隙部には半截竹管の外側を用いた短沈線が斜位に加えられる。2は波状口縁で、胴部以下には縄文が施される。5～7は半截竹管によるC字形の刺突が多段に施される。

3は附加条第1種、4は非結束羽状縄文、12は0段多条の単斜縄文が施される。8・9は羽状縄文の結合部を、10はループ文を多段に施す。11・13・14は結合第1種の羽状縄文である。いずれも1単位幅は2cm以下で幅が狭い。14は胴部から緩やかに外反する器形を呈する。

図56-1は底部資料である。底面はやや丸底状を呈し、外面ならびに底面に羽状縄文が施される。2も底部資料であるが、器壁が厚く、外面はナデ、内面にはミガキ調整が施される。纖維を含まないことから、縄文前期後葉以後に位置付けられるI群である。

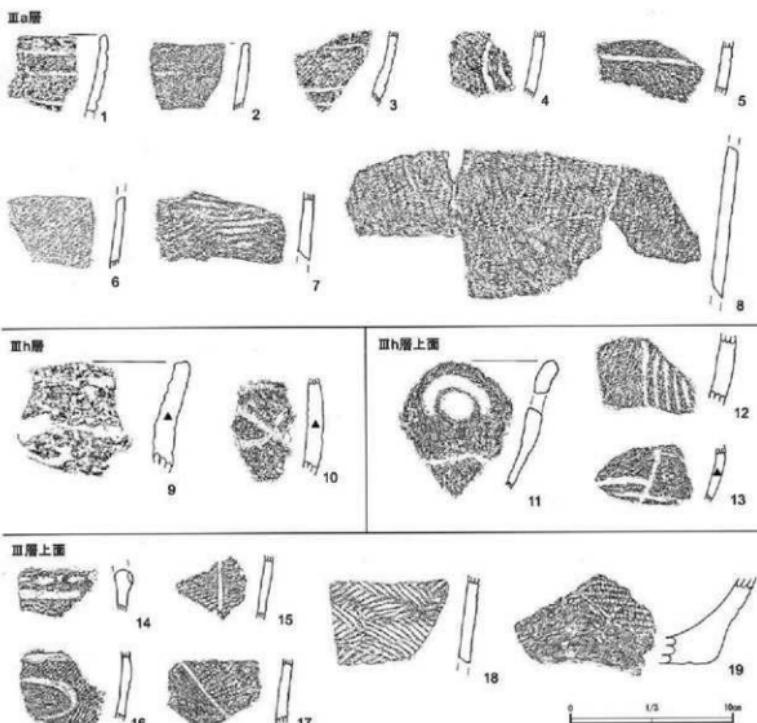


図53 78T出土土器

## III中層（図54-15~36、図55-1~7）

図55-6は縦位にLR繩文が施されるII群である。その他はすべて胎土に線維を含むI-1類である。図54-15は口縁外面に縦位の刻みを施し、上下を単沈線で区画した中にループ文が施されている。16・17は円形竹管文を施し、2条単位のC字形爪形文が施文される。16は波状口縁を呈し、補修孔を有する。23・25は半截竹管による刺突文が施される。26・28は平行沈線により文様を描くものである。26は矢羽状の文様と考えられる。文様部には繩文は施されず、28は胴部に繩文が認められる。24は頸部に刺突を施し、胴部下に羽状繩文が見られる。同様に27は頸部に刺突を持つ隆帯が巡らされる。地文は結束第1種羽状繩文である。

18~21は結束第1種の羽状繩文が施された口縁部である。18~20の口縁は内削ぎ状を呈する。32・36も同様の胴部破片である。31・33・34は結束部のみ施文するものである。33は同図8・9と同一個体である。29・30はループ文が施される。これらの施文単位幅はいずれも2cm以下と狭い。

22は無節L繩文で、内外面に指頭圧痕が顕著に残る。図54-35、図55-1は非結束の羽状繩文である。図55-2~4は単斜繩文が施されるが、2は結節繩文が認められる。7は底部破片である。底部

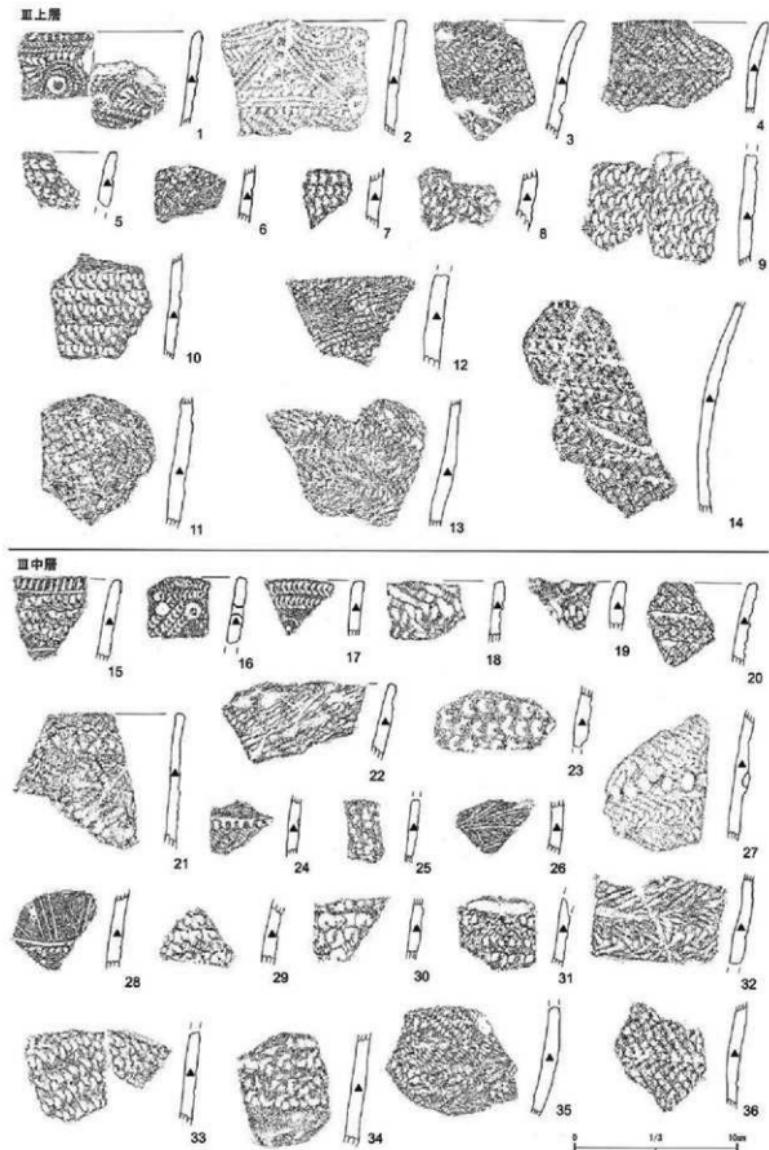


図54 81T出土土器①

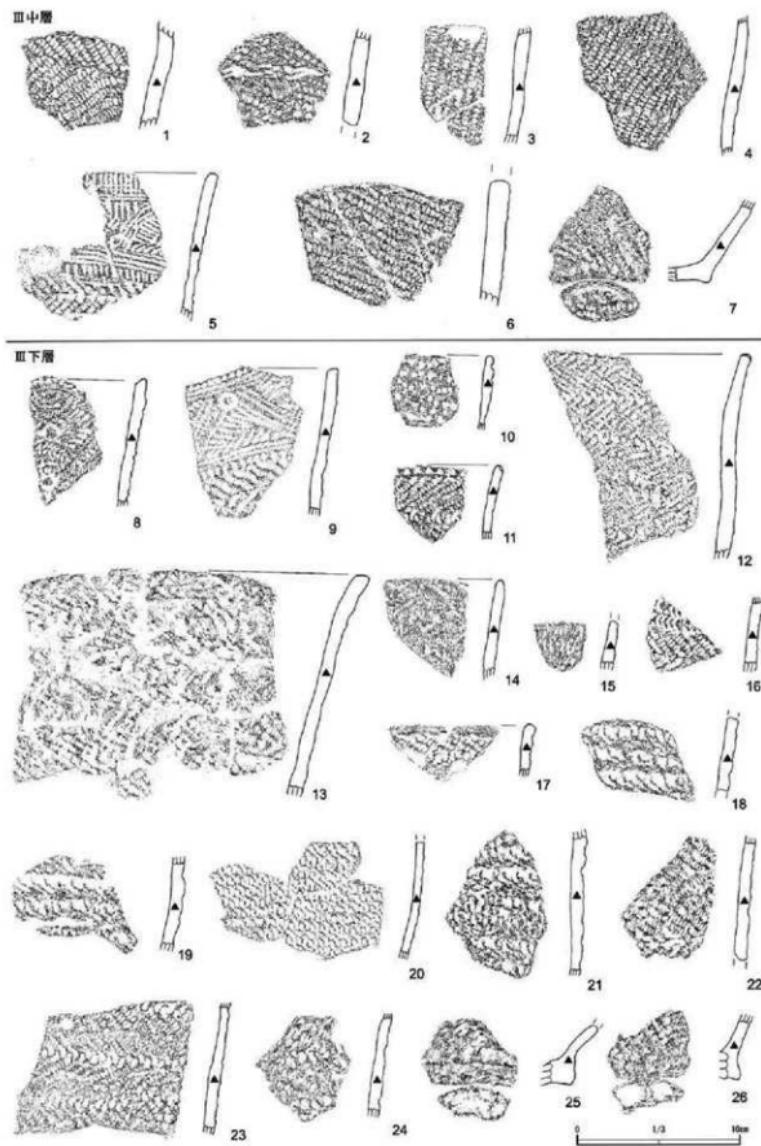


図55 81T出土土器②

縁が外側に突出している。摩滅が激しいが、胴部・底面に羽状繩文が施される。

図55-5は口縁に縱位の刻みを施し、2条1単位のハの字状繩圧痕文で上下を区画し、文様を描くものである。文様の空隙部には半截竹管の外側を用いた短沈線が充填され、同一の施文具の縱位の刻み列で文様部下端を区画している。胴部は結束第1種の羽状繩文である。

#### Ⅲ下層 (図55-8~26、図56-3)

出土した土器はすべて胎土に線維を含むI-1群土器である。図55-8・9は同一個体であり、刻みを有する波状口縁で、ハの字状繩圧痕文による文様を描く。8の波頂部に対応して、縦位に配置された円形竹管文と上下に対向した弧状の繩圧痕文が施されている。9は口縁に沿って上下を繩圧痕文で区画し、円形竹管文を基点に山形文を施す。胴部は結束第1種の羽状繩文である。いずれも繩圧痕文の空隙部には短沈線が充填されている。

10は刺突が多段に配されるものである。11は口縁に外方からの刻みが、12は上方からの刻みが施され、地文は結束羽状繩文が施される。12は胴部がややふくらみ、頸部で緩やかに外反しながら直立的に口縁が立ち上がる器形を呈する。15・16はC字形爪形文が施文されるもので、16は爪形文帯の下部に羽状繩文が施されている。

13・17・22~24は結束第1種の羽状繩文が施されるものである。13は直線的に立ち上がる器形を呈し、口縁がやや肥厚し、口唇は平坦である。17は口縁が丸く整えられる。14は無文であり、口縁はやや内削ぎ状である。18~21はループ文が多段に配されるものである。19・20はループ部のみ回転施文である。25・26は同一個体と考えられる底部破片である。底面は指頭圧痕が残る指ナデ調整である。

図56-3は非結束の羽状繩文が施される深鉢である。やや粗雑な施文であり、施文単位幅は約4cmを測り、幅広い。口縁は直線的に広がり、胴部下位から底部がすぼまる器形を呈する。

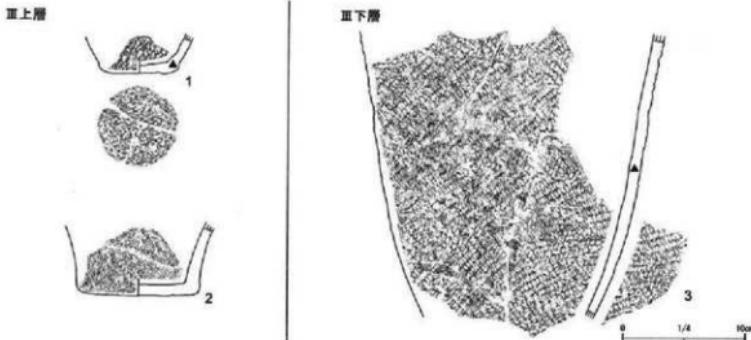


図56 81T出土土器③

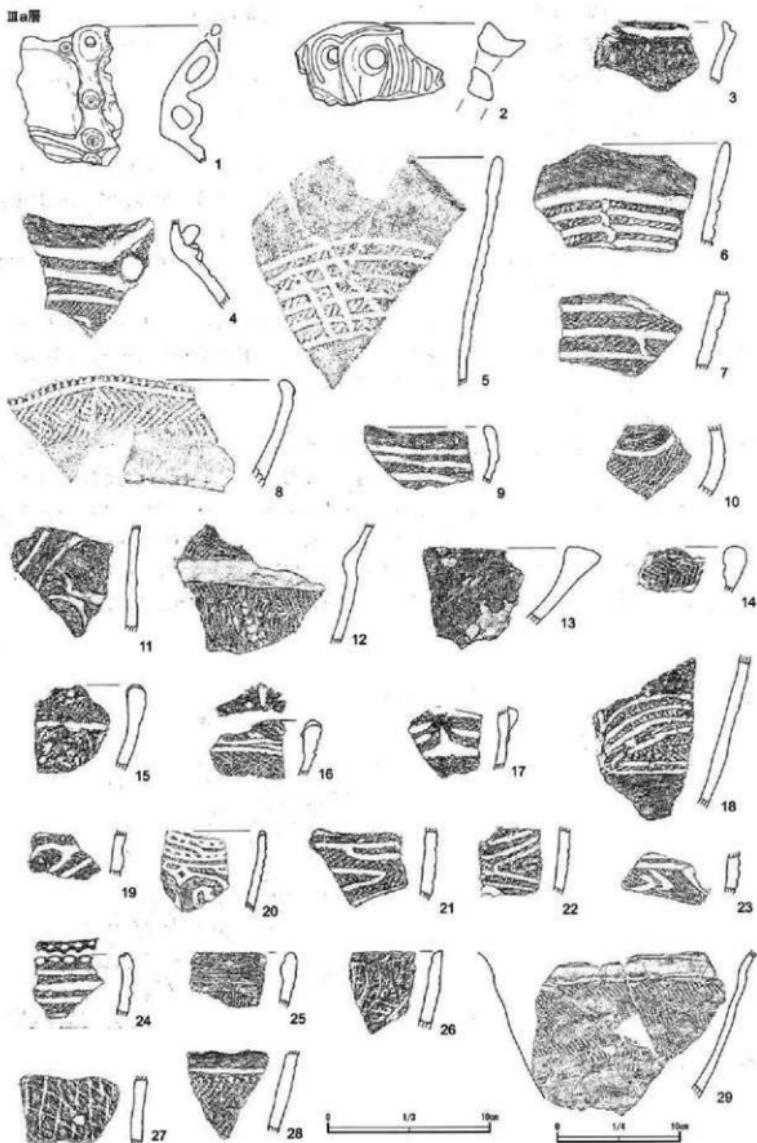


图57 73T出土土器①

## 3. 低地部 (73T)

III-5層の堆積が確認されたため、サブレンチならびにグリットを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施した。III-5層は大きく、灰褐色砂（III a層）と灰黒色～黒灰色シルト（III b～g層）の2種類に分けることができる。遺物については、III-5層をIII a～g層に分層して取り上げている。

## III a層（図57、図58-1～8）

図57-1は貫通孔・盲孔が施された橋状把手が付されている。4は隆帯に盲孔が加えられ、その下位には沈線区画で文様が描出されている。これらはIII-1類である。2は2つの貫通孔ならびに集合沈線が縦位に施文されている。3は口縁部に1条の沈線が横走する。2・3はIII-2類に分類される。5～14・29はIII-3類に相当する。5・7は横位平行沈線ならびに縦位沈線が加えられている。6は横位平行沈線をなぞりながら弧状沈線を施文している。9は平行沈線が施されている。8は口縁部に刻みが加えられている。10・11は沈線区画内に網文を充填している。12・29は屈曲部の網文を磨り消している。13・14は口縁部が肥厚しており、14は羽状網文が施文されている。15～18はIII-4類に分

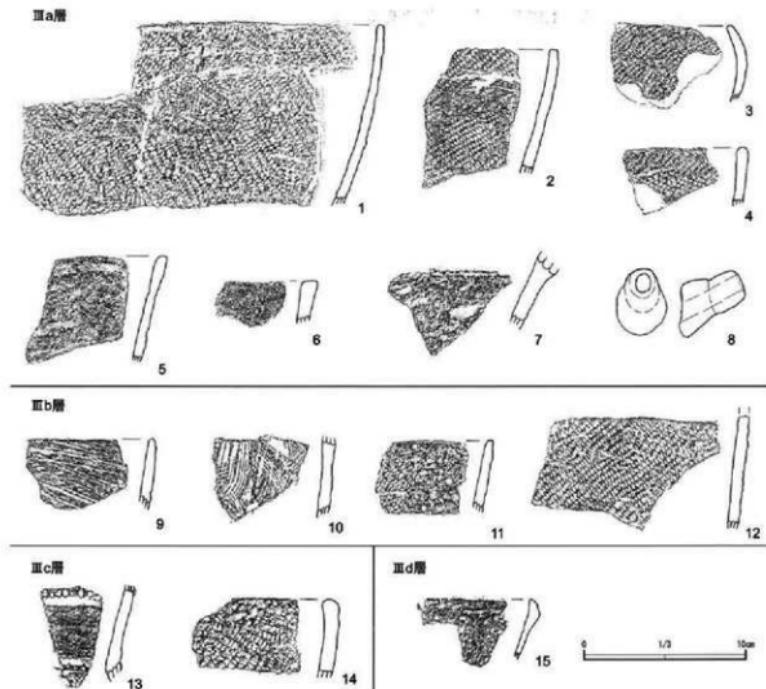


図58 73T出土土器②

### 第3節 小船地区南谷・斜面部・低地部遺物包含層

類される。15・16は口縁部に縦割突起、横位沈線が施されている。17は突起が付され、突起下位に三叉状沈線が加えられている。18は横位・弧状沈線区画内に縄文を充填している。19は三叉文が施文されており、IV-1類と判断される。20口縁部に羊歯状文が施され、その下位には曲線的なモチーフが描出されている。20はIV-2類と考えられる。21~23はIV-4類に相当する。21・23は磨消縄文で、22は沈線で文様が描かれている。24は口唇部・口縁部に刺突が巡り、その下位に平行沈線が施文されているIV-6類である。25・26は横位・縦位櫛描文が加えられているV-1類、27は網目状撚糸文が施されているV-2類である。図57-28、図58-1~4は縄文が施文されているV-3類である。5~8はV-4類で、7は横位に隆帯が巡る。8は注口部である。

#### III b層（図58-9~12）

9・10は横位・縦位櫛描文が施されており、V-1類に分類される。11・12は斜縄文が施文されているV-4類である。

#### III c層（図58-13・14）

13は2段の刻みが認められるIII-3類、14は羽状縄文が施されているV-3類である。

#### III d層（図58-15）

15は口縁部が肥厚する無文土器で、V-4類である。

## 第3章 石器・土製品

### 第1節 石器

#### スクレイパー（図59-1）

両面の両側面に細かい調整を施して刃部を形成し、背面には素材剥片の剥離面を残している。頁岩製である。

#### 石鏃（図59-2～27）

小泊地区から出土した石鏃の形態は多様で、凹基無茎鏃・平基有茎鏃・凸基有茎鏃・尖基鏃・円基鏃が認められる。これらの完形品は、最大長は1.4～3.0cm前後、最大幅0.7～2.0cm前後を測り、断面の形状はレンズ状を呈するものが多い。2～12は凹基無茎鏃で、基部の抉りは浅いものが多い。13～15は平基有茎鏃で、茎部はしっかりと作り出されている。16・20・22～24は凸基有茎鏃である。16・20の茎部の作り出しがしっかりしており、23は舌状の茎が作り出されている。22・24は左右両側に小さいが凸状に茎部の作り出しが認められるため凸基有茎鏃に分類した。17～19・21・25は尖基鏃である。18・25は片面に小さな茎部の作り出しが認められるが、反対側は作り出しが不明確であるため尖基鏃に含めた。26は基部が円形に近い形状を呈しており、円基鏃に分類される。27は尖頭部の破片であり、全体の形状は不明である。石材は頁岩（赤色頁岩・珪質頁岩を含む）が多く、その他はメノウ・凝灰岩・石英安山岩が使用されている。

#### 異形石器（図59-28）

三日月上の形状を呈している。凹基無茎鏃の基部の形状に類似するが、刃部が作り出されていることから、異形石器とした。メノウ製である。

#### 石鏃未製品（図60-1～13）

剥離面を残し、調整が施されないもの、製品と比較すると調整が粗雑なもの、側縁を残すものを未製品とした。最大長1.6～3.0cm前後、最大幅0.7～2.4cm前後を計測する。石材は頁岩（赤色頁岩・珪質頁岩を含む）ならびにメノウが使用されており、その数はほぼ同数である。

#### 剥片（図60-14～20）

石鏃未製品に比較し、側縁の調整が施されない部分や剥離面を多く残すものを剥片として分類した。14・16は背面に自然面を残す。石材はすべて頁岩である。

#### 磨石・敲石・石皿（図61～64-7）

図61-1は全面に敲打痕が認められるが、大型の礫であることから台石として使用されたものと考えられる。2・3・7～9は敲打痕・擦痕が観察される敲石・磨石である。4は敲石、5は両面が使用された石皿、6は磨石である。図62-1～3・5・7は敲石である。2は使用部分が大きく窪むほど敲打痕が顕著である。6は大型の礫で、台石として使用されたものと思われる。4・8は敲打痕・擦痕が観察される敲石・磨石である。9は磨石である。図63-1・8・9は敲打痕・擦痕が観察される敲石・磨石である。1はやや大型であり、台石として使用された可能性が考えられる。2～5・7は石皿である。6は敲石である。図64-1は擦痕ならびに若干の敲打痕が観察される敲石・磨石である。2・6は磨石、3は石皿である。4・5・7は敲石で、4は側縁に敲打痕が顕著に認められる。これらの石材には花崗岩系の岩石が多く利用されている。

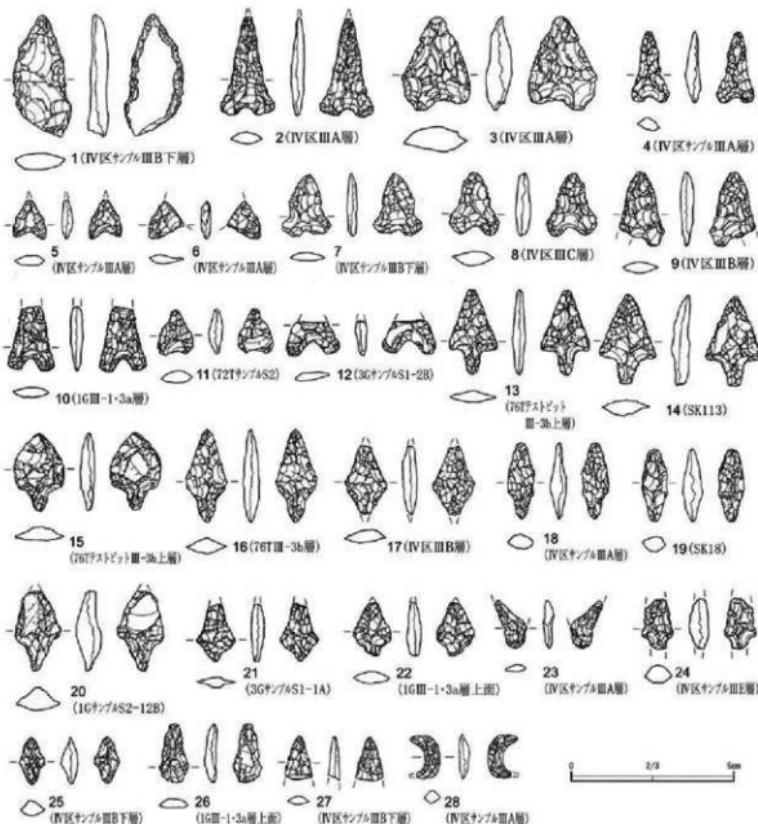


図59 石器①

## 石棒・石刀（図64-8～10）

8・10は石棒で、9は石刀である。8～10はともに全体的に擦痕が認められ、10は擦りを施した後に光沢がでるほどのミガキを加えている。8・9は粘板岩製、10は石墨千枚岩製である。

## 第2節 土製品

## 土偶（図65-1～5）

1は遮光器土偶の頭部である。沈線で眼、刺突で鼻が描出されている。口は貫通孔で表現されており、口の両側にも孔が穿たれている。首にはメガネ状付帯が見られ、後頭部には刺突が2箇所施されている。頭頂部には4つの突起により王冠状装飾が表現されている。2は沈線で頭部と胸部を分けている。胸部前面には粘土粒で乳房の表現がされており、前面ならびに背面にはV字状の沈線が施文されている。

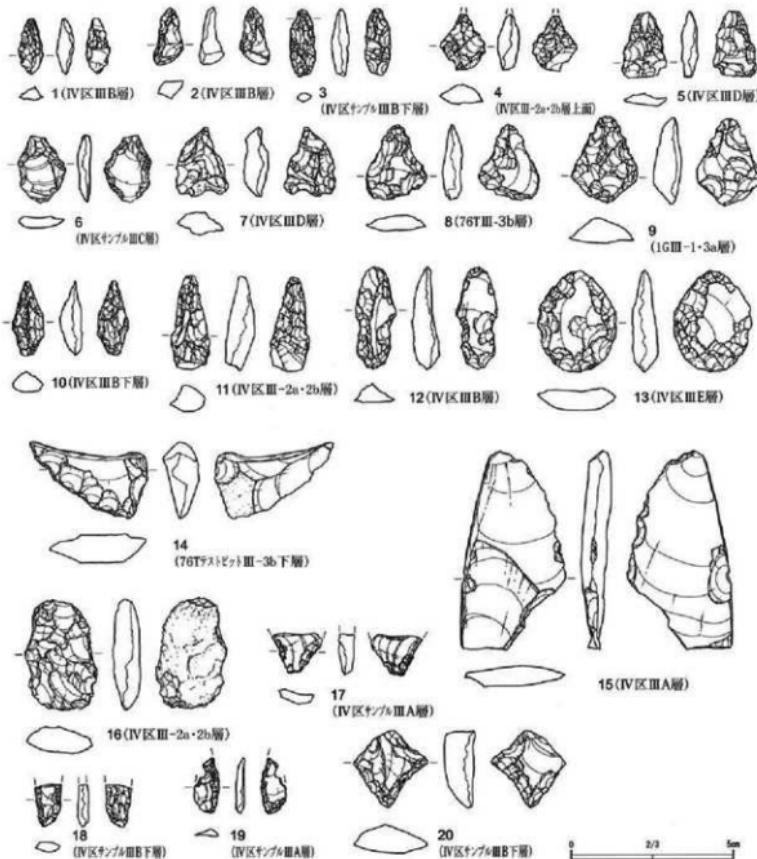


図60 石器②

れている。3は肩部の破片であり、前面・背面に細かい円形刺突が加えられている。4は胸部に刺突の施された隆帯を垂下させて正中線を表している。胸部下半には全面にわたり、細沈線で「こしみの」状の表現がされている。5は前面に粘土粒で乳房、刺突が加えられた隆帯で正中線が表現されている。背面には、首から肩・背中にかけて沈線が施されている。

#### 土面（図65-6）

隆帯により眉毛ならびに鼻が表現されている。目は隆帯と貫通孔で表されている。目の下位には目よりも大きい孔が穿たれている。表面は赤彩され、裏面は平坦である。

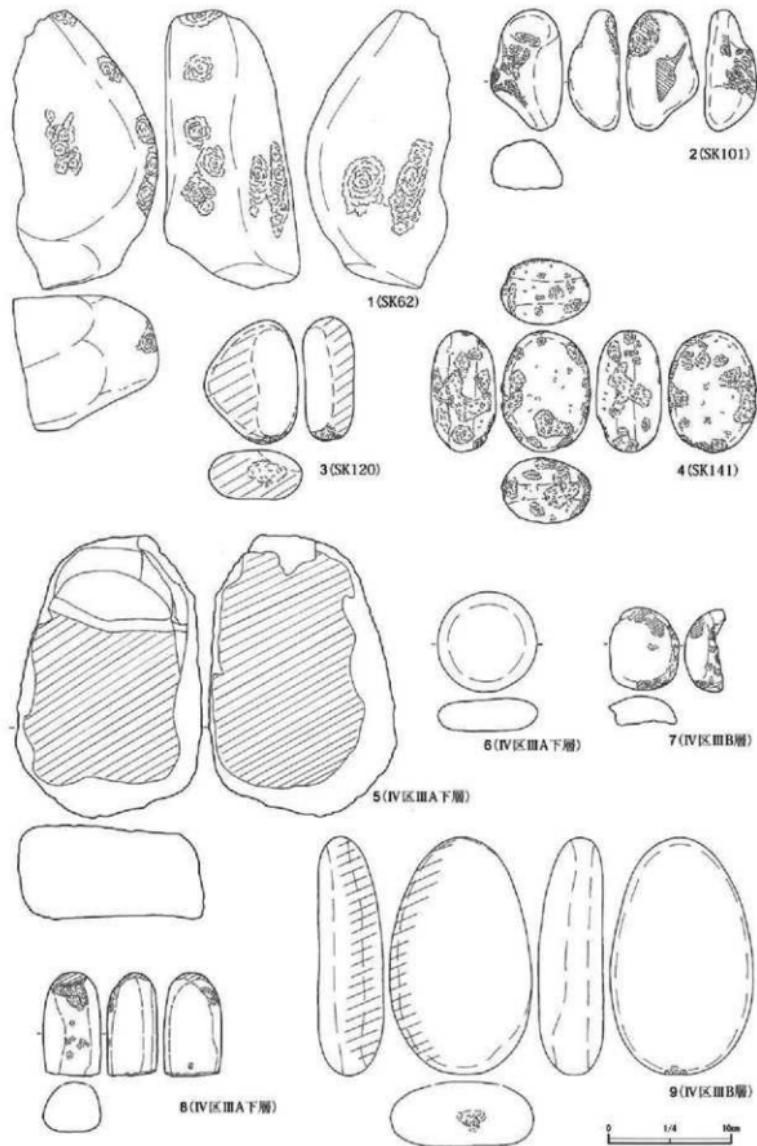


图61 石器③

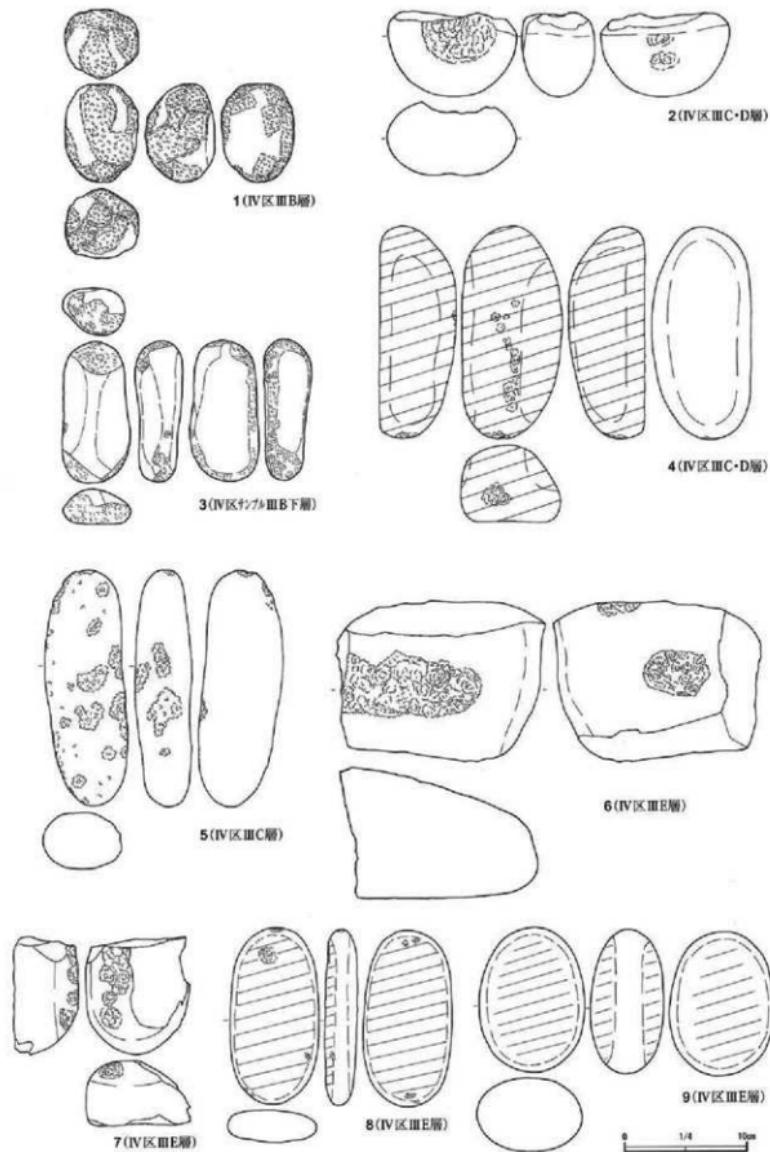


図62 石器④

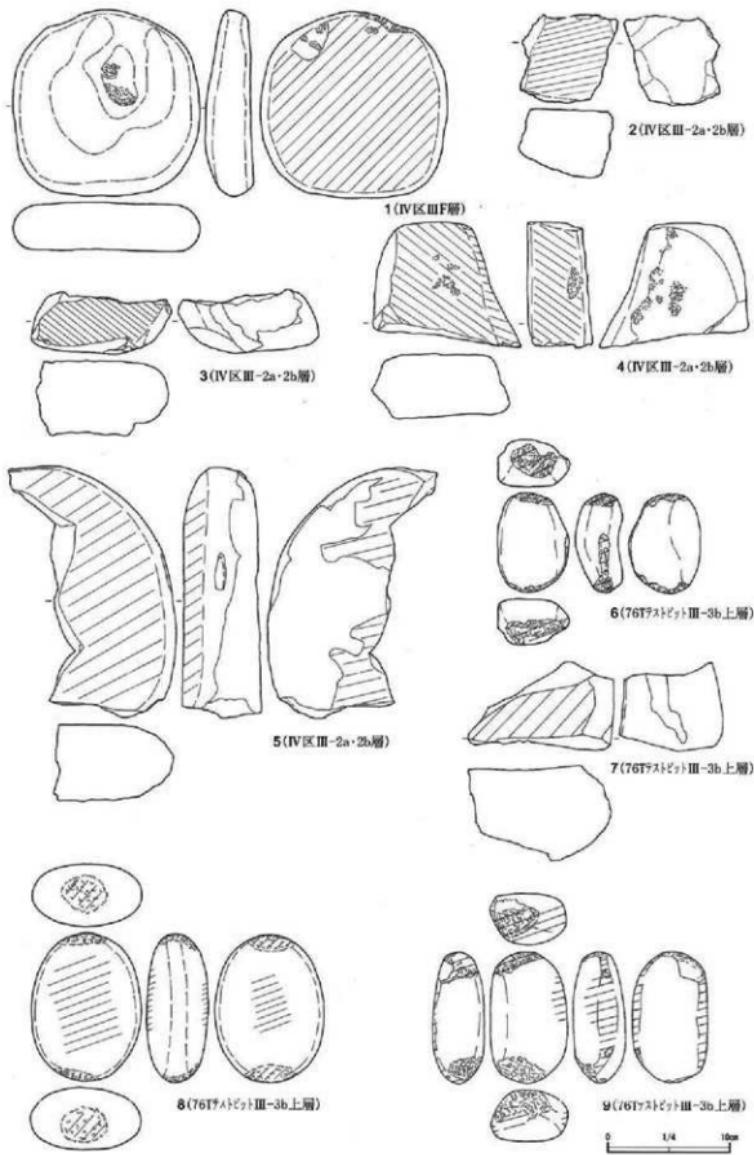


図63 石器⑤

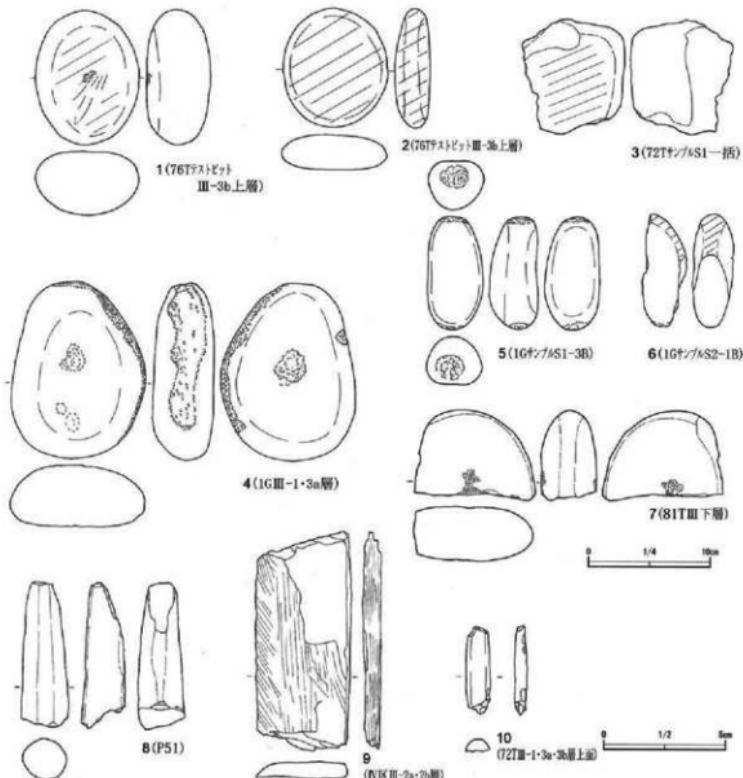


図64 石器⑥

## 皿状土製品（図66-1）

緩やかに内湾しながら立ち上がる皿状の形状を呈する土製品である。内面には細い沈線で矢羽状の文様が描かれ、外面には内面の沈線より太い沈線で、弧線や直線を施している。

## 土版状土製品（図66-2・3）

2は中央に向かって厚みを増す形状で、側面には刺突が巡っている。表・裏両面とも縁に沿った刺突と弧状沈線が施されている。3は表面に矢羽状沈線の施文後に十字状沈線を加えている。

## 耳飾り（図66-4・5）

4は無文の小型の耳飾りで、中央に穿孔されている。5は中心部に孔が穿たれ、表面が菱形状の形去ならびに弧状沈線で装飾されている耳飾りである。

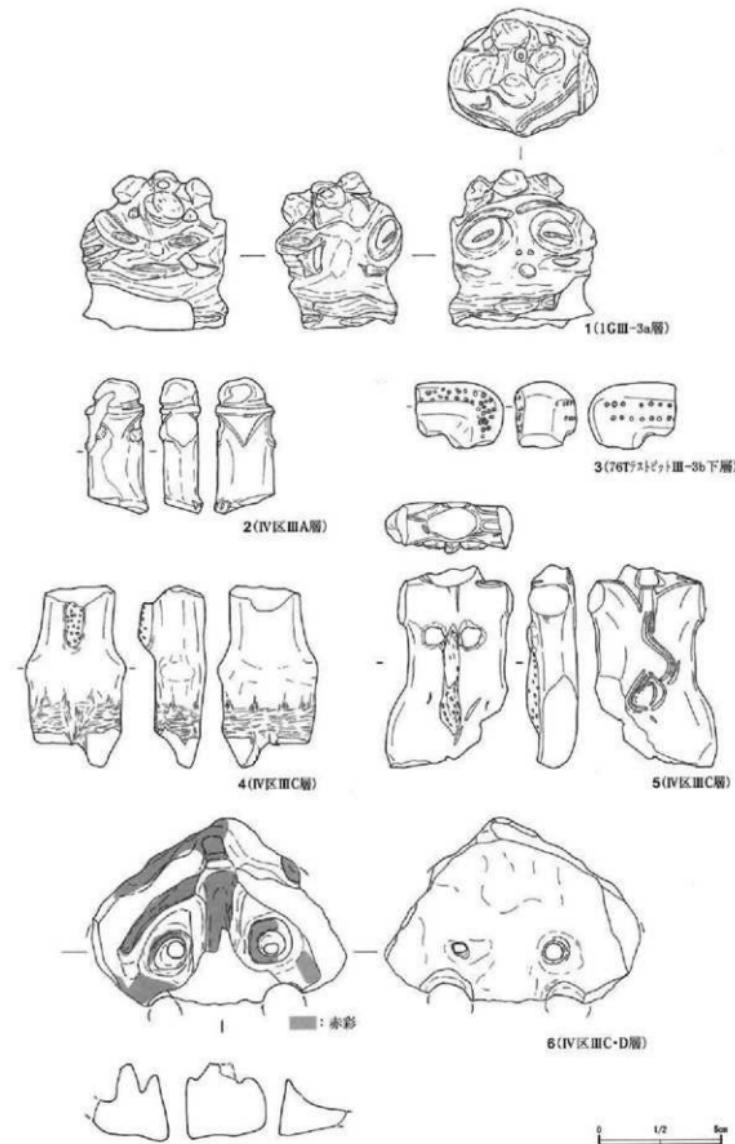


図65 出土土製品①

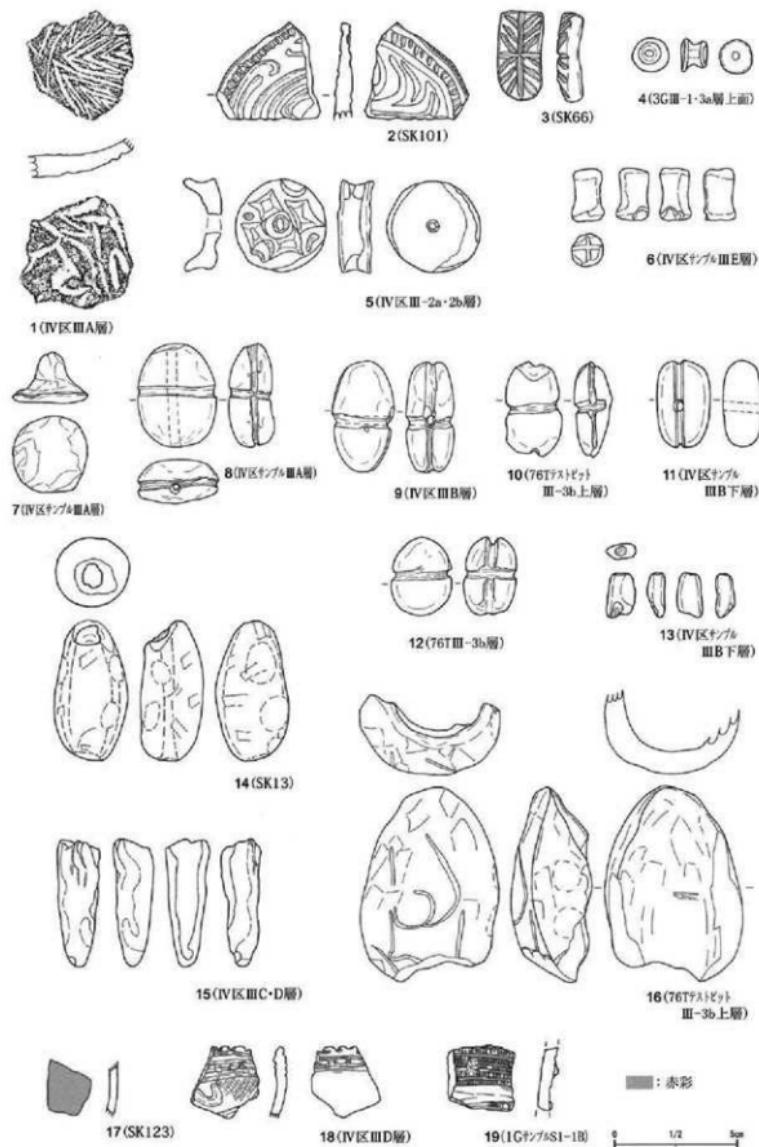


図66 出土土製品②

## 第2節 土製品

### スタンプ状土製品（図66-6・7）

6は中央が若干窪む円柱状の形状を呈している。底面には浅い十字状の沈線が施されている。7は円形の底面に先細りの短い把手部が付されている。底面は無文である。

### 土鍤（図66-8～12）

平面形は梢円形基調である。8～10・12は側辺部に溝が一周し、さらに表・裏面に横位に溝が巡り、側辺部で十字に交差する。8は側辺部から縦位に孔が穿たれており、9は溝が十字に交差する部分から横位に穿孔されている。11は表・裏面に縦位に溝が回り、中央部に孔が穿たれている。

### その他土製品（図66-13～16）

15は棒状土製品で、沈線が施されている。16は匙状土製品である。指頭圧痕やケズリで成形されており、外面には弧線・直線が施されている。13・14は不明土製品である。13は上面に円形刺突が加えられている。14は中空の土製品で、外面に成形時の指頭圧痕やケズリが残されている。土笛の可能性を考えられる。

### 赤彩土器（図66-17～19）

17は内外面が丁寧に研磨されているV-4類土器で、外面が赤彩されている。18は口縁外面に沈線間刻み、胴部には磨消繩文が施され、口縁内面は列点状の文様が加えられているIV-3類土器で、内外面赤彩が施されている。19は沈線区画内に刻みを充填し、突起を貼付しているIII-4類土器で、外面が赤彩されている。

## 第4章 製塙土器類

### 第1節 はじめに

浦尻貝塚に所謂製塙土器が伴うことは、浦尻磯坂遺跡資料とともに玉川一郎らの先行研究により明らかにされている（玉川1986、玉川・吉田1987）。今回の報告に至る一連の発掘調査でも、既に『浦尻貝塚1』（2005）において、小泊地区の貝塚及び遺物包含層から製塙土器の出土があることについて触れている。これらは、縄文時代晚期前葉から中葉を中心とする土器群に伴っており、福島県内の資料としては比較的まとまったものであり、今後の研究の中で基礎的資料となりうるものである。

本章では、出土した製塙土器類の基礎的な分類を行い、本遺跡の製塙土器類の基本的な特徴について報告する。また、出土地点や層位の比較と精製土器及び粗製土器類の出土傾向と併せ、製塙土器類の時期的な変遷についても若干言及する。

### 第2節 製塙土器類の観察と分類

#### (1) 資料の概要

今回主に取り扱う製塙土器類は、接合／同一個体判別作業を経た、長軸が概ね5cm以上の口縁部破片資料と、底径が復元できる底部資料である。さらに参考資料として数点の胴部破片を含めた143点を図示している。

ところで製塙土器は無文土器に含まれられるが、今回は無文土器を、口縁部断面の形状が一定で、内面／外面／口唇部の各部位の調整がナデやミガキ等で明確に施され、（有文の）粗製土器からの連続性が想起される土器群とし、製塙土器（特に口縁部資料）と区別している。それでもなお、完全に分別しきれない部分があるため、製塙土器類として扱っている。底部資料については製塙土器としての判別がさらに困難であるため、使用痕跡が明確であるものを今回は製塙土器類として扱っている。

#### (2) 資料の観察

資料の観察と分類にあたっては、新地町三貴地貝塚出土製塙土器類の報告（高橋2006）を参考にして行った。

口縁部資料の観察は、口縁部の平面形及び断面形状、口唇部の仕上げ（断面形状と調整）、器面の調整といった土器の製作手法に関わる属性に主眼を置いて行い、その結果は観察表に一覧として示した。属性の内容は以下の通りである。

- ・ 口縁部平面形は、平縁やほぼ平縁のもの（一）、緩やかな小波状や低い小波状のもの（二）、折れ線グラフ上に不整な小波状を呈するもの（三）、に概ね分けられ、これらは口唇部の調整方法と関連が深い。
- ・ 口縁部断面形は、口縁部（口端部（口唇）から約5cmの範囲）の断面形状を比較したもので、最大器厚部がどの位置にくるのかという観点である。ア：口端部に向かって断面が先細りしていくもの。イ：口縁部中位から先細りするもの。ウ：口縁部の中位に最大器厚があり、上方と下方に向かって厚さを減じて行くもの。エ：器厚が一定のもの。オ：口縁部の中位から口端部まで最大器厚となるもの。カ：口端部に向かって器厚が増すもの。キ：内面側に肥厚するもの。以上の形状に区分できるが、ア～エが主体的である。
- ・ 口唇断面形状は、先端が尖る「尖」、丸みをもつ「丸」、角頭状の「角」と角が丸みを持ちながら平

- 壇面を残す「亜角」に分けられ、それぞれが組み合う個体や中間的な個体もある。「角」は平坦部が内削ぎ状のものと外削ぎ状のものが見られる。
- ・口唇部の調整は、調整が見られないものとナデが施されるものが大別としてあり、前者は「尖」との相関が強く、後者は「丸」との相関が強い傾向がある。
  - ・使用痕は、製塩土器の特徴ともされる器面の剥離が、一定の範囲に認められる「◎」、小さな剥離が複数認められる「○」、剥離は認められないものの被熱により器面が荒れる「△」が観察できる。
  - ・器面調整等は、土器形成時の指オサエによる指圧痕（指頭圧痕）や指紋と器面の整形時のケズリ／ナデ／ミガキ等が観察できる。最も観察頻度が高いのはナデになる。
  - ・外面接合痕は、上述の整形調整の程度によって接合痕の本数／長さ／形状／深さに影響を与える。接合痕の長さは、一定の長さで観察できる「長線」、部分的に接合痕が消える「破線」、短線としてのみ認められる「部分線」に区分した。接合痕の形状は「直線状」のものと、波打つ「波状」がある。また接合痕が器面に深く残る「溝状」のものと、指圧痕等でつぶれた「痕跡的」なものの2種が存在する。なお接合痕のうち口縁上端部から数mmの位置に接合痕が認められる場合があるが、これらは付加粘土として上記の接合痕とは区別している。
  - ・胎土については、特記される事項のみ記述したが、特徴的な事象として胎土に所謂海綿骨針と思われる白色針状物質を含む個体が存在することが挙げられる。
  - ・最大器厚は口端部から5cmの範囲内で計測した。最小値は4.0mmで、最大値は9.0mmであった。

### (3) 製塩土器類の分類

以上の観察項目内の、口唇部の断面形状は口唇部調整と相関が強く、これらとは直接的な影響関係のない外面の仕上げ状況との組み合わせに着目して分類とした。なお、分類記号「x」は遺存状況の制約による分類不可能を表している。

口唇部の断面形状を I : 「尖」、II : 「丸」、III : 「角」・「亜角」としたが、「尖」と「丸」、「丸」と「角」・「亜角」が組み合う場合は、「尖」と「角」・「亜角」を優先項して分類を行なった。i~iii・kは口唇部の調整で、iは未調整／iiはナデ／iiiはミガキ／kはケズリやヘラ切りを示す。

また外面は調整の程度を以下の4段階のレベルで表示している。レベルA：丁寧に調整が施され、接合痕を残さないもの。レベルa：丁寧に調整が施されるが、接合痕を消去しきれていないもの。レベルb：調整が弱く、接合痕の消去も弱い。レベルB：調整がほとんど観察されずに、接合痕が多く残る。器面の押圧が特に意識されないと溝状の深い接合痕になる。

器面剥落等の個体それぞれの状況により、観察が不十分で、調整程度の判断が徹底できない部分もあり、上記組み合わせによる分類は、記述のための分類という側面をもつことも否めないが、三貴地貝塚出土製塩土器類の分析で示したように、製塩土器の成立と変遷を検討する上で有用な視点であると考えている。

以下、調査区別に遺物取上単位毎の製塩土器類の傾向について説明する。

## 第3節 製塩土器類の様相（図67～図71）

前項での手続きにより多様に分類された製塩土器類の口縁部資料のうち、I i類とII ii類が各出土単位で最も出現頻度の高いものである。I i類は、指オサエ等により口唇部を尖らせて成形し、端部の調整をほとんど行なわないものである。このため口縁部は成形状態のままでなり、不整な小波状口縁を呈するものが多い。II ii類は成形後、口唇部にナデを主体とする調整加えることで端部を丸く作

出するものである。この結果として口縁端部が整えられ、平縁を呈する口縁となるものが多い。

これらの分類を中心に、外面調整の各レベルとどのような組み合わせとなって各出土単位に現れるのか確認していく。

#### (1) IV区

①**土坑** 図67-1は土坑出土の平底の底部である。外面に剥離がある。今回報告する底部資料のなかでは最も底径が小さい。

②**III A層** 図67-2~20は口縁部資料である。I類がII類よりも多い。I類は口唇部が未調整であるものが大部分で、これらは低波状や不整な小波状口縁を呈している。II類は口唇部にナデを施し、平縁に仕上げるものが一定量存在する。外面の仕上げはI類でレベルBが目立ち、II類ではレベルaが多い。とくにI類では指圧痕が顕著に観察される。5の拓本には「目」字様の痕跡が伴う圧痕が見られるように、指頭が直接器面に触れない成形法（手袋等の着用？）が想起される。また2の外面接合痕も当て具を用いたかの様なつぶれた状況を示している。図67-21~24は底部資料である。21・22は平底である。23と24は丸底になる。24の底面縁辺部には網代の痕跡と思われる圧痕が観察できる。

③**III B層** 図67-25~30、図68-1~12は口縁部資料である。III類が一定数存在することが特徴的で、I~III類の出現数に大きな差はない。I類は口唇部を未調整として低い波状や不整な小波状口縁を呈すること、II類では口唇部にナデを施し平縁とする組み合わせが見られることはIII A層と同様である。器面の仕上げはレベルaが各類別で安定して出現し、II・III類ではレベルAも確認できる。外面には指圧痕が顕著なものが多く、I類で顕著に認められる。図68-9では「目」字状圧痕が観察できる。また図67-25・26では指圧痕と指圧痕の境界にミミズ腫れ様の微隆線が生じている。30は溝状の長線の接合痕が2条確認できる。図68-13~15は底部資料で、13が丸底、14が上げ底気味の平底、15が平底の底部である。

④**III C層** 図68-16~27は口縁部資料である。典型的なタイプであるI i類とII ii類が安定して組成する。外面の状況は16が多条に接合痕を残すレベルBである他は、レベルaが卓越し、レベルAも散見できる。指圧痕は横位に連続して施されるものは少ない。図68-28・29は底部資料である。28は平底、29は丸底気味の底部になる。

⑤**III 2 a層** 本層は前出のIII A~III C層に伴うものである。図68-30~34、図69-1~3が口縁部資料である。I i類は少なく、II ii類が安定組成している。外面は、接合痕が残存する図68-31・33以外はレベルaやAとなる。図69-4は平底の底部である。

⑥**III C・D層** 本層はIII C層とIII D層にまたがる層位である。図69-5~16が口縁部資料である。I類が多く、II類はII ii類が安定しているが少ない。外面の状況はI i類がレベルBに限定され、他はレベルaが多い。レベルbまたはBとしたものは指圧痕や指紋がよく観察できるが、5・10・12は横位に連続する指圧痕が顕著である。図69-17は平底の底部資料である。

⑦**III D層** 図69-18~20は口縁部資料である。個体数が少ないので傾向が窺い知れないが、外面はナデを主体とする調整で、接合痕を残すものは無く、レベルaまたはAとなる。18は指圧痕が顕著である。

⑧**III E層** 図69-21~25が口縁部資料である。II類が多く見られ、外面の状況もレベルaとAが主体である。図69-26は胴部資料である。製塙土器であるのかどうか判断しにくい面もあるが、外面は指圧痕が顕著で、接合痕も「長線」の波状の接合痕が3条観察できる。接合痕は痕跡的タイプで、レベルBに分類できる。図73-27は平底の底部資料である。

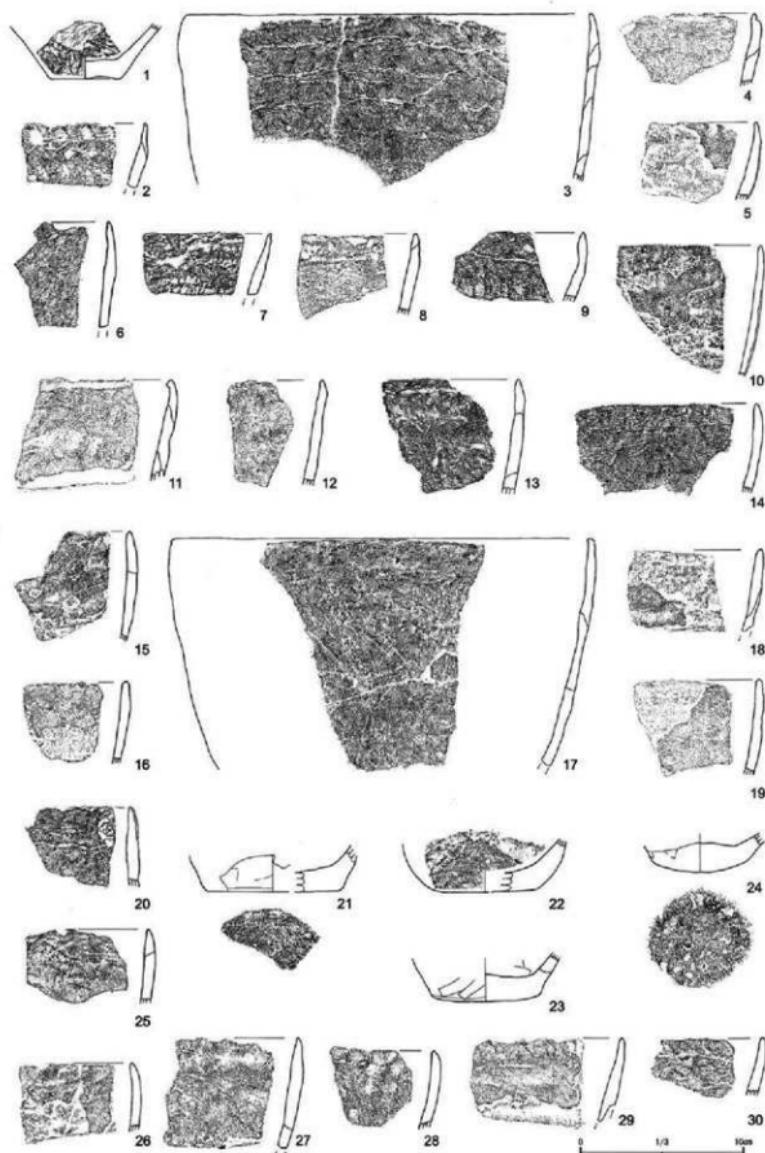


図67 出土製塙土器類①

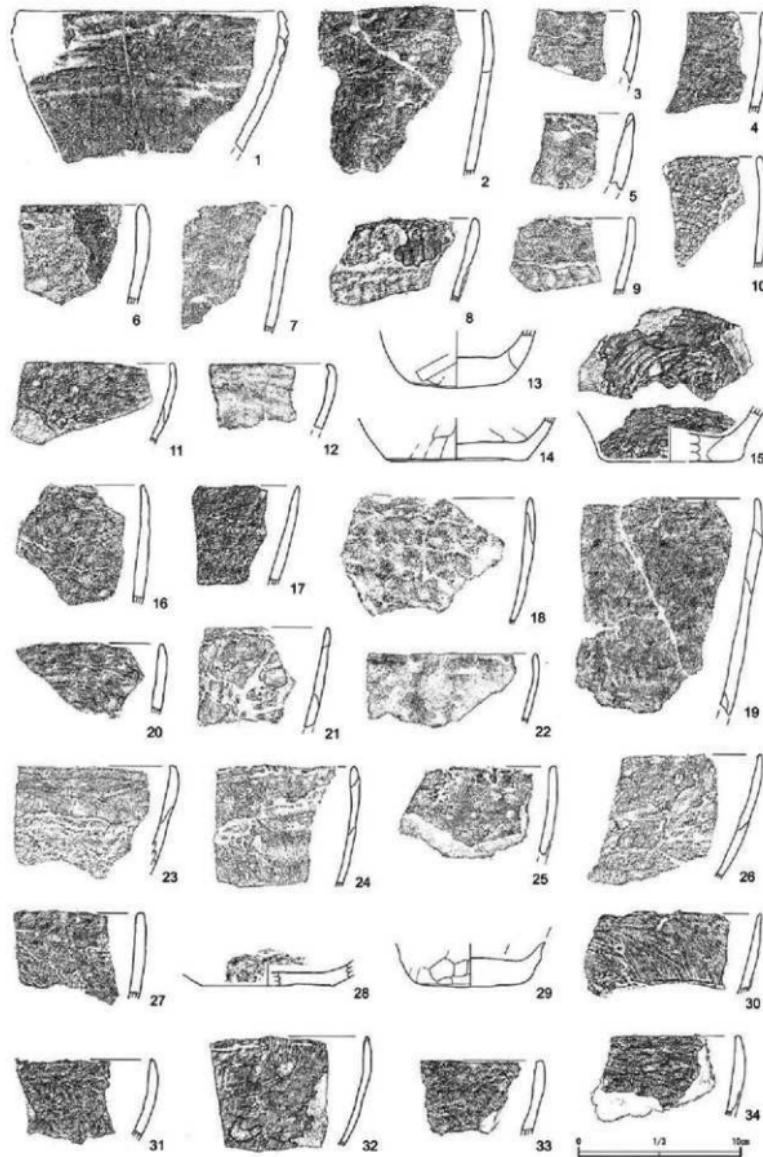


図68 出土製塙土器類②

第3節 製塙土器類の様相

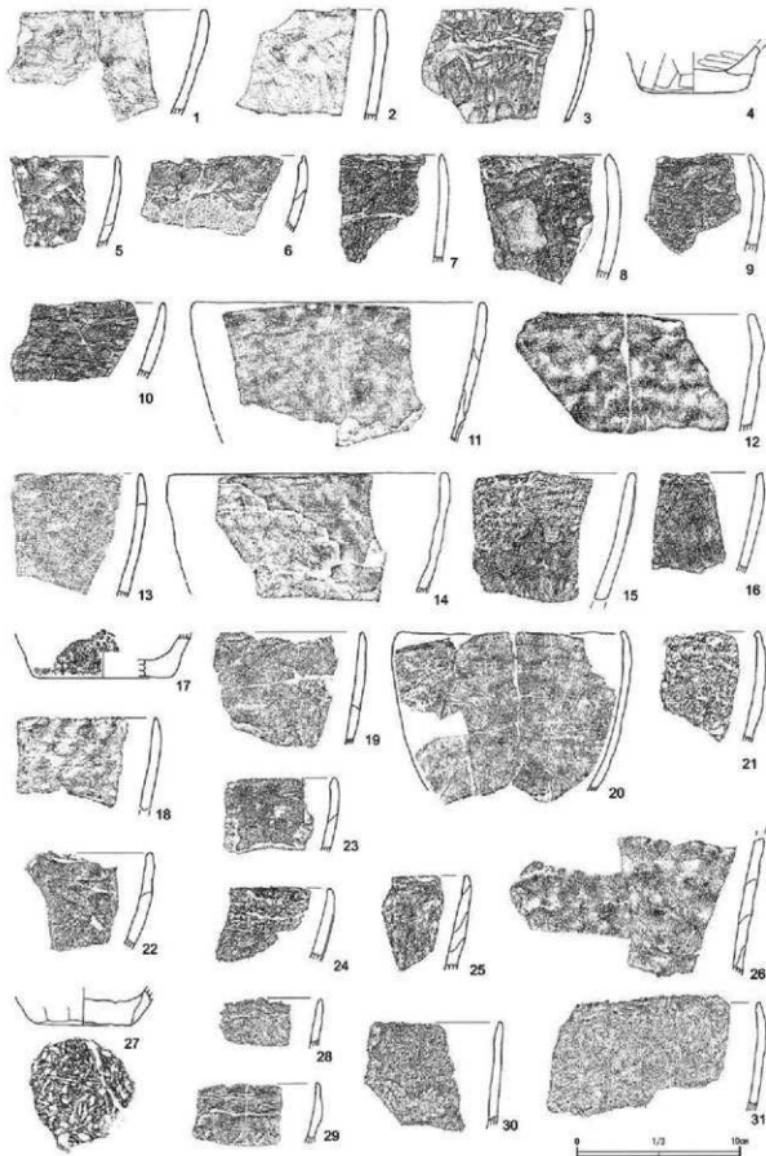


図69 出土製塙土器類③

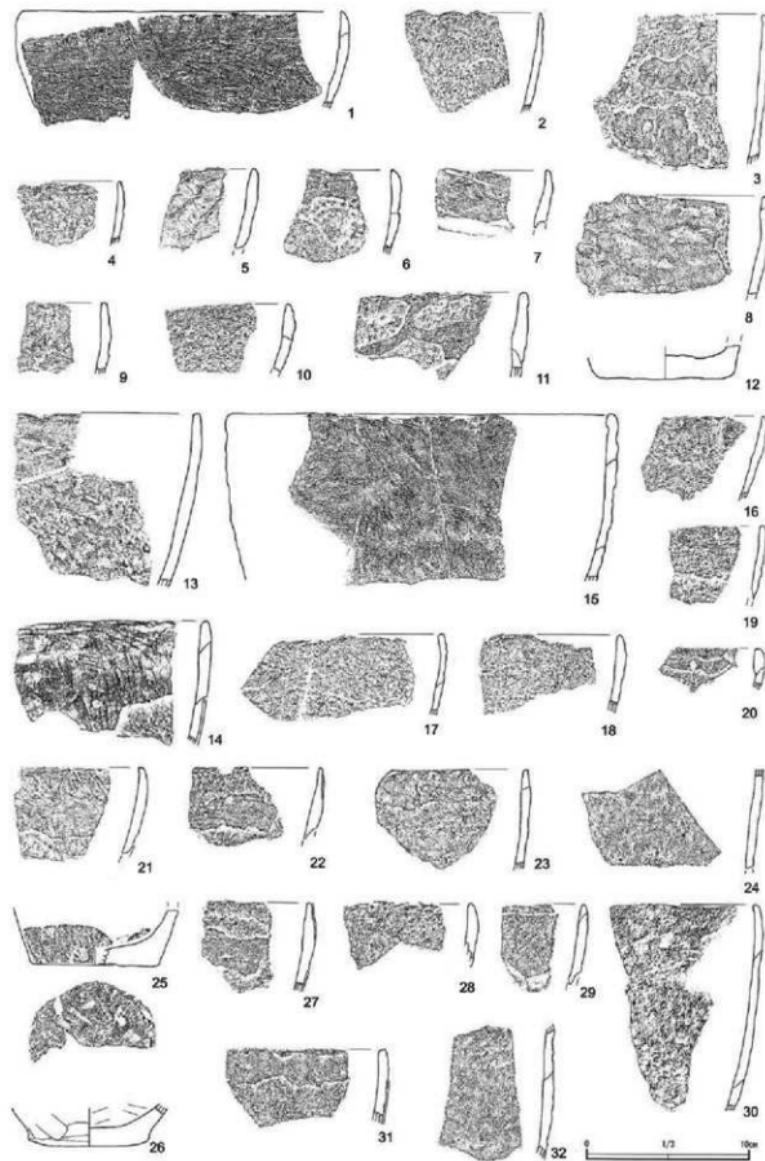


图70 出土製塙土器類④

(2) 72T

①Ⅲ層直上　図69-28～31、図70-1～11が口縁部資料である。I i類が卓越し、II ii類はその他の類型とともに少數である。外面の仕上げ状況はレベルaが主流で、レベルAも一定量存在し、レベルBとbは低調である。図69-29の指圧内にはミミズ腫れ状の微隆起線が「目」字状に認められる。図70-5の指圧も顕著である。図70-12は平底の底部である。

②S2(III-1層)　III-1層に設定したサンプリングからの出土である。図70-13・14は口縁部資料で、III ii類とII iii類にそれぞれ分かれれるが、外面調整は両者ともレベルAである。

③ブロック④(III-1層)　図70-15～23が口縁部資料である。I i類とII ii類がほぼ同数確認できる。外面調整はレベルAが卓越するが、調整レベルと特定の口唇部形成が関連する傾向は弱い。図70-24は胴部資料である。4条の痕跡的な接合痕が確認できる。

④ブロック⑤(III-3a層)　図70-25・26は底部資料である。25は平底で、底面に網代痕と思われる痕跡があるが明確でない。木葉の主脈のような痕跡も認められる。26は丸底気味の平底になる。

⑤ブロック⑥(III-3a層)　図70-27は口縁部資料である。II ii類の典型で、外面調整はレベルAである。

⑥III-3b層　図70-28～31が口縁部資料である。I i類とII ii類からなる。外面調整はレベルAとaである。図70-32は胴部資料であるが口端部を欠く口縁部付近の破片である。外面調整はレベルaに相当する。

(3) 1G/4G/5G/その他

①1G　図71-1～4は口縁部資料である。I i類とII ii類からなる。外面調整は各レベルからなるが、3は外面に溝状の接合痕が3条確認できる。

②4G　図71-5～9が口縁部資料である。I類が多く、中でもI i類が卓越している。一方でII類は認められない。外面調整はレベルBを主体とし、bが伴う。とくに外面の接合痕は溝状のものが顕著に見られる。5では器面の指圧痕が顕著であるが、指圧痕の単位が規則的で、単位の末端が短い直線状を呈する特徴がある。図71-10は最大径15.8cmの胴部資料である。使用痕は観察できない。上半部に溝状の接合痕が破線として残っている。図71-11は底部資料で上げ底気味の平底である。底縁部に網代様の圧痕が観察できる。

③5G　図71-12～15は口縁部資料である。I類はI ii類のみ認められ、II ii類が伴う。外面調整はレベルa～Bとなる。

④その他　図71-16は底部資料で僅かに上げ底となる。

## 第4節　まとめ

以上浦尻貝塚における製塙土器類の特徴と動向について口縁部資料を中心に見てきた。各出土单位では資料の個体数が少なくなるため明確な傾向を捉えきれていないが、いくつか指摘できる事項があるので補足を交え記述したい。

まずIV区の層位資料を確認してみる。IV区最下層のIII E層ではI i類の存在は明確ではなく、II ii類が伴っている。外面調整はレベルA～aの範囲にある。III D層では外面調整のレベルに変化はないが、I i類とII ii類との組み合わせが出現する。III C・D層では、外面調整にレベルbやBが出現し以後継続して行く傾向がある。またI i類とII ii類では前者の外面調整にはレベルAが出現せず、一方後者にはレベルBが出現しないという差異が認められる。最上層のIII A層ではII ii類にレベルAが

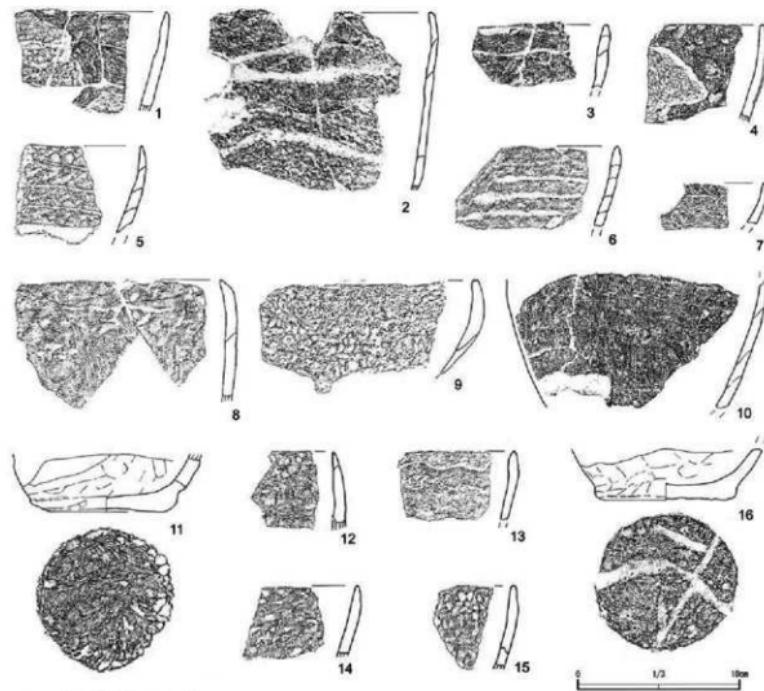


図71 出土製塙土器類⑤

出現しなくなり、I i 類でレベルBが卓越する状況になる。

IV区の各層からは大洞B C式～C 2式土器が混在して出土しており、各層の形成時期や製塙土器類の共伴時期の判断には困難を伴うが、概ね大洞C 1式を主体とする遺物包含層と考えられる。上層位に少なからず大洞C 2式が含まれることと外面調整のレベルBの動向には関連があるものと判断しておきたい。

7 2 Tでも複数の土器型式が混在しているが、大洞C 2式土器を伴うブロック24の製塙土器類は、I i 類と II ii 類ともに外面調整がレベルA／b／Bで構成されており、多様な特徴をもつ土器群で製塙土器類が組成する段階なのかもしれない。

1 G／4 G／5 Gは製塙土器類の出土は少ないものの、上記の調査区と比較して伴出した土器群の時期が限定できる傾向がある。1 Gは大洞C 1式を主体とし、4 Gは大洞C 2式末期から大洞A式期、5 Gは大洞C 2式新段階を中心とする時期とそれぞれ位置付けられる可能性がある。4 Gの製塙土器類にはII 類が認められず、外面調整がレベルBを主体としつつも溝状の接合痕を顕著に残す土器群であることは既に触れたが、これは時期的な特徴を明確に示しているものと判断して良いだろう。

このように今回報告した製塙土器類は、いくつかの段階のものを内包する土器群であることと、不明確な部分もあるが、型式変化の方向性についても示唆できることを指摘してまとめとする。

## 引用・参考文献

- 飯船村教育委員会 1984 『山辺沢』 飯船村文化財調査報告第5集  
いわき市教育委員会ほか 1988 『薄磯貝塚』 いわき市埋蔵文化財調査報告第19号  
大川清ほか編 1996 『日本土器事典』 雄山閣  
大熊町教育委員会 1983 『道平遺跡の研究』 大熊町文化財報告Ⅲ  
小高町教育委員会 1975 『宮田貝塚』 小高町文化財調査報告第1集  
小高町教育委員会 2004 『北原貝塚遺跡群』 小高町文化財調査報告第5集  
小高町教育委員会 2005 『浦尻貝塚1』 小高町文化財調査報告第6集  
郡山市教育委員会ほか 2005年 『阿武隈川墓塚開闢 町B遺跡』  
小林達雄編 1989 『縄文土器大観4 後期・晚期・続編文』 小学館  
小林達雄編 2008 『絶対 縄文土器』 株式会社アム・プロモーション  
高橋満 2006 「三貴地貝塚出土製塗土器の再検討」『福島県立博物館紀要』20号  
高橋龍三郎 1981 「亀ヶ岡式土器の研究」『北奥古代文化』12号  
玉川一郎 1986 「福島の縄文期製塗土器」『福島の研究1 地質考古編』清文堂  
玉川一郎・吉田秀亨 1987 「浦尻職場遺跡の縄文晚期土器と製塗土器」『福島考古』28号  
戸沢光則編 1994 『縄文時代研究事典』 東京堂出版  
浪江町教育委員会 1998 『七社宮』 浪江町埋蔵文化財調査報告第12番  
弘前大学人文学部 2004 『亀ヶ岡文化遺物実測図集』 弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告1  
弘前大学人文学部 2005 『青森県東津軽郡平館村今津遺跡発掘調査報告書』 弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告2  
弘前大学人文学部 2006 『亀ヶ岡文化遺物実測図集2』 弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告4  
福島県教育委員会ほか 1984 「一斗内遺跡」「母細井地区遺跡発掘調査報告16」 福島県文化財調査報告132集  
福島県教育委員会ほか 1986 「岩下A遺跡」「岩下B遺跡」「岩下C遺跡」  
福島県文化財調査報告150集  
福島県教育委員会ほか 1986 「日向南遺跡(第1・2次)」「真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅵ」 福島県文化財調査報告165集  
福島県教育委員会ほか 1987 「日向南遺跡(第3次)・鶴荷塚遺跡」「真野ダム関連遺跡発掘調査報告IX」  
福島県文化財調査報告182集  
福島県教育委員会ほか 1988 「羽白C遺跡(第1次)」「真野ダム関連遺跡発掘調査報告X」 福島県文化財調査報告194集  
福島県教育委員会ほか 1989 「羽白C遺跡(第2次)・宮内A遺跡(第1次)・宮内B(第2次)」  
福島県文化財調査報告182集  
福島県教育委員会ほか 1989 「王子前遺跡」「母焼地地区遺跡発掘調査報告26」 福島県文化財調査報告203集  
福島県教育委員会ほか 1995 「相馬開発関連遺跡発掘調査報告Ⅲ」 福島県文化財調査報告312集  
福島県教育委員会ほか 1999 「獅子内遺跡」「擇上川ダム遺跡発掘調査報告Ⅷ」 福島県文化財調査報告346集  
福島県教育委員会ほか 2006 「こまちダム遺跡発掘調査報告4 沢木木B遺跡」 福島県文化財調査報告第431集  
福島県立博物館 1988 「三貴地貝塚」 福島県立博物館調査報告第17集  
福島市教育委員会 1991 『南藤訪原遺跡』 福島市埋蔵文化財報告書第44集  
福島市教育委員会 2004 『宮畑遺跡(岡島)』 福島市埋蔵文化財報告書第173集  
福島市教育委員会 2004 『擇上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告13総括編』 福島市埋蔵文化財報告書第172集  
福島大学考古研究会 1971 『浦尻貝塚』 福島大学考古研究会発掘調査報告第1冊  
藤沼邦彦 1989 「亀ヶ岡式土器の文様の描き方」「考古学論叢Ⅰ」 斎沢長介先生還暉記念論文集刊行会  
双葉町教育委員会 『双葉・郡山貝塚の研究』 双葉町埋蔵文化財調査報告第7冊  
二島町教育委員会ほか 1990 『荒星敷遺跡II』 二島町文化財報告書10集  
南相馬市教育委員会 2006 『南相馬市内遺跡発掘調査報告書2』 南相馬市埋蔵文化財調査報告書第3集  
南相馬市教育委員会 2006 『浦尻貝塚2』 南相馬市埋蔵文化財調査報告書第1集  
南相馬市教育委員会 2007 『浦尻貝塚3』 南相馬市埋蔵文化財調査報告書第2集  
三春考古学研究会 1994 『西方前遺跡の縄文土器』  
山内清男 1930 『所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末』『考古学』1巻3号  
山内清男 1979 『日本先史土器の縄文』 先史考古学会

# 觀 察 表



表 1 土器觀察表

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
1・1	S101	深鉢	平縁。口：隆苔。柄：圓文。	III-1類	
1・2	S101	深鉢	柄：X字状彫帶。	III-4類	
1・3	S101	深鉢	柄：結節圓文。	IV-2類	
1・4	S101	深鉢	柄：沈線+圓文。	V-3類	
1・5	S101	深鉢	柄：圓文。	V-3類	
1・6	S102	深鉢	平縁。口一柄：隆苔区間+圓文。	II-3類	
1・7	S102	深鉢	柄：沈線区間+圓文。	II-3類	
1・8	SK134	深鉢	柄：沈線。	II群	
1・9	P389	深鉢	平縁。口：沈線区間+圓文。	II-3類	
1・10	P395	深鉢	平縁。口：隆苔区間。	III-1類	
1・11	P395	深鉢	柄：圓文。	V-3類	
2・1	SB01 SK52	深鉢	平縁。口：平行沈線。柄：磨削圓文。	IV-4類	
2・2	SB01 SK52	深鉢	柄：羽状圓文。	V-3類	
2・3	SB01 SK52	深鉢	柄：網目状撚糸文。	V-2類	
2・4	SB01 SK53	深鉢	平縁。口：B突起+沈線。柄：圓文。	IV-6類	
2・5	SB01 SK53	深鉢	網目平縁。口：沈線。柄：圓文。	IV-6類	
2・6	SB01 SK53	深鉢	底部。柄：網目状撚糸文。底：ケズリ。	V-2類	
2・7	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：平行沈線+弧状沈線。柄：圓文。	IV-4類	
2・8	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：継位彌描文。	V-1類	
2・9	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
2・10	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
2・11	SB01 SK62	深鉢	柄：網目状撚糸文。	V-2類	
2・12	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：圓文。	V-3類	
2・13	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
2・14	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：圓文。	V-3類	
2・15	SB01 SK66	深鉢	波状口縁。口：劍目+沈線。	III-3類	
2・16	SB01 SK66	深鉢	柄：平行沈線+充填圓文+突起。	III-4類	
2・17	SB01 SK66	深鉢	柄：沈線+充填劍目。	III-4類	
2・18	SB01 SK66	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填圓文。	III-4類	突起剝離
2・19	SB01 SK66	深鉢	柄：結節圓文。	IV-2類	
2・20	SB01 SK66	浅鉢	底部。柄：平行沈線+圓文。	IV群	
2・21	SB01 SK66	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
2・22	SB01 SK66	深鉢	柄：平行沈線+圓文。	V-3類	
2・23	SB01 SK83	深鉢	柄：網目状撚糸文。	V-2類	
2・24	SB02 SK68	深鉢	平縁。口：蛇行彌描文。	V-1類	
2・25	SB02 SK68	深鉢	柄：蛇行彌描文。	V-1類	
2・26	SB02 SK82	深鉢	柄：沈線+充填圓文。	III-4類	
2・27	SB02 SK82	深鉢	柄：蛇行彌描文。	V-1類	
2・28	SB02 SK88	深鉢	柄：非結束羽状圓文。	I-1類	胎土に織維。
2・29	SB02 SK88	深鉢	同一個体。 平縁。口：平行沈線+入組帶状文+充填圓文+橫割紙長突起。	III-4類	
2・30	SB02 SK88				
2・31	SB02 SK88	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
2・32	SB02 SK88	深鉢	柄：雲形文。	IV-4類	
2・33	SB02 SK88	深鉢	柄：網目状撚糸文。	V-2類	
3・1	SB03 SK64	深鉢	柄：圓文。	IV-4類	
3・2	SB03 SK64	深鉢	柄：網目状撚糸文。	V-2類	

器番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
3・3	SB03 SK72	深鉢	胴：沈線+縦位撚糸文。	V-2類	
3・4	SB03 SK81	深鉢	胴：弧状沈線+充填圓文+突起。	III-4類	
3・5	SB03 SK81	深鉢	平縁。口：陰面+突起+沈線。	IV-5類	
3・6	SB03 SK84	深鉢	平縁。口：陰面+突起+沈線。	V-2類	
3・7	SB04 SK90	深鉢	平縁。口：横位撚糸文+斜尖。	III-3類	
3・8	SB04 SK90	深鉢	胴：蛇行撚糸文。	V-1類	
3・9	SB04 SK90	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・10	SB04 SK98	深鉢	波状口縁。口：刻目+平行沈線+充填圓文。	III-3類	
3・11	SB04 SK98	深鉢	胴：沈線+撚糸文。	V-3類	
3・12	SB04 SK98	深鉢	胴：撚糸文。	V-3類	
3・13	SB04 SK98	深鉢	胴：沈線+撚糸文。	V-3類	
3・14	SB04 SK91	深鉢	胴：沈線区画+撚糸文。	II-2~3類	
3・15	SB04 SK91	深鉢	胴：結節繩文。	IV-2類	
3・16	SB04 SK91	深鉢	胴：縱位撚糸文。	V-1類	
3・17	SB04 SK91	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・18	SB04 SK91	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・19	SB04 SK91	深鉢	胴：R.L.繩文。	I-1類	胎土に鐵斑
3・20	SB04 SK101	深鉢	波状口縁。口：撚糸文。	III-3類	
3・21	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：弧状沈線+充填圓文。	III-3類	
3・22	SB04 SK101	深鉢	胴：弧状沈線+充填圓文。	III-4類	
3・23	SB04 SK101	深鉢	胴：陰面+刻目+撚糸文。	III-3類	
3・24	SB04 SK101	深鉢	山形突起。口：平行沈線+充填刻目文。	III-4類	
3・25	SB04 SK101	深鉢	胴：平行沈線+充填圓文+突起。	III-4類	
3・26	SB04 SK101	注口or蓋	胴：2条1対弧状平行沈線。	III-4類	
3・27	SB04 SK101	深鉢	胴：羊齒狀文。胴：結節繩文。	IV-2類	
3・28	SB04 SK101	深鉢	胴：磨酒繩文。	IV-4類	
3・29	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：横位撚糸文+縱位撚糸文。	V-1類	
3・30	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：横位撚糸文。	V-1類	
3・31	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：横位撚糸文+縱位撚糸文。	V-1類	
3・32	SB04 SK101	浅鉢	胴：縱位撚糸文。	V-2類	
3・33	SB04 SK101	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・34	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：撚糸文。	V-3類	
3・35	SB04 SK101	深鉢	胴：撚糸文。	V-3類	
4・1	SK06	開鉢	胴：平行沈線+光張圓文。	III-4類	
4・2	SK06	深鉢	胴：縱位撚糸文。	V-2類	
4・3	SK21	深鉢	胴：縱位撚糸文。	V-1類	
4・4	SK21	深鉢	胴：縱位撚糸文。	V-1類	
4・5	SK21	深鉢	胴：縱位撚糸文。	V-1類	
4・6	SK21	深鉢	胴：無文。	V-4類	
4・7	SK22	深鉢	平縁。口：磨消繩文。	IV-4類	
4・8	SK22	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	外面に指彌压痕
4・9	SK26	深鉢	胴：縱位撚糸文。	V-1類	
4・10	P51	深鉢	平縁。口：三叉文。胴：撚糸文。	IV-1類	
4・11	P51	深鉢	胴：弧状平行沈線区画+圓文。	II-2~3類	
4・12	SK27	深鉢	胴：如意+沈線+充填圓文。	III-3類	
4・13	SK27	深鉢	胴：横位撚糸文+縱位撚糸文。	V-1類	
4・14	SK27	深鉢	胴：羽状圓文。	V-3類	

器番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
4・15	SK29	深鉢	平縁。口：縱割突起+調文。	III-4類	
4・16	SK29	深鉢	胴：調文+平行沈線。	V-3類	
4・17	SK30	深鉢	胴：沈線+光埴調文。	III-3類	
4・18	P79	深鉢	刺突平縁。口：沈線+沈線内刺突。	IV-4類	
4・19	P79	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
4・20	P79	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
4・21	SK35	深鉢	胴：縱條捺文。	V-1類	
4・22	SK35	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
4・23	SK39	深鉢	平縁。口：平行沈線+弧状沈線。	IV群	
4・24	SK41	蓋	平縁。口：沈線。	V-4類	
4・25	SK41	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
4・26	SK50	浅鉢	小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：調文。	IV-6類	
4・27	SK58	浅鉢	底部。胴：沈線。	V-4類	
4・28	SK58	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
4・29	P155	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
4・30	P160	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
4・31	SK65	深鉢	胴：調文。	V-3類	
4・32	P187	浅鉢	底部。胴：平行沈線。	IV群	
4・33	P187	深鉢	底部。胴：調文。	V-3類	
4・34	SK70	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
4・35	P248	深鉢	胴：平行沈線。	III-4類	
4・36	P248	深鉢	胴：無文（ミガキ）。	V-4類	
4・37	P210	深鉢	刻目平縁。口：平行沈線。	IV-4類	
4・38	P210	深鉢	平縁。口：A突起+平行沈線。	IV-4類	
4・39	SK73	深鉢	胴：結節調文。	IV-2類	
4・40	SK73	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縱位櫛描文。	V-1類	
4・41	SK73	深鉢	平縁。口：縱割突起+平行沈線。	III-4類	
5・1	SK75	深鉢	縱割突起。口：三叉状沈線。	III-4類	
5・2	SK75	深鉢	胴：縱條櫛文。	V-1類	
5・3	SK76	深鉢	胴：入組帶文+充填調文+刺突。	III-4類	
5・4	SK79	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文。	III-4類	
5・5	SK80	深鉢	胴：入組文。	III-4類	
5・6	SK80	深鉢	胴：結節調文。	IV-2類	
5・7	P236	深鉢	平縁。口：刻目+沈線+調文。	III-3類	
5・8	SK89	深鉢	縱割突起。口：平行沈線。	III-4類	
5・9	SK89	深鉢	平縁。口：沈線。	III-4類	
5・10	SK77	深鉢	胴：沈線+刻目。	III-4類	
5・11	SK77	深鉢	平縁。口：橫位櫛描文+蛇形櫛描文。	V-1類	
5・12	SK77	深鉢	胴：橫位櫛描文+蛇形櫛描文。	V-1類	
5・13	SK77	深鉢	平縁。口：胴：調文（頸部調文消）。	V-3類	
5・14	SK77	深鉢	胴：交差櫛描文。	V-1類	
5・15	P249	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文。	III-4類	
5・16	SK96	深鉢	胴：縱位櫛描文。	V-1類	
5・17	P278	深鉢	胴：橫位櫛描文+縱位櫛描文。	V-1類	
5・18	P278	深鉢	胴：縱位櫛描文。	V-1類	
5・19	SK105	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填調文+突起。	III-4類	
5・20	SK105	深鉢	平縁。口：A突起+平行沈線。	IV-5類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
5・21	SK105	浅鉢	波状口縁。口：平行沈線。胴：メガネ状付帯文+雲形文。	IV-4類	
5・22	SK107	深鉢	平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
5・23	SK107	深鉢	胴：列点文；結節縄文。	IV-3類	
5・24	SK107	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
5・25	SK107	深鉢	胴：蛇行彌椎文。	V-1類	
5・26	SK108	深鉢	胴：平行沈線+充填周目文。	III-4類	
5・27	SK108	深鉢	胴：平行沈線。	III-4類	
5・28	SK108	深鉢	平縁。口：横位彌椎文+縱位彌椎文。	V-1類	
5・29	P297	深鉢	胴：蛇行彌椎文。	V-1類	
5・30	P297	深鉢	平縁。口：三叉文。	IV-1類	
5・31	P311	深鉢	胴：蛇行彌椎文。	V-1類	
5・32	SK113	深鉢	胴：平行沈線。	IV-5類	
5・33	SK115	深鉢	胴：羊齒状文+縄文。	IV-2類	
5・34	SK120	深鉢	突起：刺突+沈線。	III-3類	
5・35	SK120	浅鉢	胴：沈線+結節縄文	IV-2類	
5・36	SK120	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
6・1	SK123	深鉢	刻目平縁。口：沈線開刻目。胴：縄文。	IV-6類	
6・2	SK123	深鉢	平縁。口：平行沈線+C字状沈線。	IV-4類	
6・3	SK123	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
6・4	SK123	鉢	胴：結節羽状縄文。	V-3類	
6・5	SK123	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
6・6	SK123	深鉢	胴：平行沈線+C字状沈線。	IV-4類	
6・7	SK123	深鉢	胴：平行沈線+雲形文。	IV-4類	
6・8	SK123	浅鉢	底部。胴：縄文+平行沈線。	IV群	
6・9	SK123	深鉢	胴：縱位彌椎文。	V-1類	
6・10	SK123	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
6・11	SK123	深鉢	胴：横位撚糸文+縱位撚糸文。	V-1類	
6・12	SK123	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
6・13	SK125	深鉢	胴：縱位彌椎文。	V-1類	
6・14	SK126	深鉢	胴：唐酒溝文+平行沈線。	IV群	
6・15	SK126	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
6・16	SK126	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
6・17	SK126	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
6・18	SK126	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
6・19	SK126	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
7・1	SK18	深鉢	胴：短沈線。	I-1類	胎土に織縫
7・2	SK18	深鉢	胴：結束羽状縄文。	I-1類	胎土に織縫
7・3	SK18	深鉢	胴：原本不明。	I-1類	胎土に織縫
7・4	SK18	深鉢	胴：H L 縄文。	I-1類	胎土に織縫
7・5	SK23	深鉢	平縁。口：刻目+山形状平行沈線+縄文。	I-2類	
7・6	SK23	深鉢	胴：縄文。	I群	
7・7	SK46	深鉢	平縁。口：弧状沈線区画+縄文。	II-2~3類	
7・8	SK162	深鉢	胴：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に織縫
7・9	SK162	深鉢	胴：縱位撚糸+弧状沈線。	II-1類	
7・10	SK162	深鉢	胴：縱位結節縄文。	II-1類	
7・11	SK162	深鉢	胴：弧状沈線区画+縄文。	II-2~3類	
7・12	SK163	深鉢	胴：沈線区画+縄文。	II-3類	

番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
7・13	SK153	深鉢	胴：弧状隆起区画+網文。	II-3類	
7・14	SK153	深鉢	胴：縱位沈線+網文。	II群	
7・15	SK153	深鉢	胴：R.L.網文。	I-1類	胎土に織維
7・16	SK155	深鉢	平縁。口：刺突+コンバスト文。	II-1類	
7・17	SK155	深鉢	胴：網文。	II群	
7・18	SK159	深鉢	胴：沈線区画+網文。	II-2~3類	
8・1	SK17	深鉢	平縁。口-胴：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
8・2	SK17	深鉢	胴：横位沈線+弧状沈線。	IV-4類	
8・3	SK17	深鉢	胴：横位沈線+弧状沈線。	IV-4類	
8・4	SK17	深鉢	底部、胴：無文（内部ケズリ）。	V-4類	外面に輪積痕
9・1	SK04	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填剣目。胴：入組文+刺突。	III-4類	
9・2	SK04	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
9・3	SK04	深鉢	平縁。口：網目状櫛条文。	V-2類	
9・4	SK04	深鉢	胴：網文。	V-3類	
9・5	SK06	深鉢	胴：非結束羽状網文。	I-1類	胎土に織維
9・6	SK06	深鉢	胴：縱位櫛描文。	V-1類	
9・7	SK102	深鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
9・8	SK102	深鉢	胴：網文+櫛描文。	V-3類	
9・9	SK103	深鉢	胴：縱位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
9・10	SK103	深鉢	平縁。口：縱割突起+沈線+充填網文。	III-4類	
9・11	SK103	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
9・12	SK104	深鉢	胴：弧状平行沈線+網文。	IV-4類	
9・13	SK114	深鉢	胴：網目状櫛条文。	V-2類	
9・14	SK116	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縱位櫛描文。	V-1類	
9・15	SK118	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
9・16	SK118	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縱位櫛描文。	V-1類	
9・17	SK112	深鉢	胴：三叉文+沈線+網文。	IV-1類	
9・18	SK112	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縱位櫛描文。	V-1類	
9・19	SK112	深鉢	胴：網目状櫛条文。	V-2類	
9・20	SK117	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填網文。	III-4類	
9・21	SK117	深鉢	胴：網目状櫛条文。	V-2類	
9・22	SK128	深鉢	胴：網目状櫛条文。	V-2類	
9・23	SK128	深鉢	刻目平縁。口：平行沈線。胴：網文。	IV-6類	
9・24	SK172	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	補修孔
9・25	SK175	深鉢	底部。胴：無文。	V-4類	
9・26	SK177	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
9・27	SK177	深鉢	胴：沈線+網文。	V-3類	
9・28	SK176	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文+突起。	III-4類	
9・29	SK176	深鉢	胴：横位沈線+充填網文+刺突。	III-4類	
9・30	SK176	深鉢	胴：網文。	V-3類	
9・31	SK176	深鉢	胴：縱位櫛描文。	V-1類	
10・1	IV区III A層	注口	注口部。注口：玉抱三叉文。	IV-1類	
10・2	IV区III A層	深鉢	平縁。口：羊齒状文+沈線+網文。	IV-2類	
10・3	IV区III A層	鉢	平縁。口：羊齒状文。胴：網文。	IV-2類	
10・4	IV区III A層	深鉢	胴：羊齒状文+結節網文。	IV-2類	
10・5	IV区III A層	深鉢	沈線突起B突起。口：列文。胴：網文。	IV-2類	
10・6	IV区III A層	深鉢	平縁。口：刻目+沈線間刺突。胴：網文。	IV-6類	

固番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
10・7	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：平行沈線+捲文。	IV-3類	
10・8	IV区ⅢA層	浅鉢	浮雕状装饰口縁。口：沈線。胴：雲形文。	IV-3類	補修孔
10・9	IV区ⅢA層	浅鉢	浮雕状装饰口縁。口：沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
10・10	IV区ⅢA層	浅鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
10・11	IV区ⅢA層	浅鉢	底部。胴：磨消捲文。	IV-3類	
10・12	IV区ⅢA層	浅鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
10・13	IV区ⅢA層	盃	胴：雲形文。	IV-3類	
10・14	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：捲文。	IV-6類	
10・15	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：捲文。	IV-6類	
10・16	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：捲文。	IV-6類	
10・17	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：捲文。	IV-6類	
10・18	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：捲文。	IV-6類	
10・19	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：捲文。	IV-6類	
10・20	IV区ⅢA層	深鉢	底部。底：沈線。	V-4類	
10・21	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：蛇行彫描文。	V-1類	
10・22	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：刻目+捲文+沈線。	V-3類	
10・23	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：捲文+沈線。	V-3類	
10・24	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：横位彫描文+蛇行彫描文。	V-1類	
10・25	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：横位彫描文。	V-1類	
10・26	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：弧状彫描文+蛇行彫描文。	V-1類	補修孔
10・27	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：弧状彫描文+蛇行彫描文。	V-1類	
11・1	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：蛇行彫描文。	V-1類	
11・2	IV区ⅢA層	深鉢	胴：縱位彫描文。	V-1類	
11・3	IV区ⅢA層	深鉢	胴：蛇行彫描文。	V-1類	
11・4	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
11・5	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
11・6	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
11・7	IV区ⅢA層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
11・8	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：捲文。	V-3類	
11・9	IV区ⅢA層	深鉢	折沿口縁。口：捲文。	V-3類	
11・10	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：捲文。	V-3類	
11・11	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：捲文。	V-3類	
11・12	IV区ⅢA層	短颈壺	平縁。口：捲文。	V-3類	
11・13	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：捲文。	V-3類	外面に輪積痕
11・14	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：捲文。	V-3類	外面に指擦痕
11・15	IV区ⅢA層	深鉢	胴：捲文。	V-3類	
11・16	IV区ⅢA層	深鉢	底部。胴：捲文。	V-3類	
11・17	IV区ⅢA層	深鉢	底部。胴：捲文。	V-3類	
11・18	IV区ⅢA層	鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
11・19	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
11・20	IV区ⅢA下層	深鉢	小波状口縁。口：沈線周刺突。胴：捲文。	IV-6類	
11・21	IV区ⅢA下層	深鉢	刻目平縁。口：沈線周刺突。胴：結節捲文。	IV-6類	
11・22	IV区ⅢA下層	深鉢	小波状口縁。口：沈線周刺突+B突起。胴：羽状捲文。	IV-6類	補修孔
12・1	IV区ⅢA下層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：捲文。	IV-6類	
12・2	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：横位彫描文+縱位彫描文。	V-1類	
12・3	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
12・4	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	補修孔

番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
12・5	IV区III A下層	深鉢	平縁。口：網目状撚文。	V-2類	
12・6	IV区III A下層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
12・7	IV区III A下層	深鉢	平縁。口：結節羽状文。	V-3類	
12・8	IV区コラムサンブルIII A層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：沈線。柄：雲形文。	IV-3類	
12・9	IV区コラムサンブルIII A層	深鉢	平縁。口：縱位櫛撚文。	V-1類	
12・10	IV区コラムサンブルIII A層	深鉢	平縁。口網目状撚文。	V-2類	
12・11	IV区コラムサンブルIII A層	深鉢	柄：沈線内刺突+撚文。	IV-6類	
12・12	IV区コラムサンブルIII A層	短頸壺	平縁。口：撚文。	V-3類	
13・1	IV区III B層	深鉢	平縁。口：三叉文。柄：撚文。	IV-1類	
13・2	IV区III B層	深鉢	刻目小波状口縁。口：列点文。柄：結節撚文。	IV-2類	
13・3	IV区III B層	深鉢	刻目小波状口縁。口：C字状沈線+羊齒状文。柄：羽状撚文。	IV-2類	
13・4	IV区III B層	深鉢	柄：列点文+結節撚文。	IV-2類	
13・5	IV区III B層	深鉢	平縁。口：C字状沈線+羊齒状文。柄：撚文。	IV-2類	
13・6	IV区III B層	深鉢	刻目小波状口縁。口：沈線間刺突。柄：張状沈線+撚文。	IV-4類	
13・7	IV区III B層	深鉢	沈線面B突起。口：B突起+羊齒状文。柄：雲形文。	IV-3類	
13・8	IV区III B層	深鉢	刻目小波状口縁。口：列点文。柄：結節撚文。	IV-2類	
13・9	IV区III B層	深鉢	刻目小波状口縁。口：刺突+平行沈線。柄：結節撚文。	IV-2類	
13・10	IV区III B層	深鉢	刺突小波状口縁。柄：結節撚文。	IV-2類	
13・11	IV区III B層	鉢	平縁。口：列点文。柄：結節撚文。	IV-2類	
13・12	IV区III B層	深鉢	平縁。口：結節撚文。	IV-2類	
13・13	IV区III B層	深鉢	平縁。口：結節撚文。	IV-2類	
13・14	IV区III B層	深鉢	柄：沈線+結節撚文。	IV-2類	
13・15	IV区III B層	深鉢	平縁。口：結節撚文。	IV-2類	
13・16	IV区III B層	深鉢	小波状口縁。口：沈線間刺突。柄：撚文。	IV-6類	
13・17	IV区III B層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+沈線内刺突。柄：撚文。	IV-6類	
13・18	IV区III B層	深鉢	平縁。口：C字状沈線+沈線内刺突。柄：撚文。	IV-6類	
13・19	IV区III B層	深鉢	刻目小波状口縁。口：沈線内刺突。柄：撚文。	IV-6類	
14・1	IV区III B層	深鉢	刺突小波状口縁。口：平行沈線。柄：沈線間刺突+撚文。	IV-6類	
14・2	IV区III B層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。柄：撚文。	IV-6類	
14・3	IV区III B層	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。柄：撚文。	IV-6類	
14・4	IV区III B層	深鉢	平縁。口：平行沈線。柄：雲形文。	IV-3類	
14・5	IV区III B層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。柄：雲形文。	IV-3類	
14・6	IV区III B層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。柄：雲形文。	IV-3類	
14・7	IV区III B層	深鉢	平縁。口：沈線間刺突。柄：雲形文。	IV-3類	
14・8	IV区III B層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：無文。柄：雲形文。	IV-3類	
14・9	IV区III B層	深鉢	平縁。口：平行沈線。柄：雲形文。	IV-4類	
14・10	IV区III B層	深鉢	平縁。口：沈線。柄：三角状沈線+C字状沈線。	IV-4類	
14・11	IV区III B層	深鉢	平縁。口：平行沈線。柄：椿円状區画。	IV-4類	
14・12	IV区III B層	深鉢	柄：雲形文。	IV-4類	
14・13	IV区III B層	深鉢	柄：乳状沈線。	IV-4類	
14・14	IV区III B層	深鉢	柄：雲形文。	IV-3類	
14・15	IV区III B層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線+撚文。	IV-6類	
14・16	IV区III B層	深鉢	刺突小波状口縁。口：平行沈線+撚文。	IV-6類	
14・17	IV区III B層	深鉢	刺突小波状口縁。口：平行沈線+撚文。	IV-6類	
14・18	IV区III B層	深鉢	平縁。口：平行沈線。	V-4類	
14・19	IV区III B層	深鉢	平縁。口：平行沈線。	V-4類	
14・20	IV区III B層	深鉢	平縁。口：平行沈線。	V-4類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
14-21	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位拂捺文。	V-1類	
14-22	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位拂捺文+強状拂描文+蛇行拂描文。	V-1類	
14-23	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：蛇行拂描文。	V-1類	
14-24	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位拂捺文+蛇行拂描文。	V-1類	補修孔
15-1	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位拂捺文+蛇行拂描文。	V-1類	
15-2	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位拂捺文+蛇行拂描文。	V-1類	
15-3	IV区ⅢB層	深鉢	胴：蛇行拂描文。	V-1類	
15-4	IV区ⅢB層	深鉢	胴：横位拂描文。	V-1類	
15-5	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位拂捺文+蛇行拂描文。	V-1類	
15-6	IV区ⅢB層	深鉢	胴：蛇行拂描文。	V-1類	
15-7	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状捺余文。	V-2類	
15-8	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状捺余文。	V-2類	
15-9	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状捺余文。	V-2類	
15-10	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状捺余文+網文。	V-2類	
15-11	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状捺余文。	V-2類	
15-12	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状捺余文。	V-2類	
15-13	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状捺余文。	V-2類	
15-14	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状捺余文。	V-2類	
16-1	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状捺余文。	V-2類	
16-2	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状捺余文。	V-2類	
16-3	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状捺余文。	V-2類	
16-4	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状捺余文。	V-2類	
16-5	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
16-6	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
16-7	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
16-8	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
16-9	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
16-10	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網文+沈綻。	V-3類	
16-11	IV区ⅢB層	深鉢	底鉢：網文。胴：網文。	V-3類	
16-12	IV区ⅢB層	注口？	平縁。口：無文《外面ミガキ》	V-4類	口唇部面取り
16-13	IV区ⅢB層	注口？	平縁。口：無文《外面ケズリ》	V-4類	
16-14	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文《外面ケズリ》	V-4類	
16-15	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文《外面ケズリ》	V-4類	
16-16	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文《外面ケズリ》	V-4類	
16-17	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
16-18	IV区ⅢB層	浅鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
16-19	IV区コラムサンブルⅢB層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈綻。胴：雲形文。	IV-3類	補修孔
16-20	IV区コラムサンブルⅢB層	注口？	肩：浮彫状裝飾。胴：沈綻。	IV群	
16-21	IV区コラムサンブルⅢB層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈綻間刺突。胴：網文。	IV-6類	
16-22	IV区コラムサンブルⅢB層	深鉢	平縁。口：無文。胴：則目+拂描文。	V-1類	
16-23	IV区コラムサンブルⅢB層	深鉢	胴：蛇行拂描文。	V-1類	
16-24	IV区コラムサンブルⅢB層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	補修孔
16-25	IV区コラムサンブルⅢB層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
17-1	IV区C層	深鉢	平縁。口：則目+平行沈綻。胴：網文。	III-3類	
17-2	IV区C層	深鉢	平縁。口：平行沈綻。胴：弧状沈綻。	III-4類	
17-3	IV区C層	深鉢	刺突小波状口縁。口：則目+列点文+網文。	IV-2類	
17-4	IV区C層	深鉢	刺突平縁。口：列点文。胴：結節繩文。	IV-2類	

器番号	出土地点	器種	主　文　義　様	分類	備　考
17- 5	IV区III C層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：竪列羽状彫文。	IV- 6類	
17- 6	IV区III C層	深鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：彫文。	IV- 6類	
17- 7	IV区III C層	深鉢	平縁。口：結節彫文。	IV- 2類	
17- 8	IV区III C層	深鉢	平縁。口：沈線+結節彫文。	IV- 2類	
17- 9	IV区III C層	深鉢	平縁。口：結節彫文。	IV- 2類	
17-10	IV区III C層	深鉢	胴：列点文+結節彫文。	IV- 2類	
17-11	IV区III C層	深鉢	胴：列点文+結節彫文。	IV- 2類	
17-12	IV区III C層	浅鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：彫形文。	IV- 3類	
17-13	IV区III C層	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：彫形文。	IV- 3類	
17-14	IV区III C層	鉢	平縁。口：平行沈線。胴：彫形文。	IV- 3類	
17-15	IV区III C層	浅鉢	浮雕状装饰口縁。口：平行沈線。胴：彫形文。	IV- 3類	
17-16	IV区III C層	浅鉢	沈線裝飾B突起。口：沈線間刺突。胴：彫形文。	IV- 3類	
17-17	IV区III C層	浅鉢	胴：彫形文。	IV- 3類	
17-18	IV区III C層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：彫文。	IV- 6類	
17-19	IV区III C層	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：彫文。	IV- 6類	
17-20	IV区III C層	深鉢	沈線裝飾突起。口：沈線間刺突。胴：羽状彫文。	IV- 6類	
17-21	IV区III C層	深鉢	刺突平縁。口：平行沈線。胴：網目状彫文。	IV- 6類	
17-22	IV区III C層	深鉢	胴：メガネ状付帯文。	IV- 4類	
18- 1	IV区III C層	深鉢	平縁。口：矩口+沈線+横位彫描文。	V- 1類	
18- 2	IV区III C層	深鉢	平縁。口：横位彫描文+蛇行彫描文。	V- 1類	
18- 3	IV区III C層	深鉢	平縁。口：横位彫描文+蛇行彫描文。	V- 1類	
18- 4	IV区III C層	深鉢	平縁。口：横位彫描文+蛇行彫描文。	V- 1類	
18- 5	IV区III C層	深鉢	平縁。口：横位彫描文+蛇行彫描文。	V- 1類	
18- 6	IV区III C層	深鉢	平縁。口：横位彫描文+蛇行彫描文。	V- 1類	
18- 7	IV区III C層	深鉢	平縁。口：蛇行彫描文。	V- 1類	
18- 8	IV区III C層	深鉢	平縁。口：蛇行彫描文。	V- 1類	
19- 1	IV区III C層	深鉢	平縁。口：不規則な彫描文。	V- 1類	
19- 2	IV区III C層	深鉢	胴：蛇行彫描文。	V- 1類	
19- 3	IV区III C層	深鉢	胴：蛇行彫描文。	V- 1類	
19- 4	IV区III C層	深鉢	胴：蛇行彫描文。	V- 1類	
19- 5	IV区III C層	深鉢	胴：蛇行彫描文。	V- 1類	
19- 6	IV区III C層	深鉢	平縁。口：網目状彫文。	V- 2類	
19- 7	IV区III C層	深鉢	平縁。口：網目状彫文。	V- 2類	
19- 8	IV区III C層	深鉢	平縁。口：網目状彫文。	V- 2類	
19- 9	IV区III C層	深鉢	平縁。口：網目状彫文。	V- 2類	
20- 1	IV区III C層	深鉢	平縁。口：網目状彫文。	V- 2類	
20- 2	IV区III C層	深鉢	平縁。口：網目状彫文。	V- 2類	
20- 3	IV区III C層	深鉢	平縁。口：網目状彫文。	V- 2類	
20- 4	IV区III C層	深鉢	胴：網目状彫文。	V- 2類	
20- 5	IV区III C層	深鉢	胴：網目状彫文。	V- 2類	
20- 6	IV区III C層	深鉢	胴：網目状彫文。	V- 2類	
20- 7	IV区III C層	深鉢	胴：網目状彫文。	V- 2類	
20- 8	IV区III C層	深鉢	胴：網目状彫文。	V- 2類	
20- 9	IV区III C層	深鉢	胴：網目状彫文。	V- 2類	
20-10	IV区III C層	深鉢	平縁。口：羽状彫文。	V- 3類	
20-11	IV区III C層	深鉢	平縁。口：彫文。	V- 3類	
20-12	IV区III C層	深鉢	平縁。口：彫文。	V- 3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
20-13	IV区ⅢC層	深鉢	網：縦文。	V-3類	
20-14	IV区ⅢC層	深鉢	網：縦文。	V-3類	
21-1	IV区ⅢC層	深鉢	網：縦文。	V-3類	
21-2	IV区ⅢC層	深鉢	網：縦文。	V-3類	
21-3	IV区ⅢC層	皿	底部、底：縦文。	V-3類	
21-4	IV区ⅢC層	鉢	平縁。口：刻目。	V-4類	
21-5	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
21-6	IV区ⅢC層	壺	網：無文。	V-4類	
21-7	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
21-8	IV区ⅢC層	浅鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
21-9	IV区ⅢC層	深鉢	網：無文（内外面ケズリ・ミガキ）。	V-4類	
21-10	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	内面に指圧圧痕
21-11	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	底部。網：縦文。	V-3類	
21-12	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
21-13	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
22-1	IV区ⅢC・D層	深鉢	網：弧状沈線+充填縄文+突起。	III-4類	
22-2	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：羊首状文。	IV-2類	
22-3	IV区ⅢC・D層	深鉢	網突平縁。口：網突+列点文。網：結節縦文。	IV-2類	
22-4	IV区ⅢC・D層	深鉢	網突小波状口縁。口：平行沈線。網：羊首状文+縦文。	IV-2類	
22-5	IV区ⅢC・D層	深鉢	網突平縁。口：列点文。網：結節縦文。	IV-2類	
22-6	IV区ⅢC・D層	深鉢	網突平縁。口：列点文。網：結節縦文。	IV-2類	
22-7	IV区ⅢC・D層	深鉢	網：列点文+結節縦文。	IV-2類	
22-8	IV区ⅢC・D層	深鉢	網：列点文+結節縦文。	IV-2類	
22-9	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：沈線間刻突。網：縦文。	IV-6類	
22-10	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口：沈線間刻突。網：雲形文。	IV-2～3類	
22-11	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口：平行沈線。網：雲形文。	IV-3類	
22-12	IV区ⅢC・D層	鉢	沈線装飾B突起。口：羊首状文。網：雲形文。	IV-2類	
22-13	IV区ⅢC・D層	浅鉢	浮甲状裝飾口縁。口：平行沈線。網：雲形文。	IV-3類	
22-14	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：平行沈線。網：雲形文。	IV-3類	
22-15	IV区ⅢC・D層	鉢	刻目小波状口縁。口：網：無文。網：沈線間刻目+雲形文。	IV-4類	
22-16	IV区ⅢC・D層	深鉢	網突平縁。口：沈線間刻突。網：縦文。	IV-6類	
22-17	IV区ⅢC・D層	浅鉢	底部。網：雲形文+蛇行櫛描文。	IV-3類	
22-18	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
22-19	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
23-1	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
23-2	IV区ⅢC・D層	深鉢	網：蛇行櫛描文。	V-1類	
23-3	IV区ⅢC・D層	深鉢	網：蛇行櫛描文。	V-1類	
23-4	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
23-5	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：縦文。	V-3類	
23-6	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：縦文。	V-3類	
23-7	IV区ⅢC・D層	壺	網：縦文。	V-3類	
23-8	IV区ⅢC・D層	鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
23-9	IV区ⅢC・D層	鉢	平縁。口：無文。	V-4類	外曲に輪積底
23-10	IV区ⅢC・D層	鉢	網：無文。	V-4類	外曲に輪積底
23-11	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網突突起+平行沈線+充填縄文。	III-4類	
23-12	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：平行沈線。	III-4類	
23-13	IV区ⅢD層	鉢	刻目小波状口縁。口：羊首状文。網：結節縦文。	IV-2類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
23-14	IV区ⅢD層	鉢	刺突小波状口縁。口：沈線+半衝状文。胴：結節調文。	IV-2類	
23-15	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：沈線+結節調文。	IV-2類	
23-16	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：沈線+結節調文。	IV-2類	
23-17	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：結節調文。	IV-2類	
23-18	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：結節調文。	IV-2類	
23-19	IV区ⅢD層	注口	肩：三叉状沈線+弧状沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
24-1	IV区ⅢD層	深鉢	刺突小波状口縁。口一胴：半衝状文+結節調文。	IV-2類	
24-2	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24-3	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24-4	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24-5	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24-6	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24-7	IV区ⅢD層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
24-8	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚条文。	V-2類	
24-9	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚条文。	V-2類	
24-10	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚条文。	V-2類	
24-11	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚条文。	V-2類	
24-12	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚条文。	V-2類	
24-13	IV区ⅢD層	深鉢	網：網目状撚条文。	V-2類	
24-14	IV区ⅢD層	深鉢	網：網目状撚条文。	V-2類	
24-15	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
24-16	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
24-17	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
24-18	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
25-1	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
25-2	IV区ⅢD層	短頸壺	平縁。口：無文。	V-4類	外面に輪積状
25-3	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：調文。	V-3類	
25-4	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：無文（ケズリ）。	V-4類	
25-5	IV区コラムサンブルⅢD層	鉢	沈線表裏突起。口：刻目+半衝状文。胴：雲形文+調文。	IV-2類	
25-6	IV区コラムサンブルⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
25-7	IV区コラムサンブルⅢD層	深鉢	網：網目状撚条文。	V-2類	
25-8	IV区ⅢD・E層	深鉢	平縁。口：刻目+弧状沈線。	III-3類	
25-9	IV区ⅢD・E層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+充填調文。	III-3類	
25-10	IV区ⅢD・E層	深鉢	平縁。口：羽状調文。	V-3類	
25-11	IV区ⅢD・E層	深鉢	波状口縁。口：無文（内外面ミガキ）。	III-3類	
25-12	IV区ⅢD・E層	深鉢	網：平行沈線+弧状沈線。	III-4類	
25-13	IV区ⅢD・E層	深鉢	底部。底：櫛描文。	V-1類	
25-14	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：山形状突起+沈線+調文。胴：調文。	III-4類	
25-15	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縱割突起+比跡+充填調文。	III-4類	
25-16	IV区ⅢE層	深鉢	網：弧状沈線+充填調文。	III-4類	
25-17	IV区ⅢE層	深鉢	網：弧状沈線+充填調文。	III-4類	
25-18	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：山形状突起+内外面ミガキ。	III-4類	
25-19	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縱割突起+平行沈線+充填調文。	III-4類	
25-20	IV区ⅢE層	深鉢	網：弧状沈線+充填調文+突起。	III-4類	
25-21	IV区ⅢE層	深鉢	網：平行沈線+弧状沈線+充填刻口文+突起。	III-4類	
25-22	IV区ⅢE層	深鉢	網：平行沈線+充填刻口文+横状把手+突起。	III-4類	
25-23	IV区ⅢE層	深鉢	網：入組文+充填調文。	III-4類	

図版号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
25-24	IV区ⅢE層	浅鉢	平線。口：羊齒繩文。腹：結節繩文。	IV-2類	
25-25	IV区ⅢE層	深鉢	刺突平線。口：列点文。腹：結節繩文。	IV-2類	
25-26	IV区ⅢE層	深鉢	腹：半圓状文十結節繩文。	IV-2類	
26-1	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：弧状沈線+沈線内刺突。腹：繩文。	IV-6類	
26-2	IV区ⅢE層	深鉢	刺突小波状口線。口：沈線間刺突。腹：結節繩文。	IV-6類	
26-3	IV区ⅢE層	深鉢	刺突小波状口線。口：沈線間刺突。腹：繩文。	IV-6類	
26-4	IV区ⅢE層	浅鉢	平線。口：沈線間刺突。腹：雲形文。	IV-2~3類	
26-5	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
26-6	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：縱位櫛描文。	V-1類	
26-7	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：不規則な櫛描文。	V-1類	
26-8	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
26-9	IV区ⅢE層	深鉢	刺突小波状口線。口：横位櫛描文。	V-1類	
26-10	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
26-11	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：不規則な櫛描文。	V-1類	
26-12	IV区ⅢE層	深鉢	腹：蛇行櫛描文。	V-1類	
26-13	IV区ⅢE層	深鉢	腹：蛇行櫛描文。	V-1類	
26-14	IV区ⅢE層	深鉢	腹：横位櫛描文。	V-1類	
26-15	IV区ⅢE層	深鉢	腹：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
26-16	IV区ⅢE層	深鉢	腹：蛇行櫛描文。	V-1類	
26-17	IV区ⅢE層	深鉢	腹：圓目状撚糸文。	V-2類	
26-18	IV区ⅢE層	深鉢	腹：圓目状撚糸文。	V-2類	
27-1	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：平行沈線。腹：繩文。	V-3類	
27-2	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
27-3	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：羽状繩文。	V-3類	
27-4	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
27-5	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
27-6	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
27-7	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
27-8	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
27-9	IV区ⅢE層	深鉢	腹：繩文。	V-3類	
27-10	IV区ⅢE層	深鉢	平線。口：無文（内面ミガキ）。	V-4類	
27-11	IV区コラムサンプルⅢE層	鉢	平線。口：沈線。腹：繩文。	V-3類	
27-12	IV区ⅢF層	深鉢	波状口線。口：沈線+繩文。	III-3類	
27-13	IV区ⅢF層	深鉢	波状口線。口：平行沈線+繩文。	III-3類	
27-14	IV区ⅢF層	深鉢	突起：沈線+充填刺目文+突起。	III-4類	
27-15	IV区ⅢF層	深鉢	腹：平行沈線+充填刺目文+突起。	III-4類	
27-16	IV区ⅢF層	深鉢	腹：平行沈線+充填刺目文+突起。	III-4類	
27-17	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口一腹：平行沈線+弧状沈線+充填繩文+突起。	III-4類	
27-18	IV区ⅢF層	深鉢	腹：蛇行沈線。	V-1類	
27-19	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口：横位櫛描文+弧状櫛描文。	V-1類	
27-20	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
27-21	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
28-1	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口：横位櫛描文。	V-1類	
28-2	IV区ⅢF層	深鉢	突起：繩文。	V-3類	
28-3	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
28-4	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	
28-5	IV区ⅢF層	深鉢	平線。口：繩文。	V-3類	

回番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
28・6	IV区III F層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
28・7	IV区III F層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
28・8	IV区IIIコラムサンブルF層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	III-3類	
28・9	IV区IIIコラムサンブルF層	深鉢	平縁。口：弧状平行沈縁。	III-3類	
28・10	IV区IIIコラムサンブルF層	深鉢	平縁。口-胴：横位鶴彫文+縦位鶴彫文。	V-1類	
28・11	IV区IIIコラムサンブルF層	深鉢	平縁。口：横位鶴彫文。	V-1類	
28・12	IV区III-2a-2b層	深鉢	利突平縁。口-胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
28・13	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：沈縁+筋節縄文。	IV-2類	
28・14	IV区III-2a-2b層	注口or蓋	胴：雲形文。	IV-3類	
28・15	IV区III-2a-2b層	注口	胴：平行沈線+突起列+圓文。	IV群	
28・16	IV区III-2a-2b層	鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
28・17	IV区III-2a-2b層	皿	底部。底：雲形文。	IV-3類	
28・18	IV区III-2a-2b層	浅鉢	平縁。口：B突起+平行沈縁。胴：雲形文。	IV-3類	
28・19	IV区III-2a-2b層	浅鉢	平縁。口：沈線。胴：唇須縄文。	IV群	
28・20	IV区III-2a-2b層	深鉢	小波状口縁。口：沈縫間刺突。胴：結節羽状縄文。	IV-6類	
28・21	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：刻目+沈縫間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
29・1	IV区III-2a-2b層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈縁。胴：羽状縄文。	IV-6類	
29・2	IV区III-2a-2b層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈縁。胴：縱位鶴彫文。	IV-6類	
29・3	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：横位鶴彫文+縱位鶴彫文。	V-1類	
29・4	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：横位鶴彫文+蛇行鶴彫文。	V-1類	
29・5	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：横位鶴彫文+蛇行鶴彫文。	V-1類	外面に指頬圧痕
29・6	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：横位鶴彫文+縱位鶴彫文。	V-1類	
29・7	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	外面に指頬圧痕
29・8	IV区III-2a-2b層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
29・9	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：ケズリ+網目状捺糸文。	V-2類	
29・10	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
29・11	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
29・12	IV区III-2a-2b層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
29・13	IV区III-2a-2b層	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
29・14	IV区III-2a-2b層	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
29・15	IV区III-2a-2b層	短頭蓋	胴：縄文。	V-3類	
29・16	IV区III-2a-2b層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
30・1	IV区III A層	蓋	平縁。口：B突起。頂：雲形文。	IV-3類	
30・2	IV区III A層	鉢	刻目小波状口縁。口：B突起+革齒状文。胴：縦位羽状縄文。	IV-2類	
30・3	IV区III A層	深鉢	底部。胴：縱位鶴彫文。	V-1類	
30・4	IV区III A層	鉢	胴-底：平行沈縁+縄文。	V-3類	
30・5	IV区III A層	短頭蓋	平縁。口：無文。胴：縄文。	V-3類	
30・6	IV区III A層	浅鉢	平縁。口：B突起。底：沈縁。	IV-2類	
30・7	IV区III A層	深鉢	底部。底：沈縁。	V-4類	
30・8	IV区III A下層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
30・9	IV区III A下層	深鉢	底部。胴：無文（外側ケズリ・ミガキ）。	V-4類	
30・10	IV区III A下層	深鉢	底部。胴：無文（外側ミガキ）。	V-4類	
30・11	IV区III A下層	蓋	底部。胴：無文（内側ケズリ・外側ミガキ）。	V-4類	
30・12	IV区III B層	深鉢	底部。胴：縦節縄文+沈縁。	IV-2類	
30・13	IV区III B層	鉢	平縁。口-胴：刺突+列点文+縄文。	IV-2類	
30・14	IV区III B層	小型蓋	平縁。口：刻目+沈縫間削目。胴：弧状沈縁。	IV-4類	
30・15	IV区III B層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈縁。胴：雲形文。	IV-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
30-16	IV区ⅢB層	深鉢	底部。胴：縦文。	V-3類	
30-17	IV区ⅢB層	深鉢	底部。胴：沈線+縦文。底：沈線。	V-3類	
30-18	IV区ⅢB層	小型鉢	平縁。口：無文。	V-4類	外面に指頭圧痕
30-19	IV区ⅢB層	鉢	平縁。口一底：無文。	V-4類	外面に指頭圧痕
30-20	IV区ⅢB層	粗縁盃	平縁。口：無文。	V-4類	外面に輪縁痕
30-21	IV区ⅢB層	台付	胴：口：無文。	V-4類	
30-22	IV区ⅢB層	深鉢	胴一底：無文。	V-4類	
30-23	IV区ⅢB層	深鉢	胴一底：無文。	V-4類	
30-24	IV区ⅢB層	鉢	平縁。口一底：無文（内面ミガキ・外側ケズリ）。	V-4類	
30-25	IV区ⅢB下層	短縁盃	平縁。口：無文+横状把手。胴：縦文。	V-3類	
30-26	IV区コラムサンプルⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：弧状沈線+沈線内刺突。胴：縦文。	IV-6類	
31-1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口一胴：刻目+列点文+羊齒状文+結節縦文。	IV-2類	
31-2	IV区ⅢC層	浅鉢	浮動状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
31-3	IV区ⅢC層	浅鉢	平縁。口：平行沈線文。胴：雲形文。	IV-3類	
31-4	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。胴一底：平行沈線+雲形文。	IV-3類	
31-5	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。胴：雲形文+平行沈線。	IV-3類	
31-6	IV区ⅢC層	鉢	刻目小波状口縁。口：半衝状文。胴：雲形文。	IV-3類	
31-7	IV区ⅢC層	鉢	沈線彫B突起。口：刻目+沈線内刺突。胴：雲形文+縦文。	IV-3類	
31-8	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。胴：平行沈線。	V-4類	
31-9	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。底：沈線。	V-4類	
31-10	IV区ⅢC層	浅鉢	口一胴：溝文。	V-3類	
31-11	IV区ⅢC層	深鉢	底部。胴：網目状捺文。	V-2類	
31-12	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口一胴：横拉彫描文+蛇行彫描文。	V-1類	
31-13	IV区ⅢC層	鉢	胴一底：沈線+縦文。	V-3類	
32-1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口一胴：弧彫彫描文+蛇行彫描文。	V-1類	
32-2	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口一胴：網目状捺文。	V-2類	
32-3	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口一胴：網目状捺文。	V-2類	
32-4	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状捺文。	V-2類	
32-5	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文+平行沈線。底：沈線。	IV-3類	
33-1	IV区ⅢC・D層	鉢	刻目小波状口縁。口一胴：列点文+羊齒状文+結節縦文。	IV-2類	
33-2	IV区ⅢC・D層	深鉢	底部。胴：結節縦文。底：平行沈線。	IV-2類	
33-3	IV区ⅢC・D層	浅鉢	刻目小波状口縁。口：沈線内刺突+平行沈線。胴：縦文。	IV-5類	
33-4	IV区ⅢC・D層	鉢	沈線彫B突起。口：刻目+沈線内刺突。胴：縦文。	IV-6類	
33-5	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。底：平行沈線。	IV-3類	
33-6	IV区ⅢC・D層	浅鉢	胴：沈線内刺突+連続C字状文+平行沈線。底：縦文。	IV-3類	
33-7	IV区ⅢC・D層	闊鉢	平縁。口：横拉彫描文+蛇行彫描文。	V-1類	
33-8	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口一胴：網目状捺文。	V-2類	
33-9	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口一胴：網目状捺文。	V-2類	
33-10	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口一底：縦文。	V-3類	
33-11	IV区ⅢC・D層	鉢	底部。胴：平行沈線+縦文。底：沈線。	V-3類	
33-12	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口一底：無文。	V-4類	
33-13	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口一底：無文（内面ケズリ）。	V-4類	
33-14	IV区ⅢC・D層	小型盃	胴：無文。	V-4類	
34-1	IV区ⅢD層	台付浅鉢	B突起。口：羊衝状文。胴：平行沈線+結節縦文。	IV-2類	
34-2	IV区ⅢD層	浅鉢	B突起。口：無文。胴：平行沈線+結節縦文。	IV-2類	補修孔
34-3	IV区ⅢD層	深鉢	刻目平縁。口一胴：B突起+沈線+羊齒状文+縦文。	IV-2類	
34-4	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：沈線。胴：結節縦文。	IV-2類	

番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
34・5	IV区III D層	鉢	底部。胴：結節繩文。	IV-2類	
34・6	IV区III D層	浅鉢	胴：平行沈線+繩文。	IV群	
34・7	IV区III D層	鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
34・8	IV区III D層	注口	浮彫状裝飾口縁。口：划目。胴：雲形文。肩：突起列。	IV-3類	
34・9	IV区III D層	蓋	頸：平行沈線+繩文。	V-3類	
34・10	IV区III D層	蓋	頸：繩文。	V-3類	
34・11	IV区コラムサンブルIII D層	鉢	划目小波状口縁。口-胴：列点文+結節繩文。	IV-2類	
35・1	IV区III E層	深鉢	胴：弧状沈線+充填繩文+突起。	III-4類	
35・2	IV区III E層	異形台付	胴：弧状沈線+突起+平行沈線。	III-4類	
35・3	IV区III E層	鉢	划目平縁。口：列点文。胴：結節繩文。	IV-2類	
35・4	IV区III E層	深鉢	平縁。口-胴：結節繩文。	IV-2類	
35・5	IV区III E層	深鉢	划目小波状口縁。口-胴：列点文+繩文。	IV-2類	
35・6	IV区III E層	深鉢	底部。胴：結節繩文。	IV-2類	
35・7	IV区III E層	浅鉢	底筋。底：平行沈線+繩文。	V-3類	
35・8	IV区III E層	台付浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口-胴：列点文+結節繩文+弧状沈線。	IV-2類	
35・9	IV区III E層	台付浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
35・10	IV区III E層	台付	台：沈線装飾縦帯+突起。	V-4類	
35・11	IV区III E層	台付	台：平行沈線+縱位弧状沈線+充填繩文。	III-3類	
36・1	IV区III E層	深鉢	平縁。口-胴：横位繩文+蛇行沈線。	V-1類	
36・2	IV区III E層	小型鉢	平縁。口-胴：不規則な櫛描文。	V-1類	
36・3	IV区III E層	深鉢	底部。胴：縱位櫛描文。	V-1類	
36・4	IV区III E層	鉢	平縁。口-底：突起+繩文。	V-3類	
36・5	IV区III E層	鉢	底部。胴：繩文。	V-3類	
36・6	IV区III E層	深鉢	底部。胴：繩文。	V-3類	
36・7	IV区III F層	短頭壺	平縁。口-胴：無文。	V-4類	
36・8	IV区III F層	深鉢	底部。胴：無文。	V-4類	
36・9	IV区III F層	深鉢	底部。胴：無文（外側ケズリ）。	V-4類	
36・10	IV区III F層	深鉢	底部。胴：縱位櫛描文。	V-1類	
36・11	III-2a・2b層	蓋	胴：雲形文。	IV-3類	
36・12	III-2a・2b層	深鉢	底筋。胴：繩文。	V-3類	
36・13	III-2a・2b層	短頭壺	平縁。口：無文。胴：繩文。	V-3類	
36・14	III-2a・2b層	浅鉢	底筋。胴：繩文。	V-3類	
36・15	III-2a・2b層	深鉢	底筋。胴：繩文。	V-3類	
37・1	72TコラムサンブルS1-1B	深鉢	平縁。口：繩文。	V-3類	
37・2	72TコラムサンブルS1-7B	深鉢	胴：沈線+充填繩文。	III-3類	
37・3	72TコラムサンブルS2-1A	深鉢	划目小波状口縁。口：縱割突起+沈線。胴：不規則な櫛描文。	V-1類	
37・4	72TコラムサンブルS2-1A	小型壺	胴：無文（外側ケズリ）。	V-4類	
37・5	72TコラムサンブルS2-1A	浅鉢	沈線装飾突起。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
37・6	72TコラムサンブルS2-1A	短頭壺	平縁。口：無文（内側ミガキ）。	V-4類	
37・7	72T貝層・土層ブロック①	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縱位櫛描文。	V-1類	
37・8	72T貝層・土層ブロック②	深鉢	胴：沈線+充填繩文+突起。	III-4類	
37・9	72T貝層・土層ブロック③	注口or壺	頸：雲形文。	IV-4類	
37・10	72T貝層・土層ブロック④	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：結節繩文。	IV-2類	
37・11	72T貝層・土層ブロック⑤	深鉢	胴：沈線+羽突。	III-4類	
37・12	72T貝層・土層ブロック⑥	注口or壺	頸：雲形文。	IV-3類	
37・13	72T貝層・土層ブロック⑦	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：結節繩文。	IV-2類	
37・14	72T貝層・土層ブロック⑧	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-4類	

図版番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
37-15	72T貝層・土層ブロック⑩	浅鉢	底部。網：雲形文+平行沈線。	IV-4類	
37-16	72T貝層・土層ブロック⑩	短颈壺	平線。口：無文。柄：平行沈線+網文。	V-3類	
37-17	72T貝層・土層ブロック⑩	深鉢	刻痕平線。口：沈線+平行沈線。柄：羽状網文。	IV-6類	
37-18	72T貝層・土層ブロック⑩	深鉢	平線。口：羽状網文。	V-3類	
37-19	72T貝層・土層ブロック⑩	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	
37-20	72T貝層・土層ブロック⑩	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	
37-21	72T貝層・土層ブロック⑩	注口	平線。口：網文。	V-3類	
37-22	72T貝層・土層ブロック⑩	鉢	平線。口：無文。	V-4類	外面に輪幅底
37-23	72T貝層・土層ブロック⑩	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	外面に輪幅底
37-24	72T貝層・土層ブロック⑩	深鉢	網：蛇行彎描文。	V-1類	
38-1	72T貝層・土層ブロック㊂	深鉢	平線。口：網目状撚糸文。	V-2類	
38-2	72T貝層・土層ブロック㊂	深鉢	平線。口：沈線+光抜網文。	III-3類	
38-3	72T貝層・土層ブロック㊂	鉢	刻目小波状口縁。口：弧状沈線+羊衝状文。	IV-2類	
38-4	72T貝層・土層ブロック㊂	鉢	刻目小波状口縁。口：弧状沈線+沈線内刻痕。柄：網文。	IV-6類	
38-5	72T貝層・土層ブロック㊂	深鉢	平線。口：網目状撚糸文。	V-3類	
38-6	72T貝層・土層ブロック㊂	浅鉢	平線。口：網目状撚糸文。	V-2類	
38-7	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：弧状沈線。	III群	
38-8	72TⅢ-1-3a-3b層	鉢	平線。口：結節羽状網文。	V-3類	
38-9	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	網：結節網文。	IV-2類	
38-10	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	網：結節網文。	IV-2類	
38-11	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：列点文。柄：雲形文。	IV-2類	
38-12	72TⅢ-1-3a-3b層	鉢？	刻目小波状口縁。口：沈線間刻突。柄：網文。	IV-6類	
38-13	72TⅢ-1-3a-3b層	闊鉢	刻痕小波状口縁。口：沈線間刻突。柄：網文。	IV-6類	
38-14	72TⅢ-1-3a-3b層	闊鉢	刻痕平線。口：突起+沈線+沈線内刻痕。柄：網文。	IV-6類	
38-15	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	刻痕平線。口：沈線+沈線内刻痕。柄：網文。	IV-6類	
38-16	72TⅢ-1-3a-3b層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。柄：磨擦網文。	IV-4類	
38-17	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：横位彎描文+蛇行彎描文。	V-1類	
38-18	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：弧状彎描文+網位彎描文。	V-1類	
38-19	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：弧状彎描文+蛇行彎描文。	V-1類	
38-20	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：弧状彎描文+蛇行彎描文。	V-1類	
38-21	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：橫位彎描文+蛇行彎描文。	V-1類	
38-22	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：網目状撚糸文。	V-2類	
38-23	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：網目状撚糸文。	V-2類	
38-24	72TⅢ-1-3a-3b層	闊鉢	平線。口：網目状撚糸文。	V-2類	
39-1	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：平行沈線。柄：網文。	IV-6類	
39-2	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：羽状網文。	V-3類	
39-3	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	
39-4	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：羽状網文。	V-3類	
39-5	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：結節羽状網文。	V-3類	
39-6	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	網：羽状網文。	V-3類	
39-7	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：無文（外面ミガキ）。	V-4類	
39-8	72TⅢ-1-3a-3b層	深鉢	平線。口：無文。	V-4類	
39-9	72TⅢ-1-3a-3b層	壺	網：無文（外面ミガキ）。	V-4類	
39-10	72TⅢ-1-3a-3b層上面	闊鉢	波状口縁。口：刻目+弧状沈線+充填網文。	III-3類	
39-11	72TⅢ-1-3a-3b層上面	闊鉢	刻目小波状口縁。口：羊衝状文。柄：網文。	IV-2類	
39-12	72TⅢ-1-3a-3b層上面	深鉢	平線。口：結節網文。	IV-2類	
39-13	72TⅢ-1-3a-3b層上面	闊鉢	刻目小波状口縁。口：列点文。柄：結節網文。	IV-2類	

番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
39-14	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口・胴：革状文+列点文+結節彌文。	IV-2類	
39-15	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：結節彌文。	IV-2類	
39-16	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：結節彌文。	IV-2類	
39-17	72TⅢ-1-3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
39-18	72TⅢ-1-3a・3b層上面	浅鉢	浮彫平裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
39-19	72TⅢ-1-3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
39-20	72TⅢ-1-3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：弧状沈線。	IV-4類	
39-21	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	刻目平縁。口：沈線+沈線内刺突。胴：雲形文。	IV-4類	
39-22	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：雲形文+平行沈線+結節羽状彌文。	IV-4類	
39-23	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：雲形文。	IV-4類	
39-24	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：沈線内刺突。胴：彌文。	IV-6類	
39-25	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：沈線内刺突。胴：彌文。	IV-6類	
39-26	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：刻目+沈線内刺突。胴：彌文。	IV-6類	
39-27	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線+沈線内刺突。胴：彌文。	IV-6類	
40-1	72T貝層・土層ブロック24	浅鉢	刺突平縁。口：A突起+平行沈線。胴：雲形文。	IV-4類	
40-2	72T貝層・土層ブロック24	壺	平縁。口・頸：無文。胴：平行沈線+雲形文。	IV-4類	
40-3	72T貝層・土層ブロック24	短颈壺	平縁。口・頸：無文。胴：彌文。	V-3類	
40-4	72T貝層・土層ブロック24	深鉢	底部。胴：彌文。	V-3類	
40-5	72T貝層・土層ブロック24	鉢	底部。胴：平行沈線+羽状彌文。	V-3類	
40-6	72T貝層・土層ブロック24	鉢	平縁。口・胴：彌文。	V-3類	
40-7	72T貝層・土層ブロック36	深鉢	刻目小波状口縁。口：平行沈線。胴：彌文。	IV-6類	
40-8	72T貝層・土層ブロック36	深鉢	底部。胴：結節羽状彌文。	V-3類	
40-9	72TⅢ-1-3a・3b層	深鉢	底部。胴：彌文。	V-3類	
40-10	72TⅢ-1-3a・3b層	浅鉢	平縁。口：沈線。底：沈線。	V-4類	
40-11	72TⅢ-1-3a・3b層	台付	口：沈線。	V-4類	
40-12	72TⅢ-1-3a・3b層	小型鉢	平縁。口・底：無文（内面ミガキ）。	V-4類	
41-1	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口：平行沈線。胴：彌文。	IV-6類	
41-2	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位彌文+縱位彌文。	V-1類	
41-3	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位彌文+縱位彌文。	V-1類	
41-4	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位彌文。	V-1類	
41-5	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位彌文+縱位彌文。	V-1類	
41-6	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：弧状彌文+蛇行彌文。	V-1類	
41-7	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位彌文。	V-1類	
41-8	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位彌文+縱位彌文。	V-1類	
41-9	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：弧状彌文+蛇行彌文。	V-1類	
41-10	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：蛇行彌文。	V-1類	
41-11	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：蛇行彌文。	V-1類	
41-12	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：蛇行彌文。	V-1類	
41-13	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
41-14	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
41-15	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
41-16	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
41-17	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
41-18	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	刺突小波状口縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
41-19	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
41-20	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
41-21	72TⅢ-1-3a・3b層上面	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
41・22	72TⅢ-1・3a・3b層上面	短頸壺	平縁。口：突起+溝文。	V-3類	
41・23	72TⅢ-1・3a・3b層上面	短頸壺	平縁。口：突起+溝文。	V-3類	
41・24	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：結節羽状縞文。	V-3類	
41・25	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：溝文。	V-3類	
41・26	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：溝文。	V-3類	
41・27	72TⅢ-1・3a・3b層上面	壺	胴：羽状縞文。	V-3類	
42・1	72TⅢ-1・3a・3b層上面	壺	胴：縞文。	V-3類	
42・2	72TⅢ-1・3a・3b層上面	壺	胴：縞文。	V-3類	
42・3	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：縞文。	V-3類	
42・4	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：結節羽状縞文。	V-3類	
42・5	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：溝文。	V-3類	
42・6	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
42・7	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
42・8	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：縞文+沈線。	V-3類	
42・9	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：羽状縞文。	V-3類	
42・10	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：無文（内面ミガキ）。	V-4類	
42・11	72TⅢ-1・3a・3b層上面	鉢	刻目小波紋口縁。口：半圓状文+B突起。胴：溝文。	IV-2類	
42・12	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：沈線内刺突+平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
42・13	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：沈線。胴：縞文。	IV-6類	
42・14	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	底部。胴：無文（内外面ミガキ）。底：沈線。	V-4類	
42・15	72TⅢ-1・3a・3b層上面	台付	台：無文。	V-4類	
43・1	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	平縁。口：刻目+平行沈線+充填溝文。	III-3類	
43・2	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目+突起。	III-4類	
43・3	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文。	III-4類	
43・4	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	胴：横位櫛彫文。	V-1類	
43・5	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
43・6	1GコラムサンプルS1-2A	深鉢	平縁。口：横位櫛彫文+蛇行彫描文。	V-1類	
43・7	1GコラムサンプルS1-2A	深鉢	胴：横位櫛彫文。	V-1類	
43・8	1GコラムサンプルS1-2A	深鉢	胴：縞文。	V-3類	
43・9	1GコラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：沈線+充填溝文。	III-3類	
43・10	1GコラムサンプルS1-3B	深鉢	平縁。口：山形状突起+横位櫛彫文+突起。	III-4類	
43・11	1GコラムサンプルS1-4B	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+溝文。	III-3類	
43・12	1GコラムサンプルS1-5A	深鉢	胴：横位櫛彫文。	V-1類	
43・13	1GコラムサンプルS1-5B	深鉢	平縁。口：沈線。	V-4類	
43・14	1GコラムサンプルS1-5B	深鉢	波状口縁。口：沈線+溝文。	III-3類	
43・15	1GコラムサンプルS1-6A	深鉢	胴：横位櫛彫文。	V-1類	
43・16	1GコラムサンプルS1-6B	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
43・17	1GコラムサンプルS2-1B	深鉢	平縁。口：刺突+沈線+結節溝文。	IV-2類	
43・18	1GコラムサンプルS2-3B	深鉢	平縁。口：横位櫛彫文。	V-1類	
43・19	1GコラムサンプルS2-3B	深鉢	胴：蛇行彫描文。	V-1類	
43・20	1GコラムサンプルS2-4B	深鉢	胴：平行沈線+充填溝文。	III-4類	
43・21	1GコラムサンプルS2-5B	深鉢	平縁。口：羽状縞文。	V-3類	
43・22	1GコラムサンプルS2-9B	深鉢	胴：羽状溝文。	V-3類	
43・23	1GコラムサンプルS2-括	深鉢	胴：網目状然糸文。	V-2類	
44・1	1GⅢ-1・3a層	深鉢	胴：入組帶状文+充填刻目文。	III-4類	
44・2	1GⅢ-1・3a層	深鉢	刻目波状口縁。口：沈線間刺突。胴：溝文。	IV-6類	
44・3	1GⅢ-1・3a層	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：溝文。	IV-6類	

番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
44・4	1G III-1・3a層	深鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・5	1G III-1・3a層	深鉢	刻目平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・6	1G III-1・3a層	浅鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
44・7	1G III-1・3a層	浅鉢	口：平行沈線。胴：弧状沈線。	IV-4類	
44・8	1G III-1・3a層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
44・9	1G III-1・3a層	壺	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
44・10	1G III-1・3a層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
44・11	1G III-1・3a層	浅鉢	底部、底：沈線。	V-4類	
44・12	1G III-1・3a層上面	鉢	平縁。口：クラック状沈線+撚把手。	IV-2類	
44・13	1G III-1・3a層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口：羊首状文。胴：結節調文。	IV-2類	
44・14	1G III-1・3a層上面	深鉢	刺突波状口縁。口：胴：結節調文。	IV-2類	
44・15	1G III-1・3a層上面	鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：無文。	IV-6類	
44・16	1G III-1・3a層上面	深鉢	胴：結節調文。	IV-2類	
44・17	1G III-1・3a層上面	鉢	沈線凹凸突。口：沈線間刺突。胴：雲形文。	IV-4類	
44・18	1G III-1・3a層上面	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・19	1G III-1・3a層上面	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・20	1G III-1・3a層上面	往Orn盤	胴：雲形文。	IV-3類	
44・21	1G III-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
44・22	1G III-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：強状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
44・23	1G III-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
44・24	1G III-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
44・25	1G III-1・3a層上面	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
44・26	1G III-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
44・27	1G III-1・3a層上面	深鉢	胴：沈線+縄文。	V-3類	
44・28	1G III-1・3a層上面	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
44・29	1G III-1・3a層上面	台付	台：沈線+縄文。	V-3類	
44・30	1G III-1・3a層上面	鉢	平縁。口：無文。胴：沈線+縄文。	V-3類	
45・1	3G コラムサンプルS1-2B	浅鉢	B突起。口：沈線+列点文。胴：溶消調文+平行沈線。	IV-2~3類	
45・2	3G コラムサンプルS1-3A	鉢	平縁。口：平行沈線。胴：結節調文。	IV-2類	
45・3	3G コラムサンプルS1-3B	小型皿	平縁。口：底：無文。	V-4類	外面に指痕直痕
45・4	3G III-1・3a層上面	鉢	底部。胴：無文（外面ケズリ）。	V-4類	
45・5	3G コラムサンプルS1-1A	深鉢	胴：結節調文+沈線。	IV-2類	
45・6	3G コラムサンプルS1-1B	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
45・7	3G コラムサンプルS1-2B	深鉢	刻目平縁。口：胴：列点文+結節調文。	IV-2類	
45・8	3G コラムサンプルS1-2B	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
45・9	3G コラムサンプルS1-3A	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
45・10	3G コラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
45・11	3G コラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
45・12	3G コラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
45・13	3G コラムサンプルS1-4A	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
45・14	3G コラムサンプルS1-4A	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
45・15	3G コラムサンプルS1-7B	深鉢	胴：刻目+平行沈線+充填調文。	III-3類	
45・16	3G コラムサンプルS1-括	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
46・1	4G III-3a層	鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
46・2	4G III-3a層	浅鉢?	底部。胴：無文（外面ミガキ）。	V-4類	
46・3	4G III-3a層	深鉢	胴：結節羽状調文。	V-3類	
46・4	4G III-3a層	深鉢	胴：結節羽状調文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
46・5	4GⅢ-3a層	浅鉢	平線。口：平行沈線。胴：網状沈線+平行沈線。	IV-4類	
46・6	4GⅢ-3a層	浅鉢	胴：雲形文。	IV-4類	
46・7	4GⅢ-3a層	鉢	波状口縁。口：刺突+横状把手。胴：雲形文。	IV-4類	
46・8	4GⅢ-3a層	盃	胴：雲形文。	IV-4類	
46・9	4GⅢ-3a層	深鉢	劍目平線。口：沈線+平行沈線。胴：網文。	IV-6類	
46・10	4GⅢ-3a層	盃	小波状口縁。口：沈線。	IV-4類	
46・11	4GⅢ-3a層	浅鉢	平線。口：平行沈線+突起。	IV-5類	
46・12	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：縱位櫛條文。	V-1類	
46・13	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：縱位櫛條文。	V-1類	
46・14	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縱位櫛條文。	V-1類	
46・15	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：網目状捺条文。	V-2類	
46・16	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺条文。	V-2類	
46・17	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺条文。	V-2類	
46・18	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺条文。	V-2類	
46・19	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺条文。	V-2類	
46・20	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：横位捺条文+縱位捺条文。	V-2類	
46・21	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：横位捺条文+縱位捺条文。	V-2類	
46・22	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縱位捺条文。	V-2類	
47・1	4GⅢ-3a層	深鉢	折返口縁。口：網文。	V-3類	
47・2	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	
47・3	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	
47・4	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：刺突+網文。	V-3類	
47・5	4GⅢ-3a層	深鉢	折返口縁。口：網文。	V-3類	外面に指頭圧痕
47・6	4GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	
47・7	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
47・8	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
47・9	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
47・10	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縱位櫛條文。	V-3類	
47・11	4GⅢ-3a層上面	小型鉢	平線。口：三角形状沈線+弧状沈線。	IV-4類	
47・12	4GⅢ-3a層上面	浅鉢	胴：雲形文。	IV-4類	
47・13	4GⅢ-3a層上面	深鉢	折返口縁。口：網文。	V-3類	
47・14	4GⅢ-3a層上面	深鉢	平線。口：横位櫛條文+蛇行櫛條文。	V-1類	
47・15	4GⅢ-3a層上面	深鉢	折返口縁。口：沈線。	V-4類	
47・16	4GⅢ-3a層上面	深鉢	平線。口：網目状捺条文。	V-3類	
47・17	4GⅢ-3a層上面	深鉢	胴：網目状捺条文。	V-3類	
48・1	5GⅢ-3a層	鉢	胴：羊齒文+結節網文。	IV-2類	
48・2	5GⅢ-3a層	深鉢	胴：結節網文。	IV-2類	
48・3	5GⅢ-3a層	浅鉢	浮雕状斜口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	補修孔
48・4	5GⅢ-3a層	鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
48・5	5GⅢ-3a層	浅鉢	胴：大刀文状付蒂文+弧状沈線。	IV-4類	
48・6	5GⅢ-3a層	盃	胴：突起+平行沈線。	IV-5類	
48・7	5GⅢ-3a層	浅鉢	底部。胴：網消繩文+平行沈線。	IV群	
48・8	5GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：刺突+沈線間刺突。胴：羽状網文。	IV-6類	
48・9	5GⅢ-3a層	深鉢	胴：平行沈線+網文。	IV-6類	
48・10	5GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：刺突+平行沈線。胴：網文。	IV-6類	
48・11	5GⅢ-3a層	鉢	平線。口：平行沈線。胴：網文。	V-3類	
48・12	5GⅢ-3a層	深鉢	平線。口：沈線。胴：網文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
48・13	5G III-3a層	深鉢	胴：蛇行彌描文。	V-1類	
48・14	5G III-3a層	深鉢	折返口縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
48・15	5G III-3a層	深鉢	折返口縁。口：渦文+網目状撚糸文+ケズリ。	V-2類	
48・16	5G III-3a層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文+ケズリ。	V-2類	外側に指標压痕
48・17	5G III-3a層	深鉢	平縁。口-胴：網目状撚糸文。	V-2類	
48・18	5G III-3a層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
48・19	5G III-3a層	深鉢	平縁。口：A突起+横位撚糸文。	V-2類	
48・20	5G III-3a層	深鉢	平縁。口：渦文。	V-3類	
48・21	5G III-3a層	深鉢	胴：渦文。	V-3類	
48・22	5G III-3a層	鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
48・23	5G III-3a層	深鉢	底部。胴：縱位撚糸文。	V-2類	
48・24	5G III-3a層	深鉢	底部。胴：縱位撚糸文。	V-2類	
48・25	5G III-3a層	浅鉢	平縁。口：沈澱。胴：メガネ状村蒂文+変形文。	IV-4類	補修孔
48・26	5G III-3a層上面	浅鉢	胴：平行沈線+山形状沈線。	IV-4類	
48・27	5G III-3a層上面	深鉢	胴：縱位撚糸文。	V-2類	
48・28	5G III-3a層上面	深鉢	平縁。口-胴：網目状撚糸文。	V-2類	
49・1	6G III-3a層	深鉢	胴：網状撚糸文。	V-2類	
49・2	6G III-3a層上面	鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：渦文。	IV-6類	
49・3	6G III-3a層上面	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
49・4	6G III-3a層上面	壺	平縁。口：無文。	V-4類	
50・1	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：非結構束羽状渦文。	I-1類	胎土に織維
50・2	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：非結構束羽状渦文。	I-1類	胎土に織維
50・3	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	波状口縁。口-頭：刻目+沈線。	III-3類	
50・4	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	波状口縁。口-胴：刻目+平行沈線+充填繩文。	III-3類	
50・5	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	波状口縁。口：刻目+弧状沈線+充填繩文。	III-3類	
50・6	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：刻目+沈線+充填繩文。	III-3類	
50・7	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+束羽状渦文。	III-3類	
50・8	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	波状口縁。口：無文(内面ミガキ)。	III-3類	
50・9	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+充填繩文。	III-3類	
50・10	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填繩文。	III-4類	
50・11	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：沈線+渦文。	III-4類	
50・12	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：刻目+平行沈線+弧状沈線+充填繩文。	III-3類	
50・13	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：平行沈線+縱位蛇行沈線+充填繩文。	III-3類	
50・14	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：平行沈線+縱位蛇行沈線+渦文。	III-3類	
50・15	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：平行沈線+縱位蛇行沈線+渦文。	III-3類	
50・16	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+充填繩文。	III-3類	
50・17	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+尼痕繩文。	III-3類	
50・18	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+充填繩文。	III-4類	
50・19	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：縱割突起+弧状沈線+充填繩文。	III-4類	
50・20	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	小波状口縁。口：弧状沈線+充填繩文。	III-4類	
50・21	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+充填繩文。	III-4類	
50・22	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：横位彌描文。	V-1類	
50・23	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：縱位彌描文。	V-1類	
50・24	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：蛇行彌描文。	V-1類	
50・25	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：横位彌描文。	V-1類	
50・26	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：横位彌描文。	V-1類	
50・27	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：横位彌描文+縱位彌描文。	V-1類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
50-28	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：蛇行彫拂文。	V-1類	
50-29	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：羽状彫文。	V-3類	
50-30	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：彫文。	V-3類	
50-31	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：彫文。	V-3類	
51-1	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：羽状彫文。	V-3類	
51-2	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：羽状彫文。	V-3類	
51-3	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：彫文。	V-3類	
51-4	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：彫文。	V-3類	
51-5	76TテストピットIII-3b上層	深鉢	平縁。口：彫文。	V-3類	
51-6	76TテストピットIII-3b下層	深鉢	突起：無文（内外面ミガキ）。	III-3類	
51-7	76TテストピットIII-3b下層	深鉢	平縁。口：彫文。	V-3類	
51-8	76TテストピットIII-3b下層	鉢	網：沈線+刻目+彫文。	III-3類	
51-9	76TテストピットIII-3b下層	深鉢	網：結節羽状彫文。	V-3類	
51-10	76TテストピットIII-3b層	深鉢	平縁。口：網目+羽状彫文。	V-3類	
51-11	76TテストピットIII-3b層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+充填彫文。	III-3類	
51-12	76TテストピットIII-3b層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線。	III-3類	
51-13	76TテストピットIII-3b層	深鉢	波状口縁。口：無文（内外面ミガキ）。	III-3類	
51-14	76TテストピットIII-3b層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+充填彫文。	III-4類	
51-15	76TテストピットIII-3b層	深鉢	波状口縁。口：無文（内外面ミガキ）。	III-3類	
51-16	76TテストピットIII-3b層	深鉢	平縁。口：山形突起+三叉状沈線+平行沈線+突起。	III-4類	
51-17	76TテストピットIII-3b層	深鉢	網：刻目+沈線+羽状彫文。	III-3類	
51-18	76TテストピットIII-3b層	深鉢	網帶+網目+平行沈線+弧状沈線+充填彫文。	III-3類	
51-19	76TテストピットIII-3b層	深鉢	網：平行沈線+緩位弧状沈線+彫文。	III-3類	
51-20	76TテストピットIII-3b層	深鉢	平縁。口：鈍状彫拂文。	V-1類	
51-21	76TテストピットIII-3b層	深鉢	平縁。口：網狀突起+横位彫拂文。	III-4類	
51-22	76TテストピットIII-3b層	深鉢	網：横位彫拂文。	V-1類	
51-23	76TテストピットIII-3b層	深鉢	網：平行彫拂文。	V-1類	
51-24	76TテストピットIII-3b層	深鉢	平縁。口：平行彫拂文。	V-2類	
51-25	76TテストピットIII-3b層	深鉢	網：羽状彫文。	V-3類	
51-26	76TテストピットIII-3b上層	壺	網：2条1対弧状沈線。	III-4類	突起剥離
51-27	76TテストピットIII-3b上層	壺	平縁。口：網：突起+沈線。網：弧状沈線+充填彫文。	III-3類	
51-28	76TテストピットIII-3b下層	深鉢	底部。網：彫文。	V-3類	
52-1	76TⅢ-3b層	深鉢	網：結節第1種羽状彫文。	I-1類	胎土に網掛
52-2	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。穿孔+沈線。	III-1～2類	
52-3	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+沈線。	III-3類	
52-4	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+沈線。	III-3類	
52-5	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+沈線+彫文。	III-3類	
52-6	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+平行沈線+彫文。	III-3類	
52-7	76TⅢ-3b層	深鉢	網：網帶+刻目+平行沈線+緩位弧状沈線+充填彫文。	III-3類	
52-8	76TⅢ-3b層	深鉢	網：沈線+弧状沈線+充填彫文。	III-3類	
52-9	76TⅢ-3b層	深鉢	網：弧状沈線+充填彫文。	III-4類	
52-10	76TⅢ-3b層	深鉢	網：弧状沈線+充填彫文。	III-4類	
52-11	76TⅢ-3b層	深鉢	網：平行沈線+突起。	III-4類	
52-12	76TⅢ-3b層	鉢	平縁。口：平行沈線+三叉文。網：彫文。	IV-1類	
52-13	76TⅢ-3b層	鉢	平縁。口：結節彫文。	IV-2類	
52-14	76TⅢ-3b層	浅鉢	浮影状裝飾口縁。口：平行沈線。網：畫形文。	IV-4類	
52-15	76TⅢ-3b層	浅鉢	平縁。口：沈線+B突起+刻目+平行沈線。網：畫形文。	IV-4類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
52-16	76TⅢ-3b層	壺	平線。口一頸：網文+波状沈線。	IV-5類	
52-17	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。口：沈線。胴：網位櫛描文。	III-3類	
52-18	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：網位櫛描文。	V-1類	
52-19	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
52-20	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：網位櫛描文。	V-2類	
52-21	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：横位櫛描文+網位櫛描文。	V-1類	
52-22	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
52-23	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：網口状櫛彫文。	V-2類	
52-24	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：網口状櫛彫文。	V-2類	
52-25	76TⅢ-3b層	深鉢	平線。口：網文。	V-3類	
52-26	76TⅢ-3b層	深鉢	平線。口：羽状彫文。	V-3類	
52-27	76TⅢ-3b層	深鉢	平線。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
52-28	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
52-29	76TⅢ-3b層	深鉢	平線。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
52-30	76TⅢ-3b層	深鉢	平線。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
52-31	76TⅢ-3b層	深鉢	平線。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
53-1	78TⅢa層	深鉢	平線。口：平行沈線。	粗群	
53-2	78TⅢa層	深鉢	平線。口：沈線+光筋圓文。	粗群	
53-3	78TⅢa層	深鉢	胴：長方形状沈線+光筋圓文。	粗群	
53-4	78TⅢa層	深鉢	胴：弧状平行沈線。	III-2類	
53-5	78TⅢa層	深鉢	胴：沈線。	粗群	
53-6	78TⅢa層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
53-7	78TⅢa層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
53-8	78TⅢa層	深鉢	胴：網文。	V-3類	
53-9	78TⅢb層	深鉢	平線。口：無文。	I-1類	胎土に鐵錐
53-10	78TⅢb層	深鉢	胴：無文。	I-1類	胎土に鐵錐
53-11	78TⅢb層上面	深鉢	波状口縁。口：貫通孔+弧状沈線。	III-2類	
53-12	78TⅢb層上面	深鉢	胴：多条沈線。	III-2類	
53-13	78TⅢb層上面	深鉢	胴：平行沈線。	I-1類	胎土に鐵錐
53-14	78TⅢ層上面	深鉢	胴：隆脊+刺突。	III-2類	
53-15	78TⅢ層上面	深鉢	胴：沈線区画+網文。	II-2~3類	
53-16	78TⅢ層上面	深鉢	胴：精円沈線区画+網文。	II-2類	
53-17	78TⅢ層上面	深鉢	胴：沈線区画+網文。	II-2~3類	
53-18	78TⅢ層上面	深鉢	胴：網文。	V-2類	
53-19	78TⅢ層上面	深鉢	底部。胴：網文。	V-3類	
54-1	81TⅢ上層	深鉢	平線。口：劍目+円形竹管文+圓圧痕文+短沈線。	I-1類	胎土に鐵錐
54-2	81TⅢ上層	深鉢	波状口縁。口一胴：劍目+円形竹管文+圓圧痕文+短沈線。	I-1類	胎土に鐵錐
54-3	81TⅢ上層	深鉢	平縁：口：附加条第1種。	I-1類	胎土に鐵錐
54-4	81TⅢ上層	深鉢	平縁：口：非結束羽状彫文。	I-1類	胎土に鐵錐
54-5	81TⅢ上層	深鉢	平縁。口：半截竹管によるC字形刺突。	I-1類	胎土に鐵錐
54-6	81TⅢ上層	深鉢	胴：半截竹管によるC字形刺突。	I-1類	胎土に鐵錐
54-7	81TⅢ上層	深鉢	胴：半截竹管によるC字形刺突。	I-1類	胎土に鐵錐
54-8	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束羽状彫文結束部回転文。	I-1類	胎土に鐵錐
54-9	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束羽状彫文結束部回転文。	I-1類	胎土に鐵錐
54-10	81TⅢ上層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に鐵錐
54-11	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束第1種羽状彫文。	I-1類	胎土に鐵錐
54-12	81TⅢ上層	深鉢	胴：O段多条。	I-1類	胎土に鐵錐

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
54-13	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-14	81TⅢ上層	深鉢	胴：刻目+結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-15	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：刻目+沈線+ループ文。	I-1類	胎土に織維
54-16	81TⅢ中層	深鉢	波状口縞。口：円形竹管文+C字形爪形文。補修孔。	I-1類	胎土に織維
54-17	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：四形竹管文+C字形爪形文。	I-1類	胎土に織維
54-18	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-19	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-20	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-21	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-22	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：無筋縞文。外側に指印压痕。	I-1類	胎土に織維
54-23	81TⅢ中層	深鉢	胴：半截竹管による刻划。	I-1類	胎土に織維
54-24	81TⅢ中層	深鉢	胴：刻目+羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-25	81TⅢ中層	深鉢	胴：半截竹管による刻划。	I-1類	胎土に織維
54-26	81TⅢ中層	深鉢	胴：矢羽状平行沈線。	I-1類	胎土に織維
54-27	81TⅢ中層	深鉢	胴：落書き+刺突+結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-28	81TⅢ中層	深鉢	胴：平底沈線+溝文。	I-1類	胎土に織維
54-29	81TⅢ中層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に織維
54-30	81TⅢ中層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に織維
54-31	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束羽状縞文+結束部凹板文。	I-1類	胎土に織維
54-32	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-33	81TⅢ中層	深鉢	図5-8-8・9と同一個体。	I-1類	胎土に織維
54-34	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束羽状縞文+結束部凹板文。	I-1類	胎土に織維
54-35	81TⅢ中層	深鉢	胴：非結束羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
54-36	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-1	81TⅢ中層	深鉢	胴：非結束羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-2	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束縞文(0段多余)。	I-1類	胎土に織維
55-3	81TⅢ中層	深鉢	胴：L R繩文。	I-1類	胎土に織維
55-4	81TⅢ中層	深鉢	胴：L R繩文。	I-1類	胎土に織維
55-5	81TⅢ中層	深鉢	平縞。口：刻目+調圧板文+短沈線。胴：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-6	81TⅢ中層	深鉢	胴：L R繩文。	II群	
55-7	81TⅢ中層	深鉢	底部。胴一底：羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-8	81TⅢ下層	深鉢	同一個体。波状口縞。口：刻目+円形竹管文+調圧痕文	I-1類	胎土に織維
55-9	81TⅢ下層	深鉢	+短沈線。胴：結束第1種羽状縞文。	I-1類	
55-10	81TⅢ下層	深鉢	平縞。口：刺突。	I-1類	胎土に織維
55-11	81TⅢ下層	深鉢	平縞。口：刻目+結束羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-12	81TⅢ下層	深鉢	平縞。口：刻目+結束羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-13	81TⅢ下層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-14	81TⅢ下層	深鉢	胴：纏文+山形沈線文。	I-1類	胎土に織維
55-15	81TⅢ下層	深鉢	胴：C字爪形文。	I-1類	胎土に織維
55-16	81TⅢ下層	深鉢	胴：C字爪形文+羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-17	81TⅢ下層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-18	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に織維
55-19	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に織維
55-20	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に織維
55-21	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に織維
55-22	81TⅢ下層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維
55-23	81TⅢ下層	深鉢	平縞。口：結束第1種羽状縞文。	I-1類	胎土に織維

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
55-24	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状繩文。	I-1類	胎土に鐵錐
55-25	81TⅢ下層	深鉢	同一個体。底部。胴：網文。底：指頭痕底。	I-1類	胎土に鐵錐
55-26	81TⅢ下層	深鉢	底部。胴底：羽状繩文。	I-1類	胎土に鐵錐
56-1	81TⅢ上層	深鉢	底部。胴：無文（内面ミガキ）。	I群？	
56-2	81TⅢ上層	深鉢	底部。胴：網文（内面ミガキ）。	I群？	
56-3	81TⅢ下層	深鉢	胴：非結束羽状繩文。	I-1類	胎土に鐵錐
57-1	73TⅢa層	深鉢	波状口縁。口：橢状把手+隆帶+貫通孔+盲孔	III-1類	
57-2	73TⅢa層	深鉢	波状口縁。口：貫通孔+多条沈線。	III-2類	
57-3	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：沈線。	III-2類	
57-4	73TⅢa層	深鉢	胴：隆帶+盲孔+沈前圓+網文。	III-1類	
57-5	73TⅢa層	深鉢	波状口縁。口：平行沈線+縱位沈線+充填繩文。	III-3類	
57-6	73TⅢa層	深鉢	波状口縁。口：平行沈線+縱位弧状沈線+充填繩文。	III-3類	
57-7	73TⅢa層	深鉢	胴：平行沈線+縱位沈線+充填繩文。	III-3類	
57-8	73TⅢa層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+網文。	III-3類	
57-9	73TⅢa層	深鉢	波状口縁。平行沈線。	III-3類	
57-10	73TⅢa層	深鉢	胴：弧状沈線+充填繩文。	III-3類	
57-11	73TⅢa層	深鉢	胴：平行沈線+弧状沈線+充填圓文。	III-3類	
57-12	73TⅢa層	深鉢	頭-胴：網文（頭部網文消済）。	III-3類	
57-13	73TⅢa層	鉢	平縁。口：無文。	III-3類	
57-14	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：突起+羽状繩文。	III-3類	
57-15	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：縱割突起+沈線。	III-4類	
57-16	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：縱割突起+沈線+網文。	III-4類	
57-17	73TⅢa層	深鉢	胴：突起+隆帶+横位沈線+三叉状沈線。	III-4類	
57-18	73TⅢa層	深鉢	胴：平行沈線+弧状沈線+充填繩文。	III-4類	
57-19	73TⅢa層	深鉢	胴：三叉文。	IV-1類	
57-20	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：突起+半衝状文+弧状沈線。	IV-2類	
57-21	73TⅢa層	浅鉢	胴：沈線+置形文。	IV-4類	
57-22	73TⅢa層	浅鉢	胴：平行沈線。	IV-4類	
57-23	73TⅢa層	浅鉢	胴：沈線+置形文。	IV-4類	
57-24	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：刺突+平行沈線。	IV-6類	
57-25	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：横位繩摺文+縱位繩摺文。	V-1類	
57-26	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：縱位繩摺文。	V-1類	
57-27	73TⅢa層	深鉢	胴：網目状熱糸文。	V-2類	
57-28	73TⅢa層	深鉢	胴：沈線+網文。	V-3類	
57-29	73TⅢa層	深鉢	頭-胴：網文（頭部網文消済）。	III-3類	
58-1	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
58-2	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
58-3	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
58-4	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：羽状繩文。	V-3類	
58-5	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
58-6	73TⅢa層	深鉢	平縁。口：無文（内面ミガキ）。	V-4類	
58-7	73TⅢa層	深鉢	胴：隆帶。	V-4類	
58-8	73TⅢa層	注口	注口部。注口：無文。	V-4類	
58-9	73TⅢb層	深鉢	平縁。口：横位繩摺文。	V-1類	
58-10	73TⅢb層	深鉢	胴：蛇形繩摺文。	V-1類	
58-11	73TⅢb層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	
58-12	73TⅢb層	深鉢	平縁。口：網文。	V-3類	

図版番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
58-13	73TⅢc層	深鉢	網: 無目+圓文。	III-3類	
58-14	73TⅢc層	深鉢	平線。口: 羽状圓文。	V-3類	
58-15	73TⅢd層	深鉢	平線。口: 無文。	V-4類	

表2 石器観察表

図版No	出土遺物・層位	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
59-1	IV区サンプルⅢB下層	スクレイバー	頁岩	3.5	1.7	0.6	4.1
59-2	IV区ⅢA層	石鏃	赤色頁岩	2.8	1.6	0.4	1.2
59-3	IV区ⅢA層	石鏃	赤色頁岩	2.6	2.0	0.8	3.7
59-4	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	2.0	1.1	0.4	0.6
59-5	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	1.6	1.0	0.3	0.4
59-6	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	1.6	1.0	0.3	0.3
59-7	IV区サンプルⅢB下層	石鏃	メノウ	1.8	1.4	0.3	0.6
59-8	IV区ⅢC層	石鏃	メノウ	1.7	1.5	0.4	1.0
59-9	IV区ⅢB層	石鏃	頁岩	2.6	1.3	0.4	1.0
59-10	1GⅢ-1・3a層	石鏃	頁岩	1.9	1.4	0.4	0.9
59-11	72TサンプルS2-1	石鏃	赤色頁岩	1.3	1.0	0.4	0.5
59-12	3GサンプルS1-2B	石鏃	鰐灰岩	1.6	1.6	0.3	0.5
59-13	76TテストピットⅢ-3b上層	石鏃	鰐灰岩	2.5	1.4	0.4	0.6
59-14	76TSK13	石鏃	石英安山岩	2.7	1.7	0.5	1.6
59-15	76TテストピットⅢ-3b上層	石鏃	頁岩	2.3	1.5	0.4	1.3
59-16	76TⅢ-3b層	石鏃	頁岩	2.8	1.2	0.5	1.1
59-17	IV区ⅢB層	石鏃	頁岩	2.6	1.2	0.4	0.8
59-18	IV区サンプルⅢA層	石鏃	珪質頁岩	2.3	0.8	0.5	0.6
59-19	77TSK18	石鏃	頁岩	2.2	0.8	0.6	0.9
59-20	1GサンプルS2-12B	石鏃	頁岩	2.4	1.4	0.6	1.6
59-21	3GサンプルS1-1A	石鏃	珪質頁岩	1.7	1.2	0.4	0.6
59-22	1GⅢ-1・3a層上面	石鏃	鰐灰岩	1.7	1.1	0.4	0.5
59-23	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	1.1	0.7	0.3	0.2
59-24	IV区サンプルⅢE層	石鏃	メノウ	1.6	0.9	0.6	0.8
59-25	IV区サンプルⅢB下層	石鏃	メノウ	1.4	0.8	0.5	0.4
59-26	1GⅢ-1・3a層上面	石鏃	赤色頁岩	1.8	0.9	0.3	0.5
59-27	IV区サンプルⅢB下層	石鏃	頁岩	1.3	0.8	0.3	0.2
59-28	IV区サンプルⅢA層	石鏃	メノウ	1.3	0.7	0.3	0.3
60-1	IV区ⅢA層	石鏃木製品	メノウ	1.7	0.7	0.5	0.8
60-2	IV区ⅢB層	石鏃木製品	頁岩	1.6	0.8	0.7	0.6
60-3	IV区サンプルⅢB下層	石鏃木製品	メノウ	2.0	0.7	0.5	0.8
60-4	IV区Ⅲ-2a・2b層上面	石鏃木製品	メノウ	1.7	1.3	0.6	1.1
60-5	IV区ⅢB層	石鏃木製品	珪質頁岩	2.0	1.3	0.5	1.1
60-6	IV区サンプルⅢC層	石鏃木製品	頁岩	2.0	1.4	0.4	1.1
60-7	IV区ⅢD層	石鏃木製品	メノウ	1.9	1.5	0.7	1.7
60-8	76TⅢ-3b層	石鏃木製品	頁岩	2.3	1.6	0.5	1.9
60-9	1GⅢ-1・3a層	石鏃木製品	赤色頁岩	2.7	2.0	0.8	3.6
60-10	IV区Ⅲ-2a・2b層上面	石鏃木製品	メノウ	2.2	0.9	0.6	1.2
60-11	IV区Ⅲ-2a・2b層	石鏃木製品	頁岩	2.8	1.2	0.6	2.3
60-12	IV区ⅢB層	石鏃木製品	頁岩	3.1	1.2	0.8	2.2
60-13	IV区ⅢC層	石鏃木製品	メノウ	3.0	2.4	0.8	5.9
60-14	76TテストピットⅢ-3b下層	フレーク	頁岩	1.9	3.3	1.0	5.7
60-15	IV区ⅢA層	フレーク	頁岩	5.9	3.1	0.7	17.5
60-16	IV区Ⅲ-2a・2b層	フレーク	頁岩	3.2	2.0	0.8	7.9
60-17	IV区サンプルⅢA層	フレーク	頁岩	1.2	1.5	0.5	0.7
60-18	IV区サンプルⅢB下層	フレーク	頁岩	1.3	0.8	0.3	0.4
60-19	IV区サンプルⅢA層	フレーク	頁岩	1.7	0.7	0.2	0.2
60-20	IV区サンプルⅢB下層	フレーク	頁岩	2.3	2.2	0.9	4.9
61-1	SK62	敲石	花崗岩	22.4	11.6	11.0	3729.0
61-2	SK101	敲石・磨石	凝灰岩	9.9	5.9	4.9	260.0
61-3	SK120	磨石・敲石	チャート	10.1	7.7	4.2	470.0
61-4	SK141	敲石	花崗岩	10.6	7.3	5.3	560.0
61-5	IV区ⅢA層	石皿	細粒花崗岩	22.8	15.2	7.7	4300.0
61-6	IV区ⅢA層	磨石	閃綠岩	8.3	8.2	2.7	310.0

固號No	出土遺構・層位	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
61・7	IV区III B層	鐵石・鐵石	アブライト	6.7	5.7	2.2	125.0
61・8	IV区III A下層	鐵石・鐵石	輝石安山岩	8.4	4.8	4.1	260.0
61・9	IV区III B層	磨石	角閃石矽岩	18.4	11.7	5.4	1850.0
62・1	IV区III B層	鐵石	閃綠岩	8.0	6.0	5.7	415.0
62・2	IV区III C・D層	鐵石	シルト岩	6.7	10.6	5.9	582.0
62・3	IV区IIIサンブルB下層	鐵石	細粒花崗岩	11.5	5.6	3.9	340.0
62・4	IV区III C・D層	鐵石・鐵石	アブライト	17.4	8.2	6.2	1367.0
62・5	IV区III C層	鐵石	角閃石矽岩	19.4	6.9	4.7	941.0
62・6	IV区III E層	鐵石	細粒花崗岩	13.1	16.8	10.7	3080.0
62・7	IV区III E層	鐵石	花崗斑岩	9.4	8.4	5.3	601.0
62・8	IV区III E層	磨石・鐵石	安山岩	14.4	7.3	2.7	465.0
62・9	IV区III E層	磨石	輝綠岩	11.8	8.6	6.0	938.0
63・1	IV区III F層	磨石・鐵石	アブライト	15.3	15.3	3.9	1530.0
63・2	IV区III-2 a・2 b層	石皿	花崗斑岩	7.2	7.2	5.5	460.0
63・3	IV区III-2 a・2 b層	石皿	花崗斑岩	4.8	11.1	6.1	502.0
63・4	IV区III-2 a・2 b層	石皿	花崗斑岩	9.4	11.5	5.2	805.0
63・5	IV区III-2 a・2 b層	磨石	安山岩	19.6	9.8	6.5	2280.0
63・6	76TテスティットIII-3 b上層	鐵石	角閃石片岩	8.2	5.9	3.6	285.0
63・7	76TテスティットIII-3 b上層	石皿	細粒閃綠岩	7.1	11.7	7.6	790.0
63・8	76TテスティットIII-3 b上層	磨石・鐵石	アブライト	12.1	9.0	5.1	815.0
63・9	76TテスティットIII-3 b上層	鐵石・磨石磨石	角閃石片岩	10.8	6.3	4.3	512.0
64・1	76TテスティットIII-3 b上層	磨石・鐵石	安山岩	11.2	8.5	5.3	775.0
64・2	76TテスティットIII-3 b上層	磨石	角閃石片岩	9.9	8.7	2.9	399.0
64・3	72TサンブルS 1-1括	石皿	花崗斑岩	9.4	8.4	8.1	709.0
64・4	1G III-1・3 a層	鐵石	花崗斑岩	14.6	11.1	5.1	1205.0
64・5	1GサンブルS 1-3 B	鐵石	安山岩	9.3	4.6	4.0	256.0
64・6	1GサンブルS 2-1 B	磨石	凝灰岩	9.2	3.7	3.3	148.0
64・7	81TⅢ下層	鐵石	角閃石片岩	7.0	9.9	4.4	525.0
64・8	P51	石棒	粘板岩	5.9	2.0	1.7	20.4
64・9	IV区III-2 a・2 b層	石刀	粘板岩	8.9	3.9	0.8	37.4
64・10	72TⅢ-1・2 a・2 b層上面	石棒	石墨千枚岩	3.6	1.6	0.5	2.2

表3 土製品觀察表

固號No	出土遺構・層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
65・1	1G大崩落-3 a層	土偶	6.6	6.0	5.2	142.0
65・2	IV区III A層	土偶	5.2	2.4	1.6	23.4
65・3	76TテスティットIII-3 b層	土偶	2.2	3.6	2.4	26.2
65・4	IV区III C層	土偶	7.4	4.2	2.7	63.5
65・5	IV区III C層	土偶	7.8	4.8	2.1	75.0
65・6	IV区III C・D層	土面	7.7	10.5	3.9	179.0
66・1	IV区III A層	皿狀土製品	4.4	4.4	0.9	18.8
66・2	76T SK101	土版狀土製品	4.0	4.0	0.8	10.8
66・3	76T SK80	土版狀土製品	3.7	1.8	1.0	8.2
66・4	3G III層上面	耳飾り	1.4	1.4	1.4	1.9
66・5	IV区III-2 a・2 b層	耳飾り	3.8	3.7	1.4	15.8
66・6	IV区サンブルIII B層	スタンプ狀土製品	2.2	1.3	1.3	3.8
66・7	IV区サンブルIII A層	スタンプ狀土製品	2.1	3.1	3.1	9.3
66・8	IV区サンブルIII A層	土錐	4.2	3.2	1.8	25.2
66・9	IV区III B層	土錐	4.6	2.5	2.9	22.6
66・10	76TテスティットIII-3 b上層	土錐	3.8	2.3	1.6	10.0
66・11	IV区サンブルIII B下層	土錐	3.6	2.2	1.6	12.2
66・12	76TⅢ-3 b層	土錐	3.2	2.5	2.2	16.2
66・13	IV区サンブルIII B下層	不明土製品	1.8	1.0	0.7	0.9
66・14	77T SK13	不明土製品	5.7	3.0	2.9	29.2
66・15	IV区III C・D層	棒狀土製品	5.2	1.7	1.6	12.2
66・16	76TテスティットIII-3 b上層	匙狀土製品	7.2	5.6	1.1	62.0
66・17	76T SK123	赤彩土器	—	—	—	—
66・18	IV区III D層	赤彩土器	—	—	—	—
66・19	1GサンブルS 1-1 B	赤彩土器	—	—	—	—

表4 製塙土器類口縁部観察表

No.	器番号	区	出土位置	口縁部			調査	外観	表面接着状況		付着物など	内面	施主	量(4面) (mm)	注記	その他	
				分型	平面形	断面形			付着	調査							
1	67・2	IVK	III A層	I-16	(三)	ウ	尖	未調査	◎	上端部から2cmの深さまで、以 下端部を伴う指圧／目字状状況 を有する。指圧／目字は複数 回施設し3段	1.基：長縫(底状 ／底付)、2.複合接 合部：①～③(複合接 合部：底付)、3.複合接 合部：②(底状、底付)／ ③(複合接合部：底付)の重複 による複合部の付け 用	—	ナード	—	USAW区トレ 1 III A層	—	
2	67・3	IVK	III A層	I-16	(三)	ウ	尖	未調査	—	上端部から6cmでは指圧、 指圧接着部／以下をナード	1.複合接 合部：①～③(複合接 合部：底付)、2.基： ②(底状、底付)／ ③(複合接合部：底付)の重複 による複合部の付け 用	—	ナード	—	USAW区トレ 1.D-2.30 26.2cm	口唇	
3	67・4	IVK	III A層	I-16	(二)	ウ	丸(尖突出)	未調査	◎	ナード	—	—	USAW区トレ 1 III A層	—	—		
4	67・5	IVK	III A層	I-16	(二)	エ	尖	未調査	◎	ナード／上端部に指圧	用	⑥ ナード	白色無付 物質なし	—	USAW区トレ 1 III A層	—	
5	67・6	IVK	III A層	I-16	エ	ア	尖	未調査	—	指圧接着	4.基：長縫(底状、底付)	—	ナード？のため不明	7.5	USAW区トレ 1.S-III A層	—	
6	67・7	IVK	III A層	I-16	(三)	タ	尖	未調査	◎	不明	—	⑤ ナード	—	—	USAW区トレ 1 III A層	—	
7	67・8	IVK	III A層	I-16	(二)	ア	尖／丸	未調査	◎	不明	—	ナード～ナード(端 部から2cm以下)	7.0	USAW区トレ 1 III A層	—	—	
8	67・9	IVK	III A層	I-16	(三)	イ	丸(尖突出)	△	未調査	△	上端部から3cmナード／横 位置接着指圧／指圧多	1.基：長縫(底状：溝状) 2.基：部分接合(底状：前 端部)	—	不明	—	USAW区トレ 1 III A層	—
9	67・10	IVK	III A層	I-16	(一)	イ	丸	ナード	◎	丁寧なナード	⑥ 指圧接着／上端部と中位 部に複数指圧接着	1.基：部分接合(底状：前 端部)	ミガキ	白色無付 物質なし	4.5	USAW区トレ 1 III A層	—
10	67・11	IVK	III A層	I-16	(三)	エ	尖／丸	未調査	◎	未調査	⑥ 指圧接着／ナード (指圧外面部 に複数指圧接着)	2.基：部分接合(圓上) 3.基：部分接合(圓上)	上端部から1.5 cmナード／底付	—	USAW区トレ 1 III A層	—	
11	67・12	IVK	III A層	I-16	エ	ア	尖／丸	未調査	—	指圧による凹凸／上端部に 部分性ミガキ	2.基：長縫(底状：直縫) 3.基：部分接合(圓上)	—	ナード	—	USAW区トレ 1 III A層	—	
12	67・13	IVK	III A層	I-16	(一)	イ	丸(尖突出)	ナード	—	ナード／ナード上に指圧接着 指圧	4.基：全て指圧接着 5.基：丁寧なナード(指圧 接着)	△	ナード？のため不明	7.0	USAW区トレ 1 III A層	—	
13	67・14	IVK	III A層	I-16	(一)	ア	尖	ナード	—	指圧／指紋多	4.基：長縫(底状：直縫) 5.基：指紋多	—	ナード？	白色無付 物質なし	6.0	USAW区トレ 1 III A層	—
14	67・15	IVK	III A層	I-16	(一)	イ	丸	ナード	◎	上端部に複数指圧接着／以 下ナード？／端部に凹凸の キレ	2.基：長縫(底状：直縫) 3.基：部分接合(底付)	ナード？	—	USAW区トレ 1 III A層	—		
15	67・16	IVK	III A層	I-16	(一)	タ	丸	ナード	◎	ナード／部分ミガキ／一部ケ ヌリ底	上端部に付加粘土の複合接 合部：①～③(複合接 合部：底付)	ナード	—	USAW区トレ 1 III A層	—		
16	67・17	IVK	III A層	I-16	(一)	ウ	丸	ナード／ナードに より丸／上端部に 覆る面に	◎	上端部に指圧／ナードに近 い複数ナード	3.基：①部分接合(底付) ②～③(複合接 合部：底付)	ナード	—	USAW区トレ 1 III A層	—		
17	67・18	IVK	III A層	I-16	(一)	タ	丸	ナード	◎	多い(ケリミガキ)／指圧 内	1.基：部分接合(底状：直縫) 2.基：指紋多	ナード？	上端部から1cm までナード／底付	6.0	USAW区トレ 1 III A層	—	
18	67・19	IVK	III A層	I-16	(二)	タ	丸	調査不明	◎	ナード(端面平滑)	1.基：長縫(底状：直縫) 2.基：部分接合(底付)	ミガキ	白色無付 物質なし	6.0	USAW区トレ 1 III A層	—	
19	67・20	IVK	III A層	I-16	(一)	ア	尖	未調査	—	指圧多／ミススル付跡	2.基：長縫(底状：直縫) 3.基：指紋多	ナード	白色無付 物質なし	7.0	USAW区トレ 1.S-III B層	—	
20	67・25	IVK	III B層	I-16	(三)	ア	尖	未調査	—	指圧多／ミススル付跡	2.基：長縫(底状：直縫) 3.基：指紋多	ナード	白色無付 物質なし	7.0	USAW区トレ 1.S-III B層	—	

No.	固有分	区	出位置	分類	口端部	平面形	断面形	背面形状	口唇部	側板	使用紙	外観		内面	被毛部	(mm)	計記	その他	
												調整など	被毛部						
21	67-26	IVK	III B 帯	I 1b	(二)	ア	尖／丸	米濾紙／ナデ 紙板	② 上端部に側位折E／ケツリ ミーフキン	尖	米濾紙	③ 上端部に側位折E／ケツリ ミーフキン	2条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板) 1条 長輪(底板：黒板) 1条 短輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	5.5 1 HM 帯	UK IV 区 ト 1 HM 帯	
22	67-27	IVK	III B 帶	I 1a	(二)	イ	尖	米濾紙	③ 上端部に側位折E／ケツリ ミーフキン	尖	米濾紙	③ 上端部に側位折E／ケツリ ミーフキン	2条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板) 1条 長輪(底板：黒板) 1条 短輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	8.0 1 HM 帯	UK IV 区 ト 1 HM 帯	
23	67-28	IVK	III B 帶	I 1a	(二)	ウ	尖	米濾紙	—	上端部に側位折E／ケツリ ミーフキン	—	—	—	—	—	—	UK IV 区 ト 1 HM 帯		
24	67-29	IVK	III B 帶	I 1a	(三)	エ	尖	米濾紙	② 通紙折E	尖	米濾紙	② 上端部と中間に横E の部分	2条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	6.0 1 HM 帯	UK IV 区 ト 1 HM 帯	
25	67-30	IVK	III B 帶	I 1b	(一)	ア	尖／B <sub>1</sub> (尖)	ナデ／ ナデ	—	ナデまたはナデ／ ナデ	—	2条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	—	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
26	68-1	IVK	III B 帶	II 11a	(一)	イ	丸	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—	UK IV 区 ト 1 HM 帯	口径 18.0mm	
27	68-2	IVK	III B 帶	II 11b	(一)	イ	丸	ナデ	—	上端部から6cmまで指正 輪E／ナデ	—	1条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	6.0 1 HM 帯	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
28	68-3	IVK	III B 帶	II 11b	(一)	イ	丸	ナデ／ (凹面) 粘土板	—	ナデ／上端部に指正輪E 輪E／粘土板	—	1条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	—	UK IV 区 ト 1 HM 帯		
29	68-4	IVK	III B 帶	II 11a	(一)	ア	丸	ナデ	—	長いナデ／指正 輪E	—	2条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	6.0 1 HM 帯	UK IV 区 ト 1 HM 帯		
30	68-5	IVK	III B 帶	II 11a	(一)	エ	丸	ナデ	—	ナデ	—	未調合板	—	—	—	—	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
31	68-6	IVK	III B 帶	II 11a	(一)	イ	丸	ナデ	—	ナデ	—	1条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ (平箱)	8.0 1 HM 帶	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
32	68-7	IVK	III B 帶	II 11a	(二)	オ	丸	ナデ	—	—	—	3条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	7.0 1 HM 帶	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
33	68-8	IVK	III B 帶	II 11a	(三)	エ	丸～亜丸	ナデ	—	ナデ	—	—	—	—	—	—	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
34	68-9	IVK	III B 帶	II 11b	(一)	オ	亜丸	ナデ／ (内面に 粘土板が接着する)	—	上端部から1cmまでナデ／ ナデ(底板：黒板)／ ナデ(底板：黒板)／ ナデ(底板：黒板)	—	1条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	5.0 1 HM 帶	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
35	68-10	IVK	III B 帶	II 11a	(一)	エ	丸／角	ナデ／ (内面に 粘土板が接着する)	—	ナデ(底板：黒板)／ ナデ(底板：黒板)／ ナデ(底板：黒板)	—	1条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	6.0 1 HM 帶	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
36	68-11	IVK	III B 帶	II 11a	(二)	エ	丸／角	ヘラ切り	—	ナデ／ (内面に 粘土板が接着する)	—	1条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	—	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
37	68-12	IVK	III B 帶	II 11a	(一)	ウ	角／ (外側)	—	—	—	—	○	吉澤ナデ／海藻 ミ	—	—	—	UK IV 区 ト 1 HM 帶		
38	68-13	IVK	III C 帶	I 1b	(一)	ウ	尖	未調整	—	3条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	—	上端部から5cmまで ナデ(底板：黒板)／ ナデ(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	—	7.0 1 HM C 帶	UK IV 区 ト 1 HM C 帶		
39	68-17	IVK	III C 帶	I 1a	(三)	ア	尖	未調整	—	1条 ナデ	—	1条 ①後輪(底板：黒板) ②前輪(底板：黒板)	ナデ／ ナデ	ナデ／ ナデ	—	6.5 1 HM C 帶	UK IV 区 ト 1 HM C 帶		
40	68-18	IVK	III C 帶	I 1a	(三)	ア	丸(丸味)	未調整	—	不明	—	—	—	—	—	6.0 1 HM C 帶	UK IV 区 ト 1 HM C 帶		

% 茚番号	区	出生裏	分類	口唇部	平形筋	筋形筋	輪匝筋	調査	使用筋	調査など	外顎		内顎		被用筋	調査など	始士	量(重)	注記	その他	
											上顎筋から約1.5cm下にナ シテ以下ナダリノ上顎筋に 相接	3条の：①長縮（筋状：筋 膜的）、②長縮（筋状：筋 膜的）	1条：短縮（筋状：筋膜的）	—	ナダ	—	白色状 物質含む	8.0	UKW区トレ 1ⅢC管	—	
41	68-19	IVK	III C管	II 1a	(三)	イ	尖	ナダ	未調査	ナダ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
42	68-20	IVK	III C管	II 1a	(二)	ウ	尖	ナダ	ナダ	—	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
43	68-21	IVK	III C管	II 1a	(一)	ア	丸	ナダ	ナダ	—	相正による凹凸輪筋／ナダ	上顎筋に付加筋止の場合は 無	—	ミガキ	—	—	—	—	—	—	
44	68-22	IVK	III C管	II 1a	(一)	ア	丸	ナダ	ナダ	—	ナデ生／ナダ／ミガキ	ナダ（ミガキに近い）	無	—	ヘラナデ	—	—	—	—	—	
45	68-23	IVK	III C管	II 1a	(一)	イ	丸	ナダ	ナダ（ミガキ内 面に貼り付ける）	③	ミガキ	—	—	ケズリナダ	—	—	—	—	—	—	
46	68-24	IVK	III C管	II 1a	(一)	オ	丸	ナダ	ナダ	—	ミガキ？	—	—	ナダ	—	—	—	—	—	—	
47	68-25	IVK	III C管	II 1a	(二)	カ	丸	ナダ	ナダ	—	ナデ生／一筋ナダ	ナダ生／筋状に付する。	—	ナダ	—	—	—	—	—	—	—
48	68-26	IVK	III C管	II 1a	(一)	エ	圓角	ナダ	ナダ	—	相ナダ	—	—	ナダ生／一筋ナダ	—	—	—	—	—	—	
49	68-27	IVK	III C管	II 1a	(二)	イ	丸	ナダ	ナダ	—	上顎筋に施圧・指紋／以下 タグリ	—	—	ナダ	—	—	—	—	—	—	
50	68-30	IVK	III 2 A管	II 1a	(二)	エ	丸	未調査	未調査	—	相ナダ（タグリに近い）	未調査合併（筋状：筋膜的） 1条：短縮（筋状：筋膜的） (ミガキに近い)	—	上顎筋に施圧／下 タグリ（ミガキに近い）	—	—	—	—	—	—	—
51	68-31	IVK	III 2 A管	II 1a	(一)	イ	尖	ナダ	ナダ	—	相正・指紋多	—	—	2条：長縮（筋状：筋膜的） —	上顎筋に施圧／以 ナダ	—	—	—	—	—	
52	68-32	IVK	III 2 A管	II 1a	(一)	エ	丸	ナダ	ナダ	—	上顎筋指紋／タグリ	—	—	ナダ	—	—	—	—	—	—	
53	68-33	IVK	III 2 A管	II 1a	(一)	カ	丸	ナダ	ナダ	—	相ナダ（または浅い指 タグリの施圧）	—	—	上顎筋ナダ／以下 タグリ	—	—	—	—	—	—	
54	68-34	IVK	III 2 A管	II 1a	(一)	エ	丸	ナダ／ミガキ	ナダ／ミガキ	—	ミガキ	—	—	ミガキ	—	—	—	—	—	—	
55	69-1	IVK	III 2 A管	II 1a	(一)	イ	丸	ナダ	ナダ	—	上顎筋から4cmまでナダ （タグリの施圧あり）／以下 タグリ	—	—	ナダ／上顎筋付近 にナダ	—	—	—	—	—	—	
56	69-2	IVK	III 2 A管	II 1a	(一)	ウ	丸	ナダ	ナダ	—	ミガキ／指正	—	—	ミガキ（タグリ）	—	—	—	—	—	—	
57	69-3	IVK	III 2 A管	II 1a	(一)	オ	丸	ナダ	ナダ	—	指標の目立たないタグリ (タグリ)	無	—	ナダ（タグリ）	—	—	—	—	—	—	
58	69-5	IVK	III C-D管	1 1B	(一)	カ	尖	未調査	未調査	—	指正直者	—	—	上顎筋から2.5cm 以下ナダ	—	—	—	—	—	—	
59	69-6	IVK	III C-D管	1 1B	(三)	ア	尖	未調査	未調査	—	指標多々	—	—	上顎筋／指標／上 ナダ	—	—	—	—	—	—	
60	69-7	IVK	III C-D管	1 1a	(一)	イ	丸（尖気味）	ナダ	ナダ	—	上顎筋／未調査部 以下ナダ	無	—	ナダ	—	—	—	—	—	—	
61	69-8	IVK	III C-D管	1 1a	(一)	イ	丸（尖気味）	ナダ	ナダ	—	上顎筋から3cmにナダ／ 以下タグリ	—	—	ナダ生／部分ミ ガキ	—	—	—	—	—	—	

No. 図版番号	区	部位位置	分類	口構造		外顎	内顎		歯士	最大開閉 (mm)	注記	その他			
				平面形	断面形		調査状況	他用紙							
62	69-9	IV区	III-C-D層	I.iia	(二)	尖	(尖)	ナデ	○	上顎前面に扁平・膨脹部「Y」ナ 字主軸に扁平・膨脹部「Y」ナ 字の基部のキレあり	1条・前縁(底状・瘤状的) 1条・長縫(底状・瘤状的)	○	ナデ	前縫凹出する/ つ	IV区トレ 1M-C-D層
63	69-10	IV区	III-C-D層	I.Iib	(三)	尖	(尖)	ナデ	-	柱状ノードケズリ	1条・長縫(底状・瘤状的) 1条・長縫(底状・瘤状的)	-	ケズリ	-	IV区トレ 1M-C-D層
64	69-11	IV区	III-C-D層	I.Iia	(一)	丸	丸	ナデ	○	ミガキ	無	-	ナデミガキ(生)	-	IV区トレ 1M-C-D層
65	69-12	IV区	III-C-D層	I.Iib	(一)	丸	丸	ナデ	-	全縫凹出面(後合部を押 し上げる)	3条・前縁(底状・瘤状的) 3条・長縫(底状・瘤状的)	-	白色粉状 物質含む	7.0	IV区トレ 1M-C-D層
66	69-13	IV区	III-C-D層	I.Iia	(一)	丸	丸	ナデ	△	上縫前から2cmナデ以下	1条・前縁(底状・瘤状的) 1条・長縫(底状・瘤状的)	-	ミガキ	-	IV区トレ 1M-C-D層
67	69-14	IV区	III-C-D層	I.Iib	(一)	丸	丸	ナデ	○	上縫前2cmナデノド下ミガ キノ部分	4条・前縁(底状・瘤状的) 4条・長縫(底状・瘤状的)	-	白色粉状 物質含む	6.0	IV区トレ 1M-C-D層
68	69-15	IV区	III-C-D層	III.iia	(一)	丸	圓角	ミガキ	○	ケズリミガキ生	無	-	ミガキ	-	IV区トレ 1M-C-D層
69	69-16	IV区	III-C-D層	III.iia	(一)	丸	丸	ミガキ	○	上縫前から3cmナデノド以 下ミガキ	無	-	ミガキ	7.0	IV区トレ 1M-C-D層
70	69-18	IV区	III-D層	I.Iia	(三)	丸	丸	ナデ	-	柱状黒素/ケズリナデ	無	-	ミガキ	-	IV区トレ 1M-D層
71	69-19	IV区	III-D層	I.iia	(一)	丸	丸	ナデ	○	未調査	無	-	上縫凹出部2cm ナデミガ	-	IV区トレ 1M-D層
72	69-20	IV区	III-D層	I.Iia	(一)	丸	丸	ナデ	○	ミガキノドナデ	無	-	ミガキ	5.0	IV区トレ 1M-D層
73	69-21	IV区	III-E層	I.Iia	(一)	丸	丸	ナデ	○	不規	不明	-	ミガキ(平均)	7.0	IV区トレ 1M-E層
74	69-22	IV区	III-E層	I.Iia	(二)	丸	丸	ナデ	○	不規(底面)	-	上縫前から2cmまでナデ。	左側縫合部/也1条・長縫 (底長:深約)	-	IV区トレ 1M-E層
75	69-23	IV区	III-E層	I.Iia	(一)	丸	丸	ナデ	○	ケズリナデ/粉状物あり	無	-	上縫前から2cmまでミガ キナデ。以下ミガキ	7.5	IV区トレ 1M-E層
76	69-24	IV区	III-E層	I.Iia	(一)	丸	丸	ナデ	○	上縫凹出部1cm ナデ(内面に 粘土が詰る)	無	-	上縫凹出部1cm ナデ以下ナデ	-	IV区トレ 1M-E層
77	69-25	IV区	III-E層	I.Iia	(一)	丸	丸	ナデ	-	柱状(内面に 粘土が詰る)	-	-	-	8.0	IV区トレ 1M-E層
78	69-28	72T	黒チャコ上	I.Iib	(三)	ア	尖	未調査	-	ナデまたは相正 ナデ	2条・前縫①(底状・瘤状) 2条・長縫①(底状・瘤状) 2条・長縫②(底状・瘤状)	-	ナデ	-	IV-4, 72T 1M-E層
79	69-29	72T	黒チャコ上	I.Iib	(三)	ア	尖	ナデ/未調査	-	ミミズ被れ状態/ナデ	2条・長縫①(底状・瘤状) 2条・長縫②(底状・瘤状)	-	ナデ	6.0	IV-4, 72T 1M-E層
80	69-30	72T	黒チャコ上	I.iia	(一)	丸	尖	未調査	○	ナデ	2条・長縫(底状・瘤状)	-	ナデ	6.0	IV-4, 72T 1M-E層
81	69-31	72T	黒チャコ上	I.iia	(一)	丸	尖	未調査	-	上縫前に相正ノド	無	-	ナデ	5.5	IV-4, 72T 1M-E層
82	70-1	72T	黒チャコ上	I.iia	(一)	丸	尖	未調査	-	上縫前から2cmまでナデ	2条・長縫(底状・瘤状) 2条・長縫(底状・瘤状)	-	ナデ一部ミガキ 日本古物 登録記念	6.0	IV-4, 72T 1M-E層
83	70-2	72T	黒チャコ上	I.iia	(一)	丸	尖	未調査	○	不明	-	ナデ	-	IV-4, 72T 1M-E層	
84	70-3	72T	黒チャコ上	I.iia	(一)	丸	尖	未調査	○	ミガキ	-	ナデ(ミガキに近 い)	6.0	IV-4, 72T 1M-E層	
85	70-4	72T	黒チャコ上	I.iia	(一)	丸	尖	未調査	○	不明	-	ナデノドナデ GJ下	4.5	IV-4, 72T 1M-E層	

No.	固番号	区	出土量	分類	口跡形	平面形	断面形	剖面形状	調整	使用痕	外観		表面合痕	使用痕	内面	加工手数 (mm)	注記	その他
											調査など	調査など						
86	70-5	72T	面盤チク上	I-1b	(二)	イ	丸	(実底)	?	○	上端ナード／以下直正	2系：①部分縫(底状：横状)、②長縫(底状：横状：側縫付)	-	ナード	ミガキ	7.0	IK4-72TIII	
87	70-6	72T	面盤チク上	I-1a	X	イ	丸	(実底)	ナード	○	稍いナード(タブリに近い)	無	△	ミガキ(不鮮明)	6.0	IK4-72TIII		
88	70-7	72T	面盤チク上	I-1a	(二)	イ	丸	(実底)	おぞらくナード	○	ナード	無	○	ナード～ミガキ	7.0	IK4-72TIII		
89	70-8	72T	面盤チク上	I-1a	(一)	イ	丸	(実底)	ナード	○	相正／ミガキ	無	○	上端部から約1cm付	7.0	IK4-72TIII		
90	70-9	72T	面盤チク上	I-1a	(一)	タ	丸	(実底)	ナード	○	相正／ナード	無	△	上端部から約3cm付	6.0	IK4-72TIII		
91	70-10	72T	面盤チク上	I-1a	(一)?	ウ	丸	(実底)	ナード	△	不明	-	ナード	白色斜状物が多い	7.0	IK4-72TIII		
92	70-11	72T	面盤チク上	I-1a	(二)?	イ	丸	不整(実底?)	?	○	ナード	-	下端部から2cm以	9.0	IK4-72TIII			
93	70-12	72T	S2(III-1)	III-1a	(一)	タ	丸	ナード	ナード／下方端面に壓方向の施	○	ナード	無	-	ナード～ミガキ	7.5	IK4-72TIII		
94	70-14	72T	S2(III-1)	III-1a	(一)	エ	丸	ミガキ(一部ナード)	ミガキ(上端部)、6cm以下ミガキ	○	ナード	無	○	ナード～ミガキ	7.5	IK4-72TIII		
95	70-15	72T	ブローツク(II)	I-1a	(二)	エ	尖	未調査	-	未調査	-	ナード	-	ナード～ミガキ(上端部から4cmナード／以下未調査)	6.5	IK4-72TIII	口端	
96	70-16	72T	ブローツク(II)	I-1b	(一)	エ	丸	丸／丸(実底)	ナード	○	相正(往復多い)	1系：底縫(底状：横斜的)	-	ナード～ミガキ(上端部から2.5cm付)	-	IK4-72TIII		
97	70-17	72T	ブローツク(II)	I-1a	(一)	タ	丸	丸／丸(実底)	ナード／未調査	○	相正(往復多い)	1系：底縫(底状：横斜的)	-	ナード～ミガキ(上端部から1cm付)	-	IK4-72TIII		
98	70-18	72T	ブローツク(II)	I-1b	(二)	エ	丸	丸／丸(実底)	ナード	○	ナード	無	-	ナード～部分縫状?	-	IK4-72TIII		
99	70-19	72T	ブローツク(II)	I-1b	(一)	タ	丸	ナード	ナード	○	ケヌリ	1系：長縫(底状：横斜的)	-	ナード	-	IK4-72TIII		
100	70-20	72T	ブローツク(II)	I-1b	(一)	エ	丸	ナード	ナード	○	横江漬痕指正	1系：底縫(底状：横斜)	-	ナード～ミガキ(上端部から1cmにミガキ以下)	4.5	IK4-72TIII		
101	70-21	72T	ブローツク(II)	I-1a	(一)	キ	丸	(実底)	ナード(内面に粘土が詰る)	○	上端部から3cmまで低いナード／以下ミガキ	無	-	ナード	-	IK4-72TIII		
102	70-22	72T	ブローツク(II)	I-1a	(一)	タ	丸	(実底)	ナード	○	ミガキ	無	-	ミガキ	-	IK4-72TIII		
103	70-23	72T	ブローツク(II)	III-1a	(一)	ア	丸	(実底)	ヘタ切り	○	ミガキ	無	-	上端部から3cmナード	6.0	IK4-72TIII		
104	70-27	72T	ブローツク(II)	III-1a	(一)	イ	丸	ナード	ミガキ	○	ミガキ	無	-	全体ナード／上端部から1cmまで低いナード	6.0	IK4-72TIII		
105	70-28	72T	III-2B(3)	I-1a	(三)	タ	尖	未調査	ナード(底付多)	○	ナード(下端部粗い)／ナード	米端合紙	○	上端部／下端部／ナード／全物	-	IK4-72TIII		
106	70-29	72T	III-2B(3)	I-1a	(三)	イ	尖	未調査	-	ナード(一部粗り)	1系：長縫(底状：横斜)	-	ナード	上端部／下端部／ナード／全物	6.0	IK4-72TIII		

No.	固有番号	区分位置	分類	口構造	口唇部	平面形断面形	断面形	調節	使用範囲	外観など		外観総合点	使用点	歯士	最短距離 (mm)	注記	その他
										明	暗						
107	70-30	727	III 2 B 層	I ex	(一)	エ	火 (実現度)	あがめ不 明	②	一部 ナデミガキ/未 現度	ナデミガキが現度される ナデミガキ/一部グスリ	不明	-	ミガキ	-	UK4、727Ⅲ- 2-B層	
108	70-31	727	III 2 B 層	II 1A	(一)	エ	丸	ナデ (外) ホルダ	②	ナデ (外) ホルダ	ナデ (外) ホルダ	-	上端部から約2cm 以下下さがき	-	UK4、727Ⅲ- 2-B層		
109	71-1	16	III 1 A	I 1A	(二)	エ	丸	丸 (実現度)	②	ナデ/未調整	ナデ/ミガキ	無	-	上端部から約2cm 以下下さがき	6.5	UK4、727Ⅲ- 2-B層	
110	71-2	16	III 1 A	I 1A	X	ア	火/丸	火 (実現度)	②	ナデ/未調整	ナデ/ミガキ	不明	-	上端部から約2cm 以下下さがき	6.0	UK4、1 G III- 1-A層	
111	71-3	16	P 3 3 2	II 1b	(一)	エ	丸	ナデ	-	相正 (複合抑制E) →ナデ	相正 (複合抑制E) →ナデ	未調整合併/他2条: ①部合 部 (直角: 滑状) [無頭面輪]	-	ナデ	-	UK4、1 G III- 1-A層	
112	71-4	16	III 1 A	II 1a	(一)	ウ	丸	ナデ	②	ナデ/相正	ナデ/相正	1条: 長輪 (成状: 相続的)	-	上端部ナデ/以下 ナデ/サギ	7.0	3 3 2	
113	71-5	4G	III 3 A 層	I 1B	(一)	イ	尖	未調整?	②	相正抑制 (即正未調が短屈 輪を立てる)	相正抑制 (即正未調が短屈 輪を立てる)	3条: 長輪 (直角: 働状) ナデ/以下ナデ	◎	上端部から約2cm 以下下さがき	6.5	UK4、4 G III 層D25	
114	71-6	4G	III 3 A 層	I 1B	(三)	ア	丸 (実現度)	おそらくナデ	◎	相正	相正	4条: ①輪輪 (直角: 滑状) ナデ/相正 (直角: 滑状)	-	ナデ?、風呂れ	5.5	UK4、4 G III 層	
115	71-7	4G	III 3 A 層	I 1B	X	エ	丸 (実現度)	未調整	-	相正	相正	3条: ①輪輪 (直角: 滑状) ナデ/相正 (直角: 滑状) 合併抑制 (直角: 滑状)	-	ナデ	-	UK4、4 G III 層D46	
116	71-8	4G	III 3 A 層	I 1B	(一)	ア	尖	未調整	-	上方はど相正日立つ-瓶方 向の輪輪	上方はど相正日立つ-瓶方 向の輪輪	3条: ①輪輪 (直角: 滑状) ナデ/相正 (直角: 滑状)	-	ミガキ	白色物質多く、 物質含む	UK4、4 G III 層D1	
117	71-9	4G	III 3 A 層	III 1	(一)	エ	角	ヘラ切りに近 い	②	不明	不明	-	ミガキ	-	白色物質多く、 物質含む	-	
118	71-12	5G	III 3 A 層	I 1B	(一)	イ	尖	ナデ	-	1条: 長輪 (直角: 相続的)	ナデ	2条: ①長輪 (直角: 滑状) ナデ?	◎	ナデ	-	UK4、5 GD- 23	
119	71-13	5G	III 3 A 層左	I 1B	(一)	ア	失/丸	ナデ?	-	不明解	ナデ	2条: ①長輪 (直角: 滑状) ナデ?	△	9	UK4、5 G III 層D25		
120	71-14	5G	III 3 A 層	II 1a	(一)	オ	丸	ナデ	-	上端部相正/ナデ	ナデ	2条: 長輪 (直角: 滑状) ナデ?	-	ミガキ	6.0	UK4、5 GD- 21	
121	71-15	5G	III 3 A 層	III 1a	(一)	イ	垂角	ナデ	-	相正/相ナデ	ナデ	1条: 長輪 (直角: 滑状)	-	ナデ	6.5	UK4、5 G III 層	

表5 製塙土器類底部觀察表

No.	図番号	区	出土位置	底面形状	外底面(調査、圧痕等)	内底面(調査等、使用痕等)	底土	底径	注記
1	67-1	IV区	S004 平底	ケズリ	ケズリ	ナデ		4.4m	U&IV&SK 0.4
2	67-21	IV区	■ A層 平底	ミガキ 不明	不明 被焼痕明確	ミガキ ミガキ		8.0cm	U&IV区 トレ 1 ■
3	67-22	IV区	■ A層 平底	不明	ミガキ	ミガキ		5.0cm	A層 U&IV区 トレ 1 ■
4	67-23	IV区	■ A層 丸底	ナデ	丸底 焼れぬ底不明	ナデ		6.0cm	U&IV区 トレ 1 ■
5	67-24	IV区	■ A層 丸底	ケズリかく? 圓底 焼れたり? 圓底	底跡に焼け焼れぬ ミガキ	ナデ		5.4cm	U&IV区 トレ 1 ■
6	68-13	IV区	■ B層 丸底丸底	不明	圓底燒れる ミガキ	ナデ		6.0cm	U&IV&SK トレ 1 ■
7	68-14	IV区	■ B層 上げ底	不明	被焼痕重複 ナデ?	内底ナデ/内 底ナデ?		8.0cm	B層 U&IV&SK トレ 1 ■
8	68-15	IV区	■ B層 平底	未調査	ナデ	内底ナデ/内 底ナデ?		9.0cm	U&IV&SK トレ 1 D- C層
9	68-28	IV区	■ C層 平底	ケズリ	被焼痕有 ナデ	ナデ		8.0cm	U&IV区 トレ 1 ■
10	68-29	IV区	■ C層 丸底丸底	不明	樹正	不明	内底焼痕複	7.0cm	U&IV&SK トレ 1 ■
11	69-4	IV区	■ 2層 平底	ケズリ	不明歯	器底焼れる ナデ		7.0cm	2358 U&IV&SK トレ 1 D- C-1D
12	69-17	IV区	C.D層 平底	ミガキ	ナデ	剥離あり		8.0cm	U&IV&SK トレ 1 ■
13	69-27	IV区	E.F層 平底	ケズリ	研磨歯なし?	不明歯	剥離、器底焼れる ナデ	6.0cm	U&IV&SK トレ 1 ■
14	70-12	72T	田畠底 平底	ナデ	ナデ	不明	器底焼れる	8.0cm	Q.6.722 田畠テヨ フ上
15	70-25	72T	プロック層⑤ ■ 3層 平底	被焼歯? (本葉 もあら? )の ナデ消し	ケズリ	一窓判痕	ナデ	7.4cm	IK.721 ■ -2- B層 D-19
16	70-26	72T	ブロック層⑥ ■ 3層 丸底丸底	ミガキ	ナデ	剥離	ミガキ	7.4cm	IK.721 ■ -2- B層 D-19
17	71-11	4G	■ 3層 上げ底丸底	丸底丸底 ミガキ	造詣に圓代縫三列 ナデ/筋分岐ナデ	剥離	内底焼けナデ/ 内底焼けナデ	7.8cm	IK.4.74T 田畠テヨ D2
18	71-16	74T	■ 3層 平底上	平底(底かぶせ 上) 小穴	不明	器底焼れる ナデ	器底焼れる ナデ	8.0cm	IK.74T 田畠テヨ ク上:セミウチニウ

写 真 図 版

1937-1938

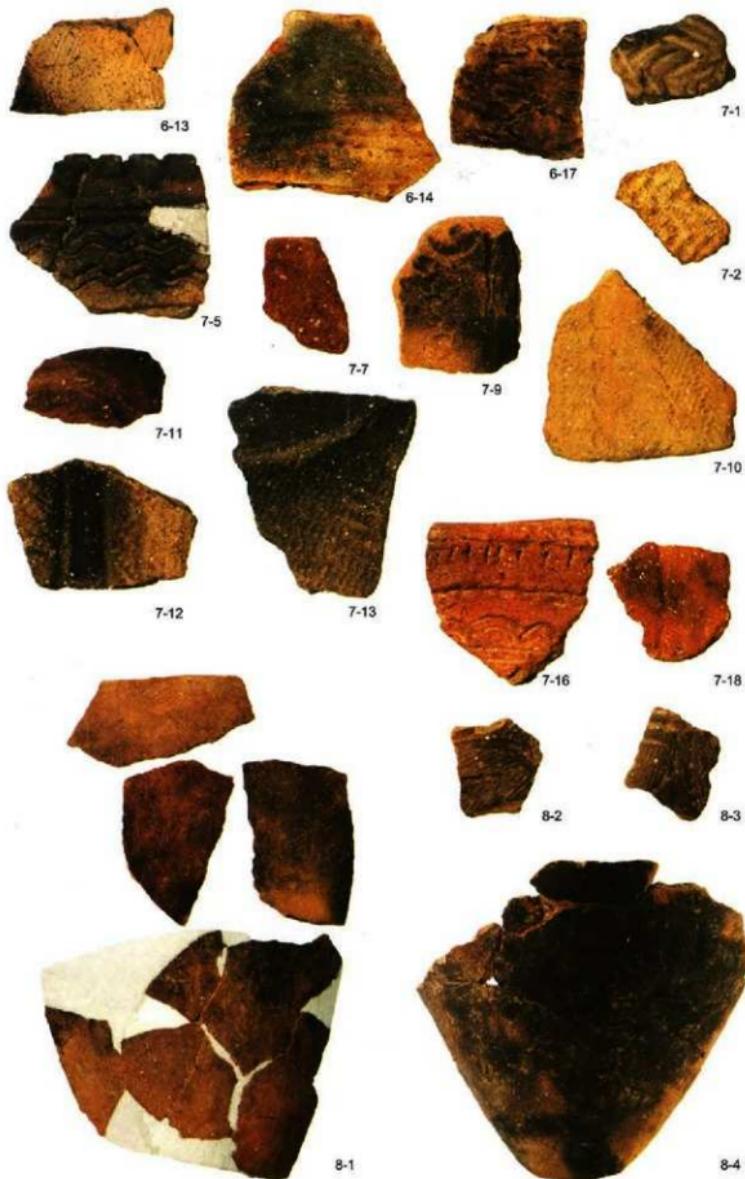


写真図版2  
掘立柱建物出土土器②・土坑I類出土土器①

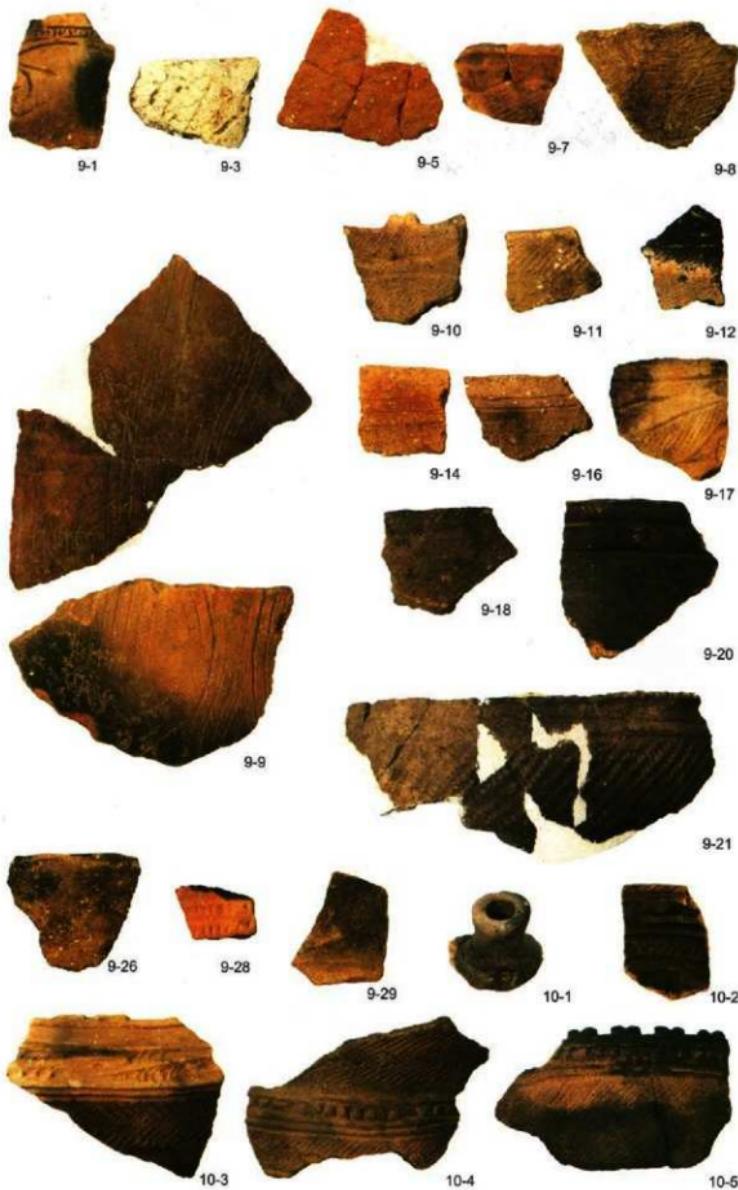




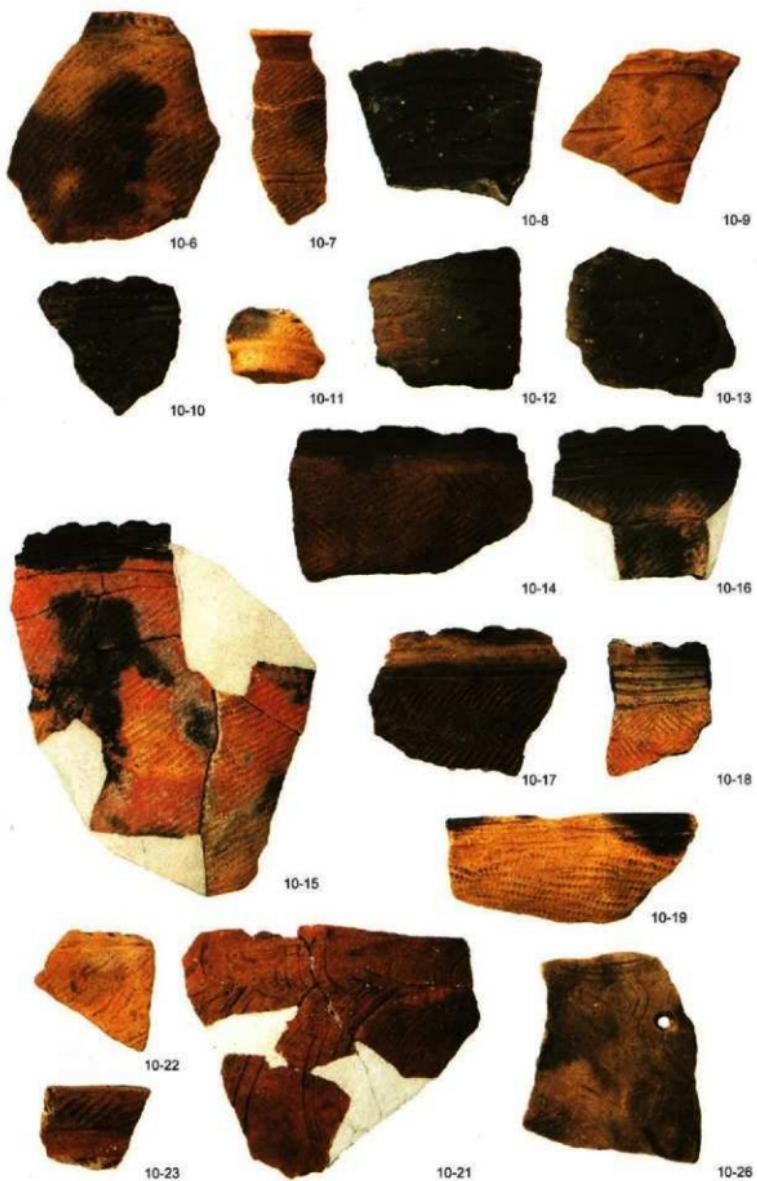
写真図版 4  
土坑 I 類出土土器③・土坑 II 類出土土器・埋設土器

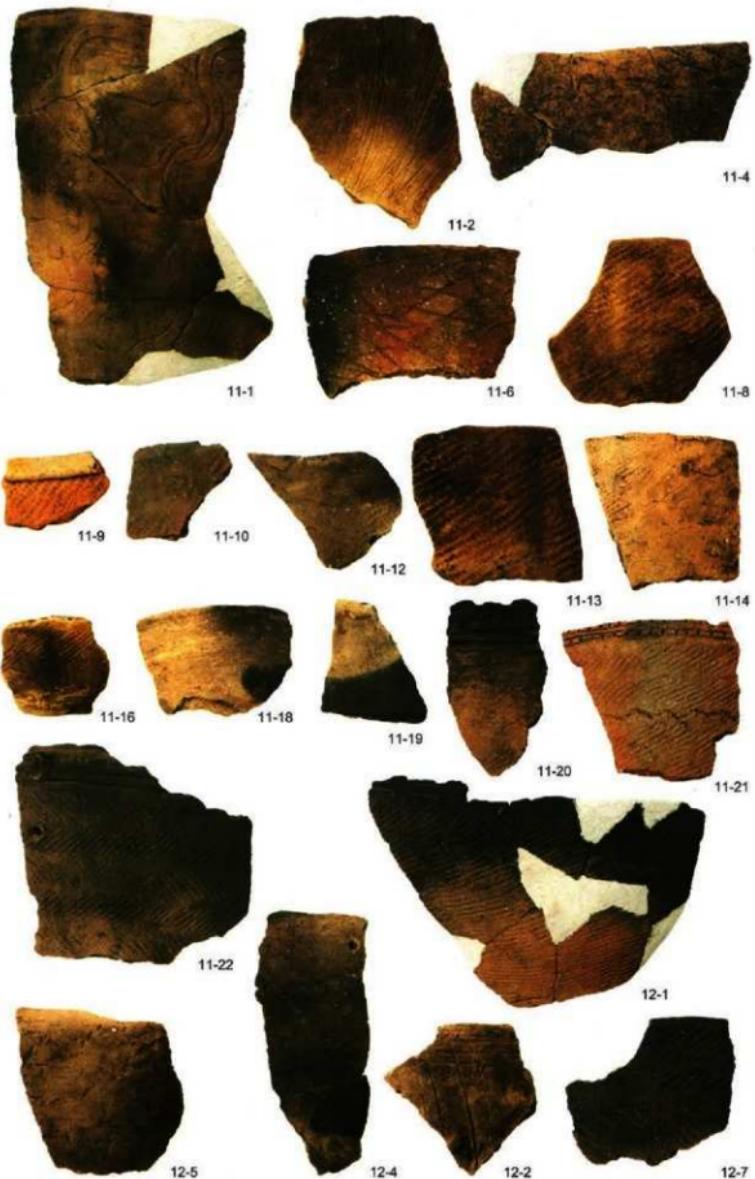


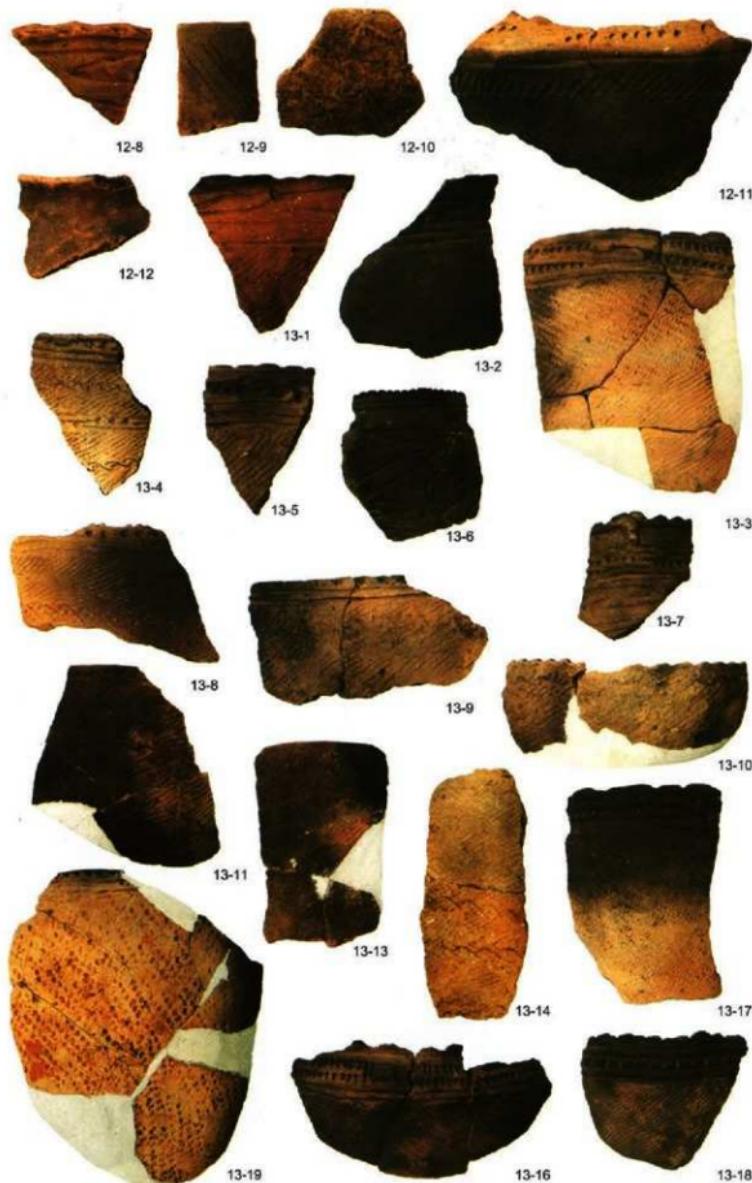
写真図版 5  
土坑IV類出土土器・IV区出土土器①

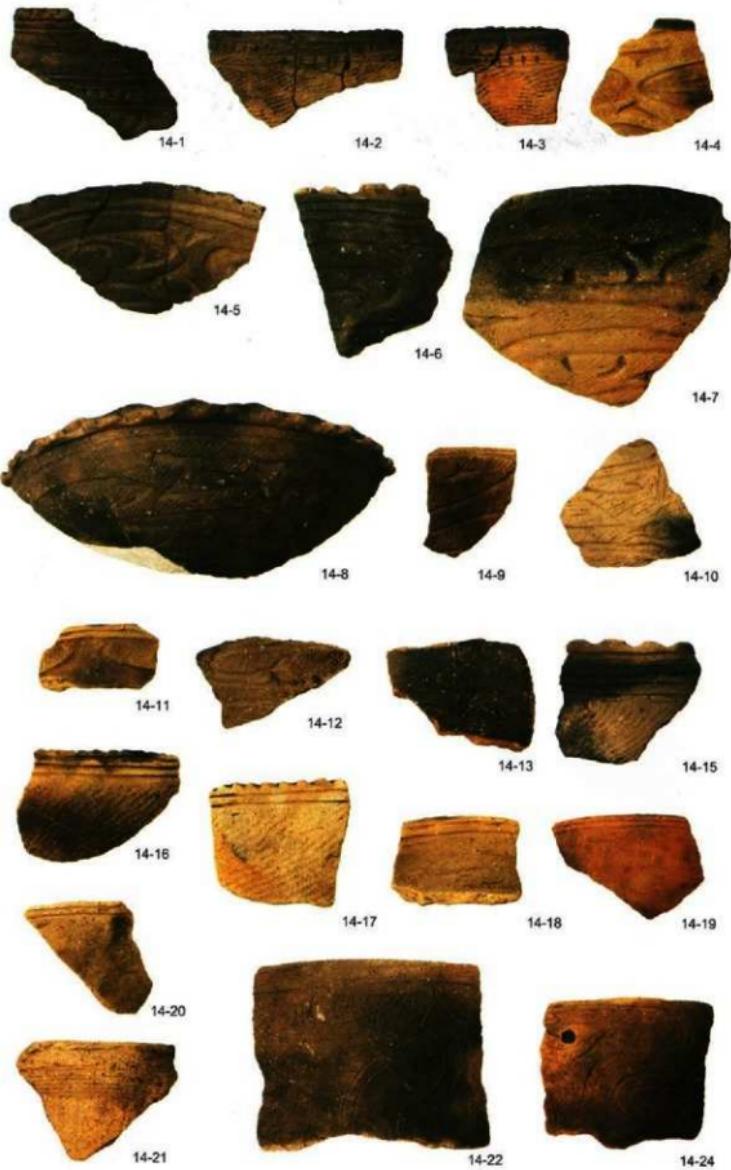


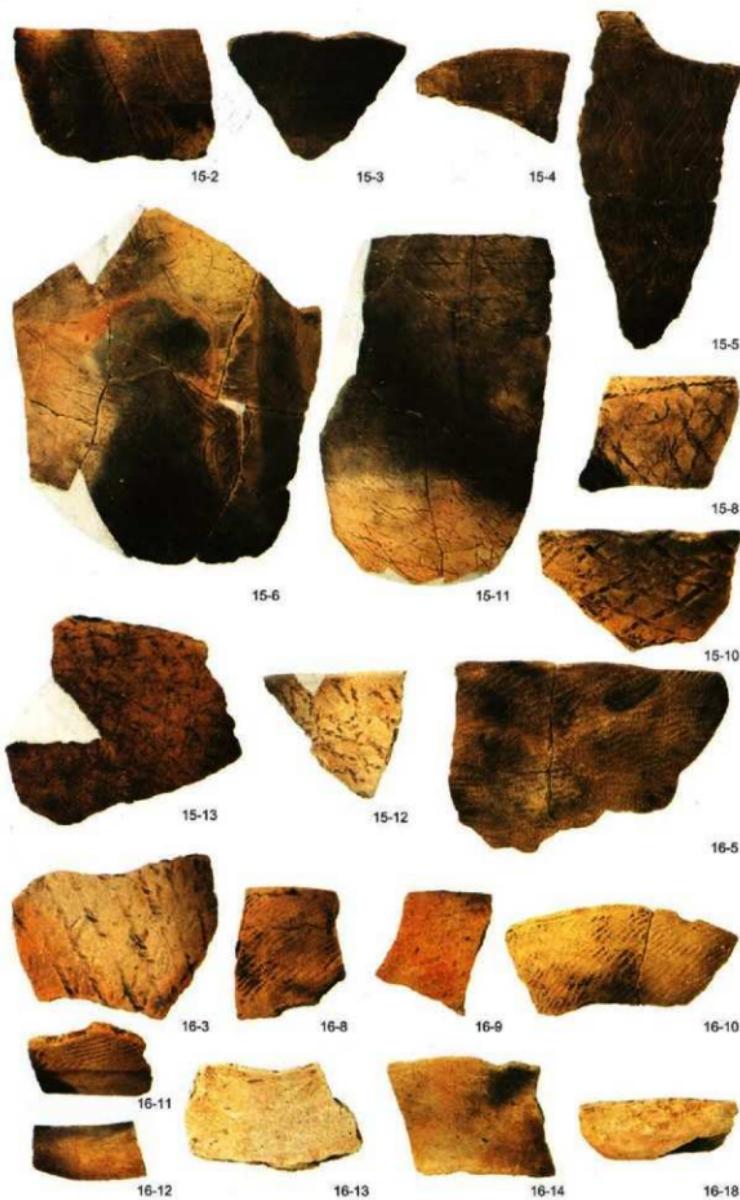
写真図版 6  
IV区出土土器(2)

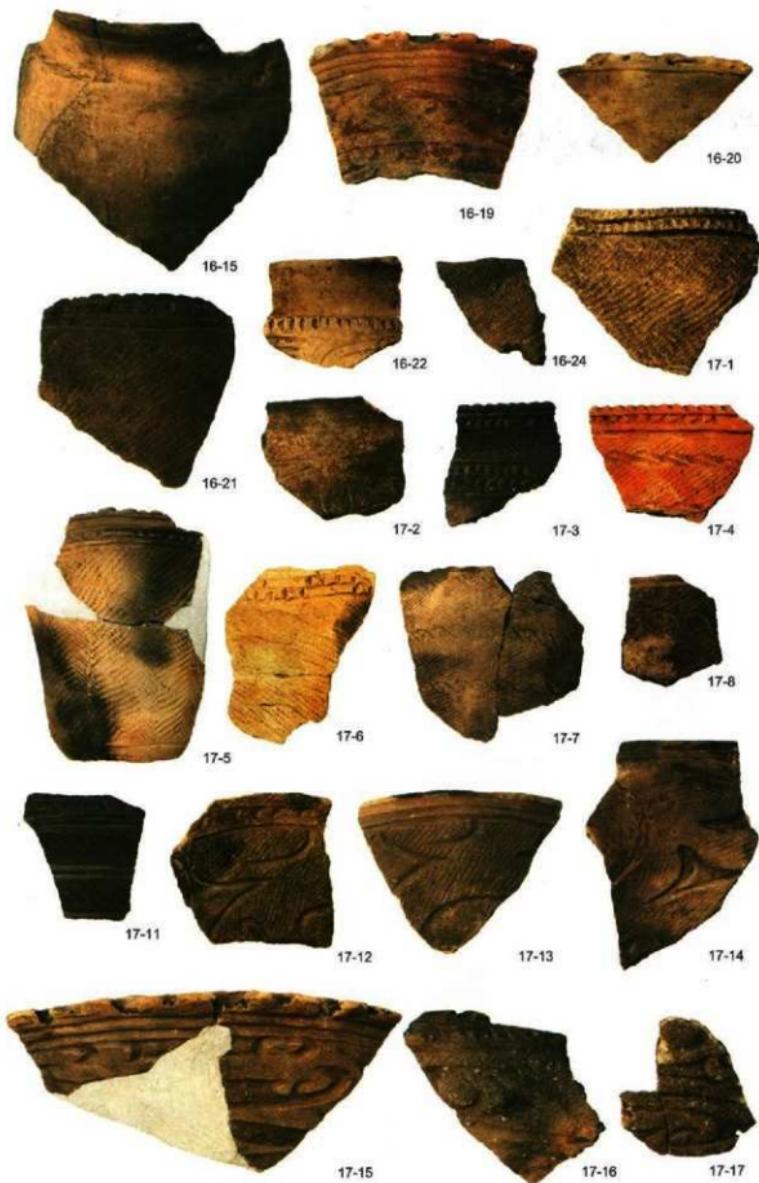


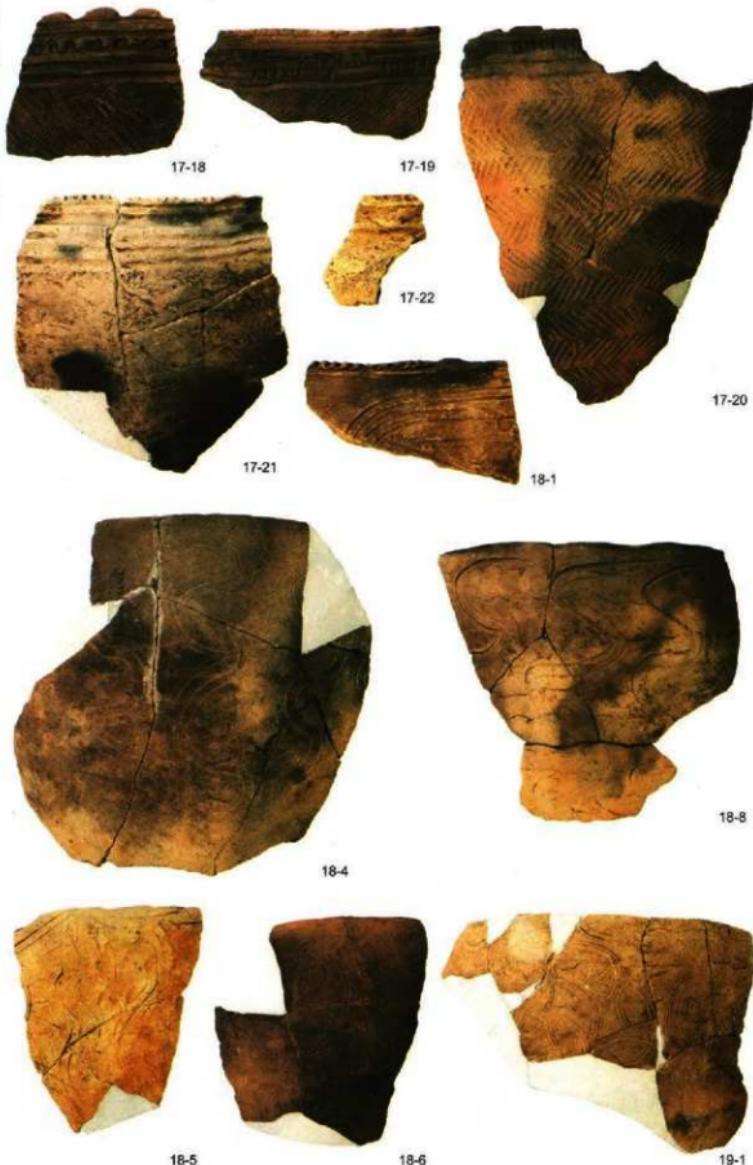


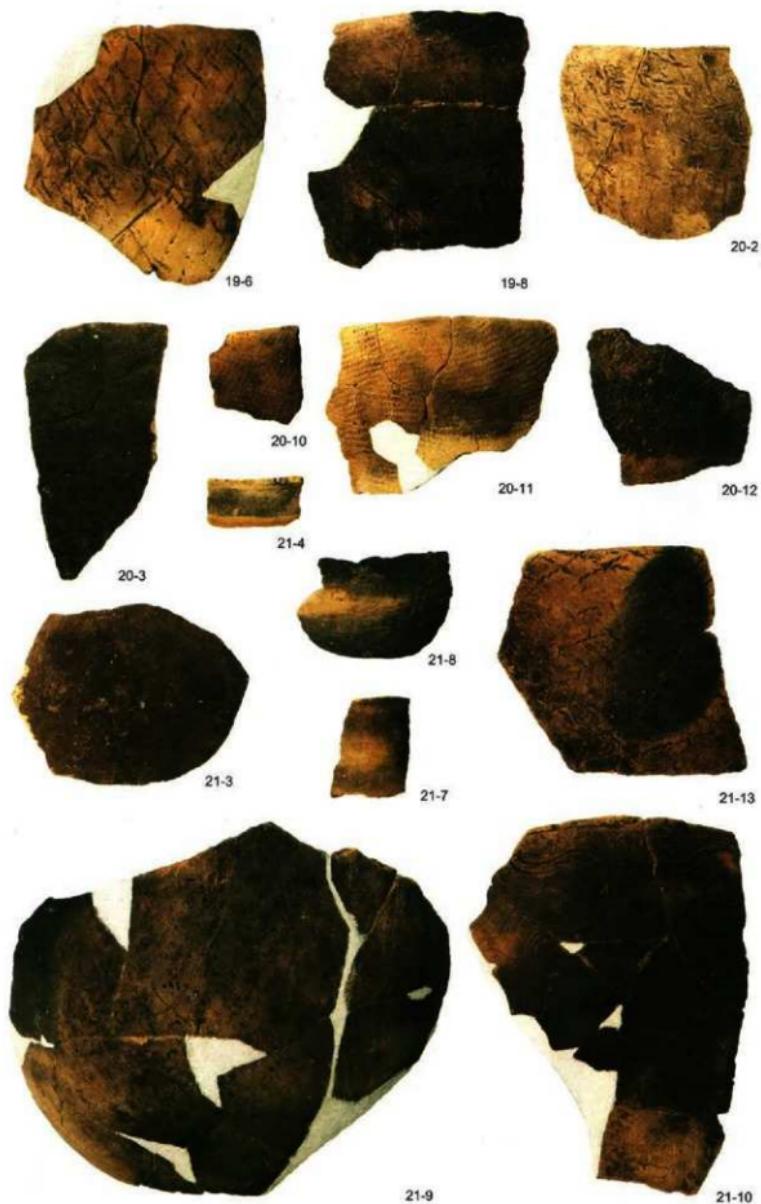


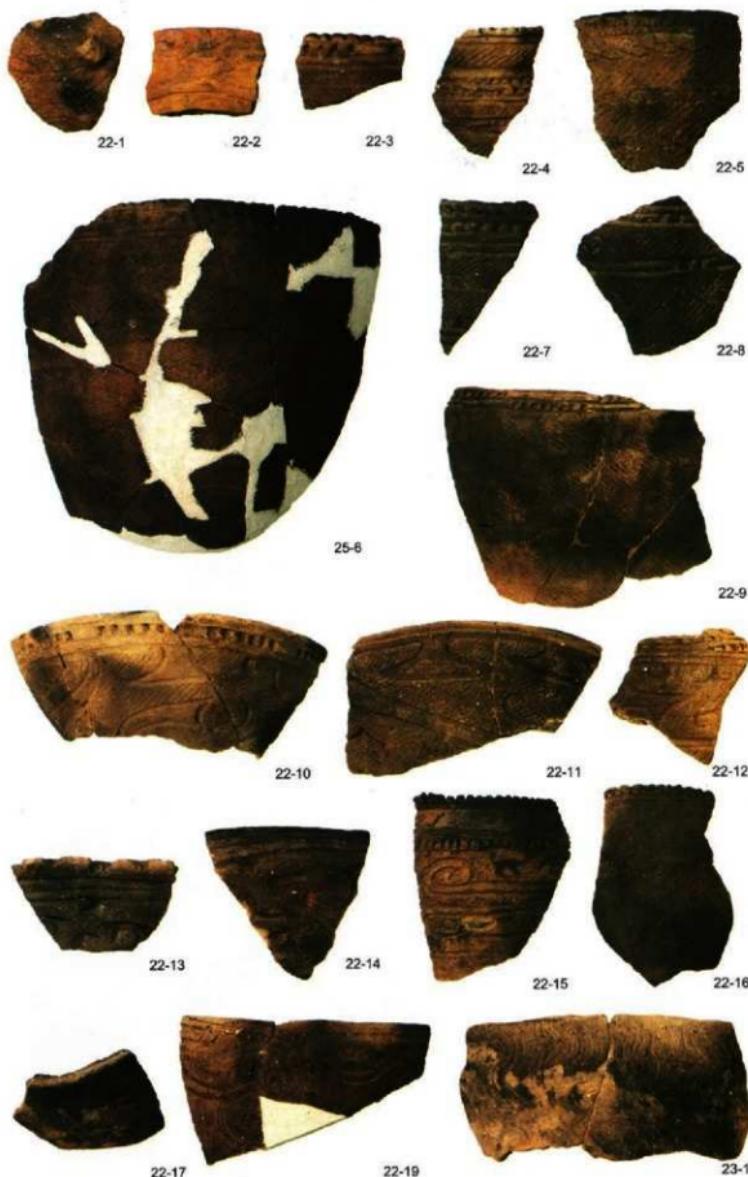


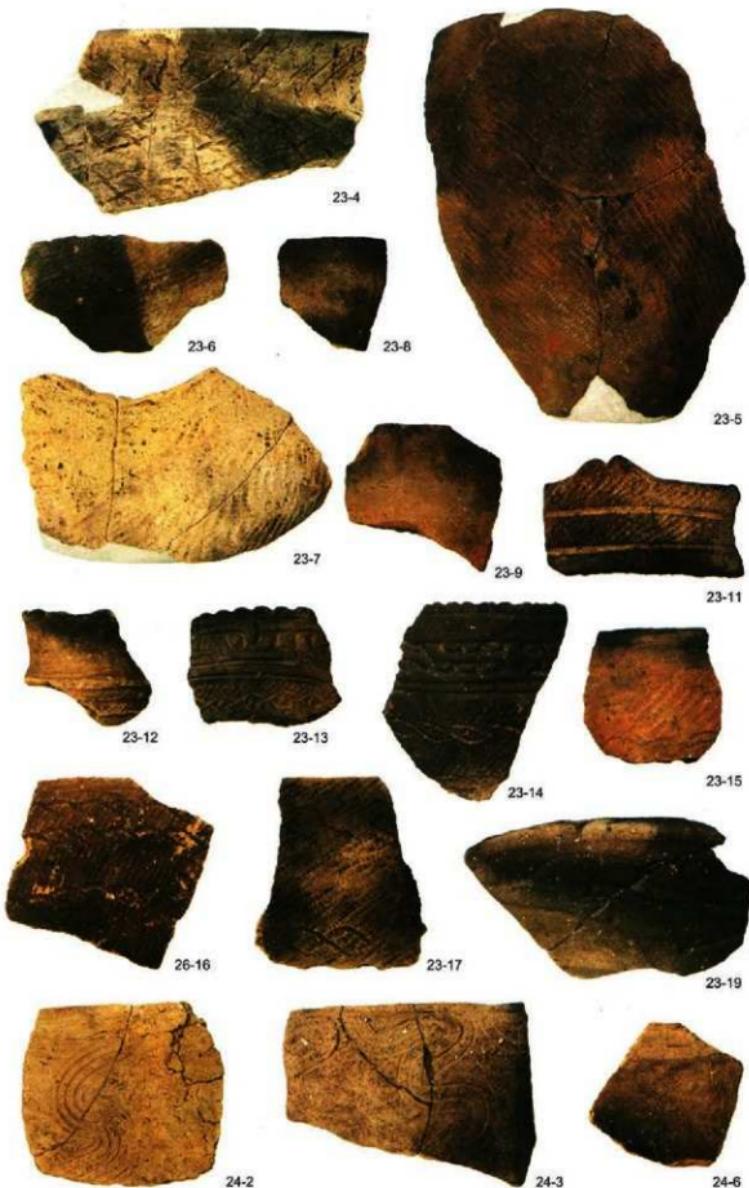


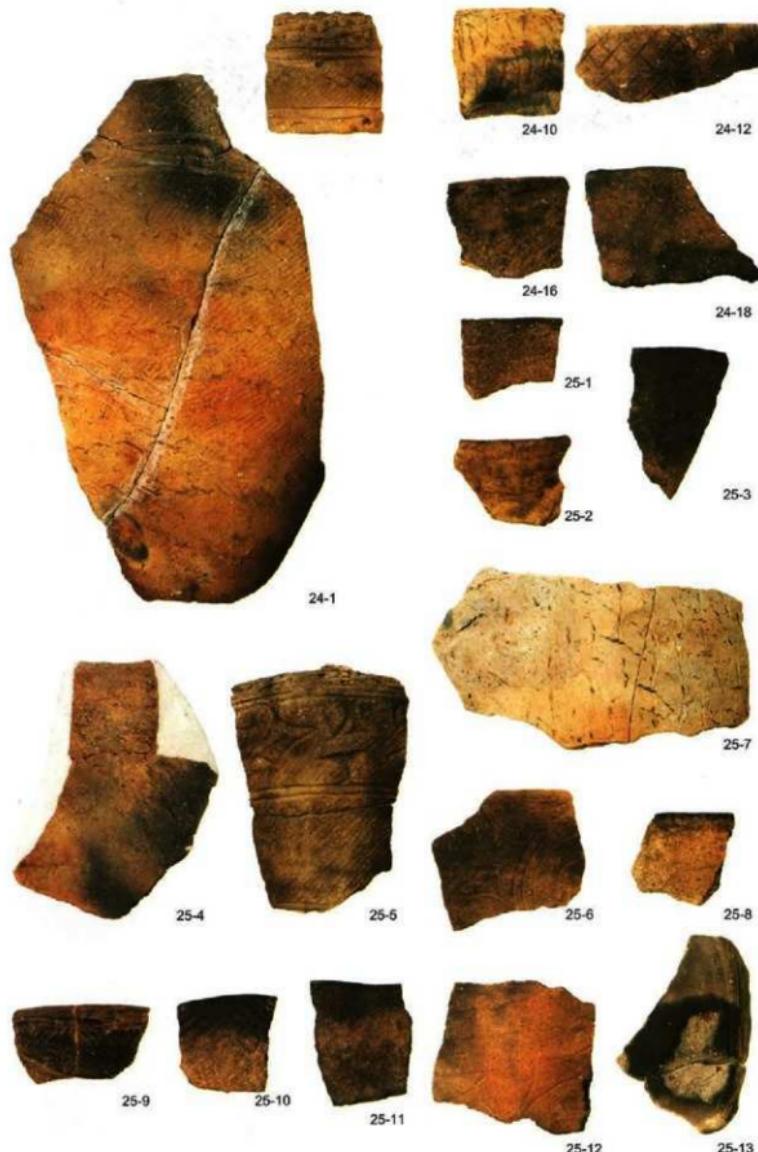


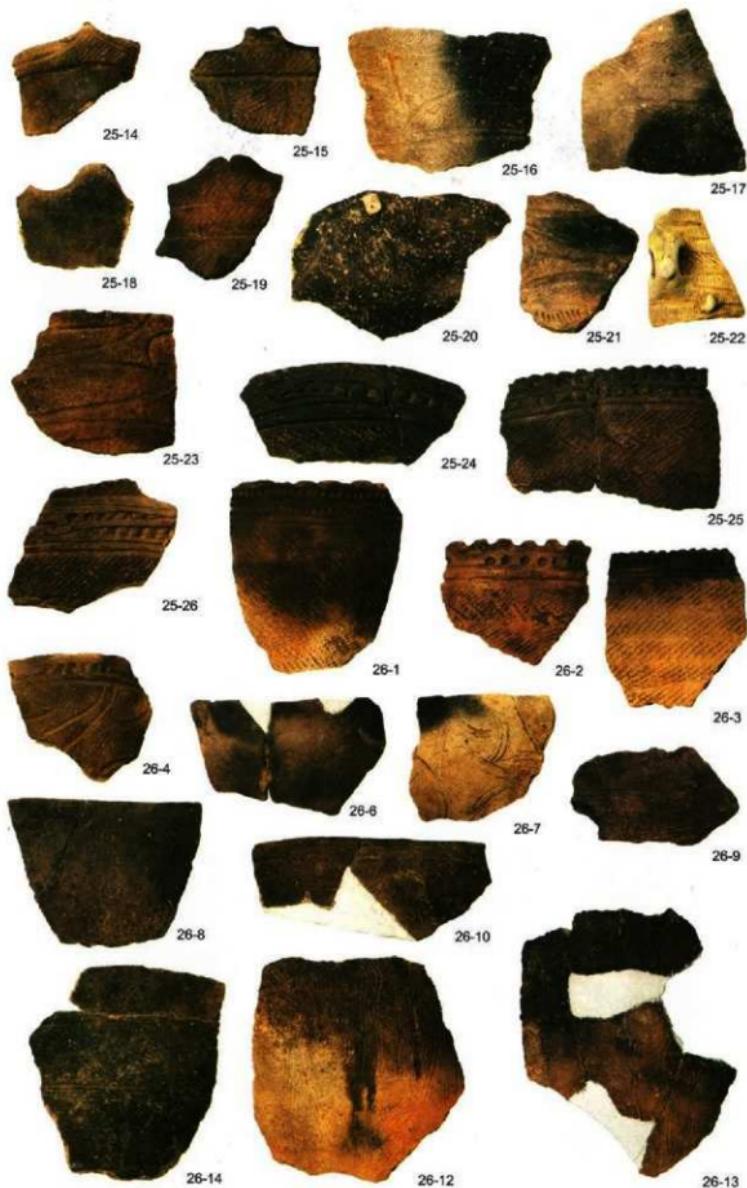


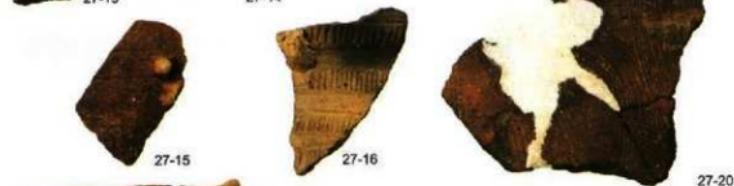


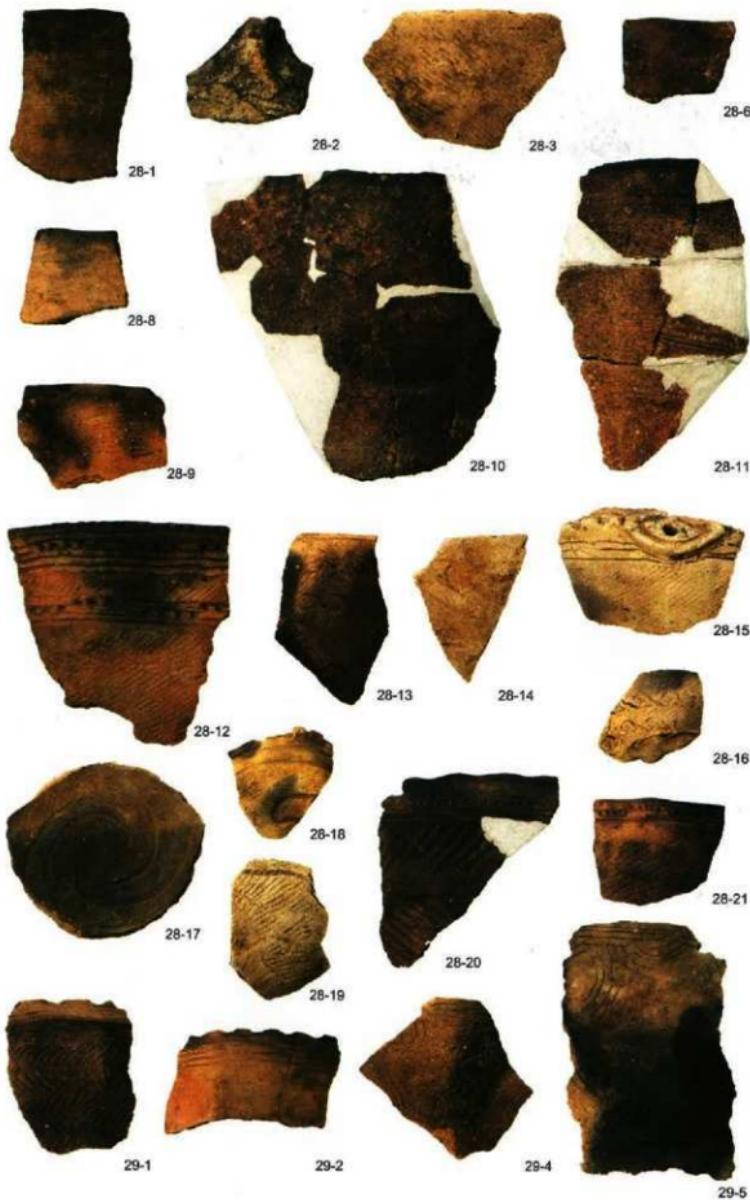


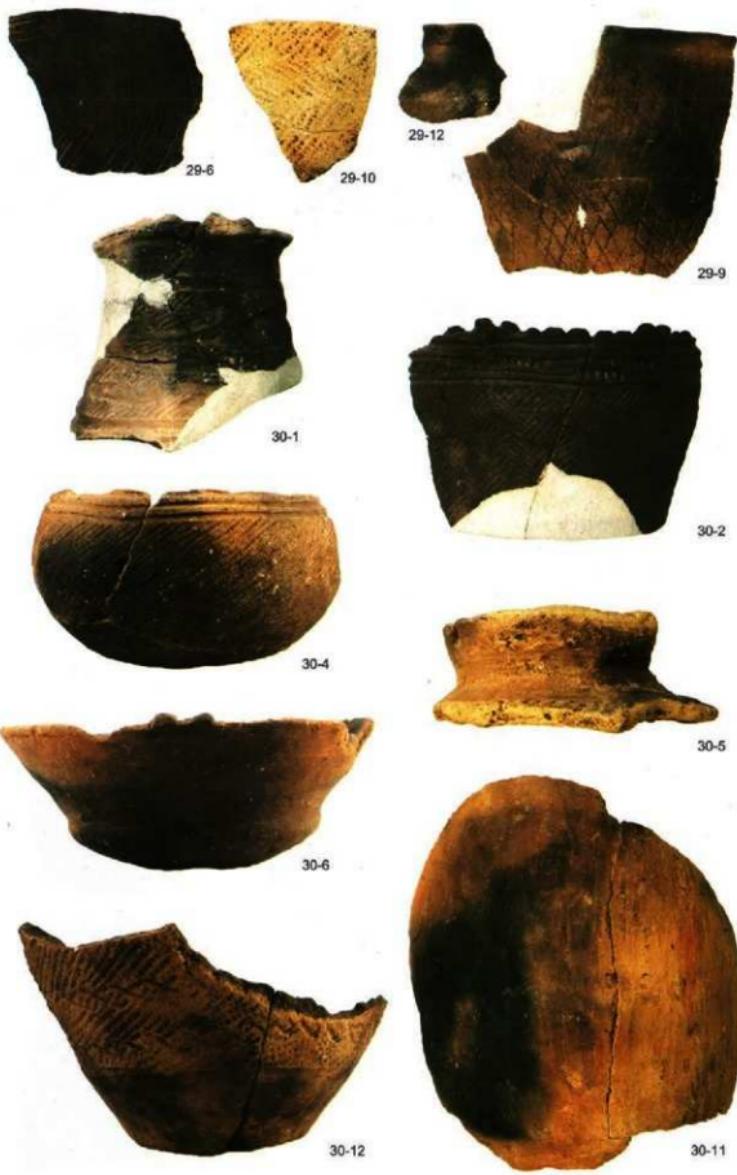














30-13



30-14



30-18



30-15



30-19



30-24



30-25



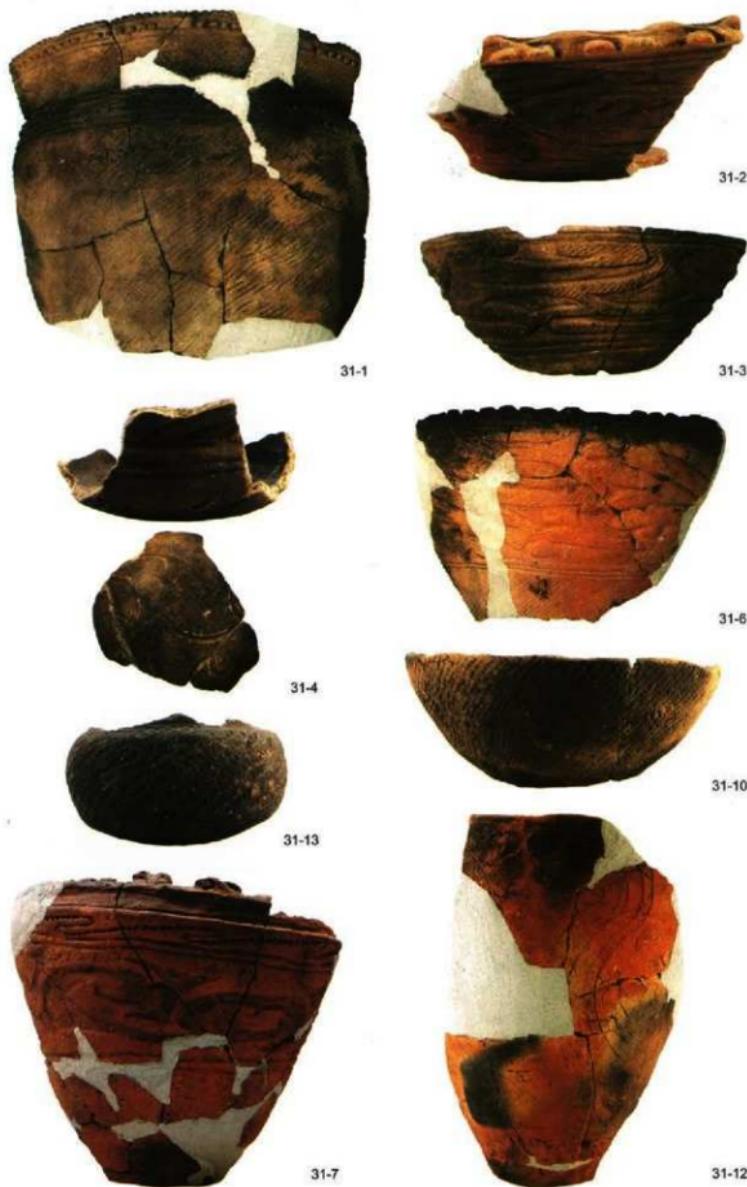
30-20



30-26



30-21





32-1



32-2



32-3



32-4



32-5



33-1



33-3



33-4



33-5



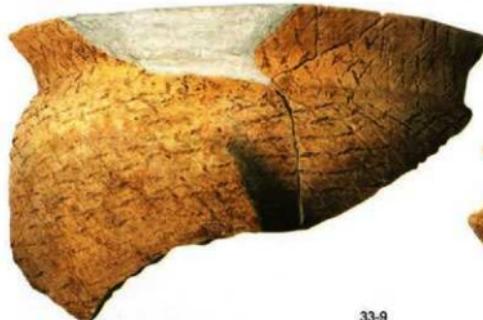
33-6



33-7



33-8



33-9



33-10



33-11

33-12



34-2





34-3



34-4



34-7



34-9



34-10



34-11



35-1



35-2



35-3



35-4



35-5



35-8



35-9



35-10



35-11



36-1



36-4



36-5



36-7



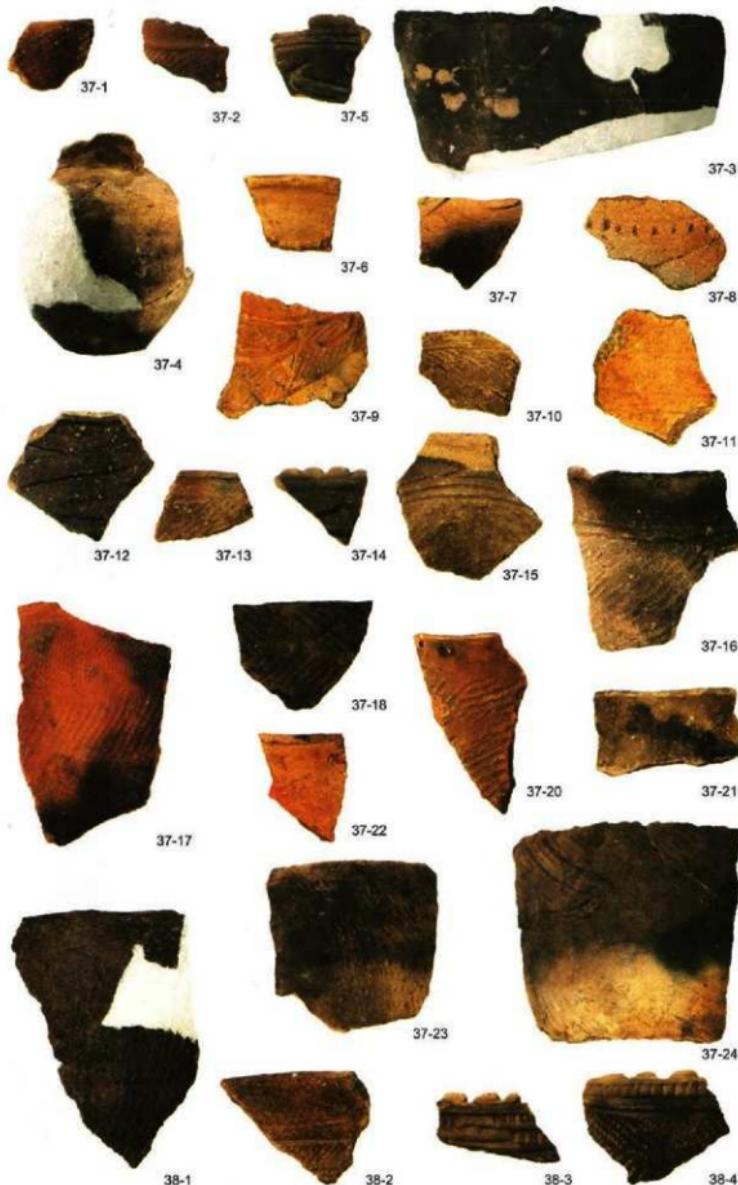
36-2



36-11



36-13









40-1



40-2



40-11



40-10



40-12



41-1



41-2



41-3



41-13



41-15



41-16



41-18



41-22



41-24



41-23



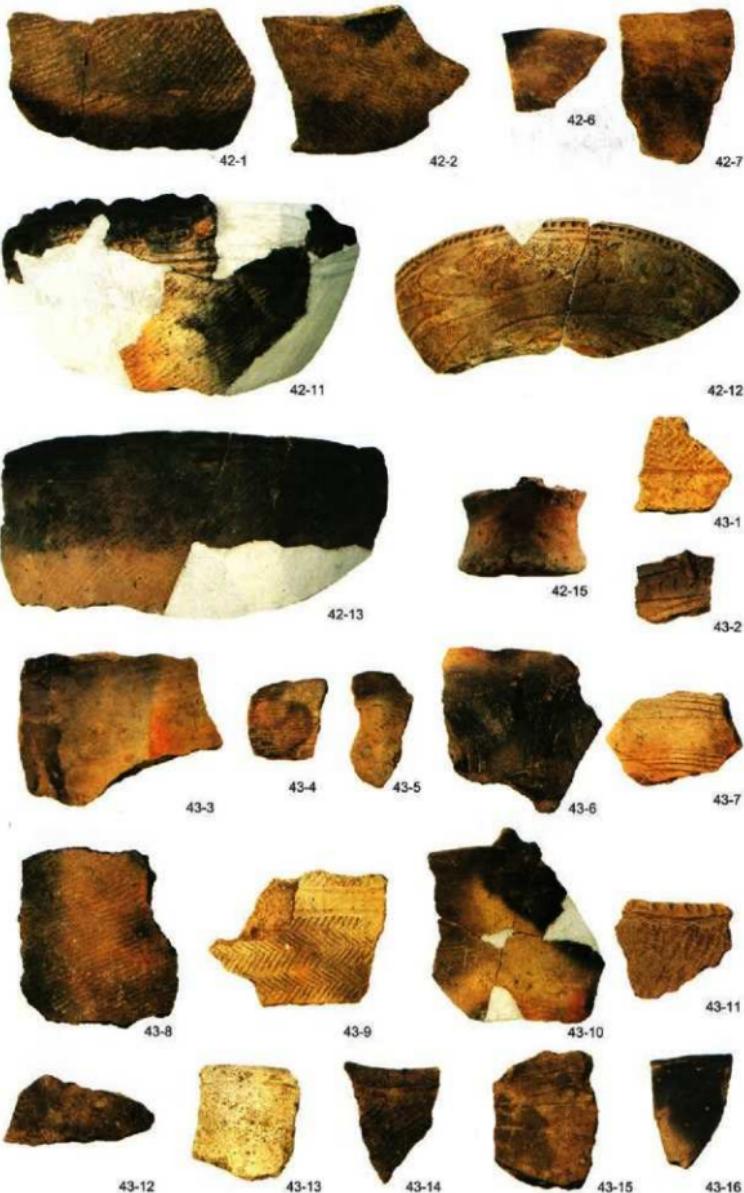
41-25

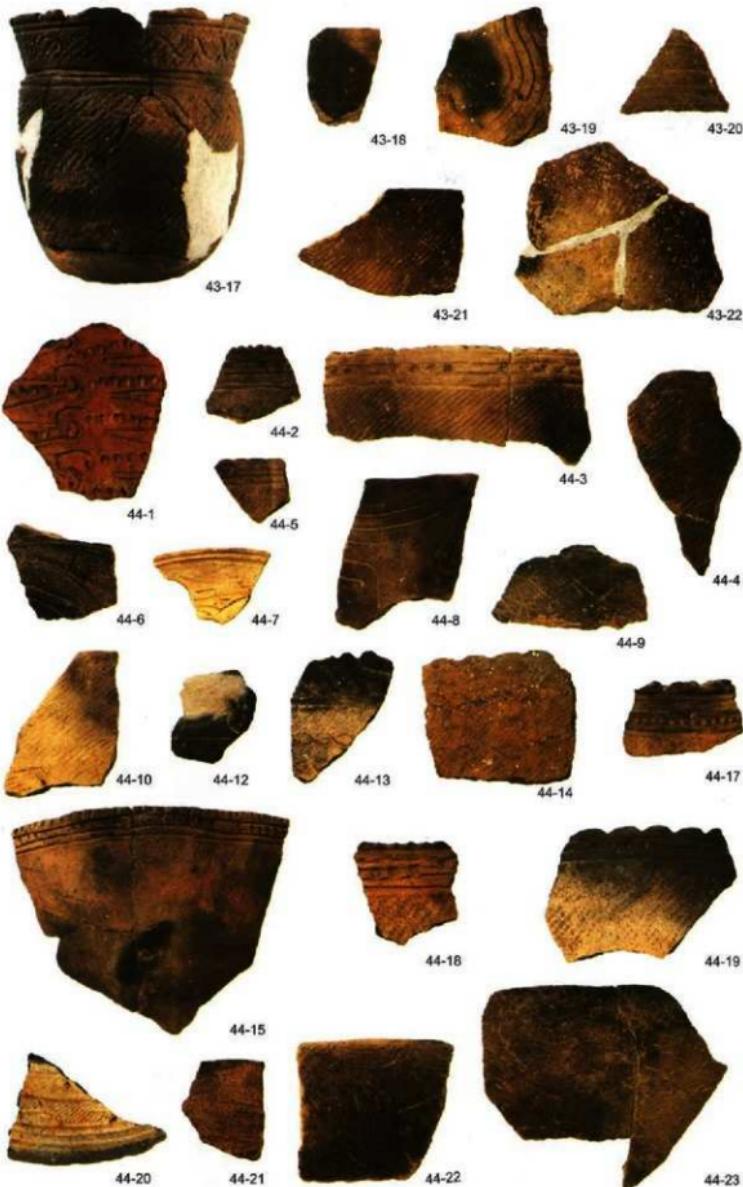


41-26



41-27







44-29



45-1



44-30



45-2



45-3



45-5



45-6



45-4



45-7



45-9



45-10



45-8



45-11

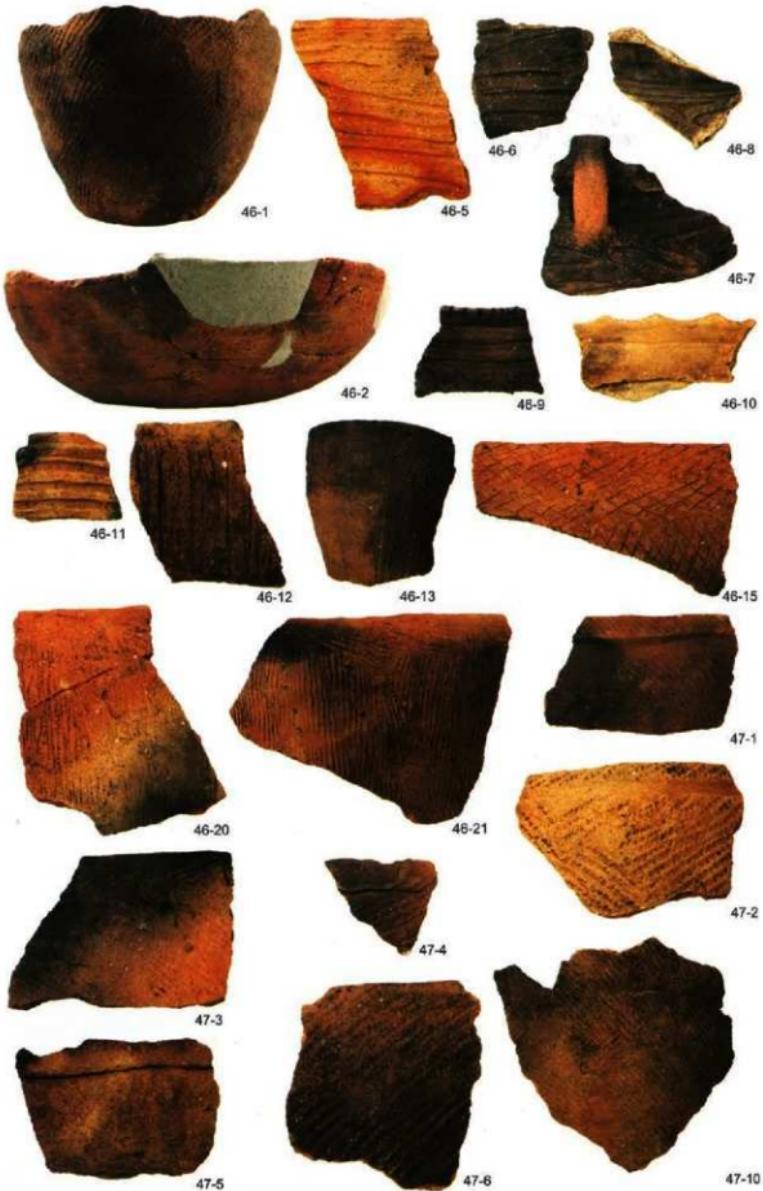


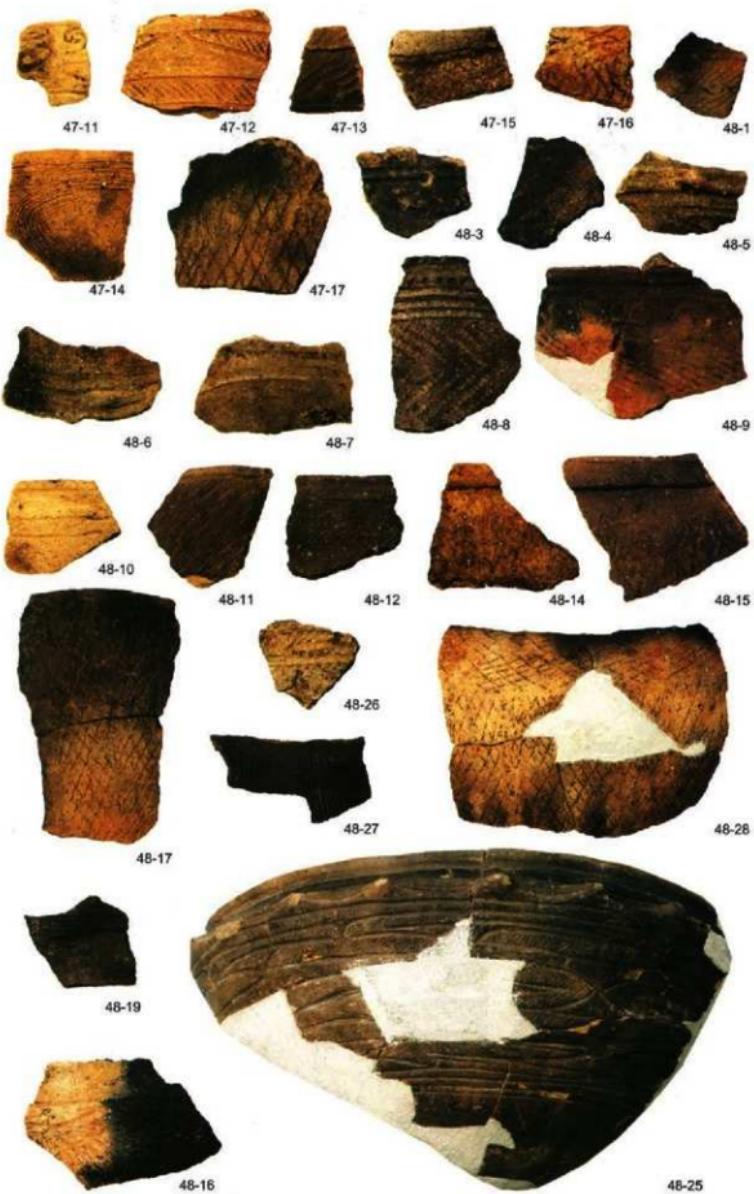
45-12

45-13

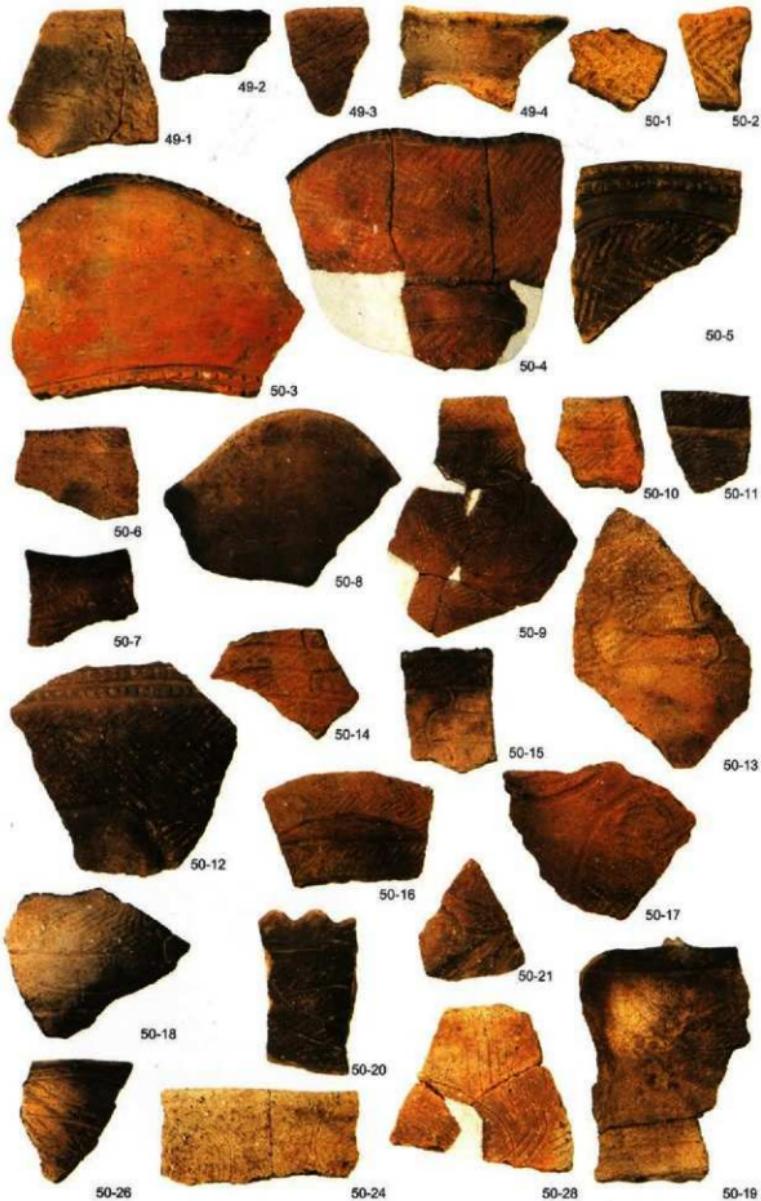
45-14

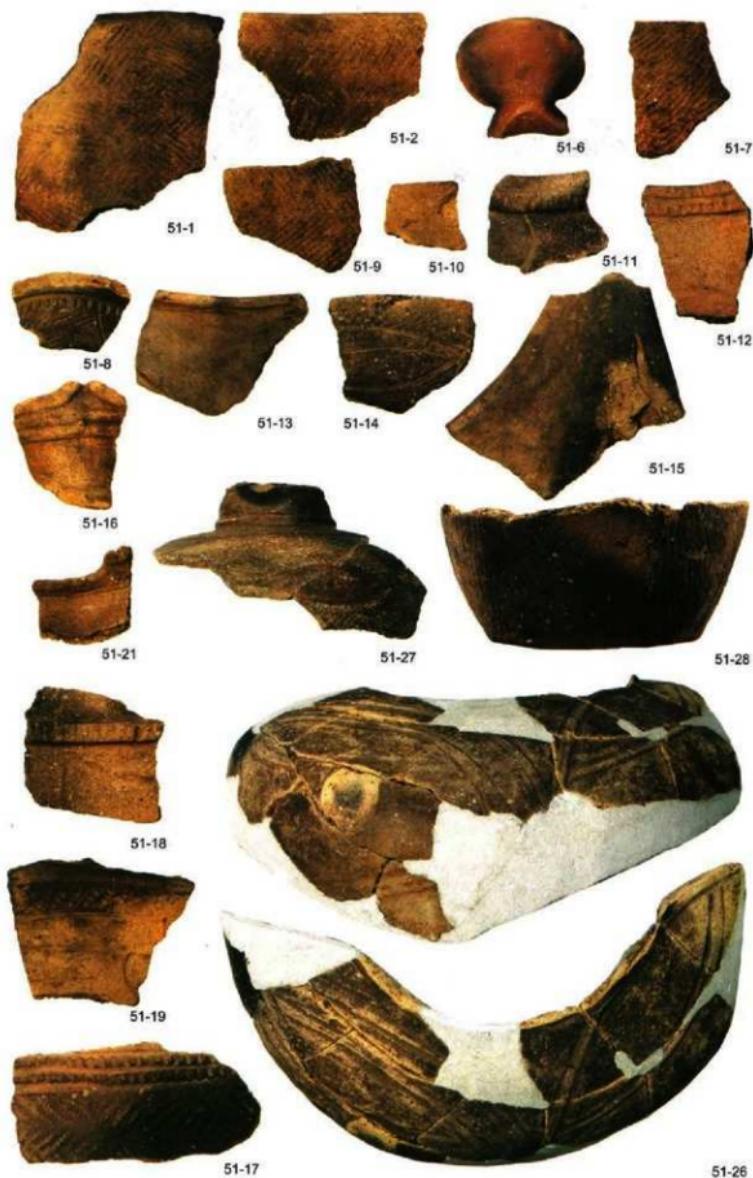
45-15



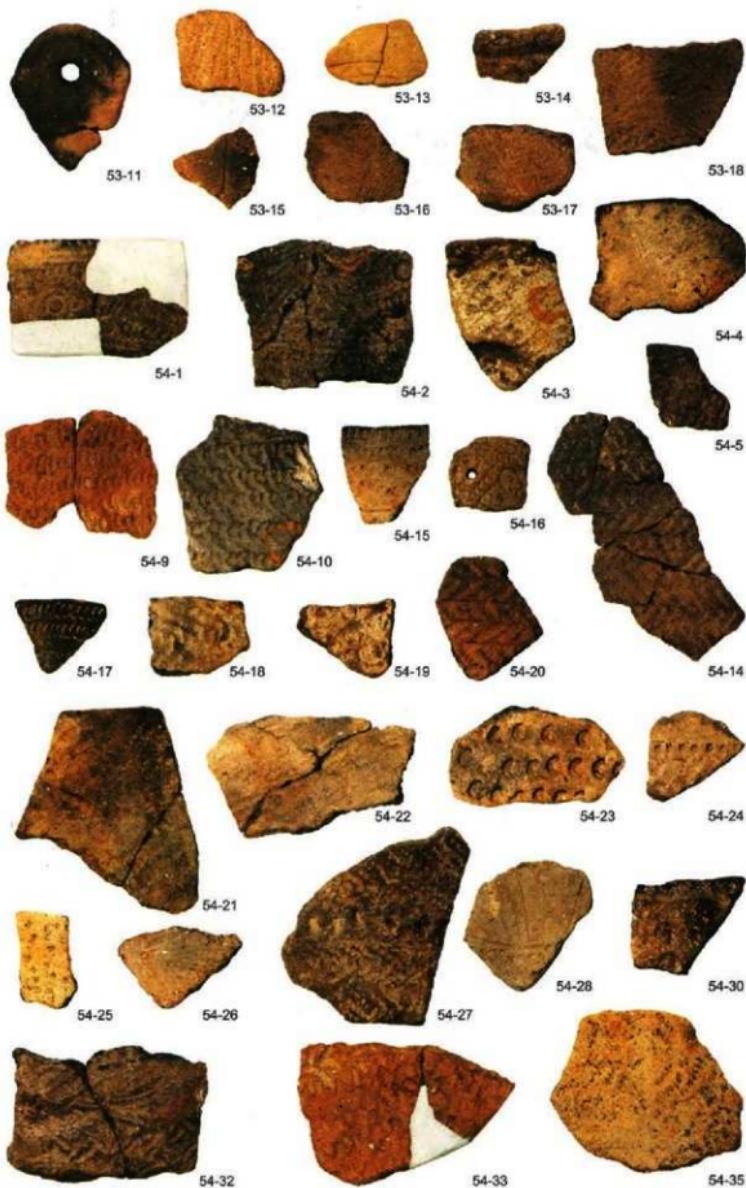


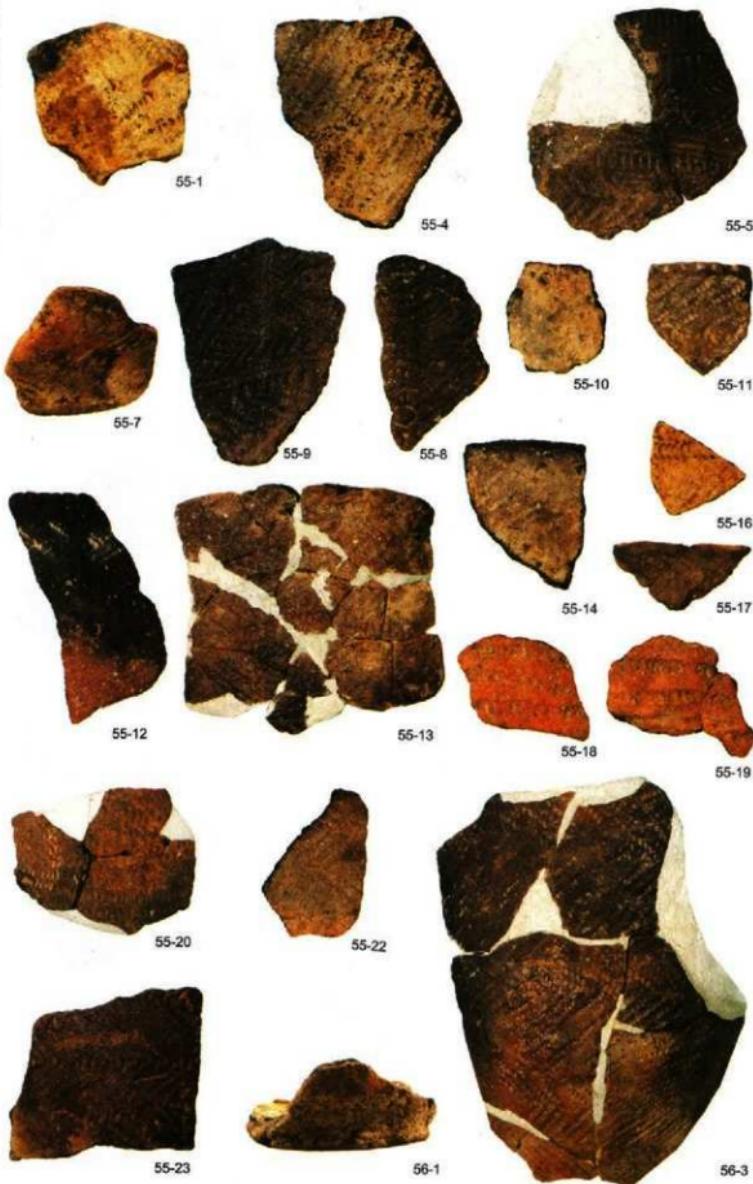
写真図版 ①  
6 G 出土土器・76 T 出土土器

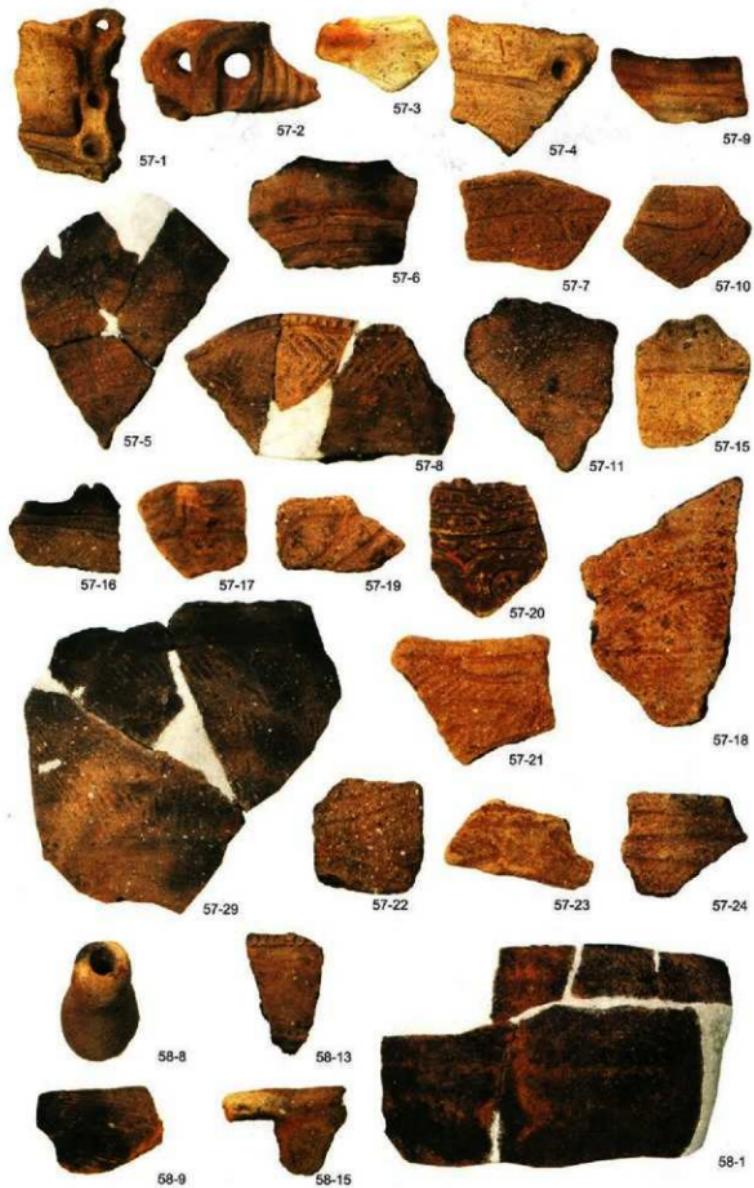




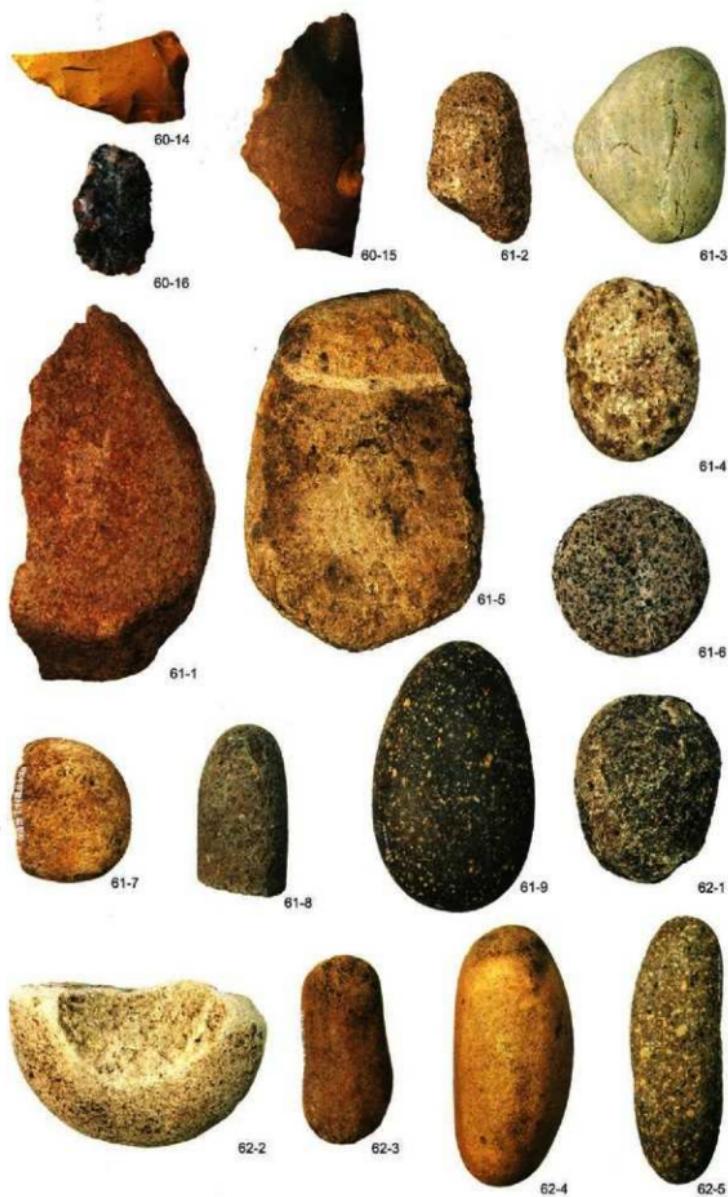


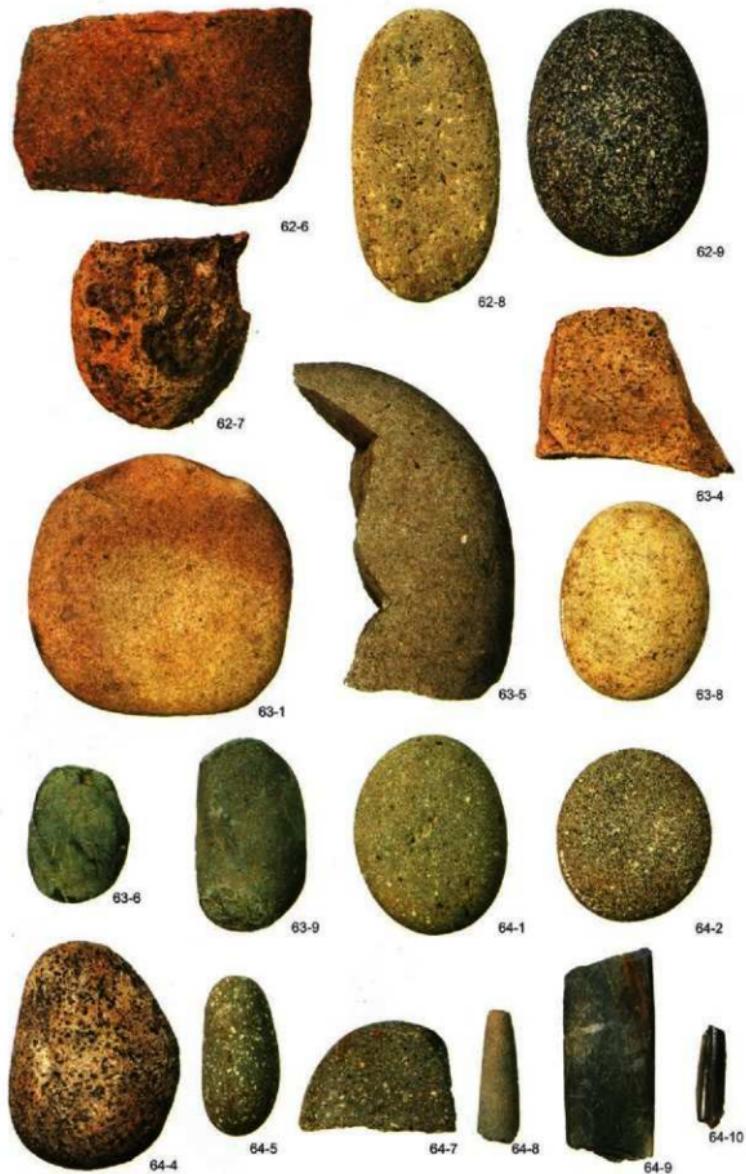














65-1



65-2



65-4



65-3



65-5



65-6



66-2



66-1



66-5



66-4



66-7



66-8



66-9



66-10



66-11



66-12



66-14



66-15



66-16



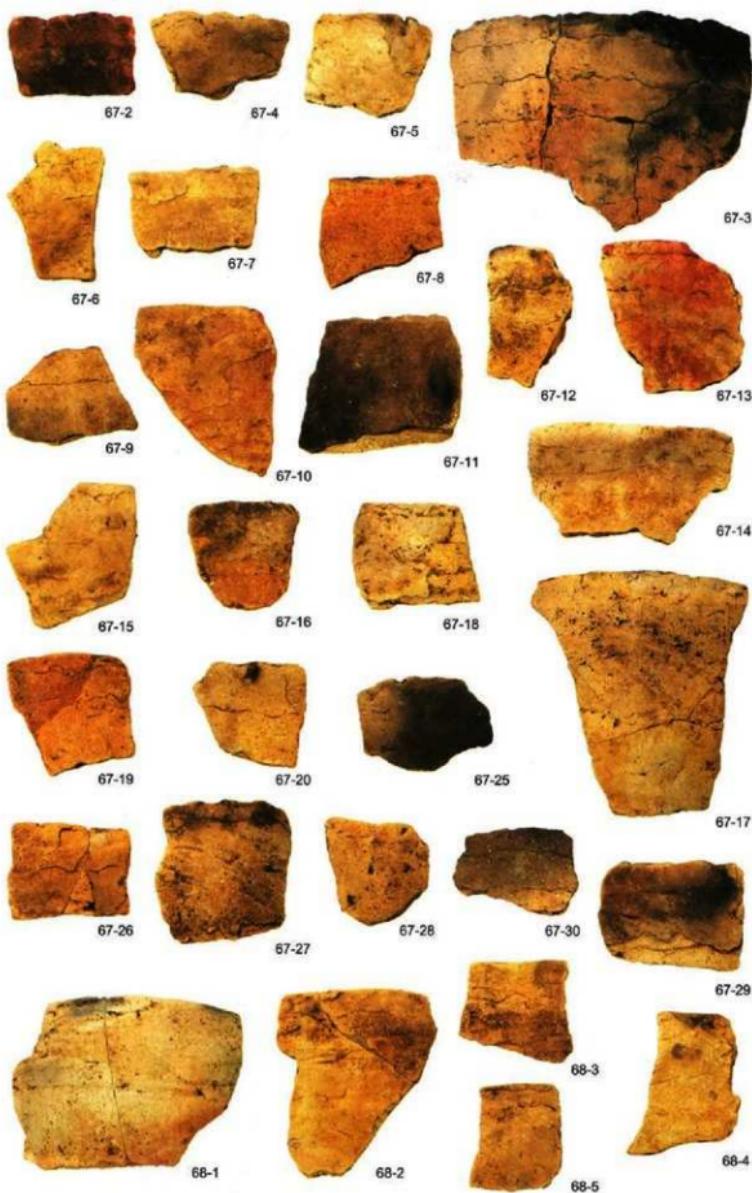
66-17

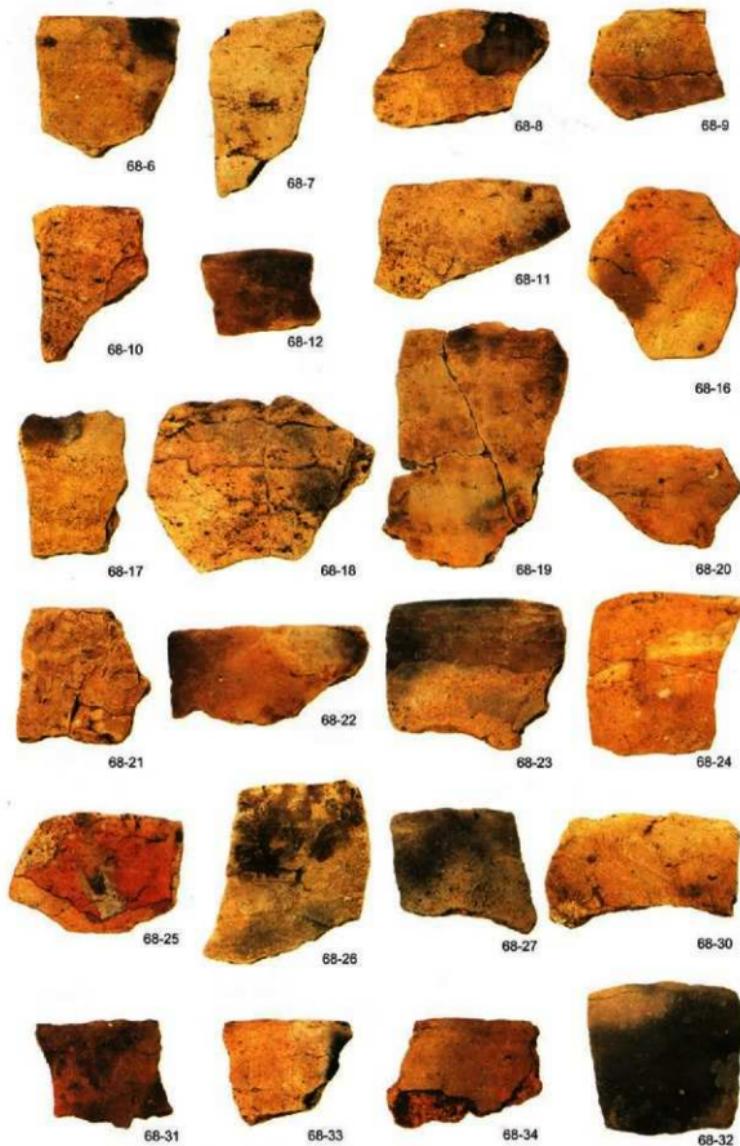


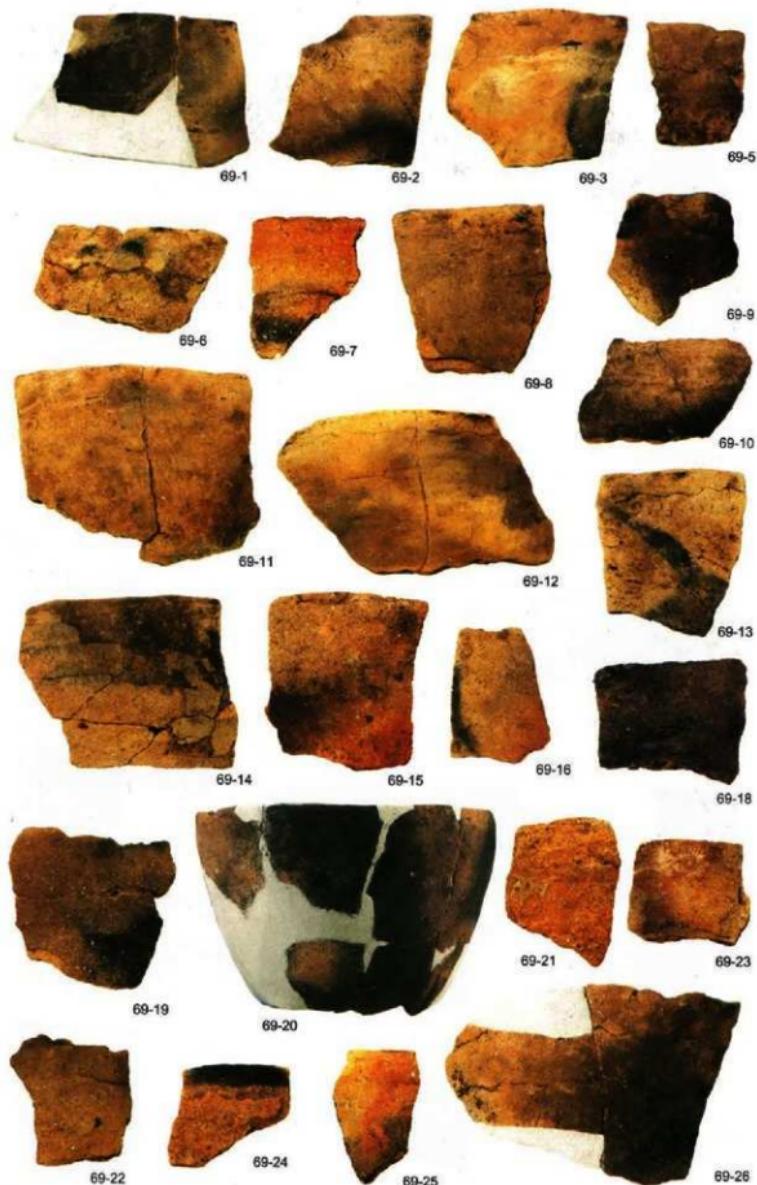
66-18

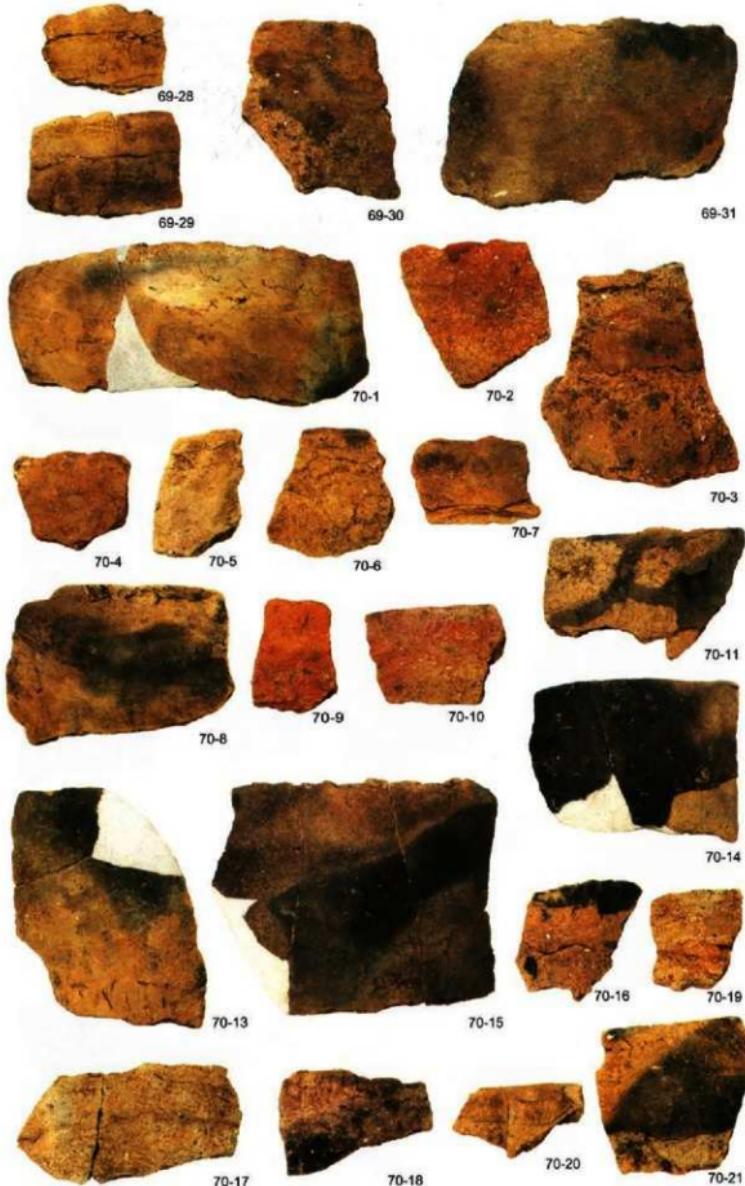


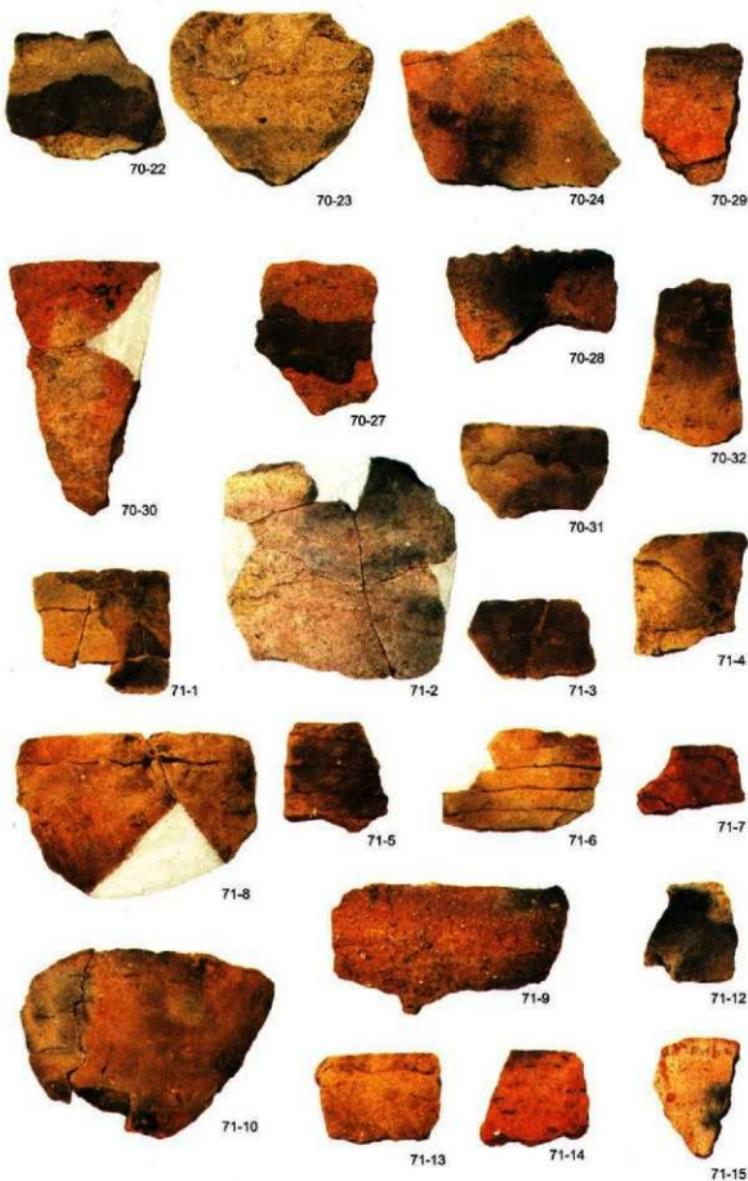
66-19













附編



# 附編1 浦尻貝塚周辺低地および砂州帶におけるボーリング調査

藤根 久・米田恭子・小林克也（パレオ・ラボ）

## 1. 目的

浦尻貝塚が成立した古宮田湾（仮称）の海岸線の復元、河口部砂州発達による潟湖形成期の推定および淡水化の変遷、貝塚形成期の周辺植生および植生変遷を調べるために、平成20年度に続きボーリング調査を実施し、オールコア試料を採取した。

## 2. ボーリング地点

ボーリング地点は、海岸線の復元（繩文海進最高潮期の海水準の推定：古東京湾において約3m前後）を調べるために、当時の堆積物が残ると期待される宮田川に面した支谷の標高5m前後の平坦地について実施した。また、河口部砂州発達による潟湖形成期の推定および淡水化の変遷を調べるために砂州帶について実施した。

実施した地点は、No.3、No.9、No.15、No.16、No.17、No.18、No.19、No.20の8地点である（図1、表1）。なお、地点No.15は、平成20年度ボーリング調査と同じ地点の同じボーリング孔において継続で実施した。

表1 ボーリング調査の目的と詳細

地点No.	調査の目的	採取地点	標高(m)	採取深度(m)	採取日-順番
3	海岸線の復元	小高区蛇沢地区	3.14	0.00-5.00	2009/12/8-1
9	海岸線の復元	小高区上浦地区	6.84	0.00-8.00	2009/12/7-2
15	砂州の発達形成	小高区井田川地区（集落内）	-2.10	3.00-5.55	2009/12/8-3
16	砂州の発達形成	小高区井田川地区（防風林内）	2.05	0.00-2.00	2009/12/9-2
17	砂州の発達形成	小高区井田川地区（防風林内）	1.16	0.00-1.60	2009/12/9-1
18	海岸線の復元	小高区行津地区	4.82	0.00-3.13	2009/12/7-1
19	旧河口の位置	小高区井田川地区（集落内）	-0.89	0.00-3.00	2009/12/8-2
20	砂州の発達形成	小高区浦尻地区（集落内）	1.87	0.00-4.00	2009/12/9-3

## 3. ボーリング調査の方法と仕様

ボーリング調査は、透明のポリカーボネイト製チューブを装填したパイプを地中に打ち込み、1m毎に深度8m程度までの連続的な堆積物を採取するボーリング機械を使用した。

使用機械は、東邦地下工機㈱製の電動ドロップヒッターを用いたオールコアボーリング装置を使用した。堆積物は、直径4cm、長さ1mの透明のポリカーボネイト製チューブに採取した。

なお、採取したボーリング試料（ポリカーボネイト製チューブ）は、現地において開封して土層記載および分析用試料を採取した後、透明シーラに3本程度をまとめて減圧パックして保管試料とした。

## 4. ボーリング調査による成果と概要

図2に地質の総合柱状図を示し、各ボーリング地点で得られた堆積物の特徴について述べる。なお、ボーリング調査によって得られた試料は、今後の自然科学分析に供した後、南相馬市教育委員会に保管する予定である。

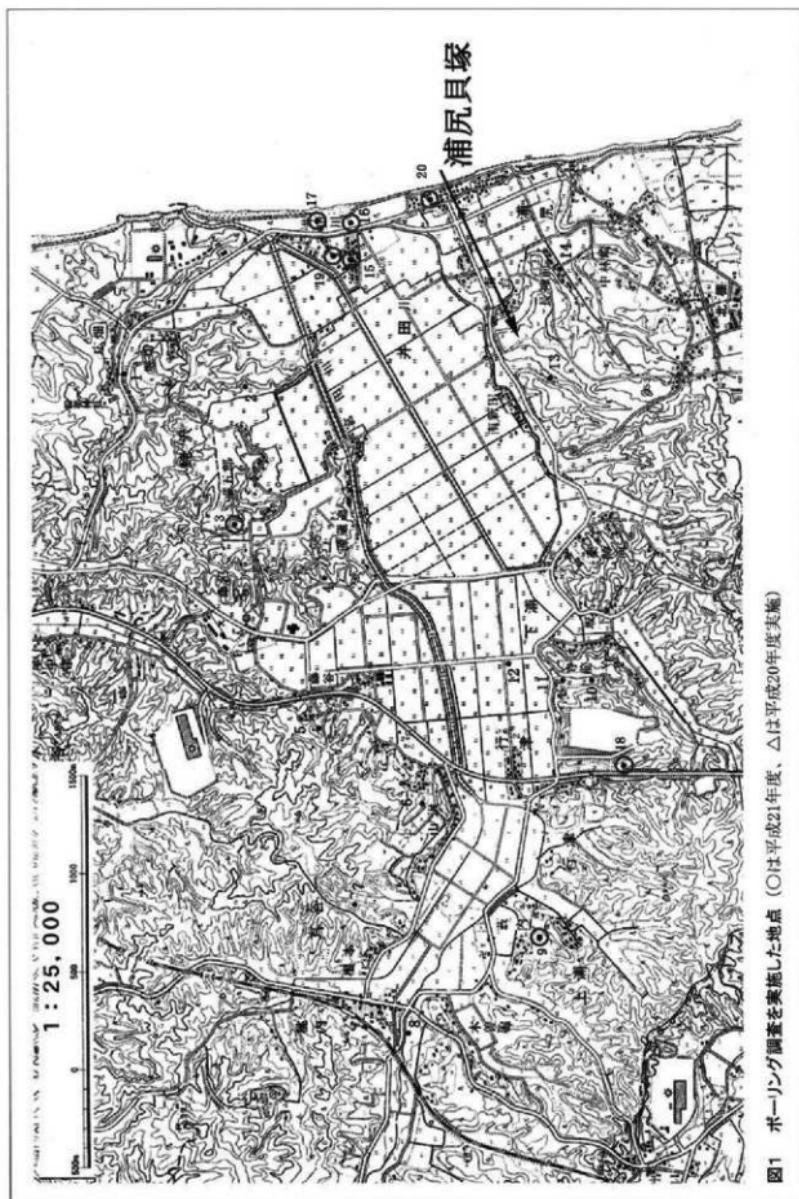


図1 ポーリング調査を実施した地点 (○は平成21年度、△は平成20年度実施)

[No.3 地点：小高区蛇沢地区、畑地、標高3.14m]

深度5.00mmまで採取した。深度約51cmまで現耕作土である。また深度約1.25mまで旧耕作土である。全体的に砂質シルトおよびシルトからなる。深度2.21-2.46mでは有機質シルト、深度3.21-3.37mでは植物遺体を含む。また、深度2.52m付近と深度3.6m付近には木材が含まれていた。海進期の堆積物はないものと推定される。

[No.9 地点：小高区上浦地区、畑地、標高6.84m]

深度8.0mまで採取した。深度約1.0mまで客土である。深度1.80mまで粘土および有機質粘土である。深度2.8mまで泥炭である。これより下位は、植物遺体混じりあるいは泥炭質砂から構成され、深度6.0-8.0mでは礫が混じる。海進期の堆積物はないものと推定される。なお、深度3.97-4.00mにガラス質テフラ、深度4.24-4.26mに上位テフラとは異なるガラス質テフラが含まれていた。

[No.15地点：小高区井田川地区（集落内）畑地、標高-2.10m、平成20年度の続き]

深度3.00-5.55mまで採取した。全体的に淘汰の良い砂堆積物である。深度5.10mまで貝片（二枚貝）を含む。深度3.22m、4.17m、4.59mに草本質の植物遺体を含む。

[No.16地点：宮小高区井田川地区、防風林内、標高2.05m]

深度2.0mまで採取した。表面12cm程度は現在の土壤である。全体的砂堆積物である。深度1.07-1.31mは土壤質砂である。深度1.575-2.00mまで礫を含む。

[No.17地点：小高区井田川地区、防風林内、標高1.16m]

深度1.60mまで採取した。表面12cm程度は現在の土壤である。全体的礫混じり砂堆積物である。深度0.47-0.66mと1.24m以深は砂礫である。

[No.18地点：小高区行津地区、水田旧耕作地、標高4.82m]

深度3.13mまで採取した。深度1.66mまで砂質シルトおよび黒色有機質砂質シルトからなる。深度1.79mまで泥炭および泥炭質粘土である。このうち泥炭中には厚さ約7cmのガラス質テフラが挟在する。深度3.13mまで砂質堆積物であり、深度約3.60-3.89mには基盤層に由来する粘土ブロックを含む。

[No.19地点：小高区井田川地区（集落内）、水田地、標高-0.89m]

深度3.0mまで採取した。深度29cmまで現水田耕作土である。深度1.0mまで砂堆積物であり、以下3.9mまで砂礫堆積物である。なお、深度1.0m付近に貝片（二枚貝）を少量含む。

[No.20地点：小高区浦尻地区（集落内）、旧住宅地、標高1.87m]

深度4.0mまで採取した。全体的に砂質堆積物である。深度1.19-1.32mにはラミナ入り黒色粘土、有機質砂がみられた。また、深度2.79-3.06mには黒色土壤質砂がみられた。なお、深度2.16-2.60mには砂礫が含まれていた。

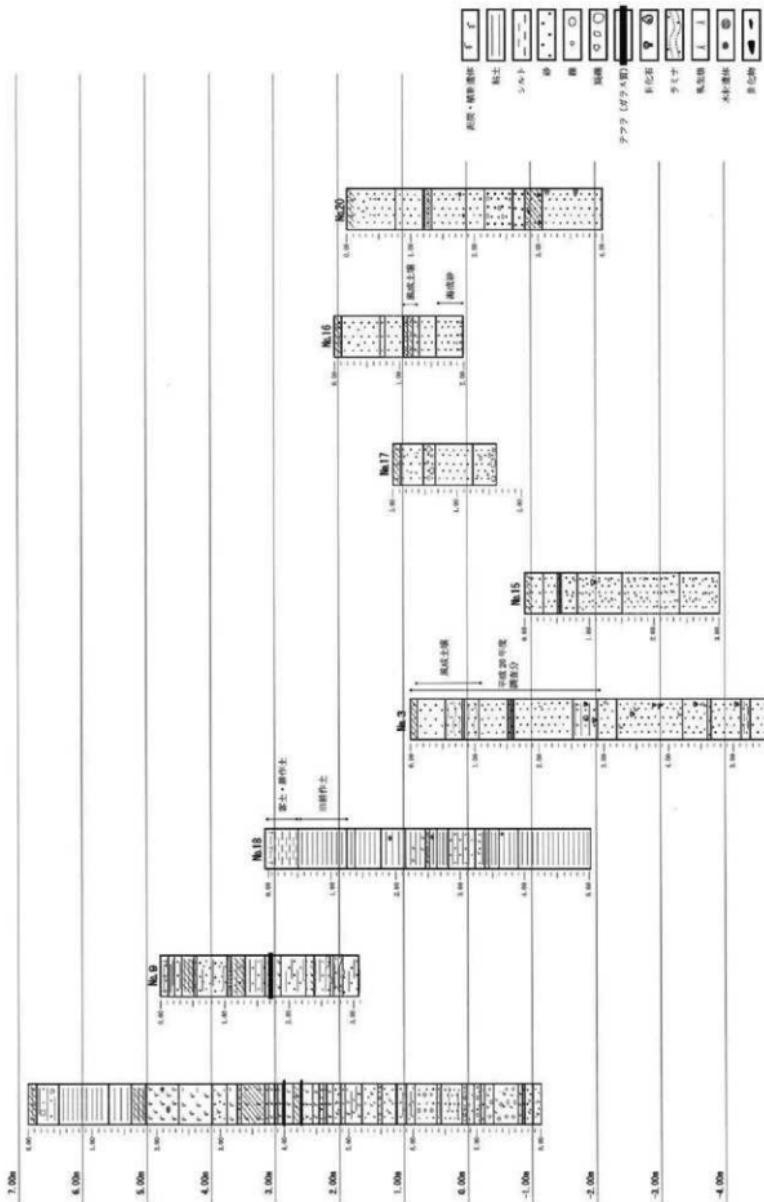


図2 ポーリング資料の総合柱状図

## 附編2 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤茂・丹生越子・尾當大真・廣田正史・瀬谷薫・小林謙一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

### 1. はじめに

浦尻貝塚周辺低地におけるボーリング試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

### 2. 試料と方法

測定試料は、No.14地点ボーリングおよびNo.15地点ボーリングにより得られた試料である（図1）。No.14地点ボーリングの測定試料No.14-D（PLD-13039）は、木材の樹皮である。また、No.15地点ボーリングの測定試料は、No.15-D（PLD-12802）が草本類茎、No.15-E（PLD-12803）が根以外の植物遺体である。

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、曆年代を算出した。

### 3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ<sup>13</sup>C）、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した14C年代、14C年代を曆年代に較正した年代範囲を、図2に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代（yrBP）の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、曆年較正の詳細は以下の通りである。

表1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-13039	位置：No.14ボーリング 試料No.14-D	試料の種類：生試料(材の樹皮) 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12802	位置：No.15ボーリング 試料No.15-D	試料の種類：生試料(草本類茎) 試料の性状：種類不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12803	位置：No.15ボーリング 試料No.15-E	試料の種類：生試料(根以外の植物遺体) 試料の性状：種類不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス

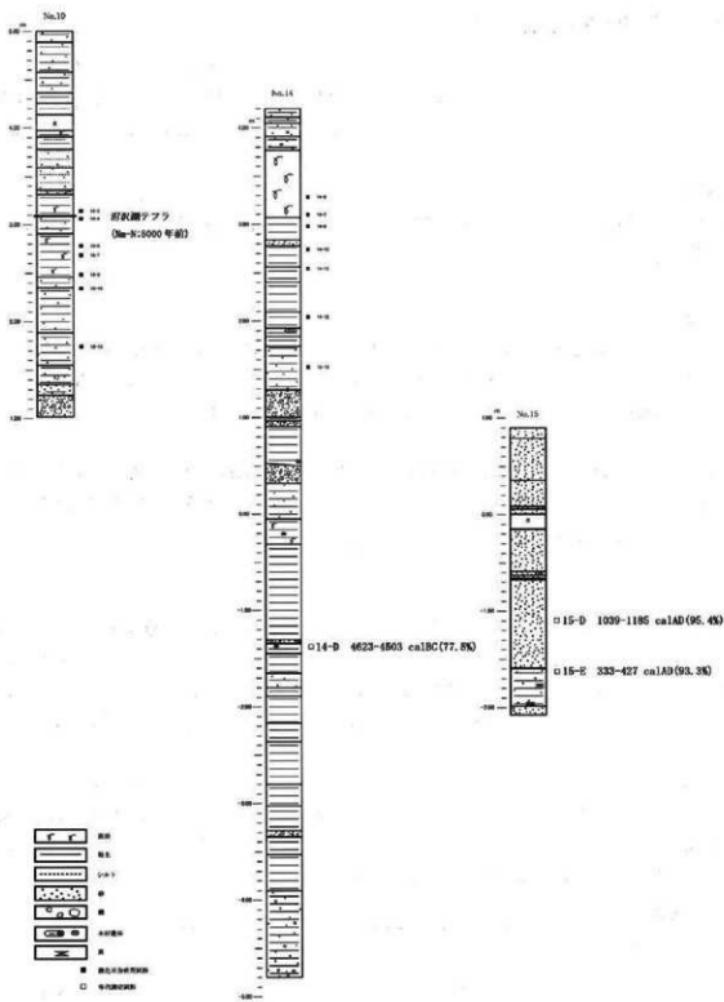


図1 ポーリング柱状図と分析位置（年代は $2\sigma$ 暦年代範囲を示す。）

## 曆年較正

曆年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い (<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の曆年較正にはOxCal4.0（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1σ曆年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の曆年代範囲であり、同様に2σ曆年代範囲は95.4%信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。それぞれの曆年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表2 放射性炭素年代測定及び曆年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	曆年較正用年代 (yrBP ± 1σ)	<sup>14</sup> C 年代 (yrBP ± 1σ)	14C年代を曆年代に較正した年代範囲	
				1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
PLD-13039 試料No. 14-D	-30.17 ± 0.17	5736 ± 25	5735 ± 25	4650BC (3.0%) 4643BC 4616BC (65.2%) 4536BC	4684BC (17.9%) 4632BC 4623BC (77.5%) 4503BC
PLD-12802 試料No. 15-D	-16.99 ± 0.14	907 ± 21	905 ± 20	1046AD (40.2%) 1091AD 1121AD (14.6%) 1140AD 1148AD (13.4%) 1165AD	1039AD (95.4%) 1185AD
PLD-12803 試料No. 15-E	-28.34 ± 0.12	1665 ± 22	1665 ± 20	351AD (16.2%) 368AD 380AD (52.0%) 416AD	265AD (2.1%) 274AD 333AD (93.3%) 427AD

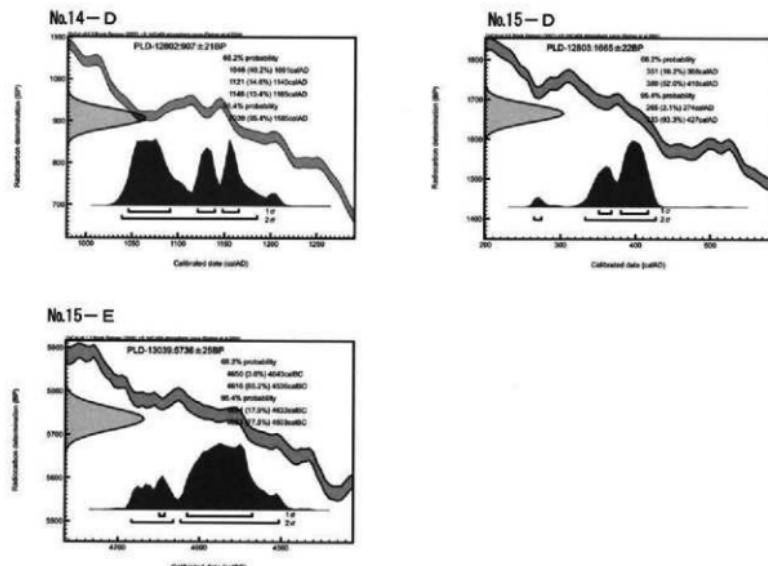


図2 曆年較正の結果

#### 4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び曆年較正を行った。得られた曆年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

No.14地点ボーリングの試料No.14-D(材の樹皮; PLD-13039)は、 $1\sigma$  曆年代範囲において4650-4643 calBC(3.0%)、4616-4536 calBC(65.2%)、 $2\sigma$  曆年代範囲において4684-4632 calBC(17.9%)、4623-4503 calBC(77.5%)であった。

No.15地点ボーリング、試料No.15-D(草本類茎; PLD-12802)は、 $1\sigma$  曆年代範囲において1046-1091 calAD(40.2%)、1121-1140 calAD(14.6%)、1148-1165 calAD(13.4%)、 $2\sigma$  曆年代範囲において1039-1185 calAD(95.4%)であった。

No.15地点ボーリング、試料No.15-E(根以外の植物遺体; PLD-12803)は、 $1\sigma$  曆年代範囲において351-368 calAD(16.2%)、380-416 calAD(52.0%)、 $2\sigma$  曆年代範囲において265-274 calAD(2.1%)、333-427 calAD(93.3%)であった。

#### 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. *Radiocarbon*, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon*, 43, 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代. 3-20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmeli, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talma, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. *Radiocarbon*, 46, 1029-1058.

### 附編3 浦尻貝塚周辺ボーリング試料中のテフラ分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

平成20年度において浦尻貝塚が成立した古宮田湾（仮称）の海岸線の復元、河口部砂州発達による潟湖形成期の推定および淡水化の変遷、貝塚形成期の周辺植生および植生変遷を調べるために、ボーリング調査を実施しオールコア試料を採取した。このうち、未区画整理地の谷の水田耕作地（標高5.0m）で実施したNo.10地点ボーリング試料中にガラス質テフラが検出された。ここでは、このガラス質テフラの特徴を調べ、テフラ同定を行った。

#### 2. 試料と分析方法

試料は、未区画整理地の谷の水田耕作地（標高5.0m）で実施したNo.10地点のボーリング試料中のガラス質テフラ1試料である。なお、ガラス質テフラの検出された層準は標高約3.1m付近の泥炭質堆積物中である。

分析では、粘土や植物遺体など混じりの少ないガラス質テフラ1g程度を採取し、トールビーカーに入れて超音波洗浄した後、アスピレータを用いてコロイド分を除去した。一部を採取して簡易水浸プレバラートを作製し、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの分類と計数を行った。なお、火山ガラスは、町田・新井（2003）の分類基準に従い分類した。

さらに、一部のガラスを採取して火山ガラスの屈折率測定を行った。屈折率測定は、横山卓雄ほか（1986）に従い、温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率（n）を測定した。

#### 3. 結果

偏光顕微鏡による観察を行った結果、ガラス質テフラは、主に100μm前後以下の火山ガラスから構成される。火山ガラスを分類・計数した結果、軽石型ガラス（繊維状およびスponジ状）が最も多く、バブル型ガラス（平板状およびY字状）を含む（表1）。なお、石英および長石類も比較的多く含まれていた。また、火山ガラスの屈折率は、範囲1.4999-1.5041、平均1.5024であった（図1）。

表1 No.10ボーリング試料中の火山ガラスの形態分類

試料No.	特徴	石英・長石類	バブル型ガラス		軽石型ガラス		急冷破砕型ガラス		不明
			平板状	Y字状	繊維状	スponジ状	フレーク状	塊状	
1	ガラス質テフラ	33	21	23	41	79	0	2	1

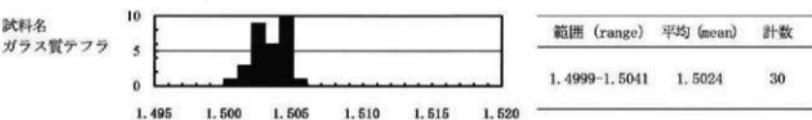


図1 火山ガラスの屈折率測定結果

#### 4. テフラ同定

No.10地点のボーリング試料中のガラス質テフラは、軽石型カラス（繊維状およびスポンジ状）やバブル型ガラス（平板状およびY字状）からなり、火山ガラスの屈折率は、範囲1.4999–1.5041であった。これら火山ガラスの特徴から、沼沢湖テフラ（Nm-N）と同定される。

沼沢湖テフラ（Nm-N）は、沼沢カルデラにおいて約5000年前に噴火し、火碎流堆積物、降下軽石、火碎流堆積物からなり、降下軽石は東側に70kmに及ぶ。主な鉱物は斜方輝石、角閃石および石英である。軽石ガラスの屈折率は、範囲1.500–1.505である（町田・新井、2003）。

#### 5. おわりに

No.10地点のボーリング採取のガラス質テフラは、火山ガラスの形態的特徴および火山ガラスの屈折率から、沼沢カルデラにおいて約5000年前に噴火した沼沢湖テフラ（Nm-N）と同定された。

#### 参考・引用文献

- 町田 洋・新井房夫(2003)新編 火山灰アトラス.336p, 東京大学出版会.  
横山卓雄・榎原 譲・山下 透(1986) 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定. 第四紀研究, 25, 21–30.

## 附編4 浦尻貝塚周辺低地ボーリング試料の珪藻化石群集

藤根 久（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

珪藻は、10～500 $\mu\text{m}$ ほどの珪酸質殻を持つ单細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉、1988；安藤、1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

平成20年度において、浦尻貝塚が成立した古宮田湾（仮称）の海岸線の復元、河口部砂州発達による潟湖形成期および淡水化の変遷、貝塚形成期の周辺植生および植生変遷を調べるために、ボーリング調査を実施しオールコア試料を採取した。

ここでは、海岸線の復元を目的としてNo.10地点とNo.14地点のボーリング試料について珪藻化石群集を調べた。

### 2. 試料と処理方法

試料は、寺前地区的水田耕作地（標高5.0m）で採取したNo.10地点ボーリング試料と長神前地の貝塚南側の谷内畑地（標高4.2m）で採取したNo.14地点ボーリング試料である。分析試料は、No.10地点ボーリングが7試料、No.14地点ボーリングが7試料である。各試料は、以下に示す処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 濡潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロビペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600～1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻殻は、完形と非完形（半分以上残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g中の殻数を計算し、分布図に示した。

### 3. 硅藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、海水～汽水種は不明種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。

以下に、小杉（1988）が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

〔外洋指標種群 (A)〕：塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

〔内湾指標種群 (B)〕：塩分濃度が26～35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

〔海水藻場指標種群 (C1)〕：塩分濃度が12～35パーミルの水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群である。

〔海水砂質干潟指標種群 (D1)〕：塩分濃度が26～35パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

〔水泥質干潟指標種群 (E1)〕：塩分濃度が12～30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

〔汽水藻場指標種群 (C2)〕：塩分濃度が4～12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

〔汽水砂質干潟指標種群 (D2)〕：塩分濃度が5～26パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。

〔水泥質干潟指標種群 (E2)〕：塩分濃度が2～12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

〔上流性河川指標種群 (J)〕：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、穀面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

〔中～下流性河川指標種群 (K)〕：中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

〔最下流性河川指標種群 (L)〕：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

〔湖沼浮遊生指標種群 (M)〕：水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

〔湖沼沼沢地指標種群 (N)〕：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

〔沼沢湿地付着生指標種群 (O)〕：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

〔高層湿原指標種群 (P)〕：尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを中心とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

〔陸域指標種群 (Q)〕：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

#### 4. 珪藻化石の特徴と堆積環境

全試料から検出された珪藻化石は、海水種が33分類群21属23種、汽水種が10分類群7属12種、淡水種が96分類群27属73種4変種であった。これらの珪藻化石は、海水種が5環境指標種群、汽水種が2環境指標種群、淡水種が5環境指標種群に分類された（表1、表2）。珪藻分帶は、No.10地点ボーリングがD I～DIV帶（図1）、No.14地点ボーリングがD I～DIV帶に設定された（図2）。

以下に、環境指標種群の特徴などに基づいて、各ボーリング試料の珪藻化石群集の特徴とその堆積環境について述べる。なお、全体的に外洋指標種群のCoscinodiscus marginatusやThalassiosinema nitzschiooidesあるいはDenticulopsis属やStephanopyxis属などが多産するが、これらの珪藻化石は基盤層に由来する珪藻化石と推定される。ここでは、これら外洋種を除いた珪藻化石の特徴について述べる。

##### [No.10地点ボーリング]

###### D I 帯（試料No.15）

この試料中には、陸域指標種群Pinnularia subcapitataなど、沼沢湿地付着生指標種群Navicula elginensisなどが特徴的に出現した。また、汽水泥質干潟指標種群も出現した。

以上のことから、汽水の影響のあるジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

###### D II 帯（試料No.6～10）

これらの試料中には、海水泥質干潟指標種群Diploneis smithiiなど、汽水藻場指標種群または汽水泥質干潟指標種群など、陸域指標種群Pinnularia subcapitataなどが特徴的に出現した。

以上のことから、干潟環境あるいは塩性湿地環境（ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地）が推定される。

###### D III 帯（試料No.4）

この試料中には、沼沢湿地付着生指標種群Eunotia pectinalis var. minorなど、陸域指標種群Pinnularia subcapitataなどが特徴的に出現した。

以上のことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

###### D IV 帯（試料No.3）

この試料中には、沼沢湿地付着生指標種群Eunotia pectinalis var. minorなど、陸域指標種群Pinnularia subcapitataなど、中～下流性河川指標種群Achnanthes lanceolataなどが特徴的に出現した。

以上のことから、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

##### [No.14地点ボーリング]

###### D I 帯（試料No.19）

この試料中には、陸域指標種群Hantzschia amphioxysなど、沼沢湿地付着生指標種群Eunotia pectinalis var. minorなどが特徴的に出現した。

以上のことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

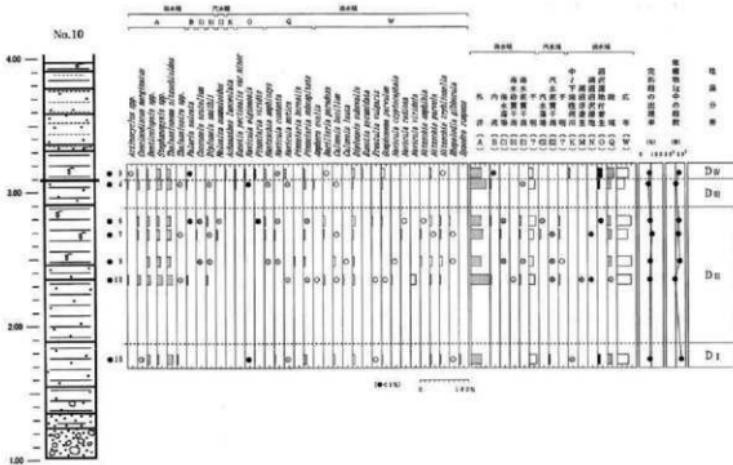


図1 No.10地点ボーリング堆積物中の珪藻化石分布図（2%以上の分類群を表示）

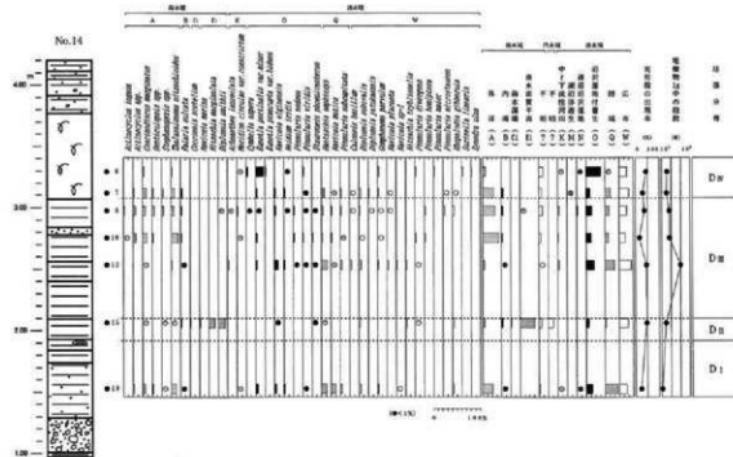


図2 No.14地点ボーリング堆積物中の珪藻化石分布図（2%以上の分類群を表示）

表1 堆積植物中の珪藻化石産出表その1 (種群は、小杉(1988)と安藤(1990)に基づく)

分類群	種群	3	4	5	7	9	10	15	6	7	8	10	12	15	18
<i>Actinocyclus ingens</i>	A.	1	-	-	1	-	-	-	-	-	4	2	-	-	1
<i>A. spp.</i>	A.	2	4	-	3	-	4	-	1	4	9	12	-	1	4
<i>Actinopteris senaria</i>	A.	2	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1
<i>A. splendens</i>	A.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Campyloneis spp.</i>	C.	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis acutum</i>	C1	1	-	2	4	2	-	11	2	7	17	11	19	2	11
<i>Cocconeis marginatus</i>	C.	5	10	6	4	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>C. nodifilus</i>	C.	10	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>C. oculus-iridie</i>	C.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. spp.</i>	C.	-	9	7	10	12	17	17	4	7	11	3	1	-	-
<i>Denticularia spp.</i>	A.	5	10	10	9	11	12	11	-	6	9	4	1	-	-
<i>Grammatophora spp.</i>	G.	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Ranidiscus coniformis</i>	R.	-	4	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rivularia filamentosa</i>	R.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. irris</i>	N.	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. murina</i>	N.	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. pectinata</i>	N.	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia granulata</i>	N.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. marginata</i>	N.	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	27
<i>Paralia succulenta</i>	P.	2	5	2	1	1	3	-	1	-	5	4	2	6	3
<i>Stephanopis spp.</i>	S.	15	20	18	12	15	22	6	1	7	7	1	-	3	-
<i>Thalassiosira zittachoides</i>	T.	15	20	17	19	14	22	23	4	14	11	30	5	23	-
<i>Thalassiosira spp.</i>	T.	-	2	-	3	-	1	4	-	-	1	-	-	-	-
<i>Tryblionothus coccoideiformis</i>	T.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthus delicatula</i>	A.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Angphaea spp.</i>	A.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis spp.</i>	C.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella stictorum</i>	C.	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis mitili</i>	D.	-	2	2	3	2	5	-	-	-	1	-	-	10	-
<i>Nitzschia littoralis</i>	N.	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. plana</i>	N.	7	10	17	7	3	-	1	1	14	-	4	4	1	-
<i>N. spp.</i>	N.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhoponeis suciarella</i>	R.	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Actinomorus brevis</i>	A.	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
<i>Melosira nummuloides</i>	M.	-	-	5	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. cruciata</i>	M.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-
<i>M. yarensis</i>	M.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-
<i>Mitzschia nobis</i>	M.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. leucostoma</i>	M.	-	-	-	1	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-
<i>M. praeclaviformis</i>	M.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. punctata</i>	M.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pseudopediastrum bentii</i>	P.	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eucypridella acuminata</i>	E.	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. mucicula</i>	E.	-	-	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Thalassiosira bramptonea</i>	T.	-	-	4	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Actinella brasiliensis</i>	O.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Achnanthus lanceolata</i>	A.	5	-	-	-	1	-	1	-	-	1	1	6	-	-
<i>Amphora austana</i>	A.	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>A. ovalis</i>	A.	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>A. rotula</i>	A.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Anomosalis spp.</i>	A.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Allacustra distans</i>	A.	-	-	-	2	-	1	-	-	-	2	1	1	-	2
<i>A. granulata</i>	A.	-	-	-	-	-	2	-	-	1	3	1	3	2	-
<i>A. spp.</i>	A.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacillaria paradoxa</i>	B.	5	11	9	4	11	1	7	3	1	1	3	2	-	-
<i>Caloneis bacillum</i>	C.	-	-	1	1	2	4	1	1	3	-	-	-	-	-
<i>C. laeta</i>	C.	-	-	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis disculus</i>	C.	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. pectinata</i>	C.	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella contorta</i>	C.	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. spp.</i>	C.	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella annosa</i>	C.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. nerviculaformis</i>	C.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. tenuidea</i>	C.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. spp.</i>	C.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diplopeltis finmarchica</i>	D.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>D. subovalis</i>	D.	10	4	13	5	6	7	8	-	-	2	2	11	-	-
<i>D. yatskensis</i>	D.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>D. spp.</i>	D.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Duniotia arcuata</i>	D.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. bioreducta</i>	E.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. flexuosa</i>	E.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. laevis</i>	E.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. monodon</i>	E.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. pectinata var. minor</i>	E.	4	4	-	-	-	-	-	15	7	2	7	6	1	10
<i>E. pectinata var. undulata</i>	E.	1	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-
<i>E. preserrata var. bidens</i>	E.	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-
<i>E. pyramidalis</i>	E.	4	1	-	-	-	-	-	2	11	1	-	-	-	-
<i>E. spp.</i>	E.	9	7	1	3	-	-	-	-	-	5	3	-	-	-

表2 堆積物中の珪藻化石産出表その2 (種群は、小杉(1988)と安藤(1990)に基づく)

分類群	種群	3	4	6	7	9	10	15	6	7	8	10	11	15	16
<i>Fragilaria constricta</i>	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>F.</i> spp.	S+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia rhomboidea</i>	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>F. vulgaris</i>	N	-	-	5	1	-	20	20	-	-	-	-	-	-	-
<i>F.</i> spp.	N+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>G. gracile</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>G. parvum</i>	Q	14	8	4	2	-	2	6	5	15	9	6	5	1	4
<i>G. sp.</i>	Q?	1	2	1	2	-	7	3	1	13	7	5	27	2	24
<i>Gyrosigma</i> spp.	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Hauschia amphioxys</i>	Q	9	2	5	5	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-
<i>Melosira pensylvanicae</i>	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
<i>M. rossaeana</i>	SQ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Meridion circulare var. constrictum</i>	X	3	-	-	-	-	-	-	24	3	-	3	3	-	-
<i>Micula contexta</i>	X	2	1	2	4	3	-	-	-	-	-	1	-	-	1
<i>M. cryptoccephala</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. elegansissima</i>	X	5	2	-	-	-	-	-	2	1	4	6	-	16	3
<i>M. ignota</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. nitica</i>	Q	10	2	-	-	-	-	-	2	2	2	2	3	2	12
<i>M. opercularis</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. pilosa</i>	X	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>M. pusilla</i>	X	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. radiosa</i>	X	-	-	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>M. viridis</i>	X	-	-	-	-	1	-	22	1	-	-	-	-	-	-
<i>M. sp-i</i>	X	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>M. spp.</i>	?	4	1	1	1	15	22	-	15	-	5	2	1	2	4
<i>Melidium affine</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. bisinuata</i>	Q	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	5
<i>M. iridis</i>	Q	0	2	3	-	-	-	-	-	-	3	4	2	2	2
<i>M. spp.</i>	?	3	2	-	-	-	-	-	1	22	3	2	3	1	2
<i>Mitzachia amphibia</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. cervilia</i>	X	-	-	-	-	4	6	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>M. trichotomella</i>	X	-	-	1	2	11	3	6	-	-	-	-	-	-	2
<i>M. spp.</i>	?	1	1	6	9	8	1	3	5	-	2	3	-	-	-
<i>Pinnularia acerosphaerica</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. borealis</i>	Q	1	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>P. brunnii</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. cardinalis</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. divergens</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. gibba</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. hemiptera</i>	Q	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	6	-	-
<i>P. interrupta</i>	X	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. minor</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. microstylum</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	1	1
<i>P. mobilis</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	2	-	1
<i>P. notata</i>	Q	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	2	-
<i>P. subcapitata</i>	Q	6	10	3	7	8	1	12	-	-	5	3	2	9	8
<i>P. viridis</i>	Q	0	6	6	4	5	4	4	33	33	25	27	15	7	20
<i>P. spp.</i>	?	6	15	4	5	5	2	2	-	-	7	1	-	9	6
<i>Rhabdaleia gibberula</i>	X	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
<i>S. acuminata</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. acutissima</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. phoenicenteron</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. emarginata</i>	Q	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. linearis</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. ovata</i>	X	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
<i>S. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>S. rumens</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. ulna</i>	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. spp.</i>	?	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Unknown	?	11	9	11	11	4	4	13	4	6	6	6	6	24	1
外 洋 (A)		45	66	43	49	42	73	65	13	48	51	69	9	9	46
内 洋 (B)		2	5	1	1	4	-	1	8	5	4	2	6	3	-
海水水質 (C)		1	2	2	4	2	-	-	-	-	-	1	1	-	5
海水泥質 (D)		-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
海水泥質不明 (E)		-	3	9	4	5	1	-	-	-	-	-	-	-	63
海水不定 不明種 (?)		15	27	26	20	19	23	32	18	12	16	9	2	12	4
汽水 潮島 (G)		-	-	3	8	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
汽水泥質干潟 (E)		-	-	2	2	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
汽水不定 不明種 (?)		-	-	2	3	5	1	-	-	-	1	-	-	23	-
中～下流性川 (K)		8	-	-	1	-	3	3	-	5	4	6	1	3	-
湖沼低湿地 (M)		-	-	-	2	-	-	2	-	3	1	1	-	-	2
沼沢湿地帶生 (N)		-	-	-	2	-	1	3	-	3	1	1	-	-	1
沼沢湿地伴生 (O)		20	18	16	15	15	15	15	15	15	15	15	23	26	15
淡水有 (W)		49	33	18	44	61	59	50	33	40	31	38	53	39	35
淡水不定 不明種 (?)		26	44	32	48	54	23	39	55	50	45	51	55	28	38
總 漢 股 數		208	204	206	202	204	200	218	203	205	200	204	206	201	220

## D II 帯（試料No.15）

この試料中には、海水泥質干潟指標種群*Diploneis smithii*や*Nitzschia marginulata*など、汽水種あるいは沼沢湿地付着生指標種群*Navicula elginensis*などが特徴的に出現した。

以上のことから、主に海水泥質干潟環境が推定される。

## D III 帯（試料No.8～12）

これらの試料中には、沼沢湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *minor*や*Navicula elginensis*など、陸域指標種群*Hantzschia amphioxys*など、中～下流性河川指標種群*Meridion circulae* var. *constrictum*が特徴的に出現した。

以上のことから、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

## D IV 帯（試料No.7）

これらの試料中には、沼沢湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *minor*など、陸域指標種群*Hantzschia amphioxys*などが特徴的に出現した。

以上のことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

## 5. 環境変遷および海進期最高潮期海水準の推定

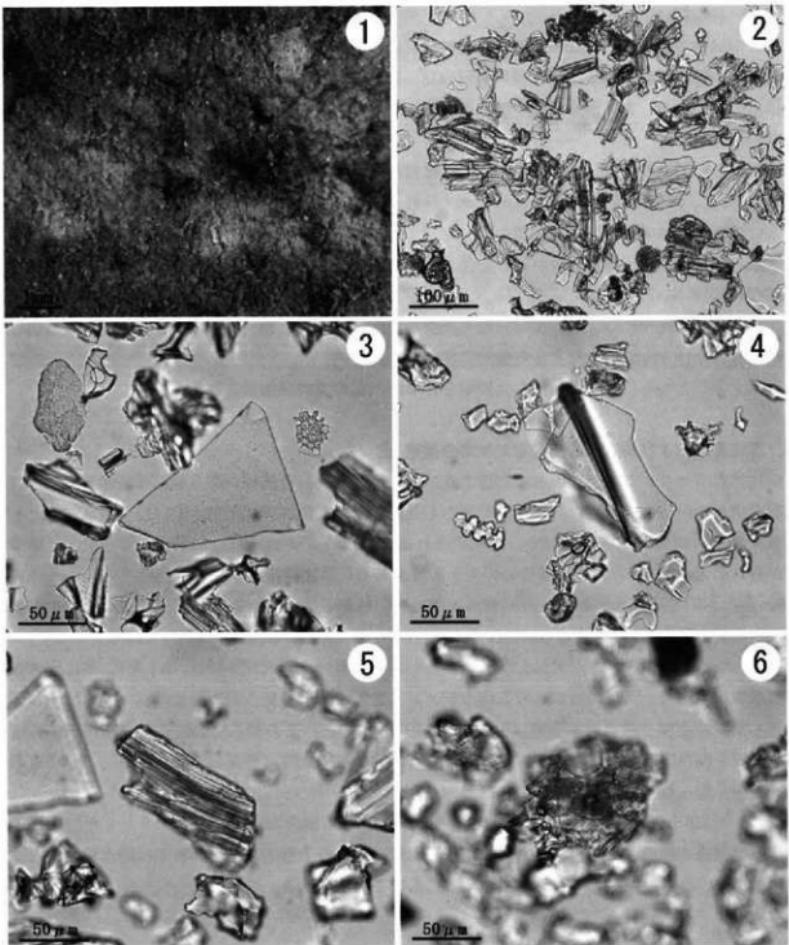
No.10地点ボーリングでは、汽水の影響を受けるジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境（D I 帯）、干潟環境あるいは塩性湿地などのジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境（D II 帯）、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境（D III 帯）、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境（D IV 帯）に変化していた。D II 帯において干潟環境あるいは塩性湿地が推定されたことから、標高約2.9m弱において縄文海進期の最高潮期海水準に近い層準と推定される。ただし、最高潮期を指標する汽水泥質干潟指標種群*Pseudopodosira kosugii*（小杉, 1989）は検出されていない。

一方、No.14地点ボーリングでは、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境（D I 帯）、主に海水泥質干潟環境（D II 帯）、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境（D III 帯）、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境（D IV 帯）に変化していた。この地点における海進期の堆積物は、海水泥質干潟環境が推定されたD II 帯であるが、このD II 帯の上部は標高約2.1mであり、上位D III 帯により大きく削られているものと考えられる。

なお、下位D I 帯（試料No.19）は淡水種珪藻化石の占める割合が高く、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境と推定されているが、これより下位層の試料の予察的な珪藻分析では海水種や汽水種が検出されていることから、一時的に淡水化したものと考えられる。この点については今後の検討が必要である。

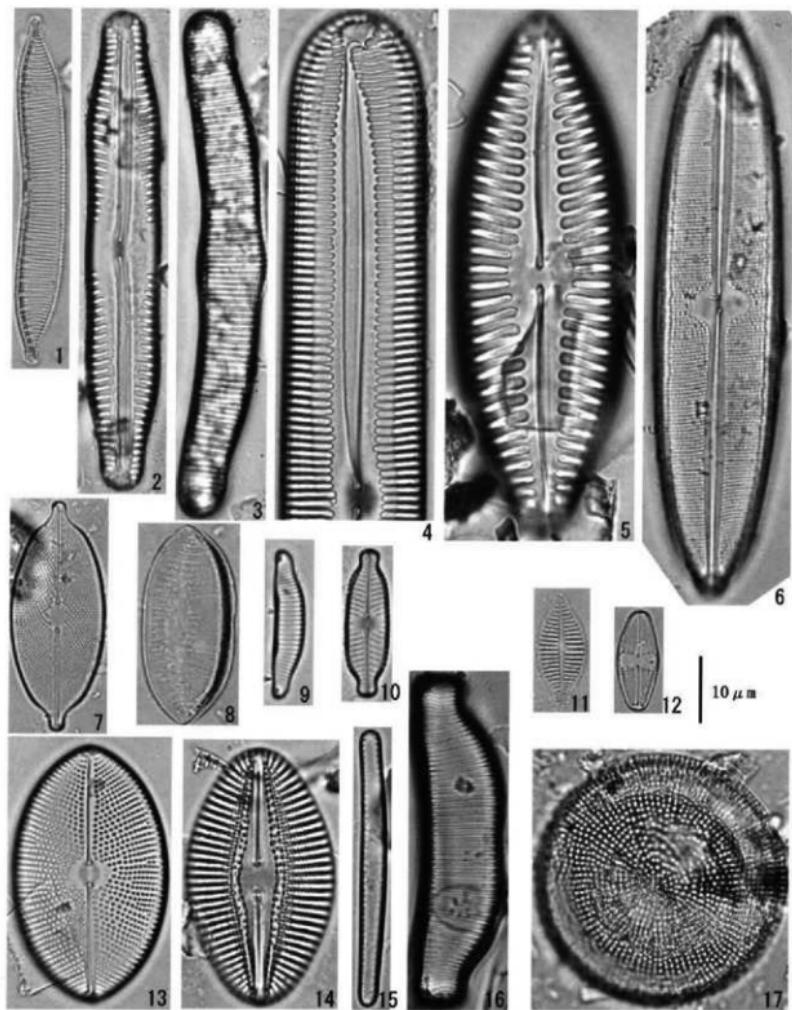
## 引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.  
小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.  
小杉正人（1989）完新世における東京湾の海岸線の変遷. 地理学評論, 62 A-5, 359-374.



図版1 No.10地点ボーリング試料中（標高約3.1m）のガラス質テフラ

1. テフラの产出状況 2. 偏光顕微鏡写真（全体） 3. パブル型平板状ガラス
4. パブル型Y字状ガラス 5. 軽石型繊維状ガラス 6. 軽石型スponジ状ガラス



図版2 ポーリング試料中の珪藻化石

1. *Ilanzschia amphioxys*(14-6)
2. *Pinnularia nodosa*(14-12)
3. *Eunotia pectinalis* var. *undulata*(14-8)
4. *Pinnularia viridis*(14-6)
5. *Navicula yarrensis*(14-15)
6. *Nothidium iridis*(14-6)
7. *Navicula placentula*(14-6)
8. *Nitzschia littoralis*(10-7)
9. *Eunotia pectinalis* var. *minor*(14-6)
10. *Navicula elginensis*(14-12)
11. *Achnanthes delicatula*(10-10)
12. *Navicula mutica*(14-6)
13. *Navicula marina*(14-15)
14. *Diploneis smithii*(14-15)
15. *Thalassionema nitzschioides*(14-10)
16. *Eunotia praerupta* var. *bidentata*(14-6)
17. *Thalassiosira bramaputrae*(10-6)



# 報告書抄録

ふりがな	うらじりかいづか4						
書名	浦尻貝塚4						
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第15集						
編著者名	佐川 久・高橋 満						
編集機関	福島県南相馬市教育委員会						
所在地	〒975-0012 福島県南相馬市原町区三島町二丁目45番地						
発行年月日	2010.3.31						
所 収 遺 跡	所 在 地	コード		北 緯	東 經	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡				
浦尻貝塚	みなみとうまいまちく ざかく 南相馬市小高区 うらじりあがみくにばく 浦尻字南台 ほか	52 53 54 114	72125	37° 31' 00"	141° 01' 40"	5,140	道路・保存 目的範囲内 容確認調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
浦尻貝塚	貝塚・集落跡・ 古墳・館	縄文～近世	貝塚 堅穴住居 柱穴 貯藏穴 埋設土器 土坑 遺物包含層	縄文土器 製塙土器 石器 土製品	縄文時代前期～晩期貝 塚・集落跡。 遺構及び貝層等から出 土した縄文時代の遺物。		

印 刷 2010年3月29日  
発 行 2010年3月31日

---

南相馬市埋蔵文化財調査報告書 第15集

---

浦 尻 貝 塚 4

編 集 南相馬市教育委員会事務局 文化財課  
発 行 南相馬市教育委員会  
〒975-0012 福島県南相馬市原町区三島町二丁目45番地  
Tel 0244-24-5284

印 刷 株式会社 こはた印刷所  
〒975-0002 福島県南相馬市原町区東町二丁目99番地

---